

感染症発生動向調査事業報告書

平成20年(2008年)

序

平成21(2009)年4月、新たな豚由来のA型H1N1亜型インフルエンザの発生がアメリカ大陸で確認され、国は、4月28日に感染症予防法第6条第7項の「新型インフルエンザ等感染症」として規定し、当初は患者を全数把握し、検疫の強化や入院勧告等を実施し、いわゆる封じ込め対策を強化しました。国内では、5月9日に成田検疫所で患者を確認、都内でも5月20日に米国渡航例を確認し、以後患者は国内でも増加の一途をたどっています。臨床像としては、季節性インフルエンザと類似しているものの、一部に重症化する症例が見られております。今後の対策は、集団発生や重症患者の早期探知とウイルス性状変化の監視等にシフトし、サーベイランスの重要性が増しています。

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防および感染症患者に対する医療に関する法律」(感染症法)により事前対応型感染症対策の一つとして位置づけられ、感染症に対する適切な対応をとるためのサーベイランスシステムとして運用されています。全数把握の一類感染症から五類感染症及び指定感染症と、定点把握の五類感染症について、発生状況、病原体検査情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その情報を還元することによって感染症の診断に資するとともに、的確な予防対策を立てるなど危機管理に役立てることを目的としています。

東京都健康安全研究センターでは、平成12(2000)年4月に、本事業を中心とした感染症情報の管理センターとして東京都感染症情報センターを所内に設置致しました。更に、平成18(2006)年4月には、本事業を含む感染症健康危機管理に関する情報機能を強化する目的で、疫学情報室を新設しました。

疫学情報室では、国内外の研究機関、医療機関等からの様々な情報を幅広く収集、解析し、当センター微生物部が実施する病原体検査情報とともに、都内の医療機関、関係機関、都民へ、迅速かつ積極的に提供してまいります。

なお、これらの情報は当センターのホームページにも掲載して迅速な情報提供に努めておりますので、あわせてご活用ください。URLは、東京都感染症情報センタートップページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>)及び東京都感染症週報(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/>)です。

今回の報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会に平成20年度分の感染症発生情報の評価とその予防策の検討を依頼し、その結果をまとめたものです。「各疾患の動向」のうち、「一、二、三、四、五類(全数届出)」は阿保満委員に、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹(病院)定点における疾患」は南谷幹夫委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」につきましては当センター微生物部の検査担当者が執筆いたしました。

感染症発生動向調査事業は、東京都医師会、定点医療機関、都区保健所及び福祉保健局関連部署間の有機的な連携により実施されています。今後とも「基幹地方感染症情報センター」としてこれら関係機関のほか各自治体の地方感染症情報センターとの連携を積極的に図り、一層の機能強化に努める所存でございます。

本報告書を広く御活用いただき、都民の健康増進の一助となれば幸いに存じます。

平成21年7月

東京都健康安全研究センター所長 中西 好子

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報	1
東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾病	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2008年）の概況	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	7
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	9
表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一、二、三、四、五類全数）	10
表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（STI 定点）	14
3 各疾患の動向	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	21
オ 五類感染症（全数把握対象）	30
表3-1 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表	51
表3-2 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表	54
表3-3 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表	57
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	60
イ RSウイルス感染症	62

ウ	咽頭結膜熱	63
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64
オ	感染性胃腸炎	65
カ	水痘	66
キ	手足口病	67
ク	伝染性紅斑	68
ケ	突発性発しん	69
コ	百日咳	70
サ	ヘルパンギーナ	72
シ	流行性耳下腺炎	73
ス	不明発しん症	74
セ	MC L S（川崎病）	75
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	76
イ	流行性角結膜炎	77
(4) 基幹定点における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	78
イ	無菌性髄膜炎	79
ウ	マイコプラズマ肺炎	80
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	81
(5) 基幹定点における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	82
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	83
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	84
(6) 性感染症（STI）		
ア	性器クラミジア感染症	85
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	87
ウ	尖圭コンジローマ	88
エ	淋菌感染症	89
オ	膺トリコモナス症	90
カ	梅毒様疾患	91
表4-1	週別患者報告数	92
表4-2	週別定点当たり患者報告数	94
表5-1	保健所別患者報告数	96

表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	98
表 6-1	年齢階級別患者報告数	100
表 6-2	年齢階級別患者報告数	101
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	102
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	103
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	104
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	104
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	104
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	105
表 9-1	月別患者報告数（STI）	105
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（STI）	105
表 9-3	月別・性別患者報告数（STI）	106
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（STI）	106
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI）	107
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI）	108
表 9-7	年齢階級別患者報告数（STI）	109
第 2 章	東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報	111
1	ウイルス検査結果	
(1)	小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果	
ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	113
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	114
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	115
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	117
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	121
(2)	内科病原体定点から搬入された検体の検査結果	122
2	細菌検査結果	
(1)	三類感染症の病原体検索	125
(2)	四類感染症の病原体検索	125
(3)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	125
(4)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	126
(5)	2008 年の百日咳流行について	128
3	性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果	
(1)	クラミジア・淋菌遺伝子検査および細菌分離同定	128

(2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	130
(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査	131
(4) 膣トリコモナス検査	131
第3章 資 料	133
1 東京都感染症発生動向調査定点名簿	135
2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	149
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	150
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	151
別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	158
2 五類感染症（全数把握）	161
3 新型インフルエンザ等感染症	161
4 五類感染症（定点把握）	162
5 疑似症	163
別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	164
別表3 疑似症の調査単位と報告時期	165
別記様式一覧表	166
別記様式 1	167
別記様式 2	168
別記様式 3	169
別記様式 4	170
別記様式 5	171
別記様式 6	172
別記様式 7	173
別記様式 8	174
別記様式 9	175
別記様式 10	177

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2008年)

(2007年12月31日～2008年12月28日)

WHO 西太平洋地域事務局は、平成 24 年までにアジア西太平洋地域から麻しんを排除する目標を立てました。わが国でも、それまで 1 回接種であった麻しん風しん混合ワクチンを第 1 期(1 歳児)、第 2 期(小学校就学前 1 年間)として平成 19 年 12 月 28 日、感染症法及び予防接種法の規定に基づき、「麻しんに関する特定感染症予防指針」が策定され、告示されました。平成 20 年度からの 5 年間で麻しん排除のための対策期間と定め、平成 24 年度までに国内から麻しんを排除し、その状態を維持することを目的としています。また、麻しんと風しんの類型分類を平成 20 年 1 月より五類定点把握疾患から全数届出疾患に変更されました。ところが平成 19 年には各地で麻しんの流行が発生し、10 歳代、20 歳代の青少年が罹患して、多くの学校で学級閉鎖、休校が行われました。そこで 1 歳児(第 1 期)、小学校入学前の 1 年間(第 2 期)の麻しん及び風しんの予防接種 2 回接種制度に加えて中学 1 年相当年齢(第 3 期)と高校 3 年相当年齢(第 4 期)の者を 5 年間の時限措置として定期予防接種に追加したものでした。麻しん排除には、2 回の接種がそれぞれ 95%以上になることが求められています。ところが 20 年 12 月末の厚労省調査によれば、全国麻しんワクチン接種率は第 2 期 66.4% (東京 63.2%)、第 3 期全国接種率 66.1% (東京 56.1%)、第 4 期全国 58.2% (東京 40.6%) に低迷しています。今後は厚労省と文科省が緊密な連携をとり、相互理解と協力が必要であると同時に、学校医による保健教育の啓発活動も必要となります。

痘瘡は根絶計画が 1977 年に成功し、麻しんに対しては、アメリカと韓国が麻しん含有生ワクチン 2 回接種と症例追跡により国内から麻しん排除に成功しています。

感染症には、未知の分野が少なくないばかりでなく、古くても新しい問題が山積しております。

これまでも感染症予防検討委員会の諸先生方のご指導とご尽力により着実な成果をあげてまいりましたが、今後ともご叱正頂き、一層のお力添えを賜らんことをお願い申し上げます。

最後になりましたが、私が体調を崩して月例委員会開催日に昨年 10 月以来欠席し、会議司会の労を水野幸治副委員長先生にお願いしましたところ、快くお引き受けくださいましたことに、厚く御礼申し上げます。また、ご迷惑をおかけした担当理事道永麻里先生、委員諸先生並びに医師会関係の方々、ご支援頂いた東京都感染症情報センターの方々に厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会

委員長 南 谷 幹 夫

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾病

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」および「感染症発生動向調査実施要綱」に指定している全数把握対象疾患および五類定点把握対象 28 疾患のほかに、都単独に不明発しん症と MCLS(川崎病)及び性感染症として膣トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象としている。また、厚生労働省令で定める 2 疑似症を疑似症サーベイランス対象としている。(第3章別表1参照)

(2) 定点医療機関

2008 年は、都職共済青山病院閉院に伴い基幹定点が 1 か所減少したため、小児科定点 150、内科定点 140、眼科定点 39、性感染症定点 55、基幹定点 24、合計 408 定点から患者情報を収集した。一方、病原体定点は、小児科病原体定点が 2 か所追加指定され、のべ 56 医療機関が患者定点と兼ねている。なお、小児科定点と内科定点はインフルエンザ定点としても機能している。さらに、2008 年 7 月より開始した疑似症サーベイランスでは、インフルエンザ定点 290 と疑似症単独定点 26 から情報を収集した。

表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2008 年 12 月 31 日現在)

定 点 種 別 (疾病数)	患者定点	病原体定点	
	定点数	定点数	備考
小 児 科 定 点 (14)	150	15	13 (1月～5月)
内 科 定 点 (1)	140	14	
眼 科 定 点 (2)	39	4	
基 幹 定 点 (7)	24	19	
性 感 染 症 定 点 (6)	55	4	
疑似症単独定点 (2)	26		
合 計	434	56	

(3) 運営方法

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症(STI)定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっている。

週単位で報告される疾病については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所にFAXまたは郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所にFAXまたは郵便で送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し、直ちに保健所にFAXで送付する(疑似症単独定点については、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。基幹地方感染症情報センター(健康安全研究センター疫学情報室の機能)は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4)情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>)で公開され、保健所を通じて定点医療機関へ提供されると共に、都民にも広く情報還元が図られている。

また、毎月1回、定例(第3木曜日)で感染症予防検討委員会が開催され、前月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

2 本年(2008 年)の概況

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)

2008 年(平成 20 年)5 月 12 日から施行された感染症法改正においては、これまでインフルエンザ(H5N1)を指定感染症に指定していた「インフルエンザ(H5N1)を指定感染症として定める等の政令」(2006 年 6 月 12 日施行)が廃止され、鳥インフルエンザ(H5N1)が二類感染症に追加されるとともに、新型インフルエンザの発生に備え、新たに「新型インフルエンザ等感染症」という分類が創設された。これに伴い、四類感染症として位置づけられている「鳥インフルエンザ」からは鳥インフルエンザ(H5N1)が除かれた。

東京都および全国において、これらに該当する 2008 年中の報告は無かった。

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計 499 件の届出があった。

コレラは 6 件届出があった。O1 エルトール小川 5 件、O1 小川(生物型不明) 1 件であった。推定感染地は国内 3 件、国外 3 件であった。

細菌性赤痢は 64 件届出があった。ソネ菌 46 件、フレキシネル菌 12 件、ボイド菌 3 件、ディセンテリ菌 1 件、不明 2 件であった。推定感染地は国内 8 件、国外 56 件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は 409 件届出があった。菌型は、O157 VT2 が 107 件、O157 VT1VT2 が 105 件、O26 VT1 が 66 件、O111 VT1VT2 が 37 件、O145 VT2 が 10 件等であった。症状別では、患者 264 人(うち HUS 16 人)、無症状病原体保有者 145 人であった。

腸チフスは 13 件届出があった。

パラチフスは 7 件届出があった。

エ 四類感染症

四類感染症は総計 196 件の届出があった。

E型肝炎は 7 件届出があった。推定感染地は国内 5 件、国外 2 件であった。

A型肝炎は 31 件届出があった。推定感染地は国内 14 件、国外 16 件、その他 1 件であった。

Q熱は 1 件届出があった。

つつが虫病は 18 件届出があった。推定感染地はすべて国内 17 件(すべて都内)、国外 1 件であった。

デング熱は 32 件届出があり、うち 3 件はデング出血熱であった。

マラリアは 23 件届出があった。三日熱マラリア 8 件、四日熱マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 13 件、卵形 1 件であった。

レジオネラ症は 80 件届出があった。肺炎型 77 件、ポンティアック型 1 件、無症状病原体保有者 2 件であった。推定感染地は国内 78 件、国外 2 件で、温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 21 件だった。

レプトスピラ症は 4 件届出があった。推定感染地は都内 3 件、沖縄県 1 件であった。

《ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

オ 五類感染症

五類感染症は総計 2,280 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 189 件届出があった。腸管アメーバ症 133 件、腸管外アメーバ症 41 件、腸管及び腸管外アメーバ症 15 件であった。推定感染地は国内 150 件、国外 31 件、不明 8 件であった。

ウイルス肝炎は 30 件届出があった。B型肝炎 24 件、C型肝炎 5 件、その他 1 件(サイトメガロウイルス性肝炎)であった。

急性脳炎は 11 件届出があった。病原体は、インフルエンザウイルス A 型 3 件、アデノウイルス 1 型、エンテロウイルス、マイコプラズマが各 1 件、不明 5 件であった。

クリプトスポリジウム症は 4 件届出があった。推定感染地は国内 1 件、インド 3 件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 15 件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 9 件、孤発性プリオン病・その他 3 件、遺伝性プリオン病・GSS 1 件、遺伝性プリオン病・家族性 CJD 2 件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 19 件届出があった。血清群別では、A 群 7 件、C 群 1 件、G 群 9 件、不明 2 件であった。死亡は 7 件について報告されていた。

後天性免疫不全症候群は 545 件届出があった。HIV 感染者 385 人、AIDS 患者 97 人、その他 63 人であった。推定感染地は国内 477 件、国外 24 件、不明 44 件であった。推定感染経路は性的接触 499 件(同性間 389 件、異性間 83 件、両性間 25 件、性別不明 2 件)、静注薬物 1 件、その他 2 件、2 経路以上 5 件、不明 38 件であった。

ジアルジア症は 20 件届出があった。推定感染地は国内 4 件、国外 15 件、その他 1 件であった。

髄膜炎菌性髄膜炎は 2 件届出があった。血清群はともに不明で、推定感染地はともに国内であった。

梅毒は 205 件届出があった。早期顕症梅毒 I 期 36 件、早期顕症梅毒 II 期 76 件、晩期顕症梅毒 13

件、先天梅毒 1 件、無症候 79 件であった。

破傷風は 5 件届出があった。死亡は 1 件について報告されていた。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 15 件届出があった。耐性遺伝子型は *vanA* 2 件、*vanC* 6 件、不明 7 件であった。

風しんは 46 件届出があった。検査診断例 19 件、臨床診断例 27 件であった。

麻しんは 1,174 件届出があった。麻しん（検査診断例）390 件、麻しん（臨床診断例）608 件、修飾麻しん（検査診断例）176 件であった。肺炎合併の報告は 21 件、脳炎合併の報告は 2 件であった。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2007 年と比較して 2008 年に増加した疾患は、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、百日咳、流行性耳下腺炎及び不明発しん症の 6 疾患であり、報告数が前年並みに推移した疾患は咽頭結膜熱、水痘、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び MCLS（川崎病）の 6 疾患で、前年より減少した疾患はインフルエンザと伝染性紅斑の 2 疾患であった。風しんと麻しんは 2008 年第 1 週から五類全数把握対象疾患に変更された。

[前年比増加疾患]

RS ウイルス感染症：年間 1,722 件（11.71/定点）報告され、前年比 122.4 % の増加であり、過去 6 年間の年定点当たり報告数は第 1 位である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：131,925 件（93.97/定点）報告され、前年比 155.6 % の増加であり、過去 10 年の定点当たり数は第 1 位である。

感染性胃腸炎：58,681 件（395.92/定点）報告され、前年比 124.3 % の増加、過去 10 年では、定点当たり数第 1 位である。

百日咳：2 年連続して急増し、2008 年は 278 件（1.88/定点）報告され、前年比 184.3 % の増加。過去 10 年では 2 年連続第 1 位である。

流行性耳下腺炎：3,662 件（24.83/定点）報告され、前年比 187.5 % の増加、過去 10 年では、第 6 位の報告数である。

不明発しん症：734 件（4.98/定点）報告され、前年比 110.2 % の微増、過去 10 年では、第 2 位の報告数である。

[前年比横這い疾患]

咽頭結膜熱：2,927 件（19.86/定点）報告され、前年比 104.8 % の横這い、過去 10 年では、第 2 位の報告数である。

水痘：8,682 件（58.68/定点）報告され、前年比 96.6 % の横這い、過去 10 年では第 3 位である。

手足口病：年間 4,487 件（30.60/定点）報告され、前年比 102.9 % の横這い、過去 10 年で第 3 位である。

突発性発しん：年間 4,944 件（33.49/定点）報告され、前年比 104.8 % の横這い、過去 10 年横這いで経過しながら、報告数・定点当たり数とも第 1 位である。

ヘルパンギーナ：報告数 6,470 件（44.08/定点）で、前年比 95.6 % の横這い。過去 10 年では報告数第 5 位である。

MCLS（川崎病）：109 件(0.73/定点)報告され、前年(110 件、0.75/定点)比 93.3%の横這い、過去 10 年では報告数第 2 位である。

[前年比減少疾患]

インフルエンザ：2008 年は年間 23,059 件(80.47/定点)報告され、前年比 42.0%の減少報告で、過去 10 年間の定点当り報告数は第 9 位である。

伝染性紅斑：2008 年は 1,168 件（7.90/定点）報告され、前年（2,879 件、19.73/定点）比 40.0%の減少、過去 10 年間では定点当り報告数第 10 位である

イ 眼科疾患

眼科定点は 2007 年 4 月 1 日から 39 定点に増加されたが、本年もその態勢が維持された。

急性出血性結膜炎：年間 64 件（1.66/定点）が報告され、前年比 22.0%の減少となったが、14 定点で観測されていた 2006 年以前よりは多くの報告がなされている。

流行性角結膜炎：年間 865 件（22.41/定点）が報告され、前年比 10.6%の減少となった。定点当たりの報告数は 2000 年以降減少の一途をたどっている。

両疾患共に、東京都における発生状況には際だった特徴を認めず、全国と大きな乖離をみなかった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2008 年は 24 件（1.01/定点）報告され、定点当り前年比 88.6%の微減であり、地域的集積性、季節的集積性を認めない。

無菌性髄膜炎：2008 年は 34 件（1.42/定点）報告され、前年比 69.9%の減少で、患者発生は地域的偏りは明らかでなく、季節的には晩春～夏期を通じて多発する傾向がある。

マイコプラズマ肺炎；2008 年は 298 件（12.53/定点）報告され、前年比 123.9%の増加である。学童期から思春期に多く、初夏から盛夏に多発する傾向がある。

クラミジア肺炎：当年報告数は 25 件（1.05/定点）で、前年比 129.6%の増加で、地域的偏りはなく、年齢的には 70 歳以上に多いようであるが、明らかではない。

成人麻しん：2008 年第 1 週から五類全数把握対象疾患に変更。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA）：1,606 件（66.92/定点）報告され、前年比 94.9%の横這いであり、男：女＝1.7：1、季節差なく、5 歳未満と 60 歳以上に多くなる傾向がある。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症（PRSP）：554 件（23.08/定点）報告され、前年比 92.0%の横這いであり、男：女＝1.6：1、季節差明らかでなく、5 歳未満と 70 歳以上に多い傾向がある。

薬剤耐性緑膿菌感染症：26 件（1.08/定点）報告され、前年比 55.9%の半減であり、男：女＝4.2：1、季節差なく、70 歳以上に多い傾向がある。

オ 性感染症（STI）

東京都において新感染症法となった 1999 年以降、STI サーベイランス対象の 6 疾患の報告数は、10 年間順調に減少傾向が続いている。性器外 STI の増加にも拘らず STI の全体の報告数が減少傾向にあることは、理由はともかく良好な傾向である。STI は罹患したことを他人に知られたくない疾患であり、診療に時間的、経済的制限があり、加えて STI 患者のパートナーに対する診療や、人権に配慮し

た告知の限界などから正確な STI 患者の実数把握は困難である。このような状況を踏まえ、感染症サーベイランスによって得られる STI 情報の解釈は、献血時の検査データ、妊婦健診のデータ、さらには STI 診断キットや STI 治療薬の使用量など別の角度から得られる様々な情報とのすり合わせによる補完が望ましい。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

7/1 の開始以降、摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 11 件、発熱及び発しん又は水疱は8件報告された。

表 2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾 病 名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
一 類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	/	/	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-
二 類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-
	結核 *2 (2009年2月10日現在の報告数)	-	-	-	-	3,305	4,443
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	/	/	-
三 類	コレラ *5	5	12	13	8	3	6
	細菌性赤痢 *5	105	133	89	67	86	64
	腸管出血性大腸菌感染症	182	273	238	268	476	409
	腸チフス *5	20	17	11	19	11	13
	パラチフス *5	7	15	4	12	7	7
四 類	E型肝炎 *1	1	4	8	4	3	7
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	3	21	24	28	19	31
	エキノкокクス症	-	-	1	1	3	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-
	オウム病	2	3	3	4	1	-
	オムスク出血熱 *2	/	/	/	/	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-
	キャサナル森林病 *2	/	/	/	/	-	-
	Q熱	1	1	3	-	2	1
	狂犬病	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	1	1	1	2	-
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	/	/	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-
	つつが虫病	3	7	6	1	15	18
	デング熱	15	27	29	18	23	32
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *7	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-
	鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-
	ブルセラ症	-	-	1	1	-	-
	ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-
	ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	/	/	-	-
	ボツリヌス症 *8	-	-	1	-	-	-

分類	疾 病 名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
四 類	マラリア	33	22	21	16	23	23
	野兎病 *1	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	4	2	3	-
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2					-	-
	類鼻疽 *2					-	-
	レジオネラ症	18	18	24	62	53	80
	レプトスピラ症 *1	-	3	3	4	4	4
五 類 (全 数 届 出)	ロッキー山紅斑熱 *2					-	-
	アメーバ赤痢 *9	122	141	183	181	166	189
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く) *9	67	58	36	34	40	30
	急性脳炎 *1	1	8	16	6	20	11
	クリプトスポリジウム症 *9	6	8	1	5	1	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *9	13	20	15	22	16	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *9	6	6	7	14	6	19
	後天性免疫不全症候群 *9	359	411	417	453	515	545
	ジアルジア症 *9	29	18	13	28	19	20
	髄膜炎菌性髄膜炎 *9	4	7	3	1	3	2
	先天性風しん症候群 *9	-	3	-	-	-	-
	梅毒 *9	67	65	98	132	162	205
	破傷風 *9	3	2	2	8	1	5
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *9	4	10	13	20	17	15
指定	風しん *10						46
	麻しん *10						1,174
指定	インフルエンザ (H5N1) *11				-	-	-

*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

*7 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。

*8 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*9 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

*10 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*11 2006年6月12日に指定感染症に指定された。2008年5月12日に廃止された。

表 2 - 1 - (2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数 (全数動物)

疾 病 名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
エボラ出血熱のサル						
マールブルグ病のサル						
ペストのプレーリードッグ						
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ						
重症急性呼吸器症候群のタヌキ						
重症急性呼吸器症候群のハクビシン						
結核のサル						
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類						
細菌性赤痢のサル			1	1		
ウエストナイル熱の鳥類						
エキノコックス症の犬						

表 2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
小児科定点数 *1	142	142	142	142	142	142	142	142	150	150
インフルエンザ定点数 *2	178	178	178	178	178	178	178	178	290	290
インフルエンザ *3	29,346	18,101	6,114	14,877	27,007	18,958	43,336	23,953	53,927	23,059
	206.66	101.69	34.35	83.58	151.72	106.51	243.46	134.57	191.41	80.47
RSウイルス感染症 *4					68	432	848	818	1,403	1,722
					0	3	5.97	5.76	9.57	11.71
咽頭結膜熱 *5	318	489	645	600	1,353	2,123	2,468	3,929	2,793	2,927
	2.24	3.44	4.54	4.23	9.53	14.95	17.38	27.67	18.96	19.86
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	2,505	3,259	2,936	3,772	4,261	5,842	7,564	11,213	11,913	13,925
	17.64	22.95	20.68	26.56	30.01	41.14	53.27	78.96	81.32	93.97
感染性胃腸炎	34,137	33,084	31,639	34,659	35,718	39,464	42,578	51,945	46,783	58,681
	240.40	232.99	222.81	244.08	251.54	277.92	299.85	365.81	318.41	395.92
水 痘	6,508	6,973	6,877	7,079	6,439	6,845	7,565	8,345	8,874	8,682
	45.83	49.11	48.43	49.85	45.35	48.20	53.27	58.77	60.77	58.68
手足口病	844	6,464	2,133	3,213	6,872	3,585	3,296	2,885	4,382	4,487
	5.94	45.52	15.02	22.63	48.39	25.25	23.21	20.32	29.73	30.60
伝染性紅斑	1,146	1,740	2,510	1,574	1,471	2,771	2,035	3,109	2,879	1,168
	8.07	12.25	17.68	11.08	10.36	19.51	14.33	21.89	19.73	7.90
突発性発しん	3,851	3,663	3,507	3,632	3,777	4,043	4,048	4,119	4,691	4,944
	27.12	25.80	24.70	25.58	26.60	28.47	28.51	29.01	31.95	33.49
百日咳	57	56	23	32	34	47	28	23	151	278
	0.40	0.39	0.16	0.23	0.24	0.33	0.20	0.16	1.02	1.88
風しん *6	286	226	114	71	143	234	40	21	35	
	2.01	1.59	0.80	0.50	1.01	1.65	0.28	0.15	0.24	
ヘルパンギーナ	5,465	6,577	6,314	5,067	5,064	5,275	6,909	5,900	6,804	6,470
	38.49	46.32	44.46	35.68	35.66	37.15	48.65	41.55	46.10	44.08
麻しん *6	409	589	628	377	376	78	49	25	303	
	2.88	4.15	4.42	2.65	2.65	0.55	0.35	0.18	2.05	
流行性耳下腺炎	2,763	4,804	6,284	3,678	1,290	3,250	7,321	4,481	1,940	3,662
	19.46	33.83	44.25	25.90	9.08	22.89	51.56	31.56	13.24	24.83
不明発しん症	632	645	585	613	579	540	461	966	665	734
	4.45	4.54	4.12	4.32	4.08	3.80	3.25	6.80	4.52	4.98
MCLS(川崎病)	76	66	75	60	66	69	56	101	110	109
	0.54	0.46	0.53	0.42	0.46	0.49	0.39	0.71	0.75	0.73

*1 1999年3月までは、小児科・内科定点数。2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 1999年3月までのインフルエンザの定点当たり患者報告数は、年間報告数を小児科・内科定点数で割った値

*4 2003年45週より実施

*5 1999年3月までの咽頭結膜熱の定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点と眼科定点の合計数で割った値

*6 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表 2－3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
定点数＊	14	14	14	14	14	14	14	14	39	39
急性出血性結膜炎	22	11	16	12	18	6	7	8	82	64
	1.57	0.79	1.14	0.86	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66
流行性角結膜炎	776	1,240	1,008	925	880	719	567	535	968	865
	55.43	88.57	72.00	66.07	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41

＊ 2007年は、12月末時点の定点数

表 2－4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
（基幹定点週報告分）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24
細菌性髄膜炎	12	14	12	24	18	25	17	15	28	24
	0.48	0.56	0.48	0.96	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01
無菌性髄膜炎	33	83	36	66	66	27	28	40	50	34
	1.32	3.32	1.44	2.64	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42
マイコプラズマ肺炎	19	22	45	163	173	184	164	218	247	298
	0.76	0.88	1.80	6.52	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53
クラミジア肺炎	4	1	0	2	3	4	9	13	20	25
	0.16	0.04	0.00	0.08	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05
成人麻しん ＊1	8	120	181	116	144	16	1	3	262	
	0.32	4.80	7.24	4.64	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70	

1999年14週より実施

＊1 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表 2－5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	823	1,456	1,365	1,759	1,761	1,552	1,539	1,536	1,758	1,606
	32.92	58.24	54.60	70.36	70.44	62.08	61.56	61.44	70.53	66.92
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	160	338	355	557	617	444	534	579	624	554
	6.40	13.52	14.20	22.28	24.68	17.76	21.36	23.16	25.08	23.08
薬剤耐性緑膿菌感染症	118	85	69	107	61	39	35	41	48	26
	4.72	3.40	2.76	4.28	2.44	1.56	1.40	1.64	1.93	1.08

1999年14週より実施

表 2－6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数 (S T I 定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
定点数 *	41	41	41	41	41	41	41	41	55	55
性器クラミジア感染症	2,692	2,688	2,789	2,536	2,422	2,476	2,132	2,133	2,485	2,605
	65.66	65.56	68.02	61.85	59.07	60.39	52.00	52.02	48.08	47.51
性器ヘルペスウイルス感染症	1,020	1,054	1,019	950	865	982	923	963	989	946
	24.88	25.71	24.85	23.17	21.10	23.95	22.51	23.49	19.40	17.25
尖圭コンジローマ	518	578	549	502	518	627	555	646	801	926
	12.63	14.10	13.39	12.24	12.63	15.29	13.54	15.76	15.39	16.88
淋菌感染症	1,250	1,204	1,364	1,249	1,298	1,171	1,006	868	1,013	1,096
	30.49	29.37	33.27	30.46	31.66	28.56	24.54	21.17	19.63	19.99
膺トリコモナス症	323	295	367	447	343	298	212	233	233	169
	7.88	7.20	8.95	10.90	8.37	7.27	5.17	5.68	4.69	3.08
梅毒様疾患	118	108	63	41	68	42	43	74	103	82
	2.88	2.63	1.54	1.00	1.66	1.02	1.05	1.80	1.99	1.50

* 2007年は、12月末時点の定点数

3 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症 (全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症（以下参照）の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 結核

結核は従来の結核予防法から、平成 20 年 4 月 1 日に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)に統合された。結核の動向は別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

② その他の二類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群

ウ 三類感染症

① コレラ

コレラは 6 件届出があった。O1 エルトール小川 5 件、O1 小川（生物型不明）1 件であった。

性別では、男性 3 人、女性 3 人で、年齢別では、20 歳代 1 人、30 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 2 人、80 歳代 1 人であった。

推定感染地は国内 3 件、国外 3 件（インド 2 件、フィリピン 1 件）であった。

コレラ（2008 年 東京都 6 件）

受理日	受理週	性別	年齢	菌型	推定感染地
4/12	15	女	62	O1 エルトール小川	国内
4/14	16	女	82	O1 エルトール小川	国内
6/25	26	男	55	O1 エルトール小川	フィリピン
8/7	32	女	27	O1 エルトール小川	インド
8/29	35	男	61	O1 エルトール小川	国内
10/7	41	男	39	O1 小川	インド

② 細菌性赤痢

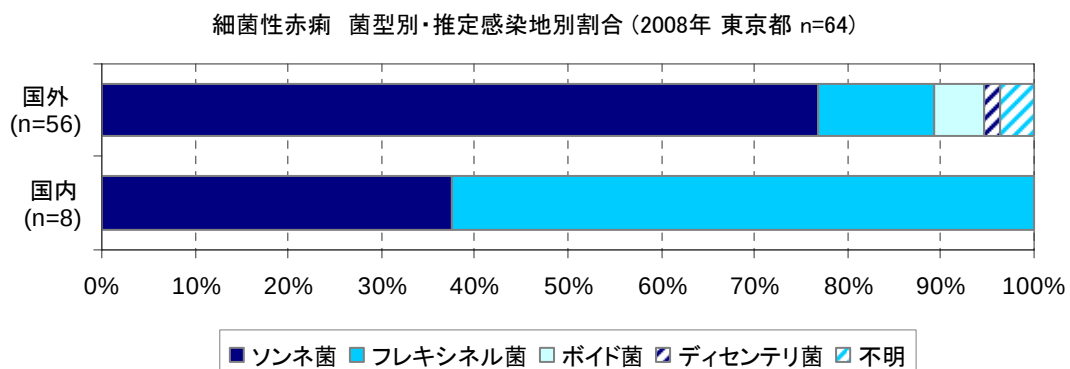
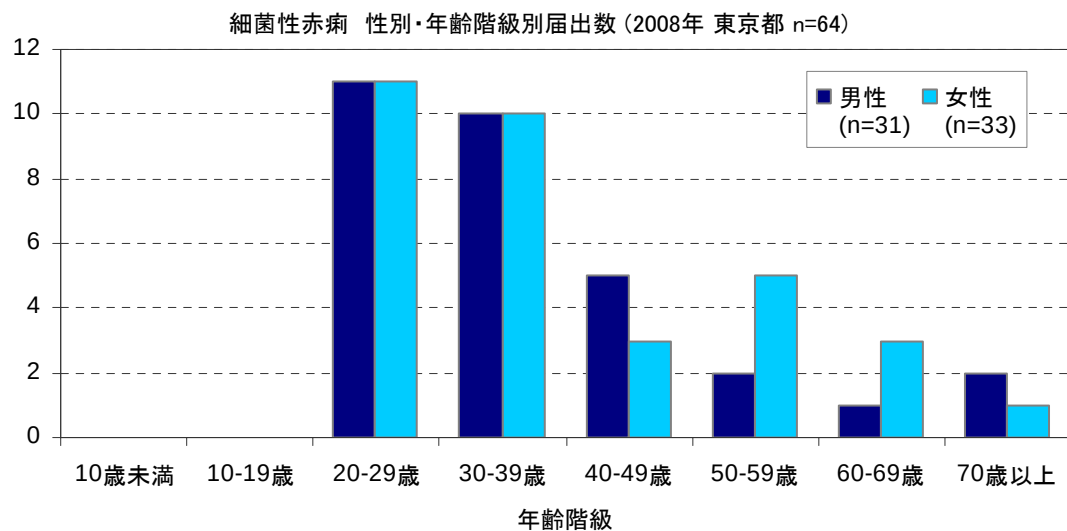
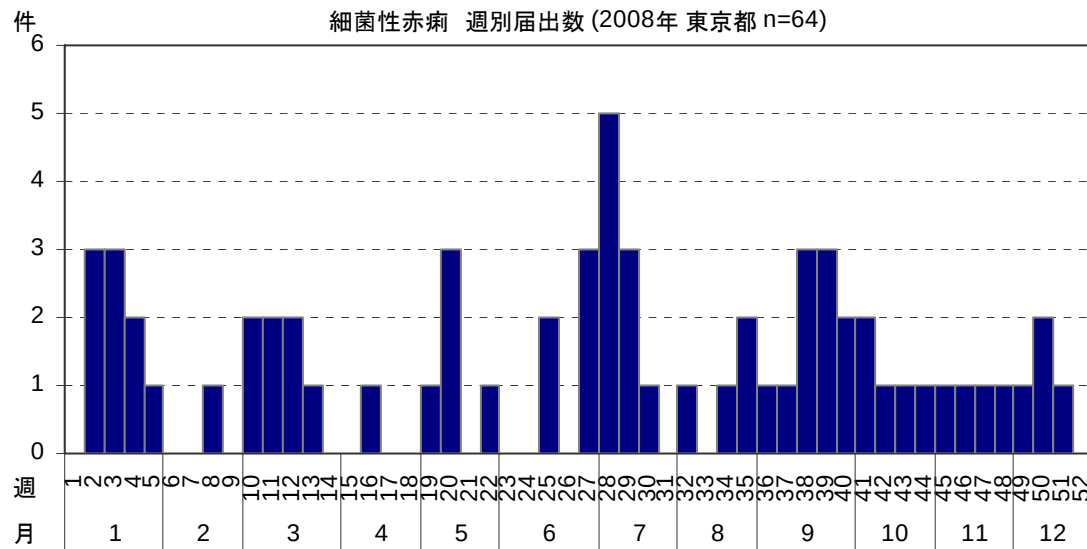
細菌性赤痢は 64 件届出があった。菌型は、ソンネ菌 46 件、フレキシネル菌 12 件、ボイド菌 3 件、ディセンテリ菌 1 件、不明 2 件であった。

性別では、男性 31 人、女性 33 人で、年齢別では、20 歳代が 22 人、30 歳代が 20 人、40 歳代が 8 人、50 歳代が 7 人、60 歳代が 4 人、70 歳以上が 3 人であった。

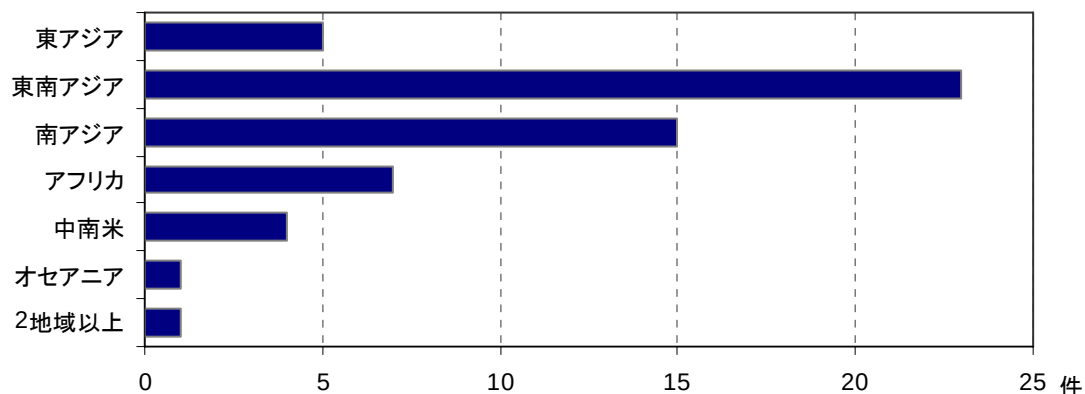
推定感染地は国内 8 件、国外 56 件であった。国外感染例 56 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 23 件、南アジア 14 件、アフリカ 7 件が多く、推定感染国別にみると、インド 14 件、インドネシア 9 件、カンボジア 5 件、中国 5 件、タイ 4 件、メキシコ 4 件が多かった。症例の集積は、第 11～12

週マリへの渡航者2人（ソンネ）、第27～28週メキシコへの渡航者4人（ソンネ）、第28～29週インドネシアへの同行者2人（ソンネ）、第28～29週タイへの同行者2人（ソンネ）に認められた。

国内感染が疑われる8件について、年齢別では、20歳代2人、30歳代1人、50歳代1人、60歳代2人、70歳以上2人であった。症例の集積は、第20週の2人（フレキシネル）に認められた。



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別届出数（2008年 東京都 n=56）



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別・国別届出数（2008年 東京都 56件）

推定感染地域	件数	推定感染国	件数
東南アジア	23	インドネシア	9
		カンボジア	5
		タイ	4
		ベトナム	2
		インドネシア/シンガポール	1
		カンボジア/ベトナム	1
		東南アジア	1
南アジア	15	インド	14
		ネパール	1
アフリカ	7	エジプト	3
		ガーナ	1
		スーダン	1
		マリ	2
東アジア	5	中華人民共和国	5
中南米	4	メキシコ	4
オセアニア	1	フィジー	1
2地域以上	1	ネパール/タイ	1
計	56		

細菌性赤痢 国内感染例（2008年 東京都 8件）

受理日	受理週	性別	年齢	菌型	症状	推定感染地	備考
1/23	4	女	66	フレキシネル	有	東京	生ほたて・すし喫食との関連疑い
5/15	20	男	72	フレキシネル	有	不明	
5/15	20	女	66	フレキシネル	有	不明	
5/26	22	女	32	ソンネ	有	不明	
6/20	25	女	56	ソンネ	有	東京	すし喫食との関連疑い すし喫食との関連疑い
7/1	27	女	26	フレキシネル	有	長崎	
7/18	29	女	84	フレキシネル	有	東京	
8/26	35	男	29	ソンネ	有	福岡	

③ 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は 409 件届出があった。

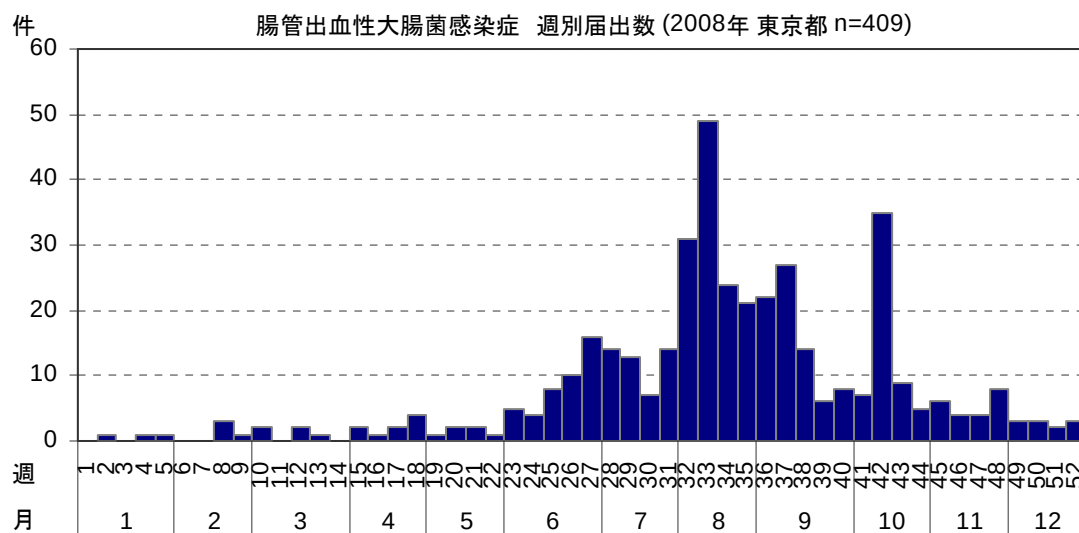
性別では、男性 199 人、女性 210 人で、年齢別では 10 歳未満 157 人、10 歳代 54 人、20 歳代 81 人、30 歳代 45 人、40 歳代 25 人、50 歳代 20 人、60 歳代 8 人、70 歳以上 19 人であった。

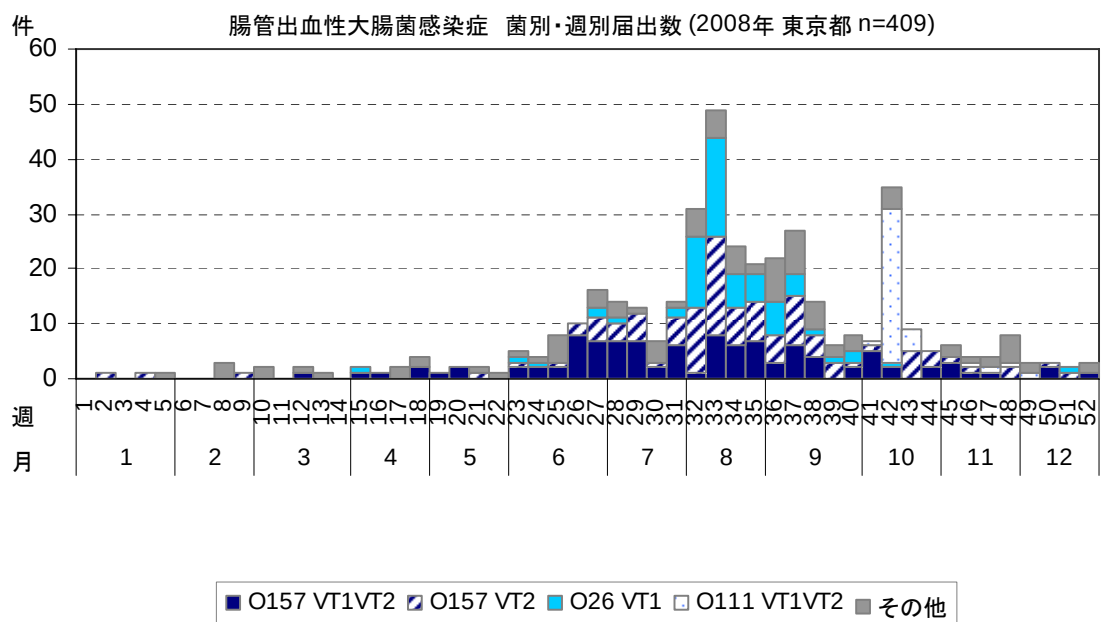
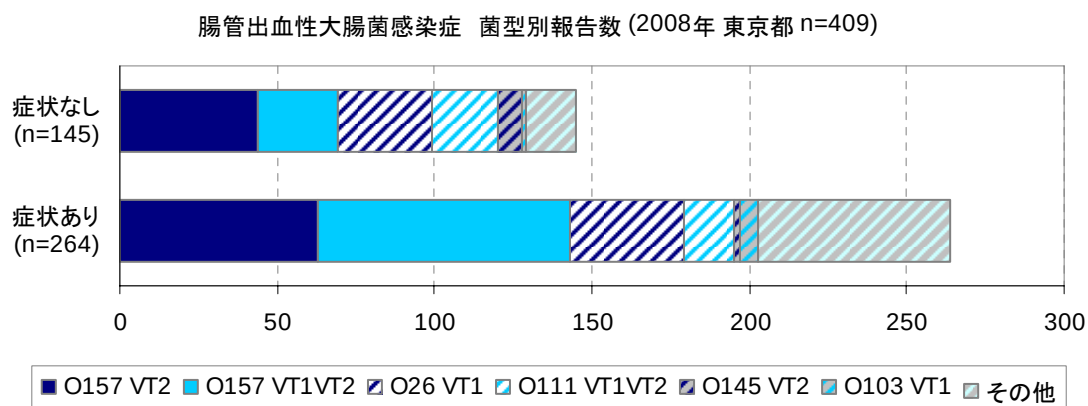
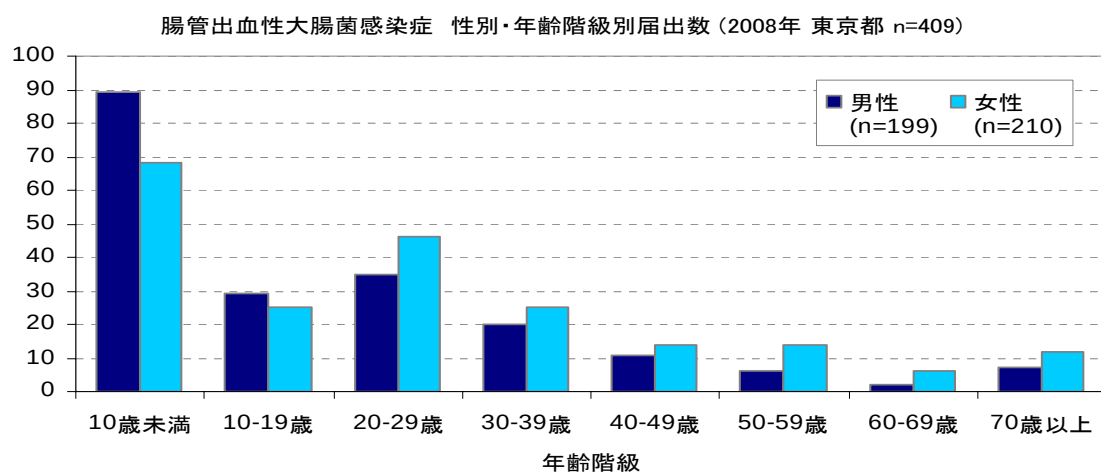
菌型は、O157 VT2 が 107 件、O157 VT1VT2 が 105 件、O26 VT1 が 66 件、O111 VT1VT2 が 37 件、O145 VT2 が 10 件、O103 VT1 が 7 件、O111 VT1 が 6 件、O121 VT2 が 6 件、O145 VT1 が 5 件、O157 VT1 が 5 件、O26 VT1VT2 が 3 件、O115 VT1 が 2 件、O91 VT1 が 2 件、その他（1 件のみ、血清型不明、毒素型不明、血清診断によるもの等）48 件であった。

症状別では、患者 264 人、無症状病原体保有者 145 人であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明している者は 16 人おり、内訳は 10 歳未満 11 人（うち 5 歳未満 8 人）、10 歳代 5 人であった。推定感染地は国内 403 件、国外 6 件であった。

死亡例は、O157 VT2 の 80 歳代患者 1 人が報告されており、症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、急性腎不全で、第 6 病日に死亡した。

症例の集積は、第 41～49 週の大田区内保育園に関連した O111 集団発生事例 39 人（VT2 が 37 人、毒素型不明が 2 人）に認められた。患者 18 人、（うち HUS 発症 3 人）、無症状 21 人であった。O26 VT1 の報告が、八王子市保健所管内から第 31～35 週に計 33 件、町田保健所管内から第 31～40 週に計 20 件されていた。八王子市保健所管内では保育園 1 施設の集団発生が関連しており、町田保健所管内では保育園 2 施設の集団発生が関連していた。



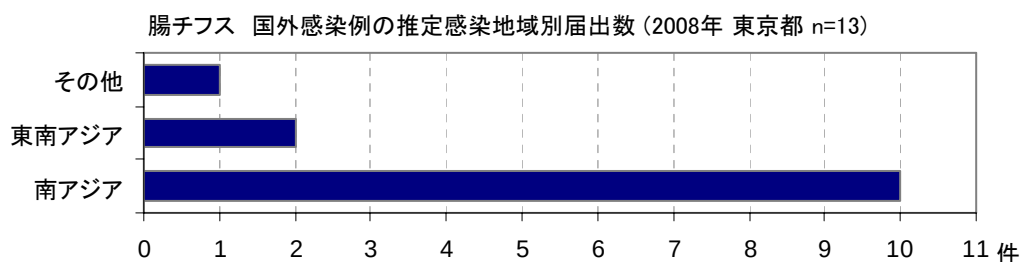
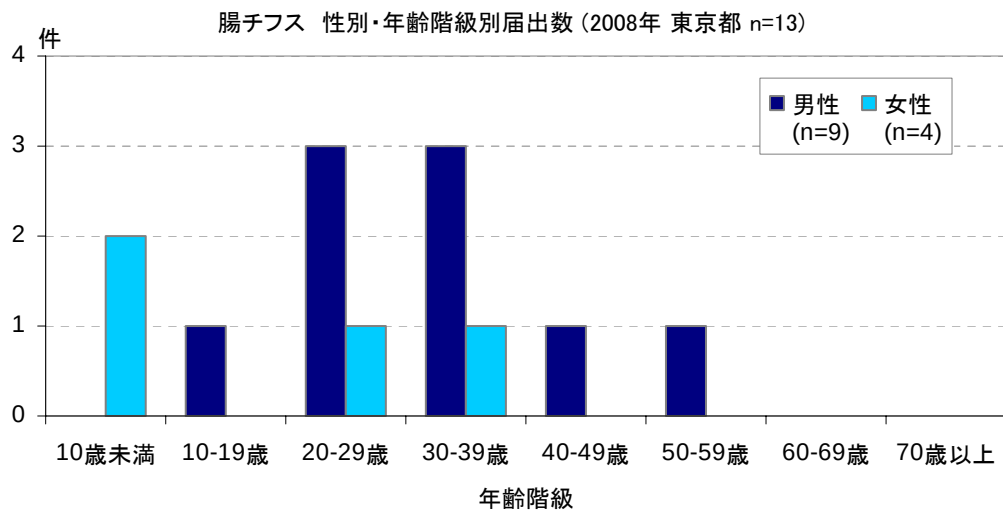
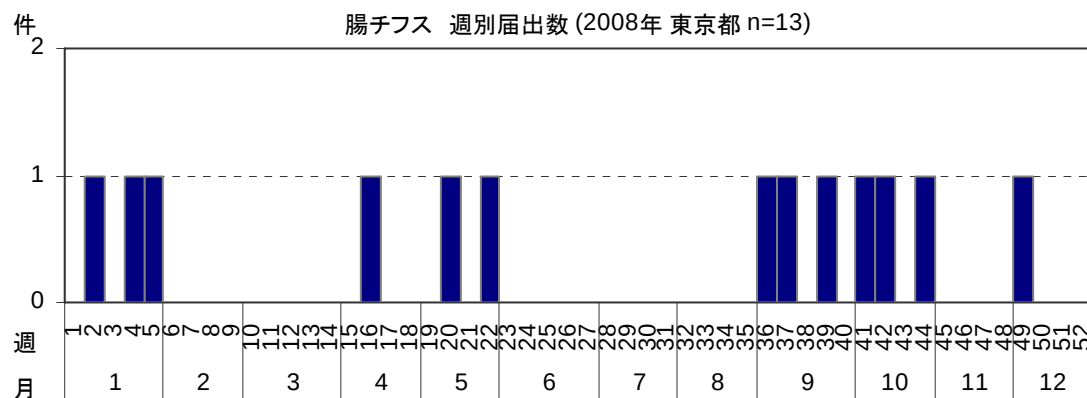


④ 腸チフス

腸チフスは13件届出があった。

性別では、男性9人、女性4人で、年齢別では、10歳未満2人、10歳代1人、20歳代4人、30歳代4人、40歳代1人、50歳代1人であった。

推定感染地はすべて国外であった。推定感染地域別では、南アジア10件、東南アジア2件、その他1件で、推定感染国別では、インド9件、バングラデシュ1件、インドネシア1件、ベトナム1件、インド/ネパール/台湾1件であった。

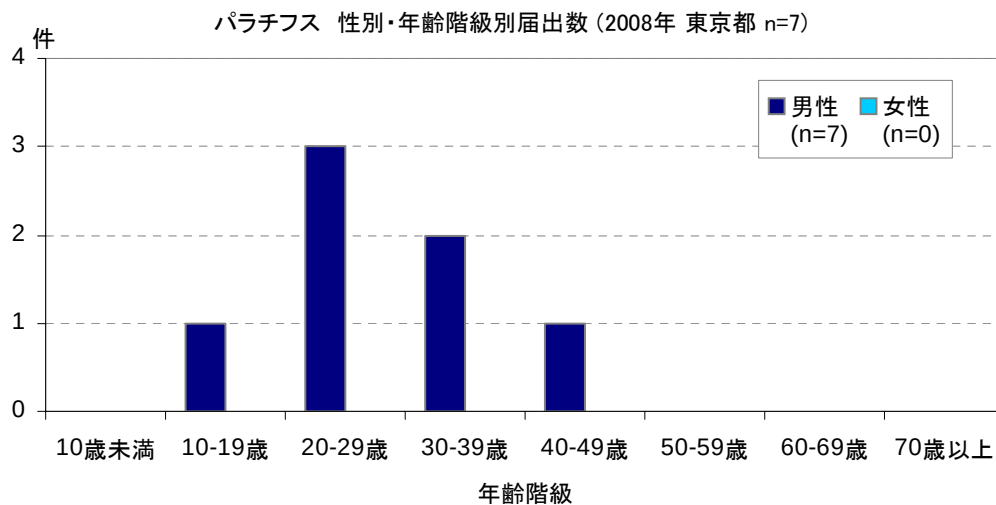
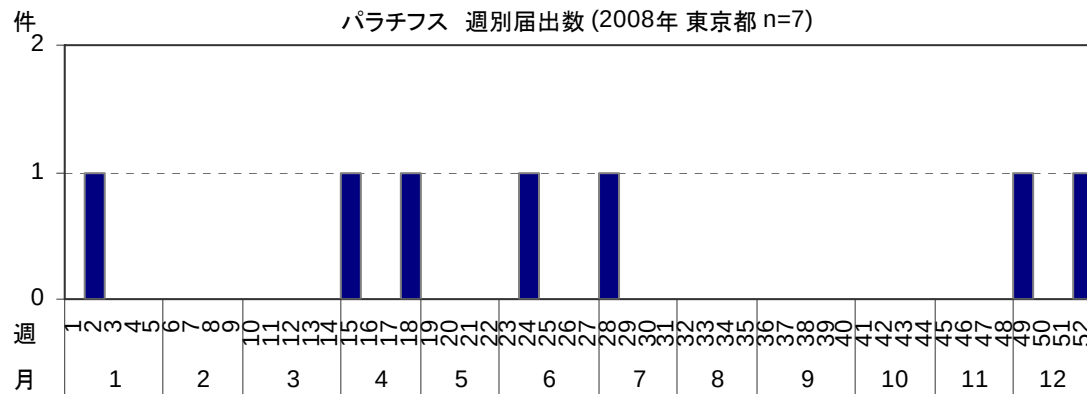


⑤ パラチフス

パラチフスは7件届出があった。

性別では、男性7人で、年齢別では、10歳代1人、20歳代3人、30歳代2人、40歳代1人であった。

推定感染地はすべて南アジアで、推定感染国別では、インド5件、バングラデシュ2件であった。



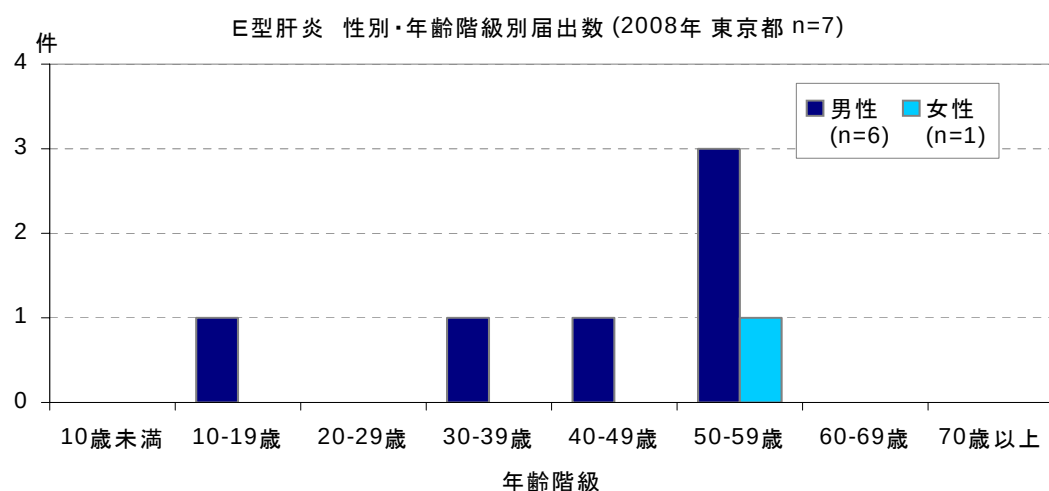
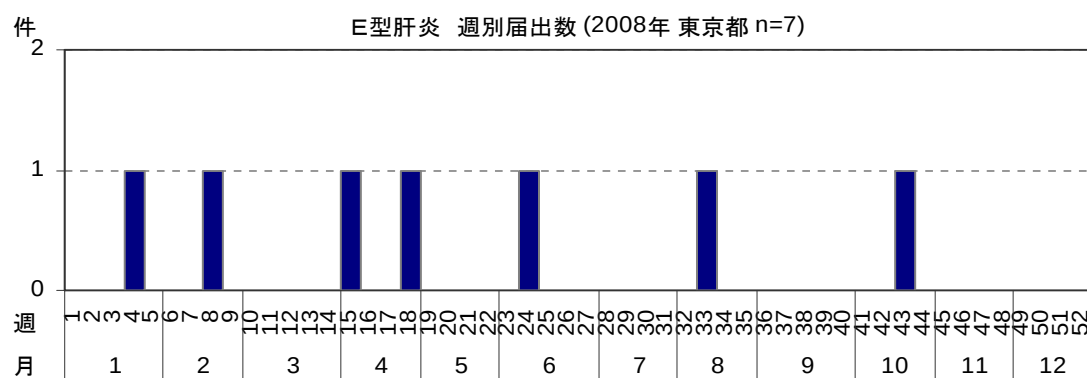
エ 四類感染症

① E型肝炎

E型肝炎は7件届出があった。

性別では、男性6人、女性1人で、年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代が各1人であった。

推定感染地は国内5件、国外2件（ネパール1件、中国1件）であった。



E型肝炎 (2008年 東京都 7件)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/24	4	男	54	肝機能異常	国内	飲食物による経口感染
2/20	8	男	58	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染 (生ではない豚肉)
4/11	15	女	56	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝腫大	国内	飲食物による経口感染 (生豚肉取扱作業中)
5/2	18	男	37	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染 (豚レバー)
6/11	24	男	16	全身倦怠感、黄疸、肝機能異常、肝腫大	ネパール	飲食物による経口感染
8/14	33	男	56	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	中国	飲食物による経口感染
10/21	43	男	46	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染 (馬肉)

② A型肝炎

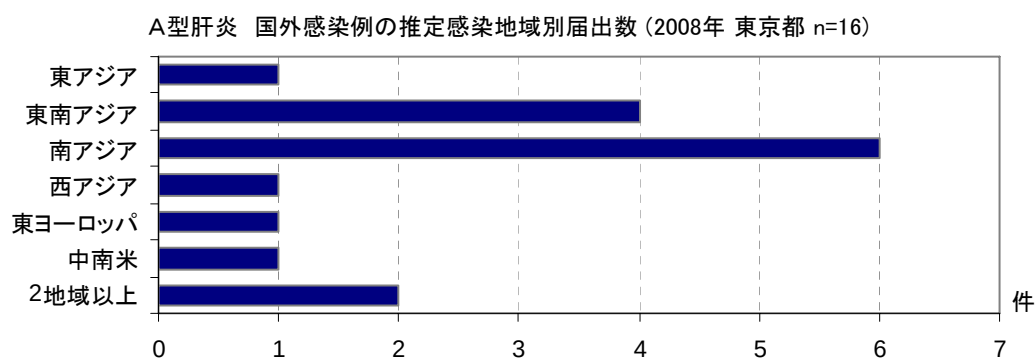
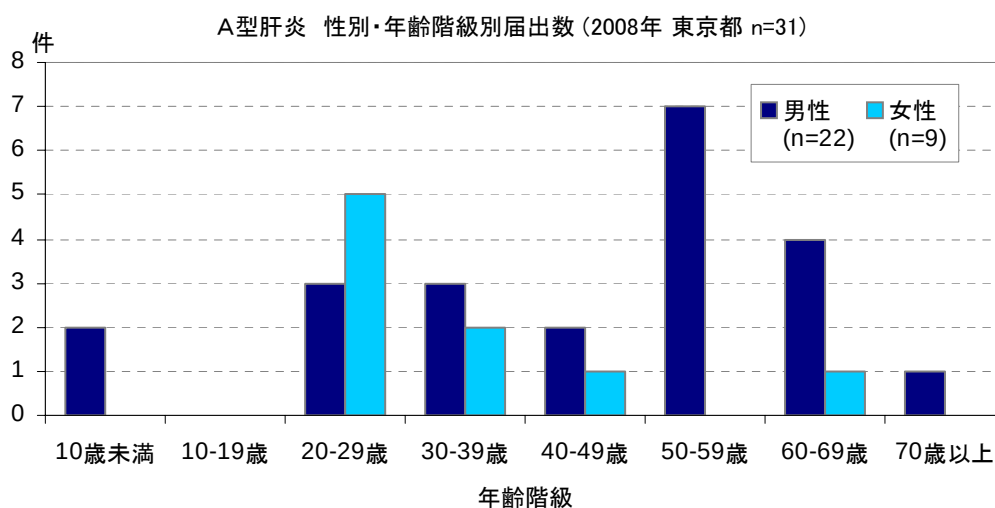
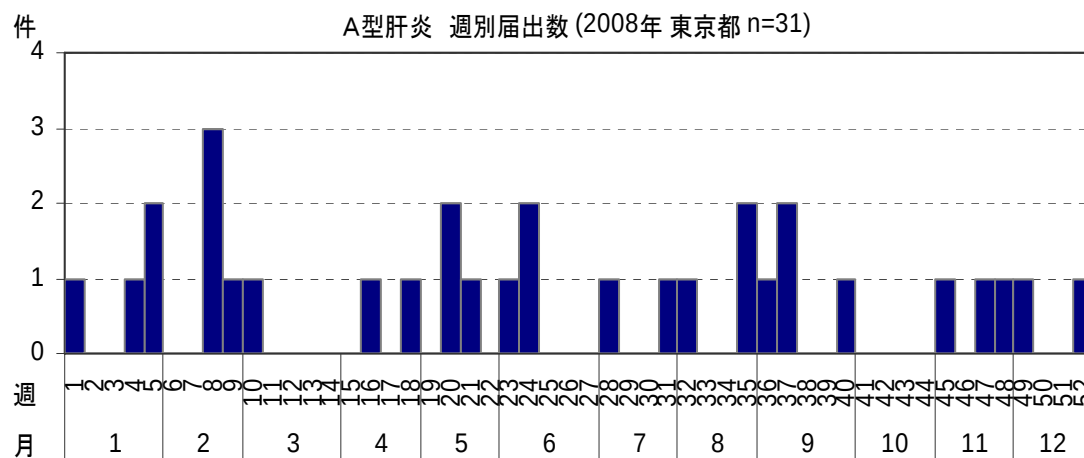
A型肝炎は31件届出があった。

性別では、男性22人、女性9人で、年齢別では、10歳未満2人、20歳代8人、30歳代5人、40歳代3人、50歳代7人、60歳代5人、70歳以上1人であった。

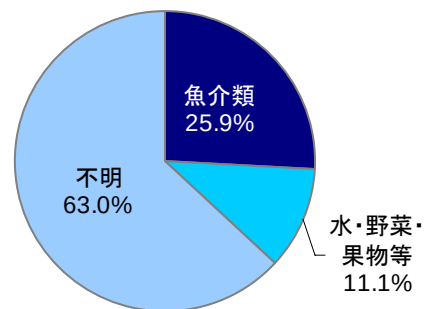
推定感染地は国内14件、国外16件、その他1件（国内/中国1件）であった。国外の推定感染地域別では、南アジア6件、東南アジア4件、東アジア1件、西アジア1件、東ヨーロッパ1件、中南米

1 件、複数地域 2 件で、推定感染国別では、インド 6 件、インドネシア 2 件、韓国、フィリピン、マレーシア、アフガニスタン、ウズベキスタン、ボリビア、タイ/ロシア、インド/トルコ/スペインが各 1 件であった。

推定感染経路は飲食物による経口感染 27 件、性的接触 1 件、不明 3 件であった。飲食物による経口感染 27 件のうち、7 件（25.9%）で魚介類、3 件（11.1%）で水・野菜・果物等が感染原因として疑われており、他 17 件の感染原因は不明であった。



A型肝炎 感染原因として疑われた飲食物
(2008年 東京都 n=27)



③ Q熱

Q熱は1件届出があった。

症例は30歳代女性で、野良ネコを飼育していたこととの関連が疑われている。

Q熱 (2008年 東京都 1件)

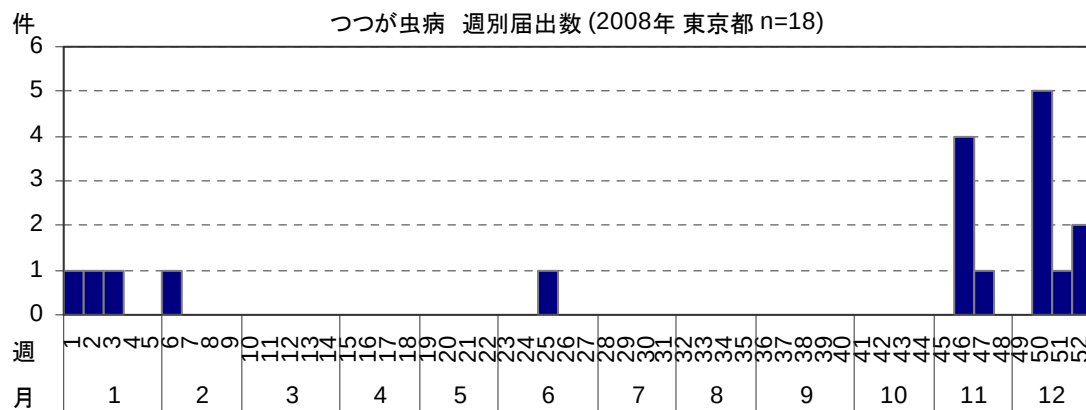
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染原因
4/28	18	女	33	発熱、頭痛、全身倦怠感、眼球後部痛	国内	野良ネコを飼育

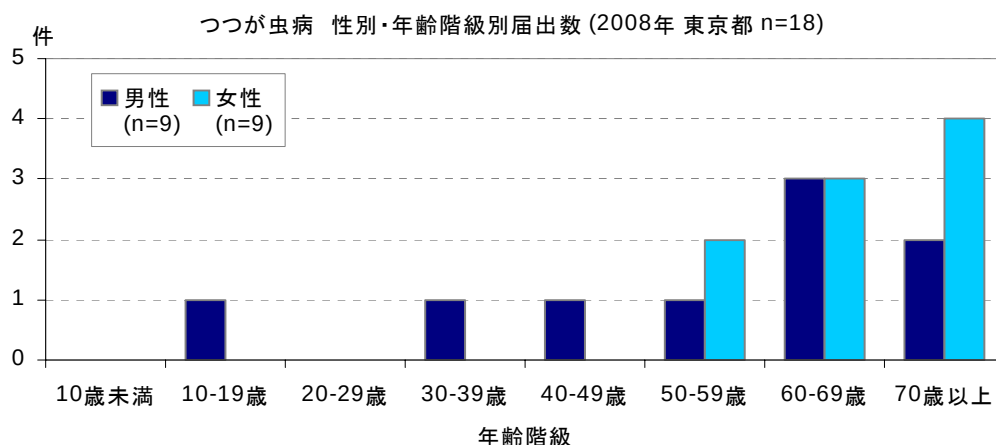
④ つつが虫病

つつが虫病は18件届出があった。

性別では、男性9人、女性9人で、年齢別では、10歳代1人、30歳代1人、40歳代1人、50歳代3人、60歳代6人、70歳以上6人であった。

推定感染地は東京都17件（島しょ地域10件、多摩地域7件）、韓国1件であった。





つつが虫病 (2008 年 東京都 18 件)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1/4	1	女	82	発熱、刺し口、リンパ節腫脹	東京都 島しょ	畑作業
1/9	2	女	60	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	東京都 島しょ	畑作業
1/15	3	男	56	発熱、刺し口、リンパ節腫脹	東京都 多摩	
2/4	6	女	75	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、その他(意識障害)	東京都 島しょ	
6/18	25	男	68	頭痛、発熱、刺し口、発疹	東京都 多摩	
11/10	46	男	10	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	東京都 島しょ	
11/10	46	男	37	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	東京都 島しょ	
11/11	46	男	70	発熱、リンパ節腫脹、発疹	東京都 多摩	
11/14	46	女	82	発熱、刺し口、発疹、その他(心電図異常、肝機能異常)	東京都 多摩	農作業
11/18	47	女	51	発熱、刺し口、発疹	東京都 多摩	
12/8	50	女	56	頭痛、発熱、刺し口、その他(肝機能障害)	東京都 島しょ	
12/9	50	男	81	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	東京都 多摩	
12/11	50	男	42	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	韓国	
12/12	50	女	79	発熱、刺し口、発疹	東京都 島しょ	畑作業
12/12	50	女	65	刺し口、発疹	東京都 島しょ	畑作業
12/15	51	女	66	頭痛、発熱、発疹	東京都 多摩	
12/25	52	男	66	発熱、その他(関節痛)	東京都 島しょ	
12/25	52	男	64	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	東京都 島しょ	鳥類の学術調査

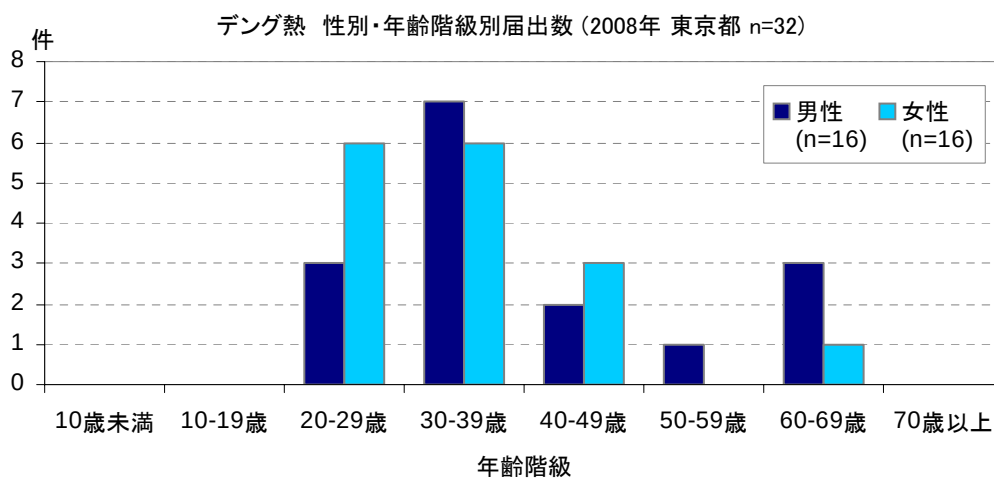
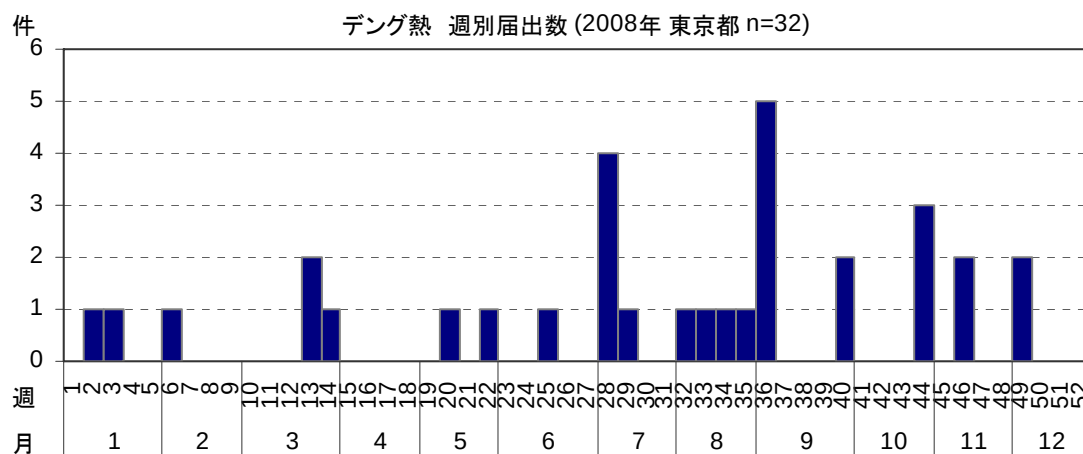
⑤ デング熱

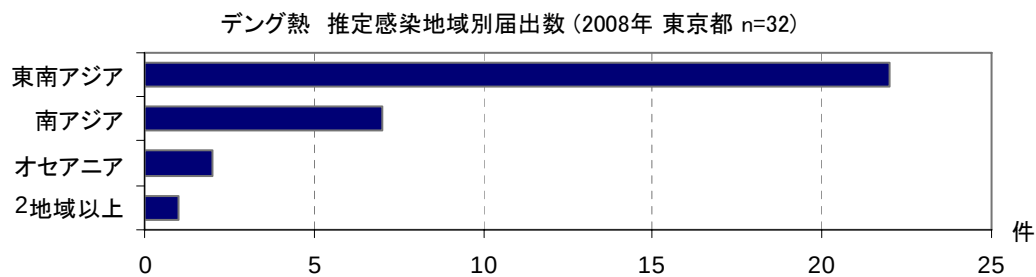
デング熱は 32 件届出があった。うち 3 件はデング出血熱であった。

性別では、男性 16 人、女性 16 人で、年齢別では、20 歳代 9 人、30 歳代 13 人、40 歳代 5 人、50 歳代 1 人、60 歳代 4 人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域別では、東南アジア 22 件、南アジア 7 件、オセアニア 2 件、2 地域以上 1 件であった。推定感染国別では、インド 6 件、タイ 5 件、インドネシア 4 件、フィリピン 3 件、カンボディア 2 件、マレーシア 2 件、ミャンマー 2 件、ベトナム 1 件、シンガポール 1 件、モルディブ 1 件、トンガ 1 件、ソロモン諸島 1 件、タイ/ベトナム 1 件、タイ/マレーシア 1 件、ラオス/モルディブ/スリランカ 1 件であった。

血清型は 16 件について報告されており、1 型 3 件、2 型 3 件、3 型 6 件、4 型 4 件であった。デング出血熱 3 件の中では、3 型 1 件が報告されていた。





デング出血熱 (2008年 東京都 3件)

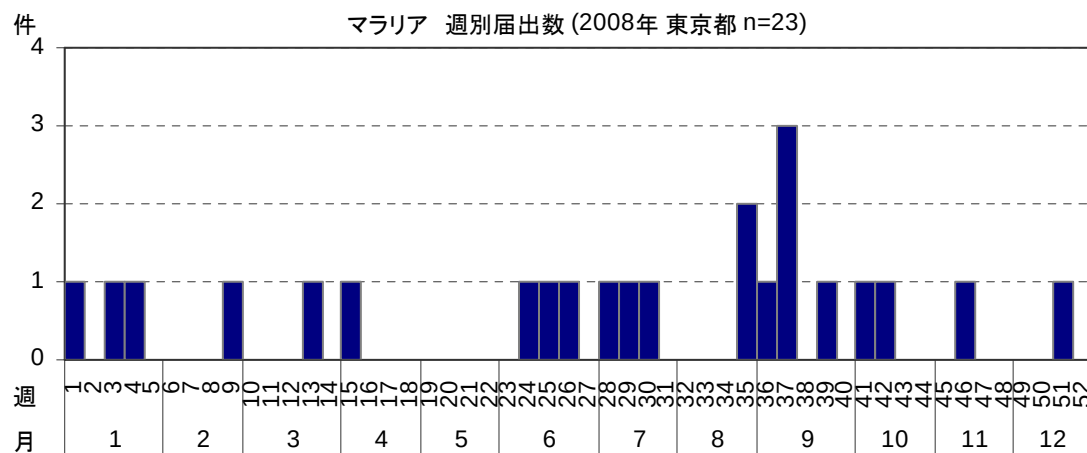
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	血清型
6/20	25	男	30	発熱、2 日以上続く発熱、頭痛、発疹、血小板減少、100,000/MM3 以下の血小板減少、白血球減少、出血、血清蛋白の低下、その他(皮下出血)	モルディブ	3 型
9/29	40	男	20	発熱、2 日以上続く発熱、頭痛、発疹、血小板減少、100,000/MM3 以下の血小板減少、白血球減少、出血、血清蛋白の低下	インド	不明
9/29	40	女	22	発熱、2 日以上続く発熱、血小板減少、100,000/MM3 以下の血小板減少、白血球減少、出血、血清蛋白の低下	カンボディア	不明

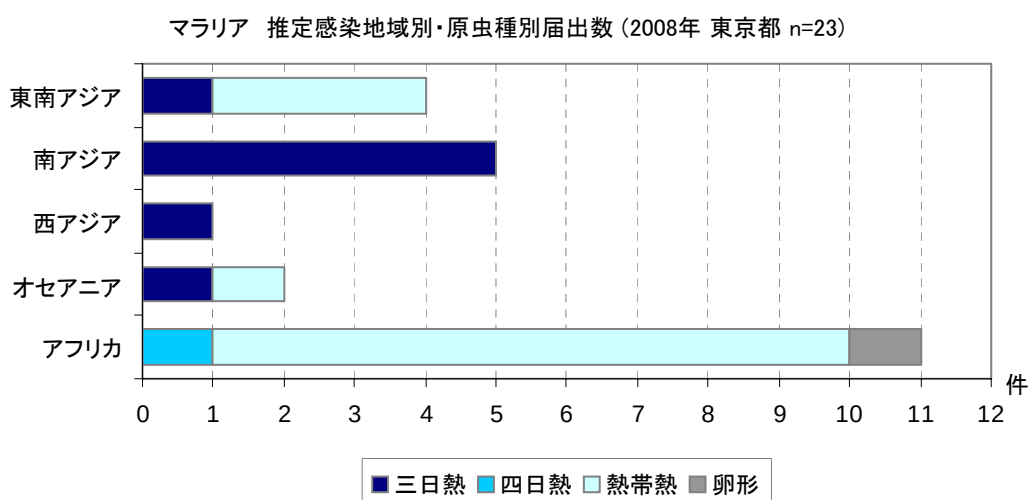
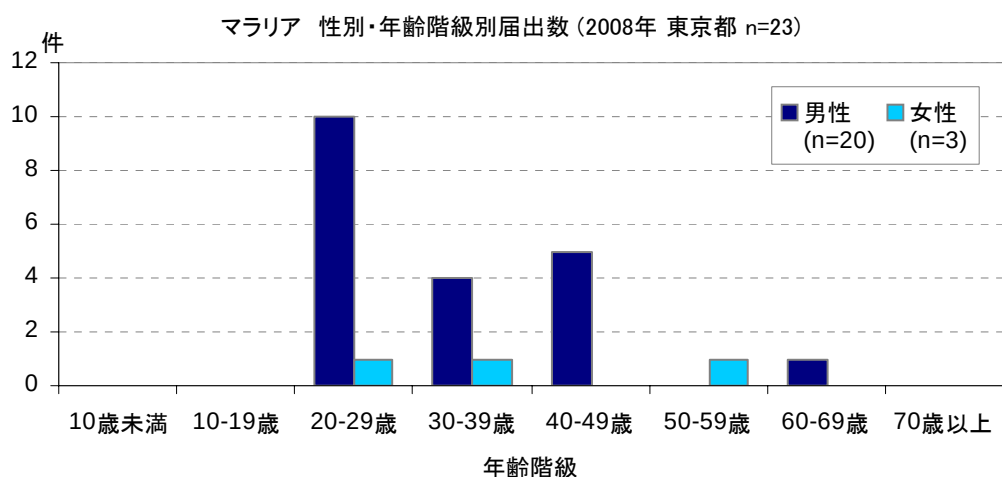
⑥ マラリア

マラリアは 23 件届出があった。三日熱マラリア 8 件、四日熱マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 13 件、卵形マラリア 1 件であった。

性別では、男性 20 人、女性 3 人で、年齢別では、20 歳代 11 人、30 歳代 5 人、40 歳代 5 人、50 歳代 1 人、60 歳代 1 人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域別では、アフリカ 11 件、南アジア 5 件、東南アジア 4 件、オセアニア 2 件、西アジア 1 件であった。推定感染国別では、インド 5 件、インドネシア 3 件、ウガンダ 2 件、パプアニューギニア 2 件、ベナン 2 件、イラン、ガーナ、カメルーン、コートジボアール、シエラレオネ、ナイジェリア、ニジェール、マリ、ミャンマーが各 1 件であった。





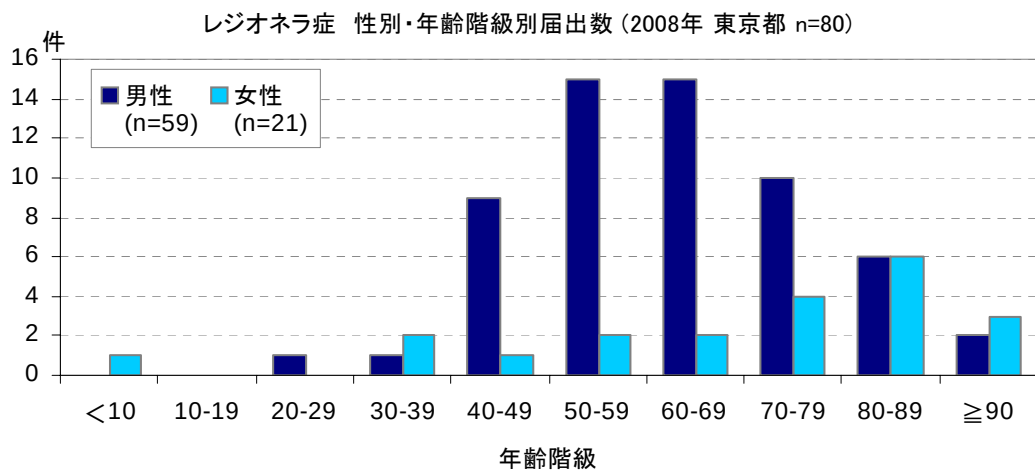
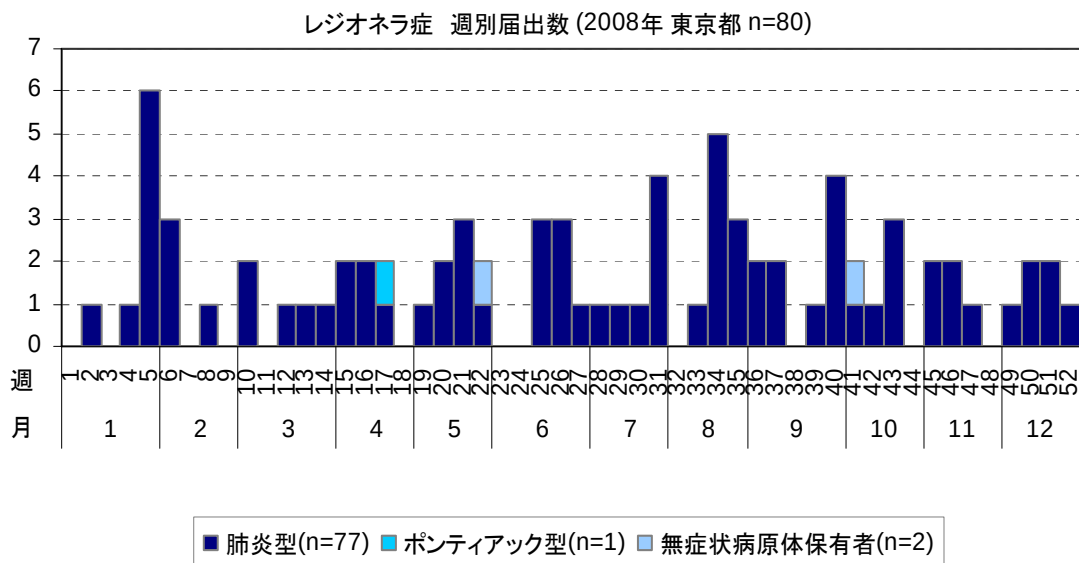
⑦ レジオネラ症

レジオネラ症は 80 件届出があった。肺炎型 77 件、ポンティアック型 1 件、無症状病原体保有者 2 件であった。

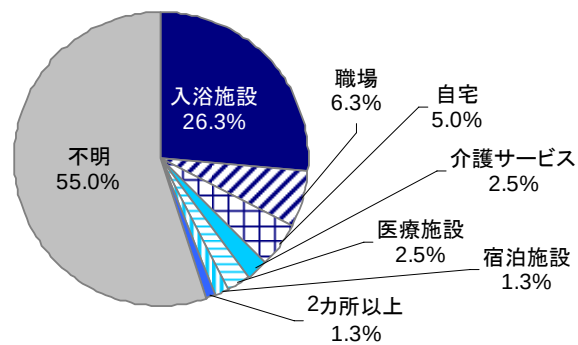
性別では、男性 59 人、女性 21 人で、年齢別では、10 歳未満 1 人、20 歳代 1 人、30 歳代 3 人、40 歳代 10 人、50 歳代 17 人、60 歳代 17 人、70 歳代 14 人、80 歳代 12 人、90 歳以上 5 人であった。

推定感染地は国内 78 件、国外 2 件（イタリア 1 件、インドネシア/タイ/シンガポール 1 件）であった。温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 21 件だった。

死亡例は、60 歳代男性患者 1 人が報告されており、症状は発熱、咳嗽、意識障害、肺炎で、第 11 病日に死亡した。



レジオネラ症 感染の疑われた場所
(2008年 東京都 n=80)



⑧ レプトスピラ症

レプトスピラ症は4件届出があった。

性別はすべて男性で、年齢別では、20歳代1人、50歳代2人、60歳代1人であった。

推定感染地はすべて国内であった。それぞれ、市場での作業、自宅でのネズミの尿との接触、飲食店での感染、河川のアクティビティとの関連が疑われた。

レプトスピラ症（2008年 東京都 4件）

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染原因
9/3	36	男	56	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、蛋白尿、腎不全	東京都	市場での作業、手足切創からの感染
9/16	38	男	58	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全	東京都	自宅でネズミの尿と接触
9/22	39	男	68	発熱、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全	東京都	飲食店での感染
11/5	45	男	26	発熱、結膜充血、黄疸、その他（肝機能障害、肝脾腫）	沖縄県	河川のアクティビティ

⑨ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

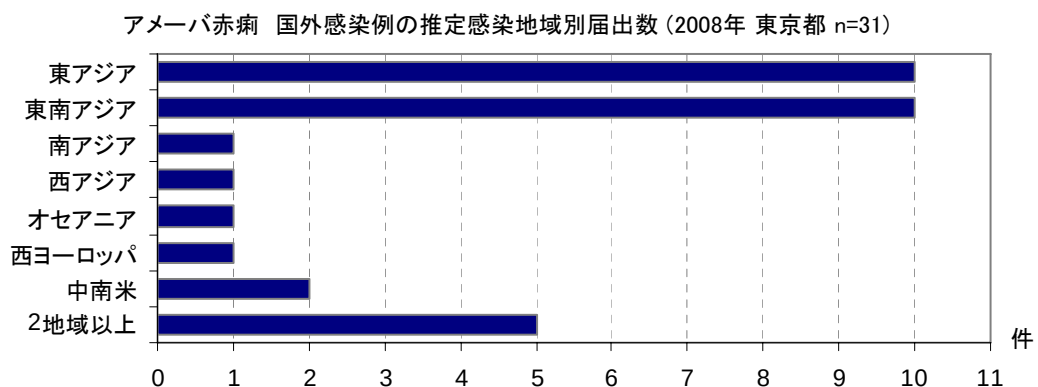
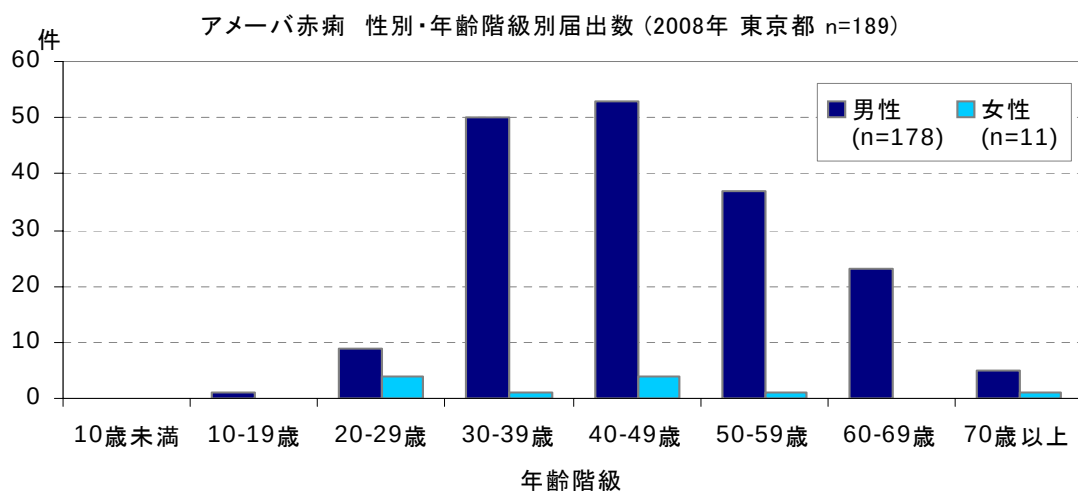
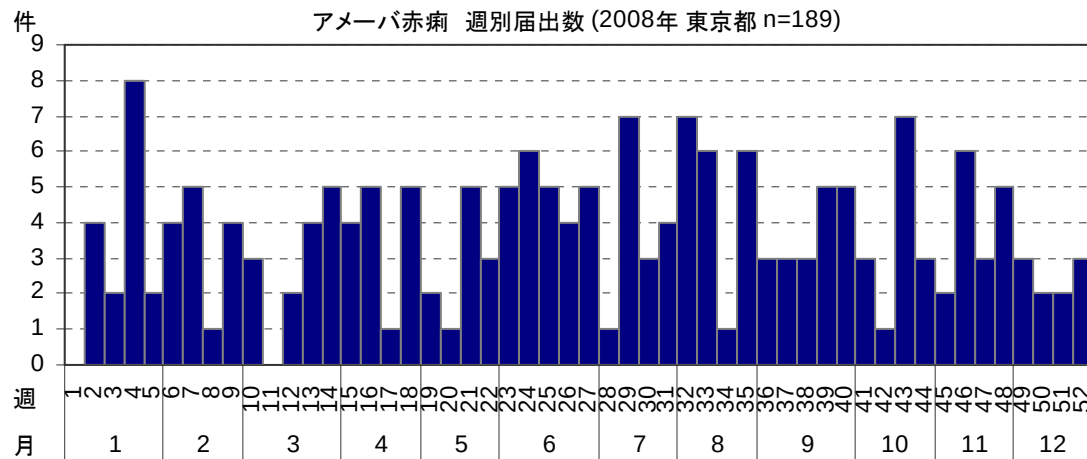
アメーバ赤痢は189件届出があった。腸管アメーバ症131件、腸管外アメーバ症42件、腸管及び腸管外アメーバ症16件であった。

性別では、男性178人、女性11人で、年齢別では、10歳代1人、20歳代13人、30歳代51人、40歳代57人、50歳代38人、60歳代23人、70歳以上6人であった。

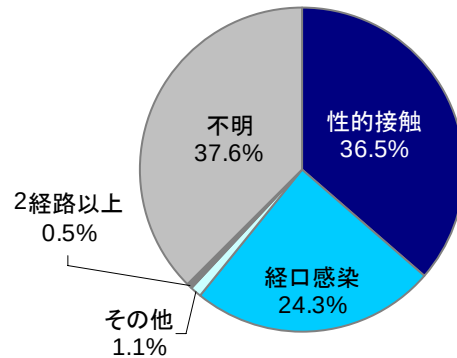
推定感染地は国内150件、国外31件、不明8件であった。国外感染例31件を推定感染地域別にみると、東アジア10件、東南アジア10件、中南米2件、南アジア1件、西アジア1件、オセアニア1件、西ヨーロッパ1件、2地域以上5件で、推定感染国別にみると、中国7件、インドネシア、韓国、タイが各3件、フィリピン2件、アルゼンチン、インド、オーストラリア、オランダ、カンボディア、トルコ、ペルー、フィリピン/グアム、マレーシア/タイ/シンガポール、中国/オーストラリア/ベトナム、米国/イギリス、米国/マレーシア/ベトナム等、不明（世界一周旅行で特定できず）が各1件であった。

推定感染経路は性的接触 69 件（同性間 35 件、異性間 19 件、性別不明 15 件）、飲食物による経口感染 46 件、その他 2 件、2 経路以上 1 件、不明 71 件であった。

腸管及び腸管外アメーバ症の 40 歳代患者 1 人の死亡が報告されており、症状は下痢、腹痛、発熱、肝膿瘍、腹膜炎で、第 13 病日に死亡した。



アメーバ赤痢 推定感染経路別割合 (2008年 東京都 n=189)



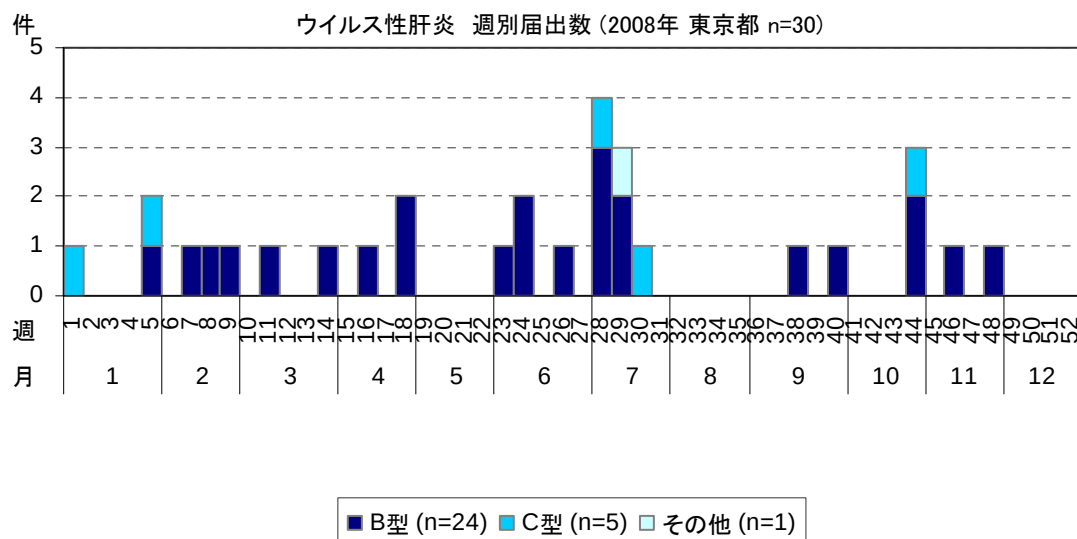
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

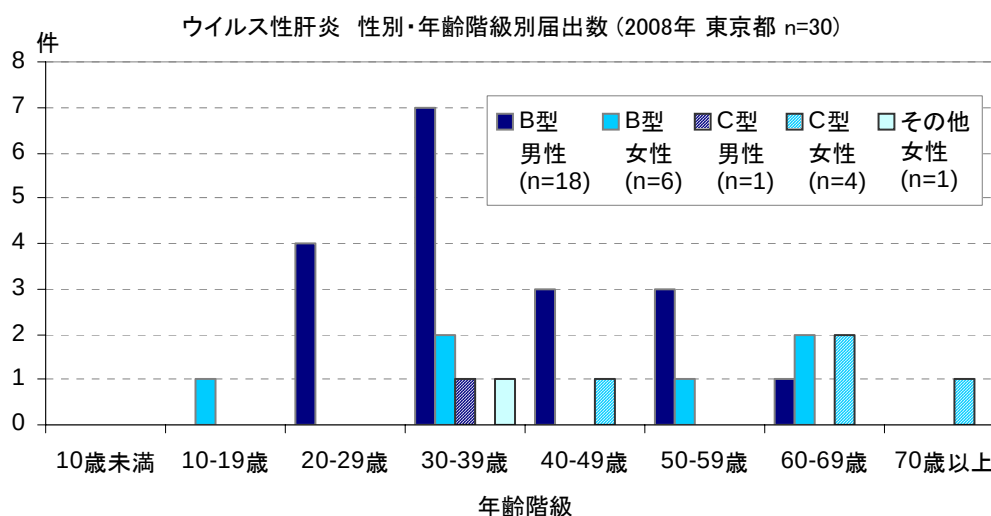
ウイルス肝炎は 30 件届出があった。B型肝炎 24 件、C型肝炎 5 件、その他 1 件（サイトメガロウイルス性肝炎）であった。

B型肝炎 24 件について、性別では、男性 18 件、女性 6 件で、年齢別では、10 歳代 1 人、20 歳代 4 人、30 歳代 9 人、40 歳代 3 人、50 歳代 4 人、60 歳代 3 人であった。推定感染経路は性的接触 17 件（同性間 5 件、異性間 9 件、性別不明 3 件）、針等の刺入 2 件、不明 5 件で、推定感染地は国内 21 件、米国、東南アジア、韓国/台湾/香港が各 1 件であった。

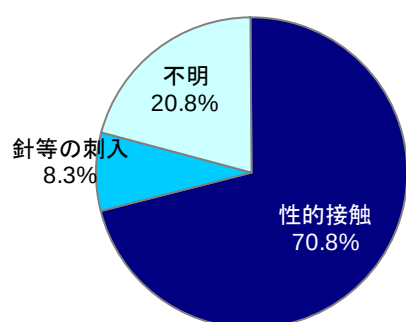
C型肝炎 5 件について、性別では、男性 1 件、女性 4 件で、年齢別では、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染経路は同性間性的接触 1 件、針等の刺入 1 件、不明 3 件で、推定感染地はすべて国内であった。

サイトメガロウイルス性肝炎の 1 件は、30 歳代女性で、推定感染地は国内、感染経路は不明であった。

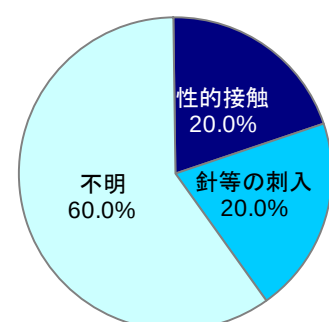




B型肝炎 推定感染経路別割合 (2008年 東京都 n=24)



C型肝炎 推定感染経路別割合 (2008年 東京都 n=5)

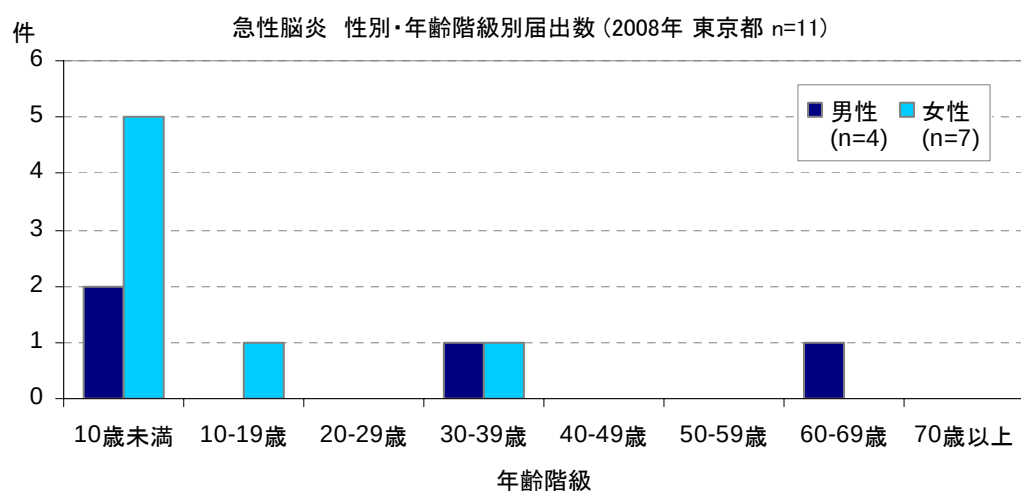
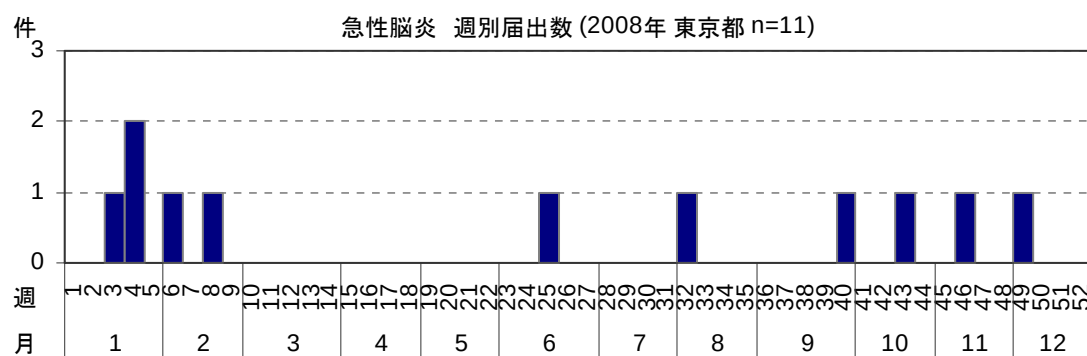


③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は 11 件届出があった。病原体は、インフルエンザウイルス A 型 3 件、アデノウイルス 1 型、エンテロウイルス、マイコプラズマが各 1 件、不明 5 件であった。

性別では、男性 4 人、女性 7 人で、年齢別では、10 歳未満 7 人、10 歳代 1 人、30 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。推定感染地はすべて国内であった。

インフルエンザウイルス A 型が原因の 8 歳患者で死亡が報告されており、症状は発熱、痙攣、意識障害、心室性頻拍（VT）で、第 2 病日に死亡した。



急性脳炎 (2008 年 東京都 11 件)

受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定感染地
1/17	3	男	1	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
1/24	4	女	11	インフルエンザ A 型	発熱、痙攣、意識障害	国内
1/25	4	男	8	不明	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
2/6	6	男	65	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/19	8	女	31	不明	発熱、頭痛、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
6/20	25	女	8	インフルエンザ A 型	発熱、痙攣、意識障害、VT(死亡)	国内
8/8	32	女	1	エンテロウイルス	発熱、痙攣	国内
10/1	40	男	32	マイコプラズマ	発熱、頭痛、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加@その他(咳)	国内
10/20	43	女	9	アデノウイルス 1 型	発熱、頭痛、嘔吐、痙攣、意識障害、その他(頸部リンパ節炎の先行)	国内
11/11	46	女	1	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
12/6	49	女	3	インフルエンザ A/H1	発熱、痙攣	国内

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は4件届出があった。

性別では、男性2人、女性2人で、年齢別では、10歳代1人、20歳代2人、30歳代1人であった。

推定感染地は国内1件、インド3件で、推定感染経路は同性間性的接触1件、飲食物による経口感染1件、飲食物による経口感染/水系感染2件であった。

推定感染地インドの3件のうち、1件はジアルジア・腸トリコモナスにも重複感染しており、1件はジアルジアにも重複感染していた。

クリプトスポリジウム症（2008年 東京都 4件）

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路	備考
4/8	15	女	28	下痢	インド	飲食物による経口感染/水系感染	ジアルジア・腸トリコモナスの重複感染
4/14	16	女	30	下痢	インド	飲食物による経口感染/水系感染	ジアルジアの重複感染
9/17	38	男	26	下痢、発熱、免疫不全	国内	同性間性的接触	
10/9	41	男	19	下痢	インド	飲食物による経口感染	

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

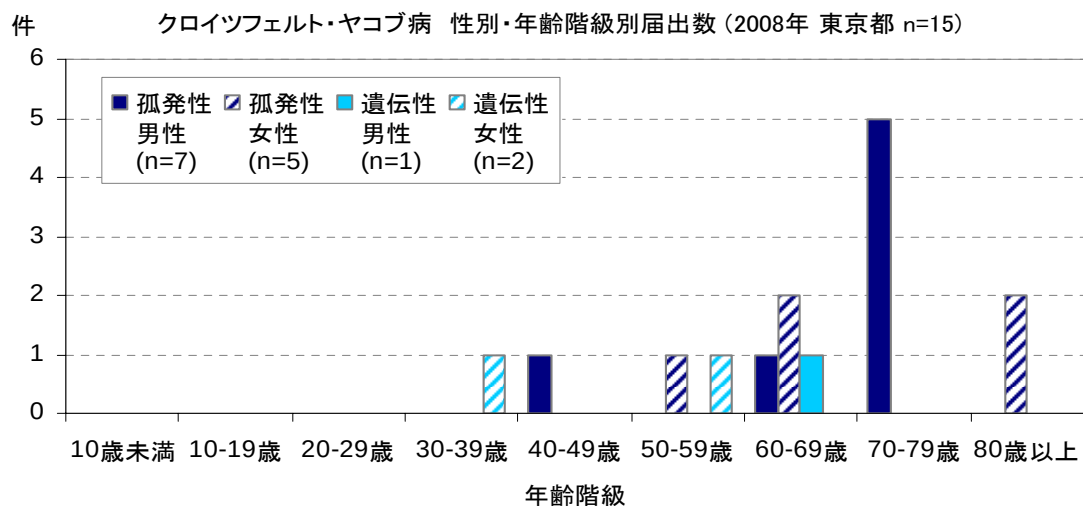
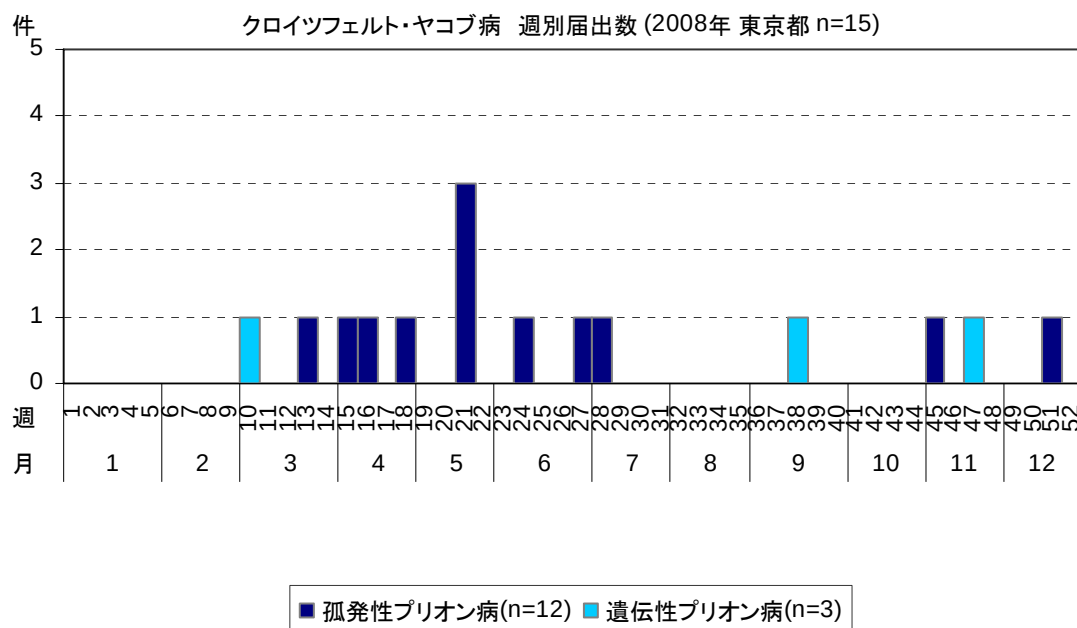
クロイツフェルト・ヤコブ病は15件届出があった。孤発性プリオン病・古典型CJD 9件（ほぼ確実8件、疑い1件）、孤発性プリオン病・その他3件（ほぼ確実3件）、遺伝性プリオン病・GSS 1件（ほぼ確実）、遺伝性プリオン病・家族性CJD 2件（ほぼ確実1件、疑い1件）であった。

性別では、男性が8人、女性が7人で、年齢別では、30歳代1人、40歳代1人、50歳代2人、60歳代4人、70歳代5人、80歳代2人であった。

症状は、進行性認知症14件（93.3%）、ミオクロヌス12件（80.0%）、錐体路症状6件（40.0%）、錐体外路症状4件（26.7%）、小脳症状4件（26.7%）、視覚異常5件（33.3%）、無動性無言状態6件（40.0%）、記憶障害10件（66.7%）、精神・知能障害11件（73.3%）、臨床的に頑固な不眠1件（6.7%）、異常感覚2件（13.3%）、筋強剛5件（33.3%）、その他（半側空間無視）1件（6.7%）であった。

プリオン蛋白遺伝子検査（コドンの多型・異常）による診断がなされていたのは2件であった（家族性CJD 1件、GSS 1件）。

70歳代患者1件（孤発性プリオン病・その他）の死亡が報告されていた。



クロイツフェルト・ヤコブ病 (2008年 東京都 15件)

#	受理日	受理週	性別	年齢	病型	確実度	推定感染地	推定感染経路
1	3/6	10	女	57	遺伝性-家族性 CJD	ほぼ確実	--	--
2	3/27	13	女	67	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
3	4/14	16	女	56	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
4	4/9	15	男	46	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
5	5/1	18	男	61	孤発性-その他	ほぼ確実	--	--
6	5/19	21	男	74	孤発性-その他	ほぼ確実	--	--
7	5/21	21	男	75	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
8	5/24	21	男	79	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--

9	6/11	24	男	70	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
10	7/2	27	女	80	孤発性-古典型 CJD	疑い	--	--
11	7/7	28	男	79	孤発性-その他	ほぼ確実	--	--
12	9/19	38	女	37	遺伝性-GSS	ほぼ確実	--	--
13	11/6	45	女	62	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--
14	11/17	47	男	67	遺伝性-家族性 CJD	疑い	--	--
15	12/16	51	女	87	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	--	--

クロイツフェルト・ヤコブ病（2008 年 東京都 15 件）別表

#	発病日	初診日	診断日	症状											診断方法							
				進行性認知症	ミオクローヌス	錐体路症状	錐体外路症状	小脳症状	視覚異常	無動性無言状態	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	異常感覚	痙性対麻痺	筋強剛	その他	脳波 PSD	脳 MRI	14-3-3 蛋白	NSE	
1		20071031	20080227			+		+		+		+										
2	20071200	20080314	20080325	+	+		+			+	+	+			+		+	+				
3	20071128	20071128	20080410	+	+	+				+		+			+		+	+				
4	20080300	20080401	20080401	+	+	+	+	+									+	+				
5	20070831	20080303	20080430	+						+		+	+		+		+	+				
6		20080410	20080516	+	+							+	+			+	+	+				
7	20080400	20080515	20080519	+	+						+	+	+				+	+				
8		20080319	20080520	+	+						+					+		+	+			
9		20080603	20080607	+	+	+	+				+	+	+			+	+	+				
10	20080500	20080609	20080624	+	+	+	+	+		+		+	+			+	+					
11	20080300	20080506	20080506	+	+													+				
12	20040400	20060510	20080916	+	+			+				+	+	+			+					
13	20080900	20081022	20081104	+	+					+		+					+	+				
14	20080700	20081031	20081114	+						+		+	+				+					
15	20081000	20081210	20081215	+	+	+					+	+	+					+	+			
計				14	12	6	4	4		5	6	10	11	1	2	0	5	1	11	11	0	2

※プリオン蛋白遺伝子検査による診断(2件)

#1 コドン 129 の多型(M/V)、コドン 219 の多型(E/E)、コドン M232R の異常

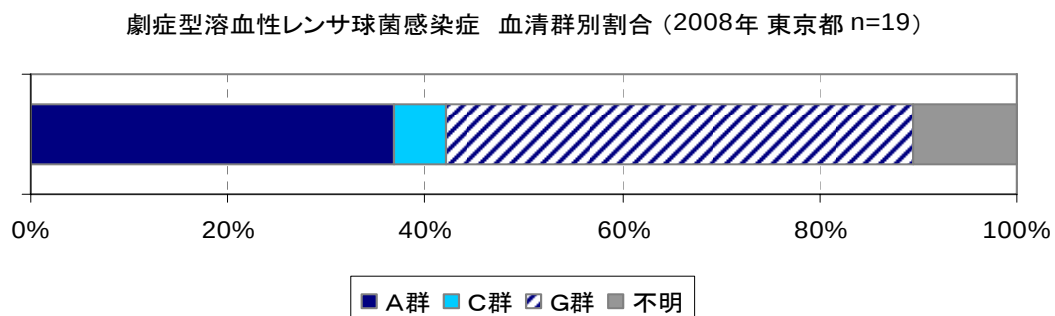
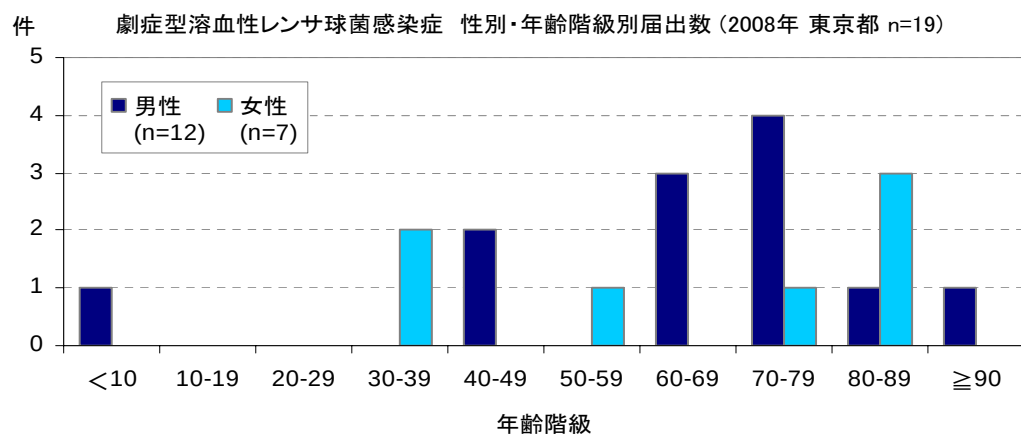
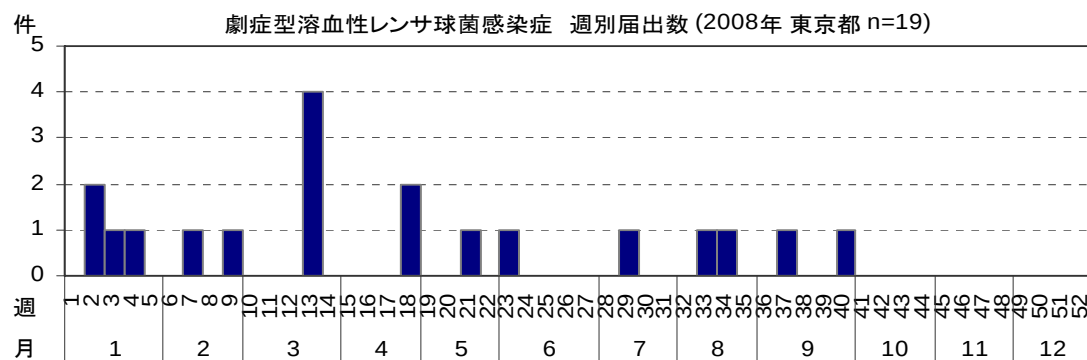
#12 コドン 102 の異常

⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 19 件届出があった。血清群別では、A 群 7 件、C 群 1 件、G 群 9 件、不明 2 件であった。

性別では、男性 12 人、女性 7 人で、年齢別では、10 歳未満 1 人、30 歳代 2 人、40 歳代 2 人、50 歳代 1 人、60 歳代 3 人、70 歳代 5 人、80 歳代 4 人、90 歳以上 1 人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染原因は、創傷感染 7 件、飛沫・飛沫核感染 2 件、その他 4 件、不明 6 件であった。死亡は 7 件について報告されていた。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2008 年 東京都 19 件）

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染原因	備考
1/7	2	女	80	A群	ショック、腎不全、DIC	創傷感染（右前腕部潰瘍形成）	
1/9	2	男	93	G群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	創傷感染	
1/17	3	男	3	G群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、軟部組織炎	創傷感染（右下腿蜂窩織炎）	
1/21	4	男	69	C群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC	その他（尿路感染疑い）	死亡
2/14	7	男	62	G群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎@その他（横紋筋融解症）	その他（膝痛）	死亡
2/28	9	女	72	A群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状@その他（壊死性筋膜炎）	創傷感染（両下腿前面熱傷創）	
3/25	13	男	77	A群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎	その他（左足趾壊疽、創傷はなし）	
3/25	13	女	80	A群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎	その他	
3/27	13	男	77	不明	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、軟部組織炎	創傷感染（お灸で背部熱傷）	
3/28	13	男	73	A群	ショック、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状	不明	死亡
4/28	18	男	47	A群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群@その他（膿胸）	不明	
5/2	18	男	83	G群	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	不明	死亡
5/21	21	男	74	G群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC	飛沫・飛沫核（肺炎）	死亡
6/6	23	男	42	不明	ショック、腎不全、中枢神経症状	飛沫・飛沫核	
7/15	29	女	84	G群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	不明	
8/13	33	男	69	G群	ショック、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	不明	
8/18	34	女	37	G群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	創傷感染（左下肢発赤・水疱形成）	死亡
9/8	37	女	37	A群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	不明	死亡
10/2	40	女	59	G群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	創傷感染（右下肢）	

⑦ 後天性免疫不全症候群

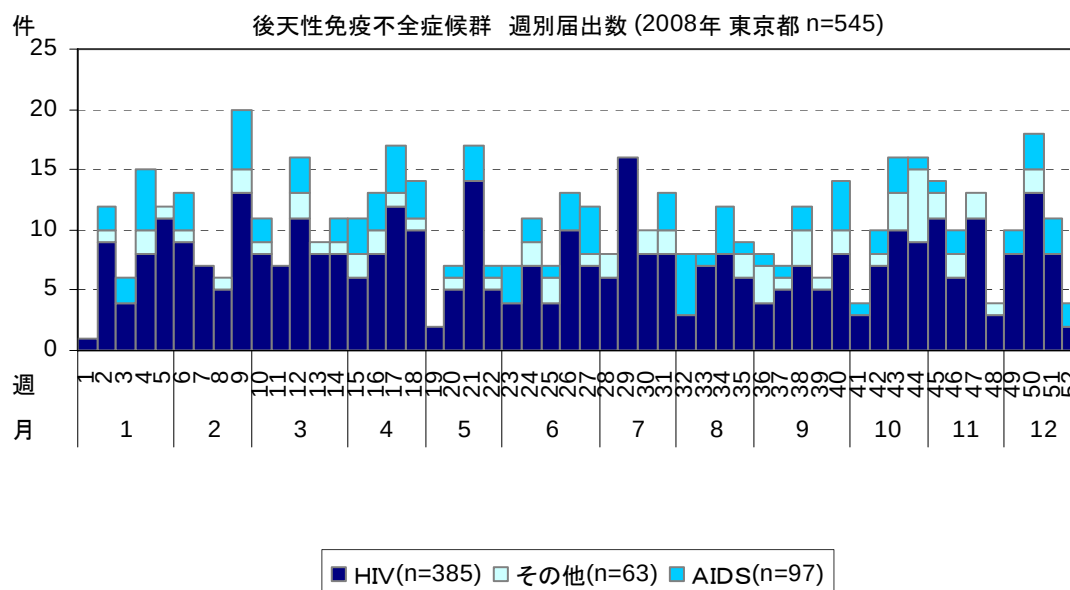
後天性免疫不全症候群は 545 件届出があった。HIV 感染者 385 人、AIDS 患者 97 人、その他 63 人であった。

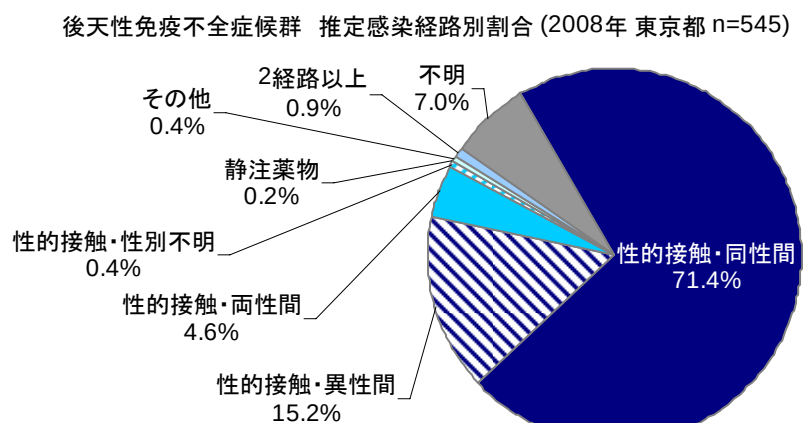
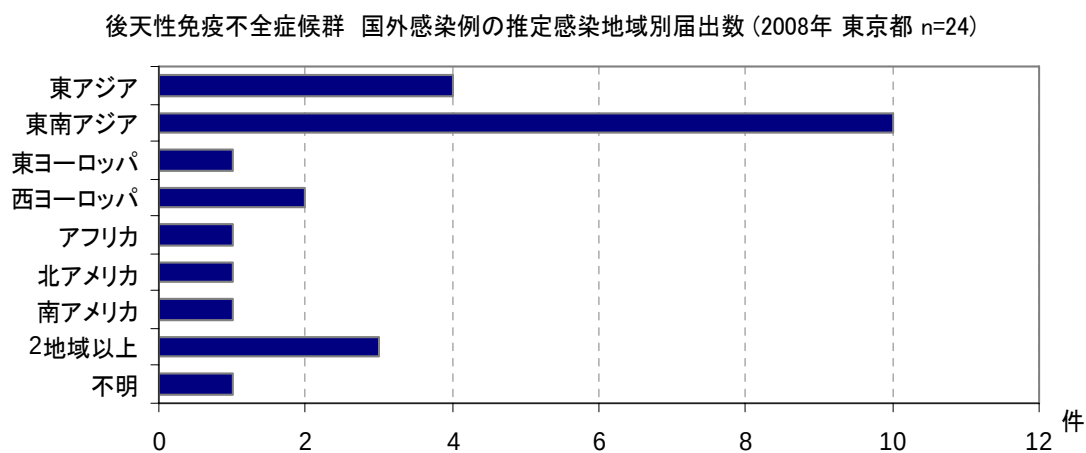
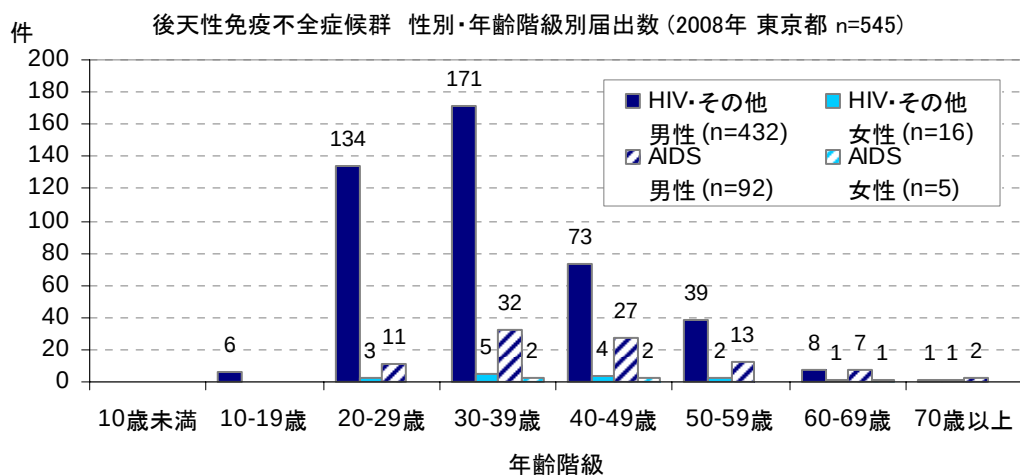
HIV・その他について、性別では男性 432 人、女性 16 人で、年齢別では、10 歳代 6 人、20 歳代 137 人、30 歳代 176 人、40 歳代 77 人、50 歳代 41 人、60 歳以上 11 人であった。AIDS について、性別では男性 92 人、女性 5 人で、年齢別では、20 歳代 11 人、30 歳代 34 人、40 歳代 29 人、50 歳代 13 人、60 歳以上 10 人であった。

推定感染地は国内 477 件、国外 24 件、不明 44 件であった。国外感染例 24 件を、推定感染地域別にみると、東南アジア 10 件、東アジア 4 件、西ヨーロッパ 2 件で、東ヨーロッパ、アフリカ、北米、中南米、地域不明が各 1 件、2 地域以上が 3 件であった。推定感染国別にみると、タイ 4 件、インドネシア、シンガポール、フランスが各 2 件、ウガンダ、カンボディア、中国、ブラジル、米国、ミャンマー、ロシア、オーストラリア/米国、中国/台湾、中国/香港、グアム/サイパン/韓国、中国/韓国/インドネシア、中国/韓国/台湾、国名不明が各 1 件であった。

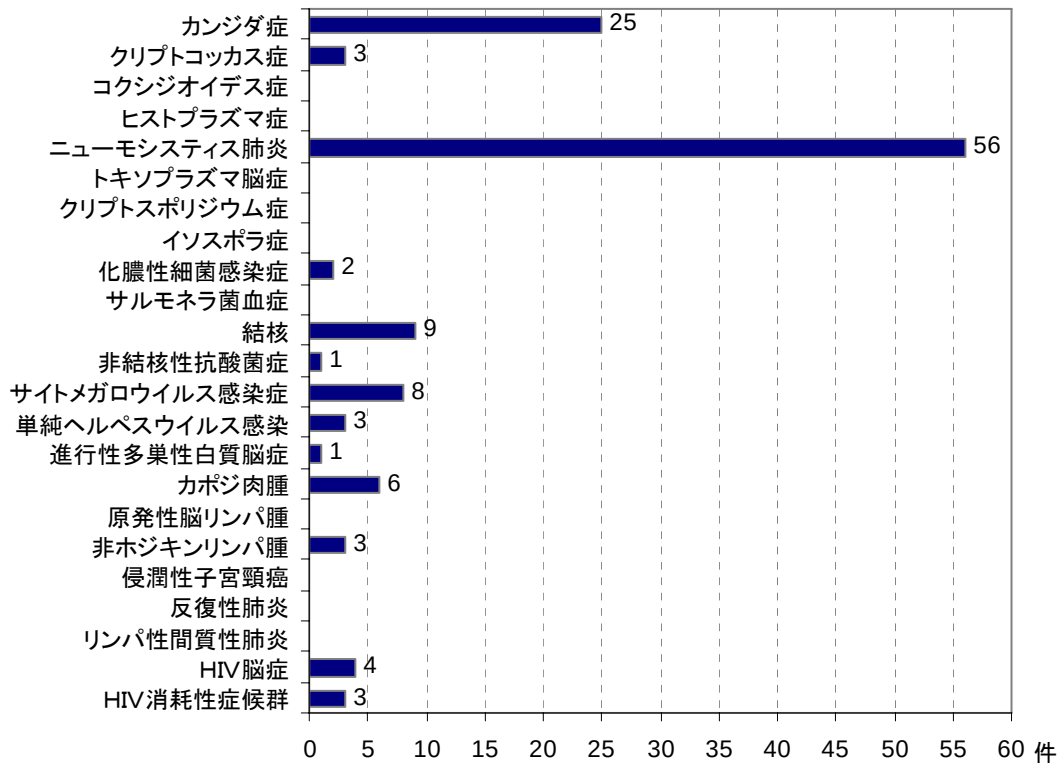
推定感染経路は性的接触 499 件（同性間 389 件、異性間 83 件、両性間 25 件、性別不明 2 件）、静注薬物 1 件、その他 2 件（ピアス共用、注射器）、2 経路以上 5 件（針刺し/両性間性的接触 2 件、輸血/同性間性的接触 1 件、静注薬物/異性間性的接触 1 件、医療行為/異性間性的接触 1 件）、不明 38 件であった。

AIDS と診断した指標疾患は 97 件中、ニューモシスティス肺炎 56 件、カンジダ症 25 件、活動性結核 9 件、サイトメガロウイルス感染症 8 件、HIV 脳症 4 件、クリプトコッカス症、単純ヘルペスウイルス感染症、非ホジキンリンパ腫、HIV 消耗性症候群が各 3 件、化膿性細菌感染症が 2 件、非結核性抗酸菌症、進行性多発性白質脳症が各 1 件であった。これらの中には複数疾患発症者の報告 26 件が含まれている（2 疾患 25 人、3 疾患 1 人）。死亡例は報告されなかった。





AIDSと診断した指標疾患 (2008年 東京都 n=97、重複カウントあり)



⑧ ジアルジア症

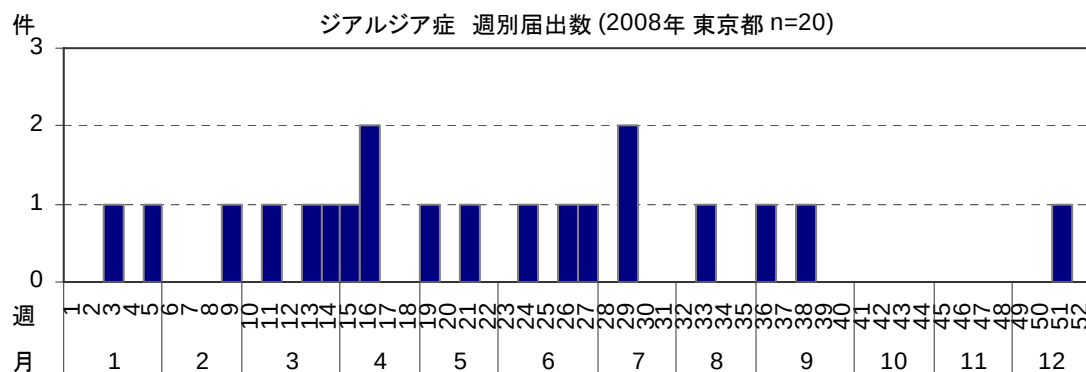
ジアルジア症は 20 件届出があった。

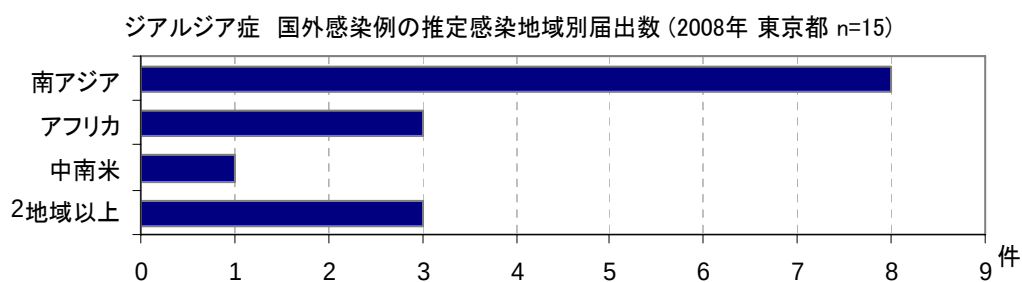
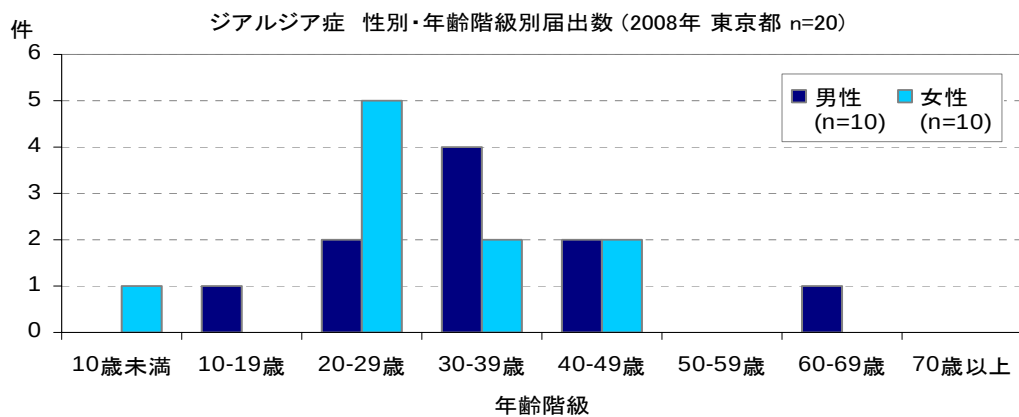
性別では、男性 10 人、女性 10 人で、年齢別では、10 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、20 歳代 7 人、30 歳代 6 人、40 歳代 4 人、60 歳代 1 人であった。

推定感染地は国内 4 件、国外 15 件、その他 1 件（国内/米国）であった。国外感染例 15 件を推定感染地域別にみると、南アジア 8 件、アフリカ 3 件、中南米 1 件、2 地域以上 3 件で、推定感染国別にみると、インド 8 件、ジブチ、スーダン、ナイジェリア、ペルー、インド/タイ/中国が各 1 件、国名不明 2 件（アジア/アフリカ/南米 1 件、東南アジア/オセアニア 1 件）であった。

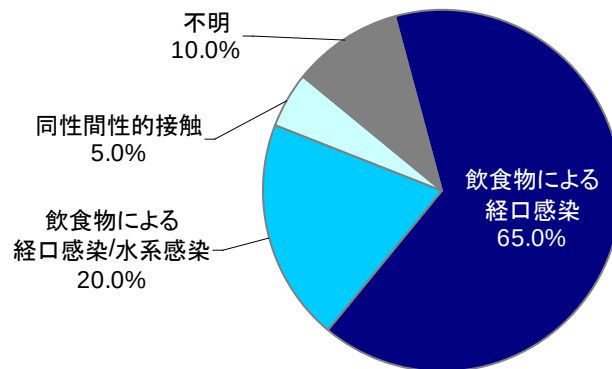
推定感染経路は飲食物による経口感染 13 件、飲食物による経口感染/水系感染 4 件、同性間性的接触 1 件、不明 2 件であった。

推定感染地インドの 2 件では、クリプトスポリジウム症にも重複感染していた。





ジアルジア症 推定感染経路別割合 (2008年 東京都 n=20)



⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は2件届出があった。血清群はともに不明であった。

性別は男性2人で、年齢は10歳代、50歳代が各1人、推定感染地はともに国内であった。

髄膜炎菌性髄膜炎 (2008年 東京都 2件)

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染地	推定感染経路
5/16	20	男	19	不明	頭痛、発熱、点状出血、DIC、多臓器不全、その他(腎不全)	国内	接触
6/5	23	男	59	不明	頭痛、発熱、意識障害、項部硬直	国内	飛沫・飛沫核

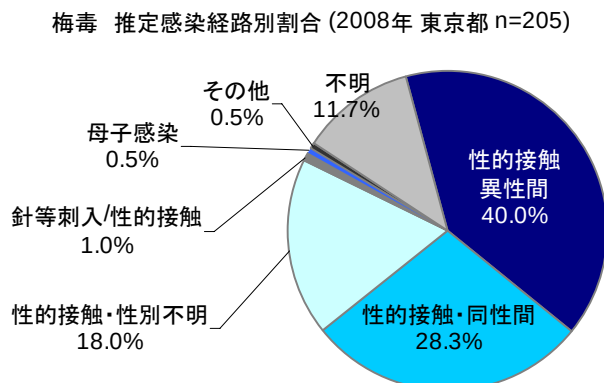
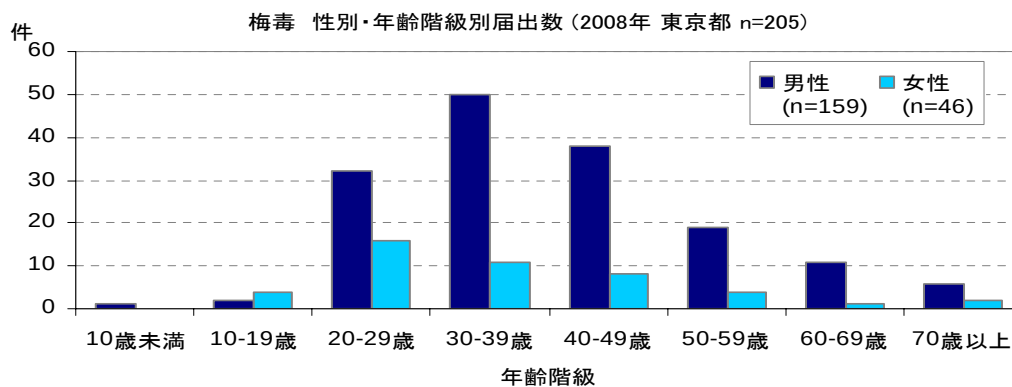
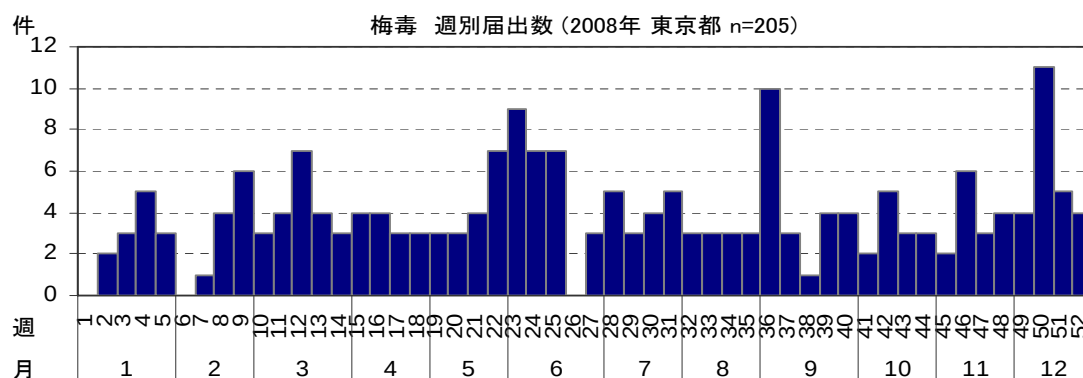
⑩ 梅毒

梅毒は 205 件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期 36 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 76 件、晩期顕症梅毒 13 件、先天梅毒 1 件、無症候 79 件であった。

性別では、男性 159 人、女性 46 人で、年齢別では、10 歳未満 1 人、10 歳代 6 人、20 歳代 48 人、30 歳代 61 人、40 歳代 46 人、50 歳代 23 人、60 歳代 12 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地は国内 195 件、国外 8 件、その他 1 件（国内/米国）で、国外感染例 8 件の内訳は、インドネシア、中国が各 2 件、タイ、フィリピン、ブラジル、東南アジアが各 1 件であった。

推定感染経路は性的接触 177 件（同性間 58 件、異性間 82 件、両性間 3 件、性別不明 34 件）、針等の刺入/性的接触 2 件、母子感染 1 件、不明 25 件であった。



⑪ 破傷風

破傷風は5件届出があった。

性別では、男性4人、女性1人、年齢別では、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代、80歳代が各1人であった。

80歳代患者1人の死亡が報告されており、症状は開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難（痙攣性）で、第4病日に死亡した

破傷風（2008年 東京都 5件）

受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染地	推定感染経路
1/9	2	男	55	臨床決定	開口障害、呼吸困難（痙攣性）	国内	創傷感染（足趾嵌入爪）
1/15	3	女	61	臨床決定	開口障害	国内	インプラント歯科治療
7/14	29	男	77	臨床決定（症状進展様式、汚染創からグラム陽性悍菌検出）	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、その他（顔面神経麻痺、舌下神経麻痺、ホルネル症候群）	国内	創傷感染（頭部裂創縫合後感染）
8/7	32	男	45	臨床決定	開口障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難（痙攣性）	国内	不明（創部からの菌検出無し）
9/29	40	男	85	臨床決定	開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難（痙攣性）（死亡）	国内	創傷感染（下腿の挫創）

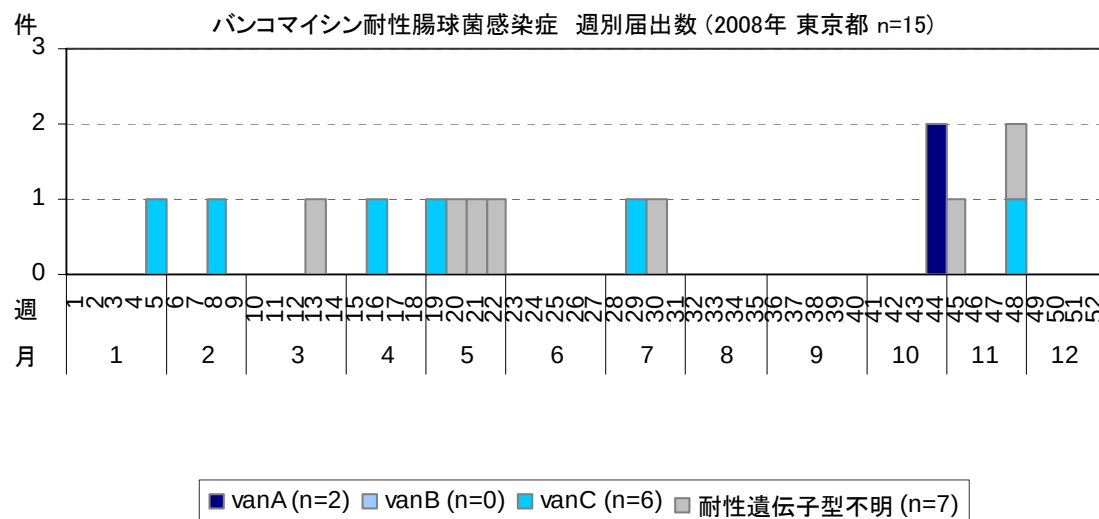
⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

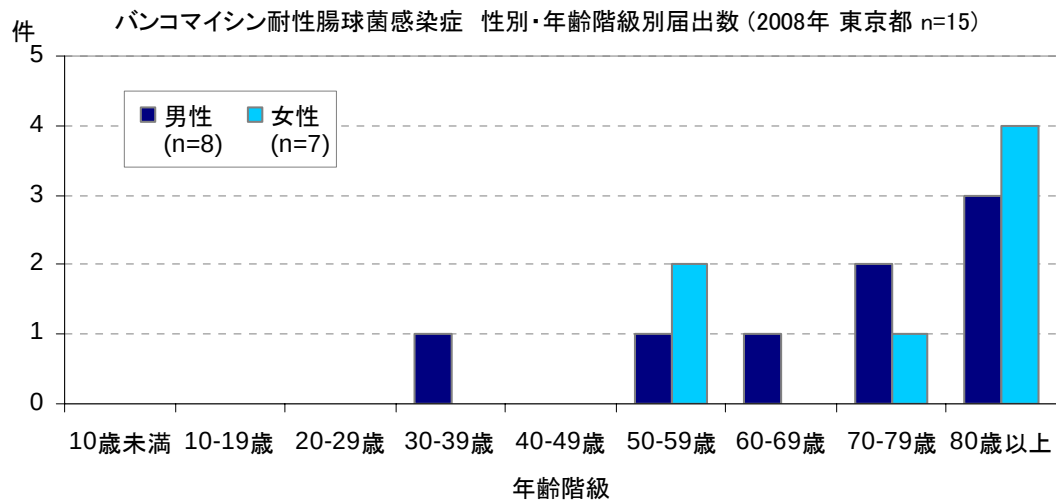
バンコマイシン耐性腸球菌感染症は15件届出があった。

菌種は *Enterococcus faecium* 6件、*Enterococcus casseliflavus* 4件、*Enterococcus gallinarum* 3件、不明2件で、耐性遺伝子型は *vanA* 2件、*vanC* 6件、不明7件であった。

性別では、男性8人、女性7人で、年齢別では、30歳代1人、50歳代3人、60歳代1人、70歳代3人、80歳以上7人であった。

70歳代患者1人の死亡が報告されており、症状は発熱、菌血症、免疫不全で、第2病日に死亡した。





バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (2008年 東京都 15件)

菌種	vanA	vanB	vanC	不明	計
<i>E. gallinarum</i>			2	1	3
<i>E. faecium</i>	2			4	6
<i>E. casseliflavus</i>			4		4
<i>E. faecalis</i>					0
不明				2	2
計	2	0	6	7	15

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (2008年 東京都 15件)

受理日	受理週	性別	歳	検体	菌種	耐性遺伝子型	症状	推定感染経路
2/1	5	男	85	血液	<i>E. casseliflavus</i>	VanC	菌血症	その他(胆のう炎からの菌血症)
2/18	8	女	56	腹水	<i>E. casseliflavus</i>	VanC	発熱、腹膜炎	その他(術後腹膜炎)
3/25	13	男	60	腹水	<i>E. gallinarum</i>	不明	発熱、腸炎、腹膜炎、骨盤内感染症、菌血症	その他(虚血性腸炎による小腸、大腸壊死汎発性腹膜炎)
4/16	16	男	56	血液	<i>E. gallinarum</i>	VanC	発熱、菌血症、免疫不全	その他(自然耐性)
5/9	19	男	72	血液	<i>E. casseliflavus</i>	VanC	発熱	不明
5/12	20	女	78	血液	<i>E. faecium</i>	不明	発熱、菌血症、免疫不全(死亡)	接触感染(院内感染)
5/23	21	男	70	腹水	<i>E. faecium</i>	不明	免疫不全	その他(胆管ステント及び腹腔ドレナージ)
5/30	22	男	84	血液	不明	不明	菌血症	接触感染
7/14	29	女	80	腹水	<i>E. gallinarum</i>	VanC	腹膜炎	不明
7/24	30	男	95	その他*1	不明	不明	菌血症	針等の刺入
10/31	44	女	50	血液	<i>E. faecium</i>	VanA	発熱、菌血症、免疫不全	その他(免疫不全による内因性感染)
10/28	44	男	32	創部膿	<i>E. faecium</i>	VanA	その他(創部感染)	その他(腸骨創外固定のピン刺入部位から)

11/4	45	女	86	尿	<i>E. faecium</i>	不明	尿路感染症	不明
11/25	48	女	87	尿	<i>E. faecium</i>	不明	発熱	不明
11/25	48	女	87	血液	<i>E. casseliflavus</i>	VanC	発熱	不明

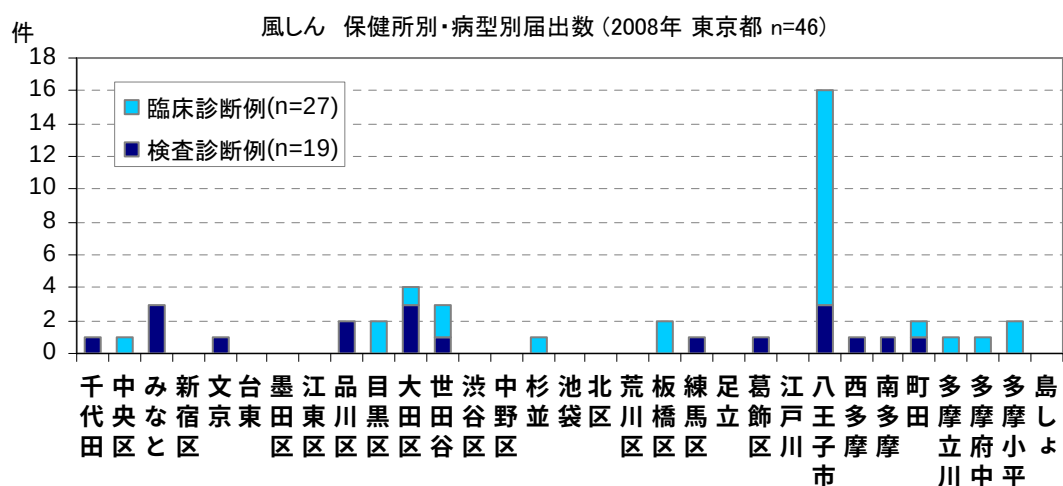
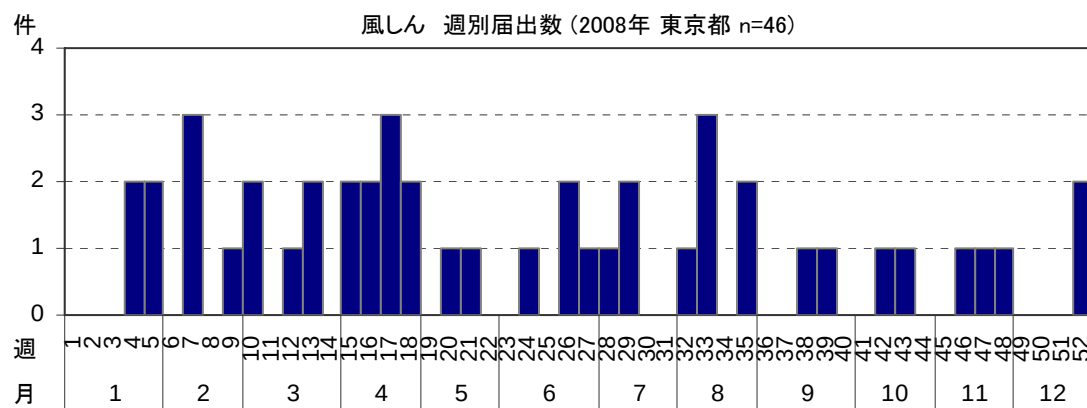
*1 ペースメーカーシース先端

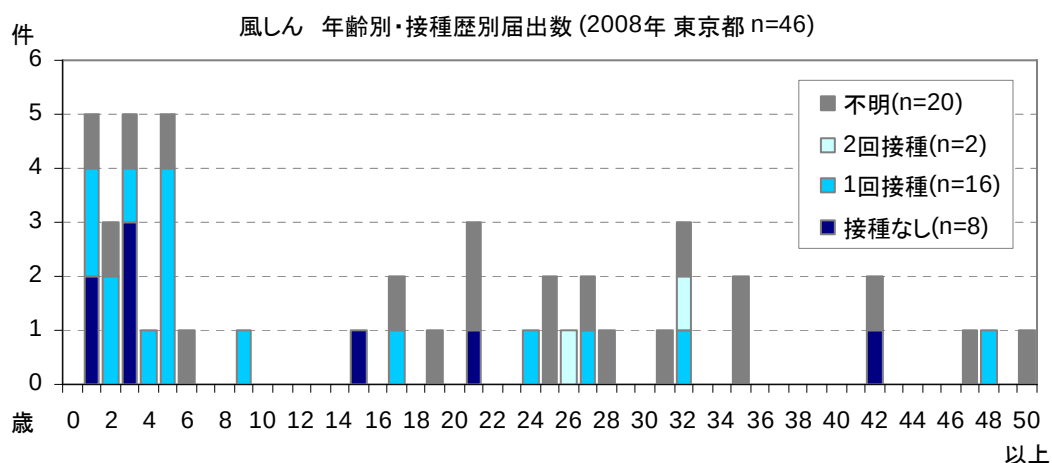
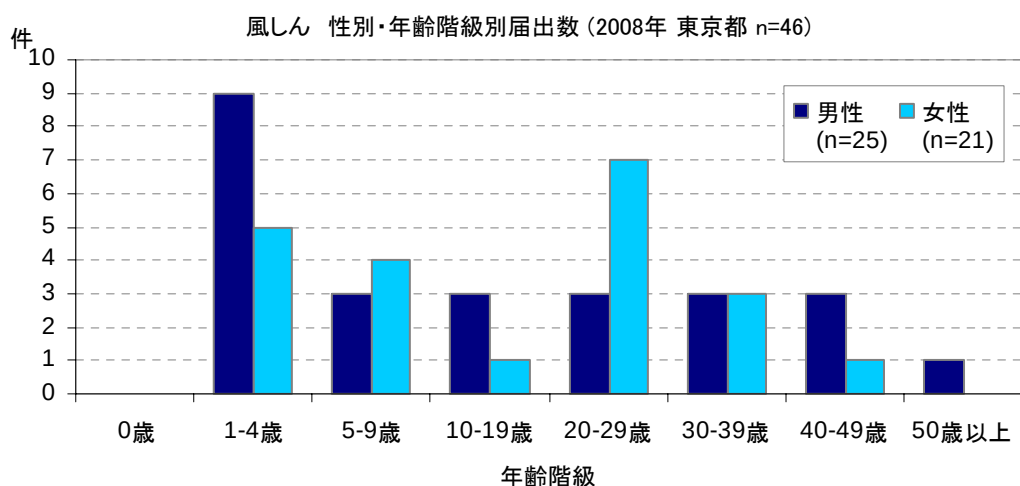
⑬ 風しん

風しんは 46 件届出があった。検査診断例 19 件、臨床診断例 27 件であった。

性別では、男性 25 人、女性 21 人で、年齢別では、1～4 歳 14 人、5～9 歳 7 人、10 歳代 4 人、20 歳代 10 人、30 歳代 6 人、40 歳代 4 人、50 歳以上 1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、なし 8 人 (17.4%)、1 回 16 人 (34.8%)、2 回 2 人 (4.3%)、不明 20 人 (43.5%) であった。





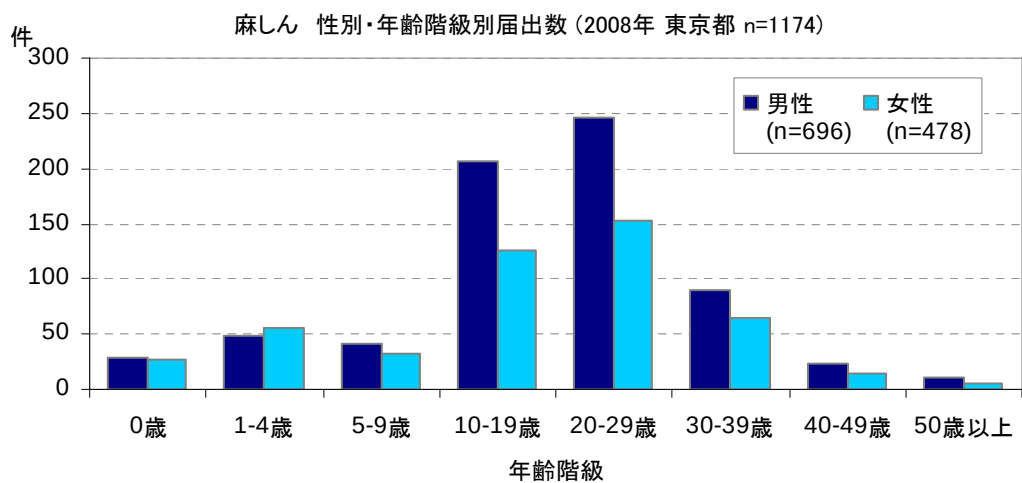
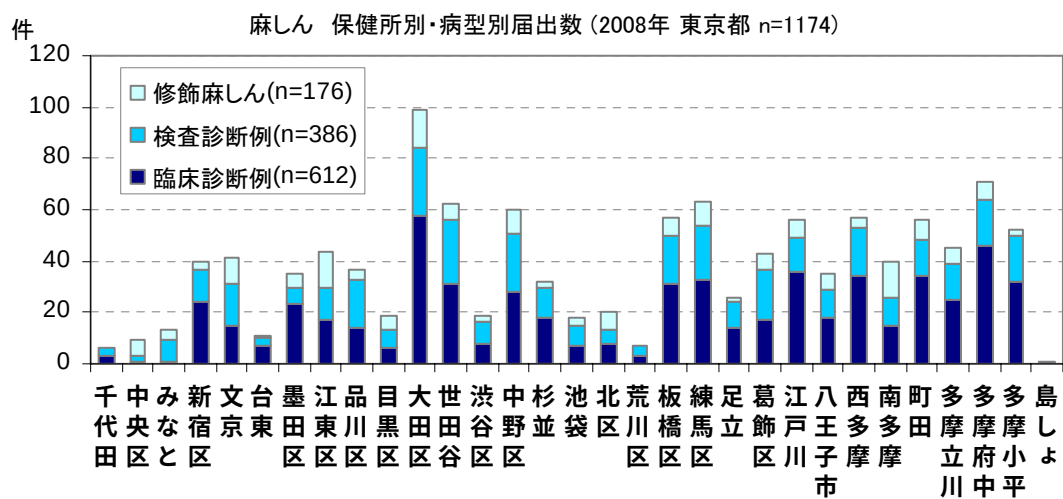
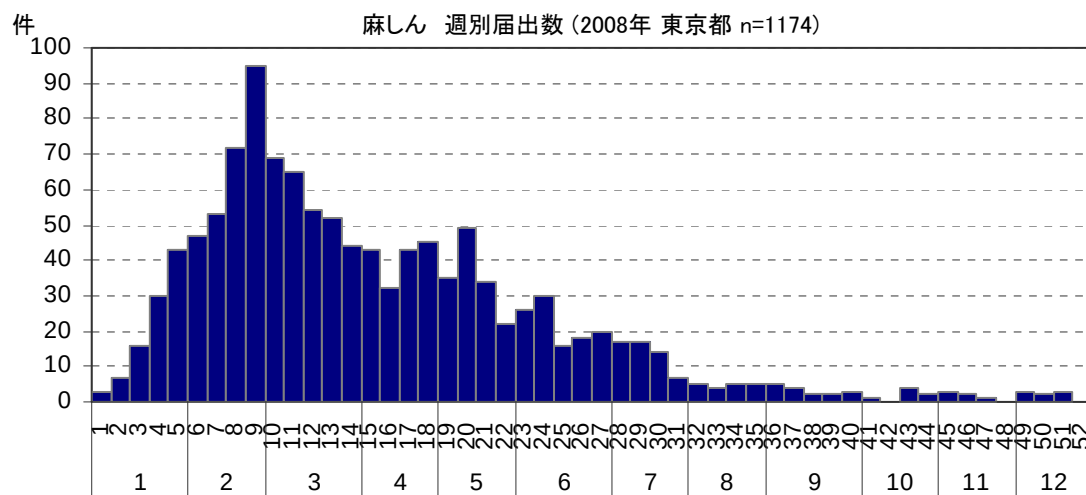
⑭ 麻疹

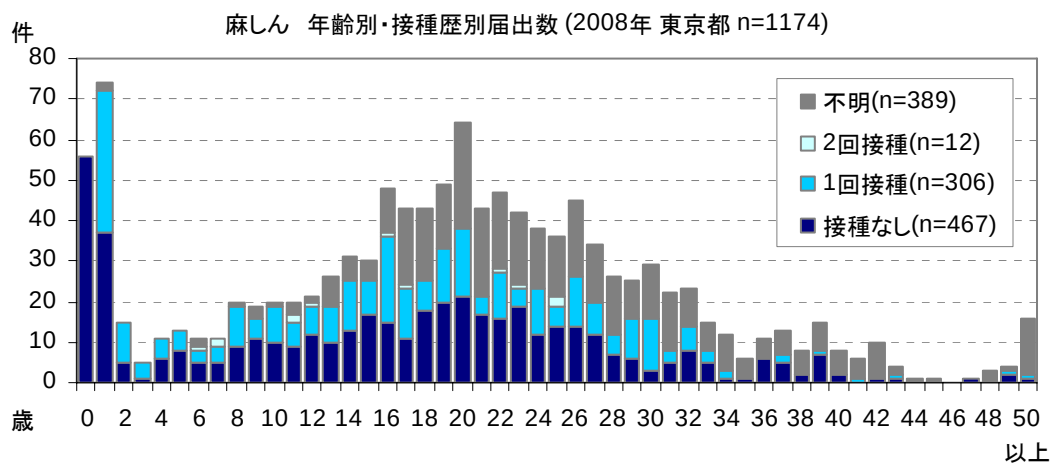
麻疹は1,174件届出があった。麻疹（検査診断例）386件、麻疹（臨床診断例）612件、修飾麻疹（検査診断例）176件であった。

性別では、男性696人、女性478人で、年齢別では、0歳56人、1～4歳105人、5～9歳74人、10歳代331人、20歳代400人、30歳代154人、40歳代38人、50歳以上16人であった。

麻疹含有ワクチン接種歴は、なし467人（39.8%）、1回306人（26.1%）、2回12人（1.0%）、不明389人（33.1%）であった。

肺炎合併の報告は21件あり、年齢別では、0歳4人、1～4歳4人、5～9歳2人、10歳代2人、20歳代4人、30歳代2人、40歳代1人、50歳以上2人、麻疹含有ワクチン接種歴は、なし10人、1回4人、不明7人であった。脳炎合併の報告は2件あり、ともに40歳代で、麻疹含有ワクチン接種歴はともに不明であった。





肺炎・脳炎合併のあった麻しん症例の年齢群別報告数 (2008年 東京都)

年代	報告数	肺炎		接種歴			脳炎		接種歴		
		報告数	割合	無	1回	不明	報告数	割合	無	1回	不明
0歳	56	4	7.1%	4							
1-4歳	105	4	3.8%	1	3						
5-9歳	74	2	2.7%	2							
10歳代	331	2	0.6%	1		1					
20歳代	400	4	1.0%	1		3					
30歳代	154	2	1.3%	1	1						
40歳代	38	1	2.6%			1	2	5.3%			2
50歳以上	16	2	12.5%			2					
計	1174	21	1.8%	10	4	7	2	0.2%	0	0	2

⑮ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表 3-1 (1) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表
2008 年第 1 週～2008 年 52 週

週	期間	一 類							二 類					三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	1. 1～ 1. 7									25								
2	1. 8～ 1. 14									99					3	1	1	1
3	1. 15～ 1. 21									78					3			
4	1. 22～ 1. 28									72					2	1	1	
5	1. 29～ 2. 4									60					1	1	1	
6	2. 5～ 2. 11									88								
7	2. 12～ 2. 18									65								
8	2. 19～ 2. 25									83					1	3		
9	2. 26～ 3. 4									87						1		
10	3. 5～ 3. 11									95					2	2		
11	3. 12～ 3. 18									71					2			
12	3. 19～ 3. 25									69					2	2		
13	3. 26～ 4. 1									92					1	1		
14	4. 2～ 4. 8									77								
15	4. 9～ 4. 15									97				1		2		1
16	4. 16～ 4. 22									90				1	1	1	1	
17	4. 23～ 4. 29									93						2		
18	4. 30～ 5. 6									92						4		1
19	5. 7～ 5. 13									60					1	1		
20	5. 14～ 5. 20									91					3	2	1	
21	5. 21～ 5. 27									91						2		
22	5. 28～ 6. 3									95					1	1	1	
23	6. 4～ 6. 10									86						5		
24	6. 11～ 6. 17									77						4		1
25	6. 18～ 6. 24									79					2	8		
26	6. 25～ 7. 1									100				1		10		
27	7. 2～ 7. 8									97					3	16		
28	7. 9～ 7. 15									109					5	14		1
29	7. 16～ 7. 22									102					3	13		
30	7. 23～ 7. 29									68					1	7		
31	7. 30～ 8. 5									95						14		
32	8. 6～ 8. 12									105				1	1	31		
33	8. 13～ 8. 19									107						49		
34	8. 20～ 8. 26									103					1	24		
35	8. 27～ 9. 2									109				1	2	21		
36	9. 3～ 9. 9									91					1	22	1	
37	9. 10～ 9. 16									93					1	27	1	
38	9. 17～ 9. 23									58					3	14		
39	9. 24～ 9. 30									86					3	6	1	
40	10. 1～ 10. 7									78					2	8		
41	10. 8～ 10. 14									93				1	2	7	1	
42	10. 15～ 10. 21									56					1	35	1	
43	10. 22～ 10. 28									107					1	9		
44	10. 29～ 11. 4									89					1	5	1	
45	11. 5～ 11. 11									72					1	6		
46	11. 12～ 11. 18									80					1	4		
47	11. 19～ 11. 25									104					1	4		
48	11. 26～ 12. 2									78					1	8		
49	12. 3～ 12. 9									90					1	3	1	1
50	12. 10～ 12. 16									91					2	3		
51	12. 17～ 12. 23									86					1	2		
52	12. 24～ 12. 30									84						3		1
合 計										4,443				6	64	409	13	7

* 2009年2月10日現在の報告数

表 3 - 1 (2) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表
2008 年第 1 週～2008 年 52 週

週	期間	四 類							
		E 型肝炎	A 型肝炎	Q 熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 1～ 1. 7		1		1		1		
2	1. 8～ 1.14				1	1		1	
3	1.15～ 1.21				1	1	1		
4	1.22～ 1.28	1	1				1	1	
5	1.29～ 2. 4		2					6	
6	2. 5～ 2.11				1	1		3	
7	2.12～ 2.18								
8	2.19～ 2.25	1	3					1	
9	2.26～ 3. 4		1				1		
10	3. 5～ 3.11		1					2	
11	3.12～ 3.18								
12	3.19～ 3.25							1	
13	3.26～ 4. 1					2	1	1	
14	4. 2～ 4. 8					1		1	
15	4. 9～ 4.15	1					1	2	
16	4.16～ 4.22		1					2	
17	4.23～ 4.29							2	
18	4.30～ 5. 6	1	1	1					
19	5. 7～ 5.13							1	
20	5.14～ 5.20		2			1		2	
21	5.21～ 5.27		1					3	
22	5.28～ 6. 3					1		2	
23	6. 4～ 6.10		1						
24	6.11～ 6.17	1	2				1		
25	6.18～ 6.24				1	1	1	3	
26	6.25～ 7. 1						1	3	
27	7. 2～ 7. 8							1	
28	7. 9～ 7.15		1			4	1	1	
29	7.16～ 7.22					1	1	1	
30	7.23～ 7.29						1	1	
31	7.30～ 8. 5		1					4	
32	8. 6～ 8.12		1			1			
33	8.13～ 8.19	1				1		1	
34	8.20～ 8.26					1		5	
35	8.27～ 9. 2		2			1	2	3	
36	9. 3～ 9. 9		1			5	1	2	1
37	9.10～ 9.16		2				3	2	
38	9.17～ 9.23								1
39	9.24～ 9.30						1	1	1
40	10. 1～10. 7		1			2		4	
41	10. 8～10.14						1	2	
42	10.15～10.21						1	1	
43	10.22～10.28	1						3	
44	10.29～11. 4					3			
45	11. 5～11.11		1					2	1
46	11.12～11.18				4	2	1	2	
47	11.19～11.25		1		1			1	
48	11.26～12. 2		1						
49	12. 3～12. 9		1			2		1	
50	12.10～12.16				5			2	
51	12.17～12.23				1		1	2	
52	12.24～12.30		1		2			1	
合 計		7	31	1	18	32	23	80	4

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する(10、11ページ参照のこと)。

表 3-1 (3) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表

2008 年第 1 週～2008 年 52 週

週	期間	五 類																
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バイコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
1	1. 1～ 1. 7		1					1										3
2	1. 8～ 1.14	4					2	12				2	1					7
3	1.15～ 1.21	2		1			1	6	1			3	1					16
4	1.22～ 1.28	8		2			1	15				5					2	30
5	1.29～ 2. 4	2	2					12	1			3				1	2	43
6	2. 5～ 2.11	4		1				13										47
7	2.12～ 2.18	5	1				1	7				1					3	53
8	2.19～ 2.25	1	1	1				6				4				1		72
9	2.26～ 3. 4	4	1				1	20	1			6					1	95
10	3. 5～ 3.11	3					1	11				3					2	69
11	3.12～ 3.18		1					7	1			4						65
12	3.19～ 3.25	2						16				7					1	54
13	3.26～ 4. 1	4					1	4	9	1		4				1	2	52
14	4. 2～ 4. 8	5	1					11	1			3						44
15	4. 9～ 4.15	4			1	1		11	1			4					2	43
16	4.16～ 4.22	5	1		1	1		13	2			4				1	2	32
17	4.23～ 4.29	1						17				3					3	43
18	4.30～ 5. 6	5	2				1	2	14			3					2	45
19	5. 7～ 5.13	2						2	1			3				1		35
20	5.14～ 5.20	1						7		1		3				1	1	49
21	5.21～ 5.27	5					3	1	17	1		4				1	1	34
22	5.28～ 6. 3	3						7				7				1		22
23	6. 4～ 6.10	5	1				1	7		1		9						26
24	6.11～ 6.17	6	2				1	11	1			7					1	30
25	6.18～ 6.24	5		1				7				7						16
26	6.25～ 7. 1	4	1					13	1								2	18
27	7. 2～ 7. 8	5					1	12	1			3					1	20
28	7. 9～ 7.15	1	4				1	8				5					1	17
29	7.16～ 7.22	7	3					1	16	2		3	1			1	2	17
30	7.23～ 7.29	3	1						10			4				1		14
31	7.30～ 8. 5	4						13				5						7
32	8. 6～ 8.12	7		1				8				3	1				1	5
33	8.13～ 8.19	6						1	8	1		3					3	4
34	8.20～ 8.26	1						1	12			3						5
35	8.27～ 9. 2	6							9			3					2	5
36	9. 3～ 9. 9	3							8	1		10						5
37	9.10～ 9.16	3						1	7			3						4
38	9.17～ 9.23	3	1		1	1			12	1		1					1	2
39	9.24～ 9.30	5						6				4					1	2
40	10. 1～10. 7	5	1	1				1	14			4	1					3
41	10. 8～10.14	3			1				4			2						1
42	10.15～10.21	1							10			5					1	
43	10.22～10.28	7		1					16			3					1	4
44	10.29～11. 4	3	3						16			3				2		2
45	11. 5～11.11	2					1		14			2				1		3
46	11.12～11.18	6	1	1					10			6					1	2
47	11.19～11.25	3					1		13			3					1	1
48	11.26～12. 2	5	1						4			4				2	1	
49	12. 3～12. 9	3		1					10			4						3
50	12.10～12.16	2							18			11						2
51	12.17～12.23	2					1		11	1		5						3
52	12.24～12.30	3							4			4					2	
	合 計	189	30	11	4	15	19	545	20	2		205	5			15	46	1,174

第3表－2（1） 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
(2008年第1週～2008年第52週)

保健所	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田									125					3	12		
中央区									50					3	2		
みなと									96					4	13	2	
新宿区									252				1	1	11	3	4
文京									121				1	1	6	1	
台東									129						3		
墨田区									98					7	17	2	3
江東区									138					4	10		
品川区									114					2	5		
目黒区									67					5	11		
大田区									191					7	52	1	
世田谷区									260					3	29		
渋谷区									67				1	1	4		
中野区									116					1	11	1	
杉並									187						11		
池袋									135					2	9	1	
北区									122					1			
荒川区									90					1	9		
板橋区									221				1	4	14	1	
練馬区									162						10		
足立									302						17		
葛飾									167					2	9		
江戸川									167				1	1	11		
西多摩									92						3		
八王子市									128					1	37		
南多摩									85				1	1	8		
町田									74					1	28		
多摩立川									153					1	10		
多摩府中									247					5	23	1	
多摩小平									278					2	23		
島しょ									9						1		
合 計									4,443				6	64	409	13	7

* 2009年2月10日現在の報告数

第3表－2（2） 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
(2008年第1週～2008年第52週)

保健所	四 類							
	E型 肝炎	A型 肝炎	Q 熱	つ つ が 虫 病	デ ン グ 熱	マ ラ リ ア	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
千代田	1						1	
中央区						1	2	1
みなと		5			1	8	3	
新宿区		8			19	11	2	1
文京	1	1			5	2	8	
台東		1					1	
墨田区	1				5			1
江東区		2						
品川区					1		1	
目黒区	1	2			1	1	4	1
大田区		1					7	
世田谷区				1			6	
渋谷区		2					2	
中野区		1		1			3	
杉並	1	1						
池袋								
北区							3	
荒川区							2	
板橋区	1		1				7	
練馬区							1	
足立							1	
葛飾		2					2	
江戸川								
西多摩				5			2	
八王子市		1						
南多摩		1		2				
町田							3	
多摩立川		1					5	
多摩府中	1	2					6	
多摩小平							8	
島しょ				9				
合 計	7	31	1	18	32	23	80	4

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する(10、11ページ参照のこと)。

第3表-2(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
(2008年第1週～2008年第52週)

保健所	五 類																
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ブドウ球菌感染症	バイコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
千代田	7		1					6	2			3				1	6
中央区	5							13				6				1	9
みなと	25	6				3	1	35	5			22			2	3	13
新宿区	30	9	1	2	2	2	3	190	4	2		58			1		40
文京	9	2				2	1	40				6	2			1	41
台東								4				8					11
墨田区	7		1	2				13	3			10			1		35
江東区	4							5				2					44
品川区	9							6	2			5				2	37
目黒区	6	2	3			1	1	3				4			3	2	19
大田区	9	3	1			1	1	10	1			6	2		2	4	99
世田谷区	6		1					5				1				3	62
渋谷区	6						1	105	2			5			1		19
中野区	6							11				7	1				60
杉並	1	1						6								1	32
池袋	3		1					1				15					18
北区								3				2					20
荒川区	4							2				14			2		7
板橋区	5					1	3	14				6				2	57
練馬区	2					2	1	3				3				1	63
足立	1							3	1			3			3		26
葛飾	7	2						5				1				1	43
江戸川	1	1						5				2					56
西多摩		2	1					5				1				1	57
八王子市	3	1				1		6				1				1	40
南多摩	3						1	1				2				2	56
町田	1							4								1	45
多摩立川	10							8				6				1	71
多摩府中	17		1			2	5	32				4				2	52
多摩小平	2	1					1	1				2					1
島しょ																16	35
合 計	189	30	11	4	15	19	545	20	2			205	5		15	46	1174

表 3 - 3 (1) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表

2008 年第 1 週～2008 年 52 週

年齢階級	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳									41						9	1	
1～4歳									36						98		
5～9歳									17						50	1	
10～14歳									37						31		
15～19歳									84						23	1	1
20～24歳									231					9	49	3	1
25～29歳									322				1	13	32	1	2
30～34歳									318					11	22	3	1
35～39歳									327				1	9	23	1	1
40～44歳									328					5	11	1	
45～49歳									250					3	14		1
50～54歳									264					3	12		
55～59歳									301				1	4	8	1	
60～64歳									312				2	1	2		
65～69歳									300					3	6		
70歳以上									1275				1	3	19		
合 計									4,443				6	64	409	13	7

* 2009年2月10日現在の報告数

表 3-3 (2) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表
2008 年第 1 週～2008 年 52 週

年齢階級	四 類							
	E 型肝炎	A 型肝炎	Q 熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳								
1～4歳							1	
5～9歳		2						
10～14歳				1				
15～19歳	1							
20～24歳		3			6	6	1	
25～29歳		5			3	5		1
30～34歳		4	1		6	1	1	
35～39歳	1	1		1	7	4	2	
40～44歳		2		1	4	1	6	
45～49歳	1	1			1	4	4	
50～54歳	1	2		1	1	1	5	
55～59歳	3	5		2			12	2
60～64歳		3		2	2	1	7	
65～69歳		2		4	2		10	1
70歳以上		1		6			31	
合 計	7	31	1	18	32	23	80	4

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する(10、11ページ参照のこと)。

表 3-3 (3) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表

2008 年第 1 週～2008 年 52 週

年齢階級	五 類															
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病 クロイツフェルト・ヤコ	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎 菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ブドウ球菌感染症 耐性黄色	バイコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
0歳											1					56
1～4歳			4			1		1							14	105
5～9歳			3												7	74
10～14歳			1													118
15～19歳	1	1		1			6	1	1		6				4	213
20～24歳	2	1					54	3			22				4	234
25～29歳	11	3		2			94	4			26				6	166
30～34歳	22	5	2	1			99	2			35			1	4	101
35～39歳	29	6			1	2	111	4			26				2	53
40～44歳	33	4				1	71	3			25				2	29
45～49歳	24				1	1	35	1			21	1			2	9
50～54歳	17	3					28				6			1	1	3
55～59歳	21	1			2	1	26		1		17	1		2		6
60～64歳	11				2	1	9	1			9	1		1		3
65～69歳	12	5	1		2	2	8				3					1
70歳以上	6	1			7	10	4				8	2		10		3
合 計	189	30	11	4	15	19	545	20	2		205	5		15	46	1,174

(2) 小児科・内科疾患

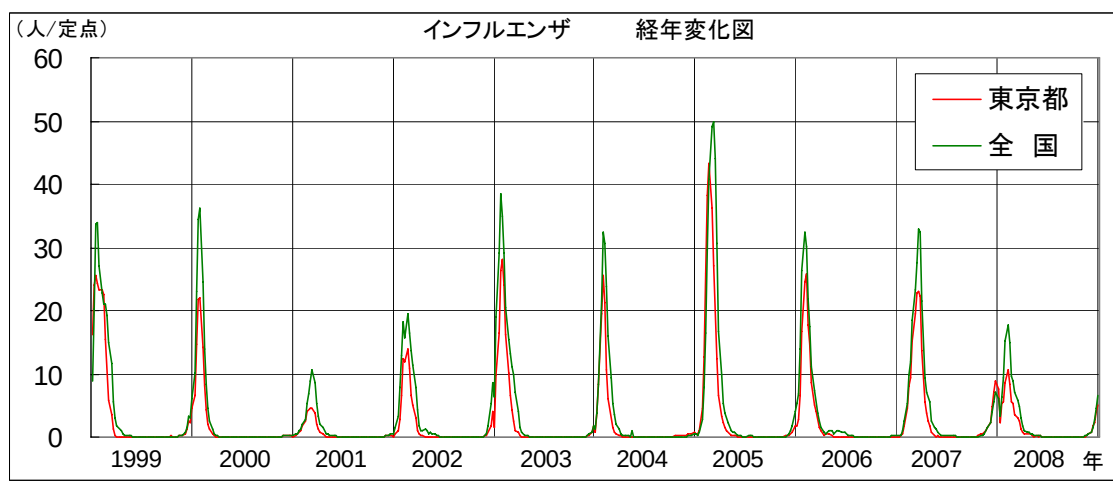
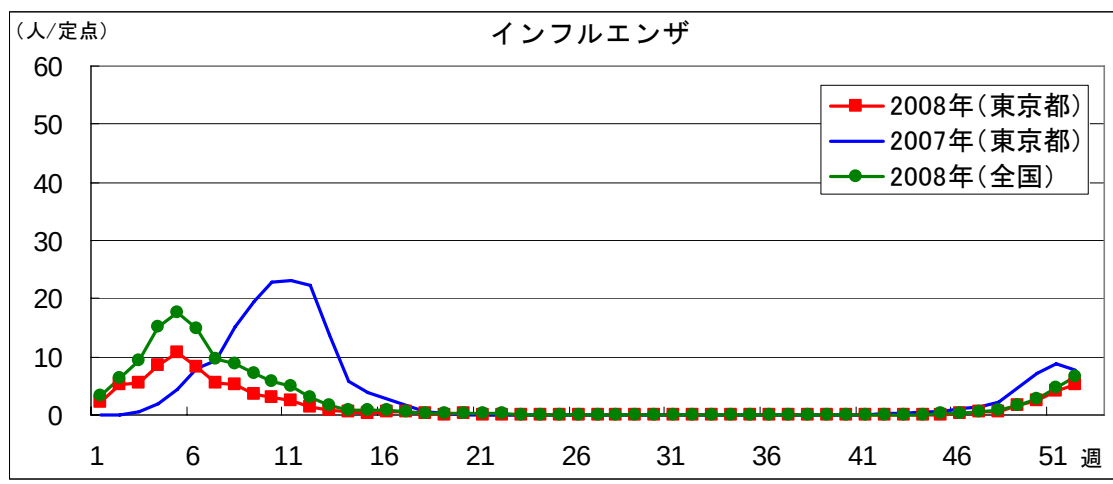
ア インフルエンザ

2008 年の年間患者報告数は 23,059 件 (80.47/定点) で、前年 (53,927 件; 191.41/定点) に比して 42.0% (定点当たり報告数の比) の減少であり、当年の報告数は過去 10 年で第 6 位、定点当たり報告値は第 9 位であった。当年の前期流行波 (2007/2008 期) は前年第 46 週 (1.02/定点) に始まり、2008 年第 5 週 (10.60/定点) をピークとし、以後漸減して第 12 週 (1.37/定点) に終息した。後期流行波 (2008/2009 期) は 2008 年 49 週 (1.67/定点) に始まり、第 52 週 (5.17/定点) の年内ピークを経て越年し、年末年始の減少期を経て 2009 年前期流行波に移行し、2009 年第 4 週 (31.94/定点) を 2008/2009 期のピークとして以後漸減している。2008 年流行の患者報告数の累計は過去 10 年間で 9 位とされる小規模なものであった (4.25.2008 東京都インフルエンザ情報第 18 号)。2007/2008 期の流行の特徴は例年より流行開始時期が約 1 か月早く、患者報告ピークが 2 点あったことがあげられる。

当年患者の罹患年齢は、12 か月未満 1.4%、1～3 歳 13.0%、4～6 歳 22.8%、7～9 歳 16.7%、10～14 歳 11.9%、15～19 歳 3.6%、20～29 歳 8.1%、30～39 歳 11.6%、40～49 歳 6.8%、50～59 歳 2.3%、60～69 歳 1.1%、70～79 歳 0.5%、80 歳以上 0.2% であった。医療圏別では、西多摩圏 (294.88/定点)、北多摩北部圏 (264.83/定点)、南多摩圏 (234.73/定点) に多発し、区中央部圏 (78.23/定点)、島しょ圏 (79.97/定点) に少なかった。保健所別では、多摩小平 (135.07/定点)、西多摩 (131.03/定点)、町田 (127.22/定点) 管内で多発し、目黒 (23.33/定点)、千代田 (24.05/定点)、島しょ (29.50/定点) 管内では少なかった。最近 10 年間の流行状況を定点当たり報告数でみると、第 1 位は 2005 年 (243.46/定点)、第 2 位 : 1999 年 (206.66/定点)、第 3 位 : 当年 (191.41/定点) であった。週定点当たりピーク最高値は、1998 年第 5 週 47.82/定点であり、第 2 位は 2005 年第 7 週 43.33/定点であった。

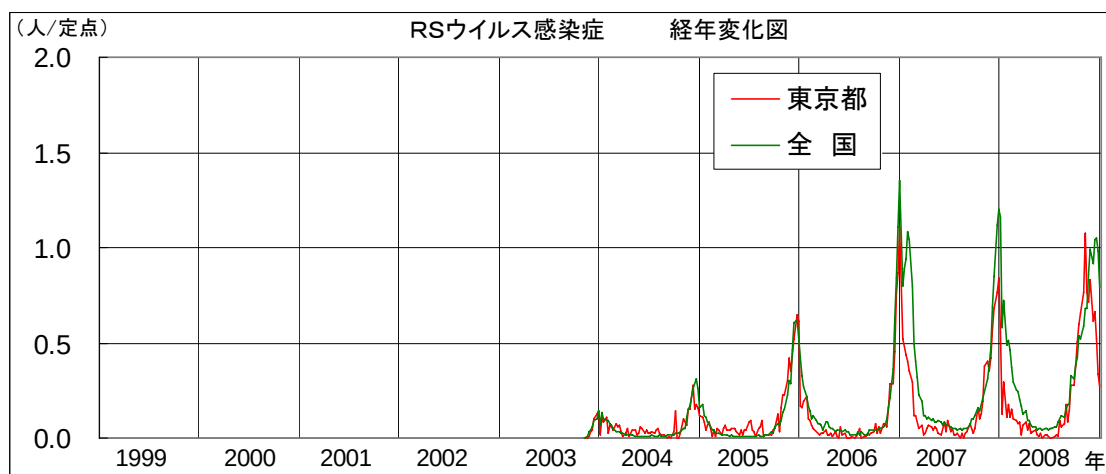
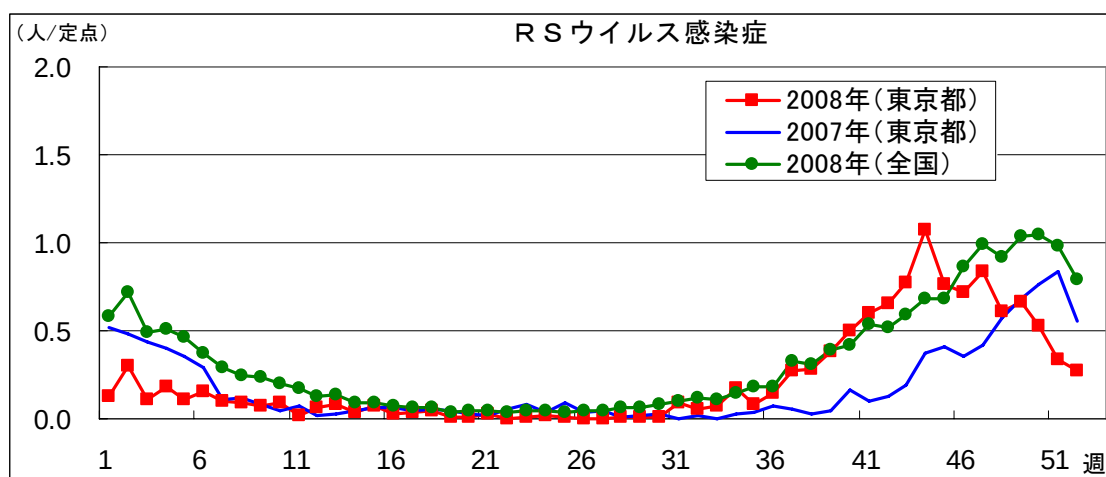
参考資料

- ① 国立感染症研究所ウイルス第 3 部第 1 室 : インフルエンザ 2007/08 シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析. IASR 29 (11), 299-307, 2008
- ② 小田切孝人、田代真人 : 平成 20 年度 (2008/09 シーズン) インフルエンザワクチン株の選定経過. IASR 29 (11), 307-309, 2008
- ③ 「インフルエンザ」 (脳症を含む). IDWR 10 (9), 6-11, 2008
- ④ 国立感染症研究所ウイルス第 3 部第 1 室ら : 2008/09 インフルエンザシーズンにおけるインフルエンザ (AH/H1N1) オセルタミビル耐性株 (H275Y*) の国内発生状況 [第 1 報]. IASR 30 (2), 49-53, 2009



イ RSウイルス感染症

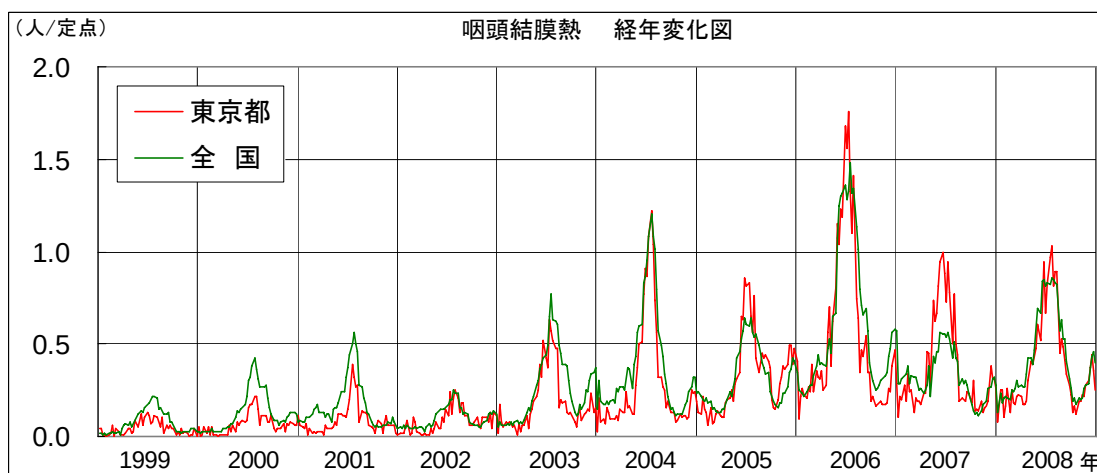
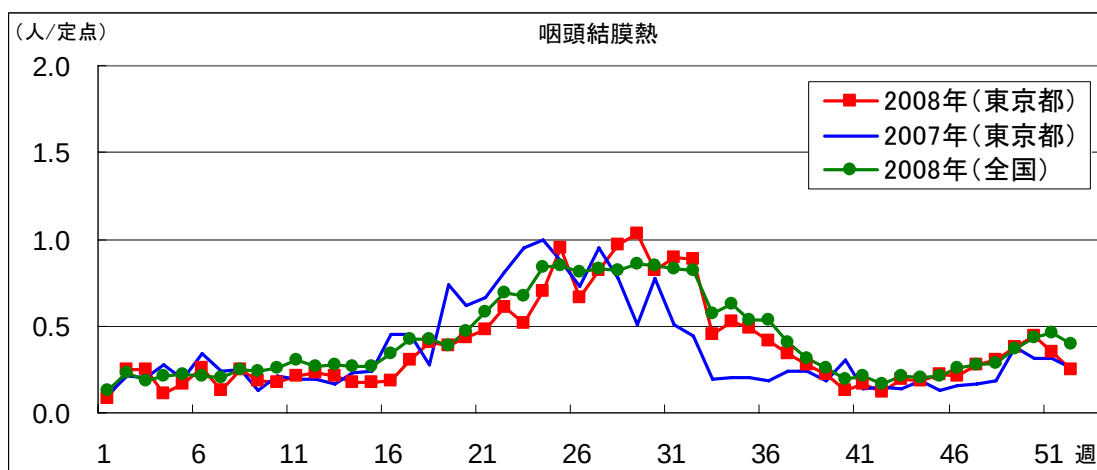
2003 年 11 月に登録されて以来、2003 年（11 月、12 月）は 68 件報告、2004 年 432 件（3.04/定点）、2005 年 848 件（5.97/定点）と増加後、2006 年 818 件（5.76/定点；前年比 96.5%）と横這い、2007 年は 1,403 件（9.57/定点,166.2%）と増加し、過去 5 年間で第 1 位を占めた。2008 年初の流行は、前年秋季から当年年初にかかる流行の追尾を示すものであり、毎年秋季から冬季に流行する本症は、第 39 週頃より始まり、第 44 週（1.08/定点）に低いピークがみられた後、全国の流行に先行して減少し、2009 年を迎えている。年間 1,722 件報告され、罹患年齢は 6 か月未満 270 件（15.7%）、12 か月未満 402 件（23.3%）、1 歳 609 件（35.4%）、2 歳 227 件（13.2%）、3 歳 91 件（5.3%）、4～6 歳 79 件（4.6%）、7～9 歳 7 件（0.4%）、その他であった。2 歳未満に多発し、重症化する傾向がみられる。調査年次を追うごとに増加するが、地域的特徴はなく、北多摩北部圏に報告数が多かった。



ウ 咽頭結膜熱

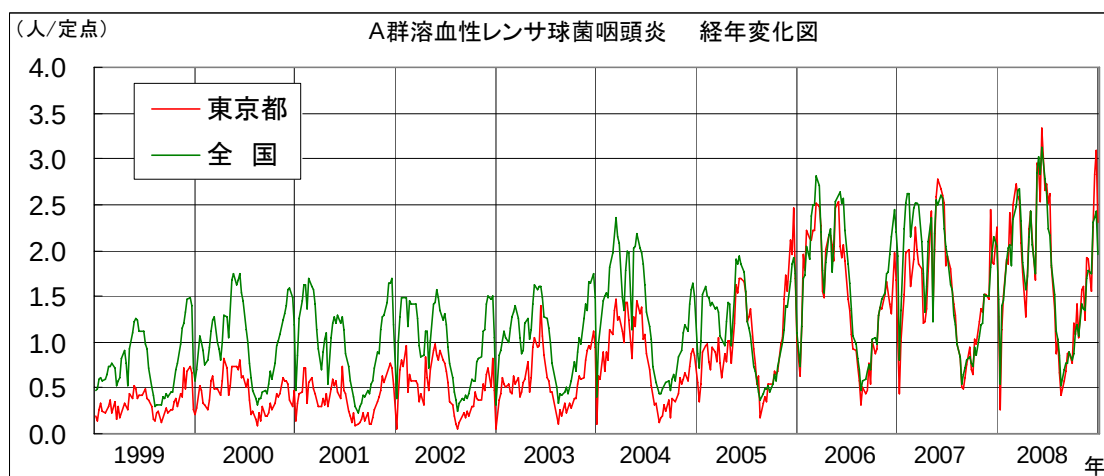
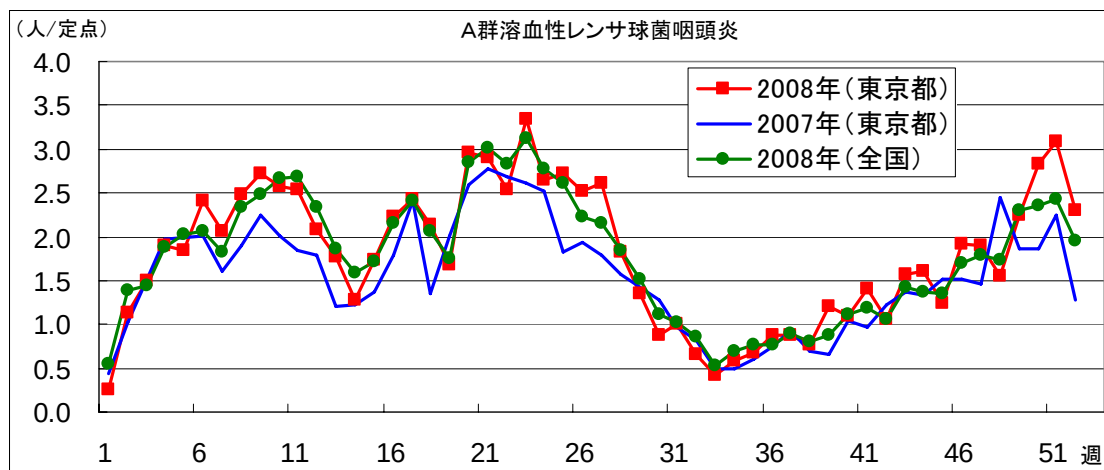
咽頭結膜熱は、小児科・内科と眼科の境界疾患であるが、感染症法の定点把握では、小児科・内科が担当している。2008年の患者報告数は2,927件（19.86/定点）であり、前年（2,793件、18.97/定点）比では104.8%の横這いで、過去10年間では、報告数で2位、定点当り報告数も第2位で、昨年に続く第2位であった。

本症は晩春から夏季、初秋にかけて青少年間に流行する軽症疾患である。本年の流行推移をみると、昨年と類似した経過で、第18週（59件、0.40/定点）より漸増して、第29週（152件、1.03/定点）をピークとして、以後、第36週（61件、0.41/定点）まで漸減する。また、最近数年間の傾向として冬期に小流行をみるが、当年も第49週以後増加傾向を認めた。この要因は明らかではない。過去10年間の変動をみると、2003年からの最近5年間は増加傾向（2004年；第5位、2005年；第4位、2006年；第1位、2007年；第3位、2008年；第2位）が認められる。罹患年齢は1～6歳が多く、2,927件中、2,364件（76.5%）を占めた。本症は、ときに小流行を認めることがあり、医療圏では北多摩北部圏、区南部圏、南多摩圏に多く、島しょ圏、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



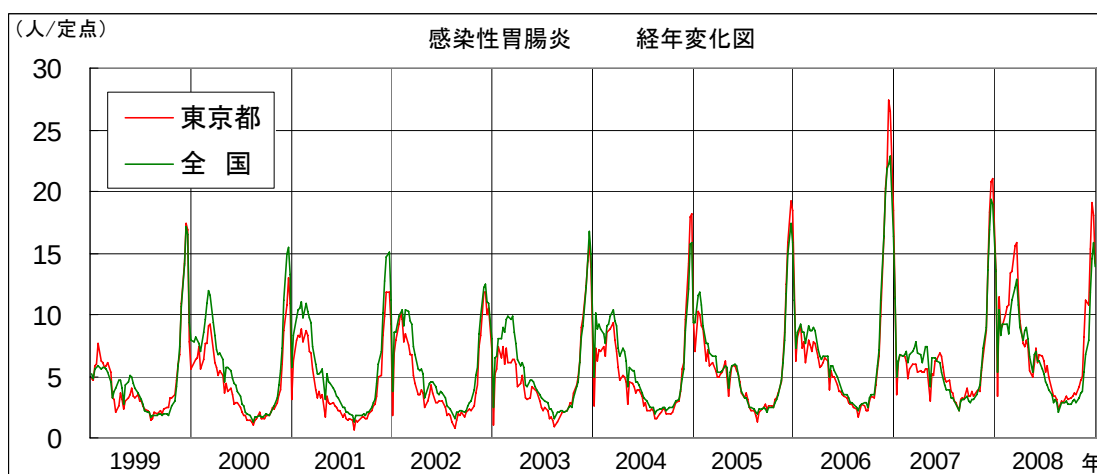
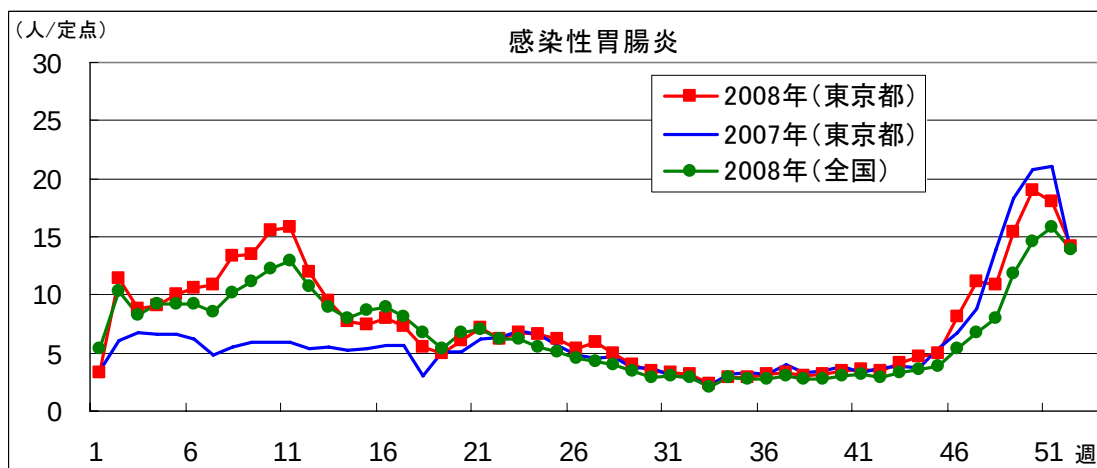
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2008 年の報告数は 13,925 件 (93.97/定点) であり、前年 (11,913 件、81.32/定点) 比で、155.6%の増加であり、最近 10 年間で報告数、定点当り報告数とも 7 年連続して第 1 位である。本症の流行推移は梅雨期と晩秋冬期に増加する W 字型流行像を示すことで知られるが、最近 10 年間の経年変化図をみると、2001 年までは低めの山で経過しており、2002 年以降は逐年増高して、報告数も連続増加している。長年、東京の流行推移は全国推移に平行しながら、その低位にあったが、2005 年の年間ピーク第 50 週 (2.46/定点) は同年全国第 50 週 (1.92/定点) の値を超えており、2008 年の報告数にも増加傾向を認めた。当年の罹患年齢状況は 12 か月未満 : 68 件 (0.49%)、1 ~ 2 歳 : 1006 件 (7.22%)、3 ~ 6 歳 : 5,179 件 (37.19%)、7 ~ 9 歳 : 3,439 件 (24.70%)、10 ~ 14 歳 : 1,231 件 (8.84%)、15 ~ 19 歳 : 106 件 (0.76%)、20 ~ 29 歳 : 1,016 件 (7.30%) であり、3 ~ 6 歳児が最高率を占めている。ブロック別発生状況の上位 3 位は、南多摩圏、北多摩北部圏、区東部圏であり、最低発生圏は島しょ圏であり、その上位は北多摩西部圏であった。



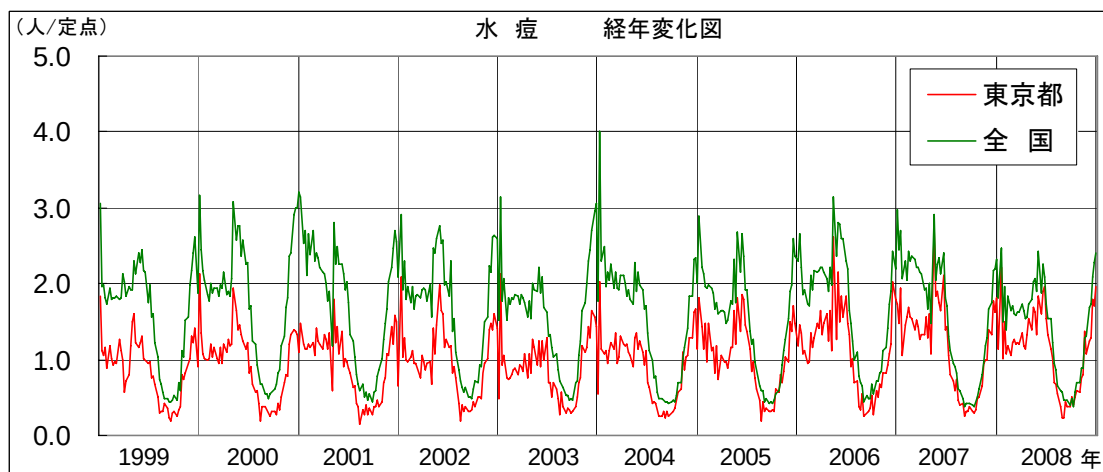
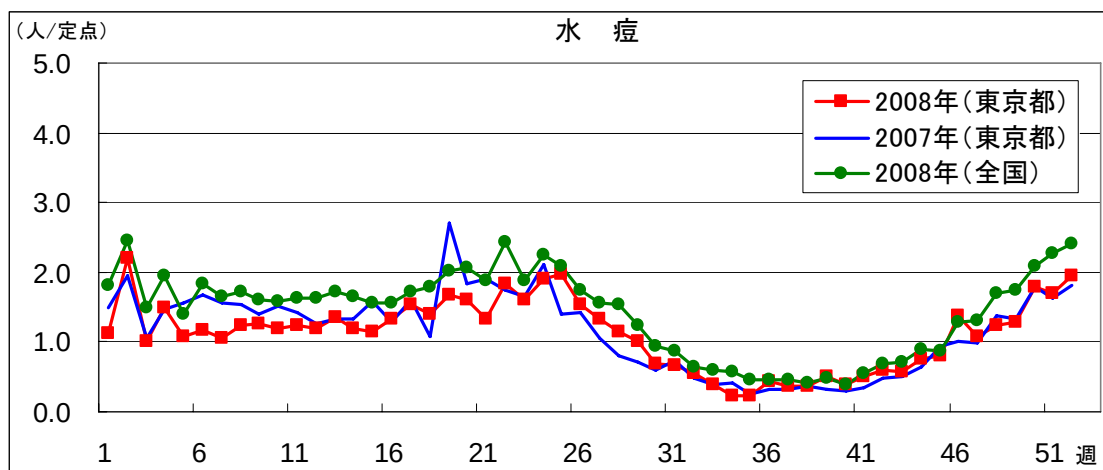
オ 感染性胃腸炎

2008年の患者報告数は58,681件(395.92/定点)であり、前年(46,783件、318.41/定点)比124.34%の増加であったが、過去10年間の記録では常に前年を凌ぐ勢いで増加し、当年(過去5年間連続、第1位、昨年は第2位)も第1位であった。本症は秋季に始まり、冬季に多発し春季にかけて流行する疾患であるが、2006年後期流行波に続く2007年の前期流行波は例年より低位の流行で、後期流行波は第45週(5.43/定点)に始まり第51週(20.99/定点)をピークとし、2008年に延長波及する流行であり、この流行波に続く2008年前期流行波は10.00/定点前後の報告が続き、漸増して第11週(15.87/定点)のピークを迎えた後、第20週頃から5.00/定点前後、第30週頃から3.00/定点前後で経過している。第48週(11.21/定点)の秋期を迎えて年内ピーク(第50週;19.05/定点)を経て越年している。罹患年齢分布は、12か月未満4,126件(7.03%)、1～3歳19,313件(32.91%)、4～6歳13,599件(23.17%)、7～9歳7,740件(13.19%)であった。ブロック別発生状況では、昨年に類似して南多摩圏、区南部圏、区西部圏に報告が多く、北多摩西部圏、西多摩圏に少なかった。



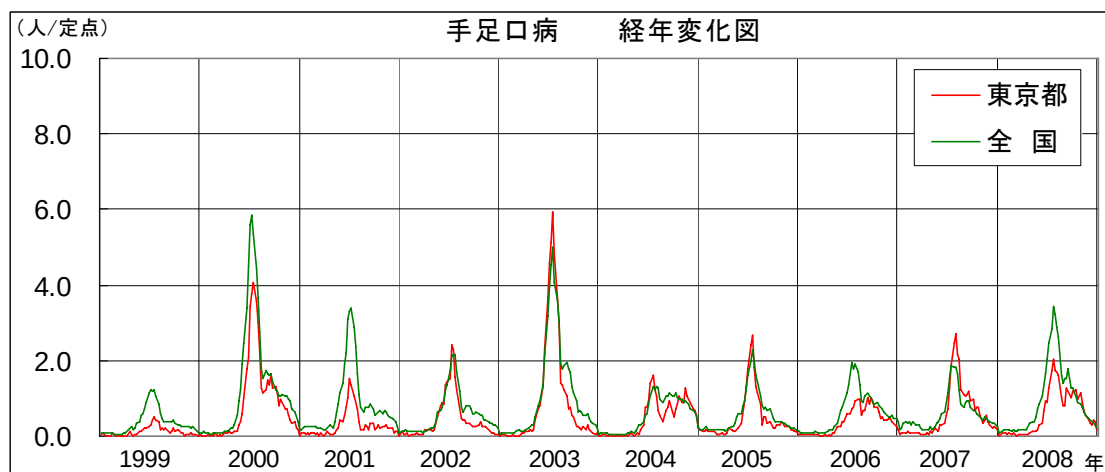
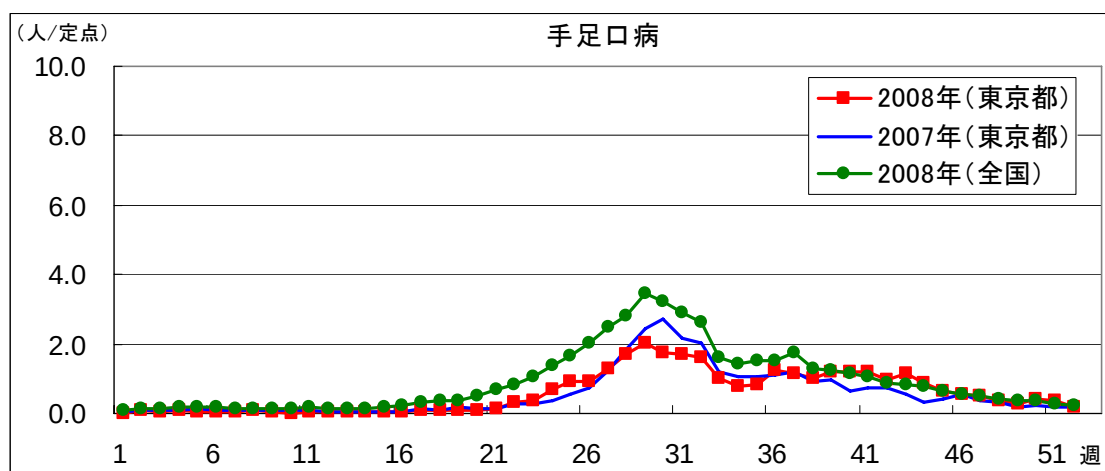
カ 水 痘

2008 年の報告数は 8,682 件 (58.68/定点) で、前年 (8,874 件、60.77/定点) 比 96.6% の横這い状態であり、過去 10 年では昨年まで 3 年間の報告数は、連続第 1 位であったが、当年は第 3 位であった。流行波は、毎年前年晩秋に増加しはじめ当年初夏にかけて流行する相似形をとっており、本年のピークは第 52 週 (1.95/定点) で、次位は第 24 週 (1.89/定点) であった。流行波は晩秋初冬から増加し始め、春期から夏期に多発し秋期に減少する。最近 10 年間の発生推移を定点あたり報告数でみると、第 1 位：2007 年、第 2 位：2006 年 (58.77/定点)、第 3 位当年、第 4 位 2005 年 (63.27/定点)、以下 2002 年、2000 年の順であった。罹患年齢は例年と殆ど変わりなく、10 歳未満が大部分で、5 歳未満 (6,471 件) が 74.5% を占めている。10 歳以上は 264 件 (3.0%) であった。ブロック別発生状況は昨年同様に南多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏に多く、区西南部圏に少なかった。



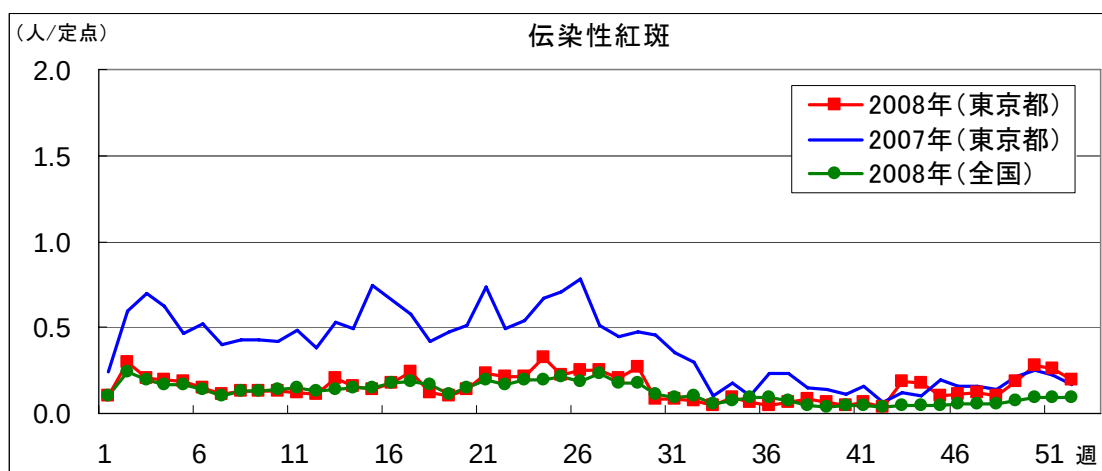
キ 手足口病

2008年の報告数は4,487件（30.60/定点）であり、前年（4,382件、29.73/定点）に比し102.9%の横這いであり、過去10年間でみると、第3位である。因みに第1位は2003年（6,872件、48.39/定点）であり、第2位2000年（6,464件、45.52/定点）、次いで当年であり、これらの流行年の合間にあたる1999年、2001年、2002年、2004年、2005年、2006年は非流行年であった。罹患年齢頻度は、12か月未満272件（6.1%）、1～3歳2,633件（58.7%）、4～5歳948件（21.1%）であり、80%以上の患者が1～5歳児であった。ブロック別発生状況では南多摩圏に多く、北多摩西部圏、西多摩圏に少なかった。



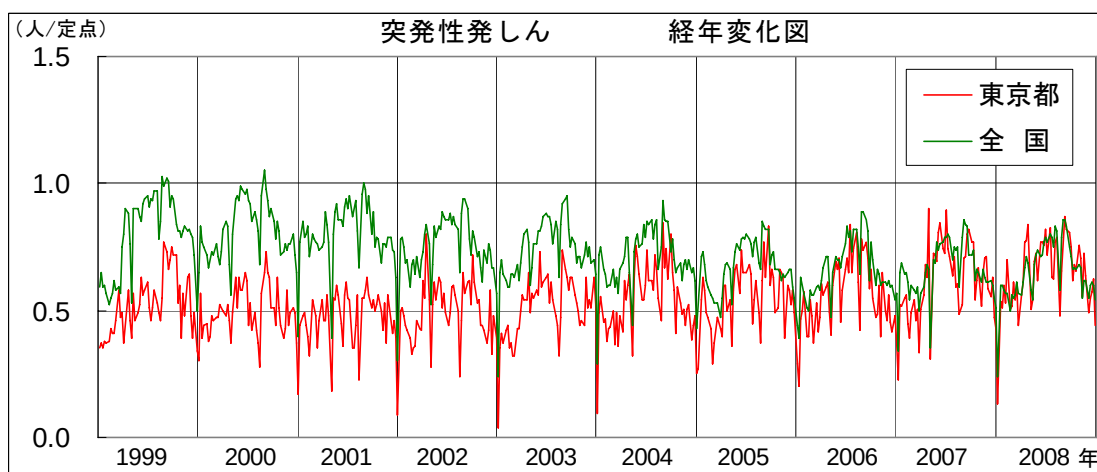
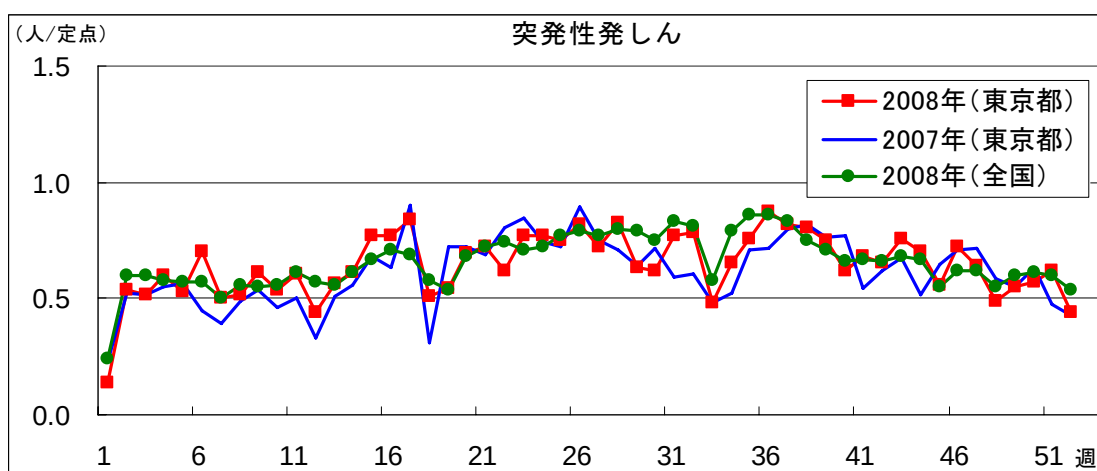
ク 伝染性紅斑

2008 年の年間報告数は 1,168 件（7.90/定点）で、前年（2,879 件、19.73/定点）比 40.04% の激減状態であり、過去 10 年では最低の第 10 位の報告数であった。過去 10 年余の流行状況をみると、1992 年の流行後、1993 年から 3 年間の非流行期、1996 年の流行、1997 年から 99 年までの非流行期、2000 年、2001 年、2002 年の小流行、2003 年の非流行、2005 年の小流行、2006 年と 2007 年の流行後の非流行であった。本症は 2 ～ 3 年の周期で小流行発生を繰り返すようだが、明確ではない。本年の罹患年齢をみると、3 歳から 6 歳（636 件；54.5%）に過半数の罹患者をみている。ブロック別発生状況では、南多摩圏に多く、北多摩西部圏に少なかった



ケ 突発性発しん

2008年の年間報告数は4,944件（33.49/定点）であり、前年（4,691件、31.95/定点）比104.8%の横這い報告で、過去10年間では、5年連続して第1位を占めているが、患者発生状況では毎年大きな変動はなく、相似のパターンを示している。患者報告数を通年的にみれば、毎年夏季に増加する傾向が認められ、また罹患年齢は2歳未満が殆どを占める。当年の罹患年齢分布をみると、6か月未満155件（3.14%）、12か月未満2,227件（45.04%）、1歳2,165件（43.79%）、2歳279件（5.64%）、3歳55件（1.11%）であり、2歳未満が91.97%を占める。各年の2歳未満児の罹患率をみると、2007年92.7%、2006年94.0%、2005年95.0%であった。ブロック別発生状況をみると、乳幼児の少ない地域には報告が少ないと想像されるほか、特徴はないが、南多摩圏、北多摩北部圏に多く、北多摩西部圏に少ない。



コ 百日咳

2008 年の年間報告数は、278 件（1.88/定点）で、前年（151 件、1.02/定点）比 184.3%の急増で、過去 10 年間でも第 1 位の報告数である。1996 年の年間報告数は、143 件であったが、1997 年以降は年間 100 件未満の報告であり、2001 年以後は年間 50 件未満が続いた。この順調な減少は百日咳ジフテリア破傷風（DPT）3 種混合ワクチンの普及によるところが大きい。2007 年は突然 151 件に増加し、当年も増加を重ねた。当年患者の増加は 4 月下旬から始まり 5 月に増加して第 22 週（0.11/定点）にピークに達し、以後動揺を示しながら減少している。患者の罹患年齢をみると、

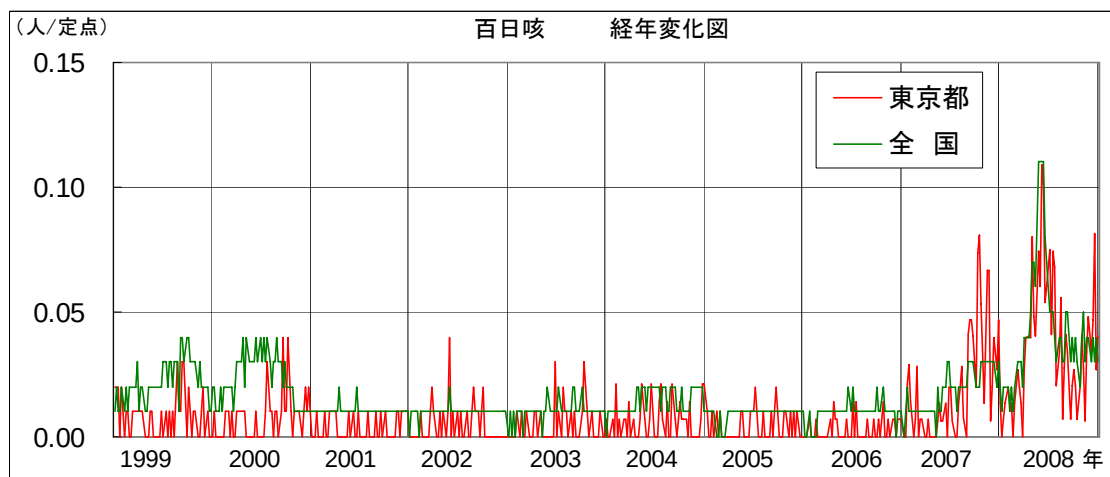
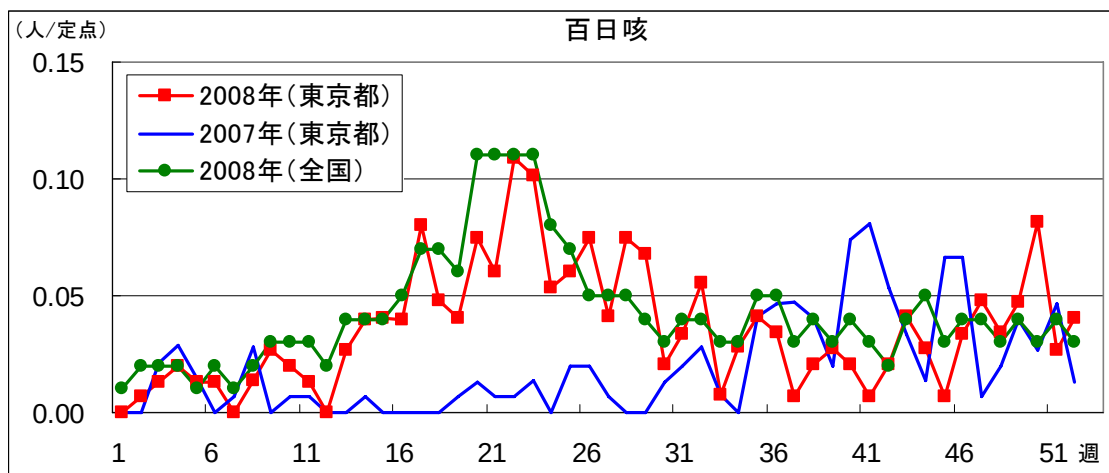
	<12 か月	1～3 歳	4～6 歳	7～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20 歳<
2007 年	13 件	20 件	24 件	16 件	11 件	6 件	60 件
2008 年	28 件	17 件	22 件	28 件	28 件	11 件	144 件

であり、罹患者のうち、成人は 39.7%(2007 年)、51.8%(2008 年)であった。当年のブロック別発生状況をみると、区南部圏、南多摩圏に多い傾向があるが、特徴的ではない。

成人百日咳の流行要因としては、第 82 回日本細菌学会（平成 21 年 3 月 12-14 日、名古屋）でもワークショップ「百日咳の感染防御」として取り上げられており、現行ワクチンの有効性が再確認され、百日咳再興の原因として①流行化株の変異、②診断法改善による検出率の向上、③百日咳への関心向上、④パラ百日咳菌による百日咳などが考慮された。また、成人百日咳の増加の原因として、ワクチン接種が広く実施されて野生株に感染する頻度が低下したため、自然感染によるブースター効果が減衰する一方、成長とともに乳幼児期に接種されたワクチンの効果が減退して、青年期・成人期まで維持できず感染防御値以下となり、百日咳に感染・発症するものと思われる。この対策としてはワクチン接種法を改正して追加接種の必要性が考慮される。

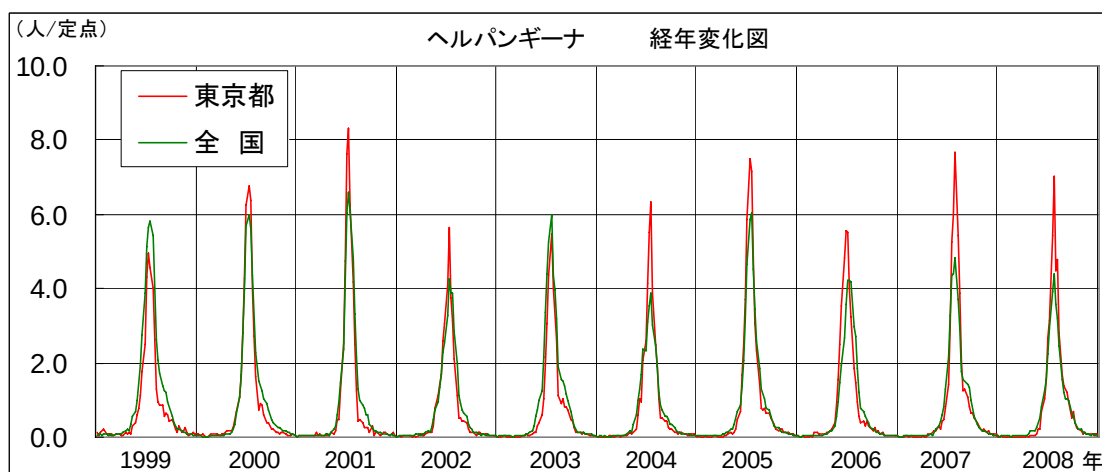
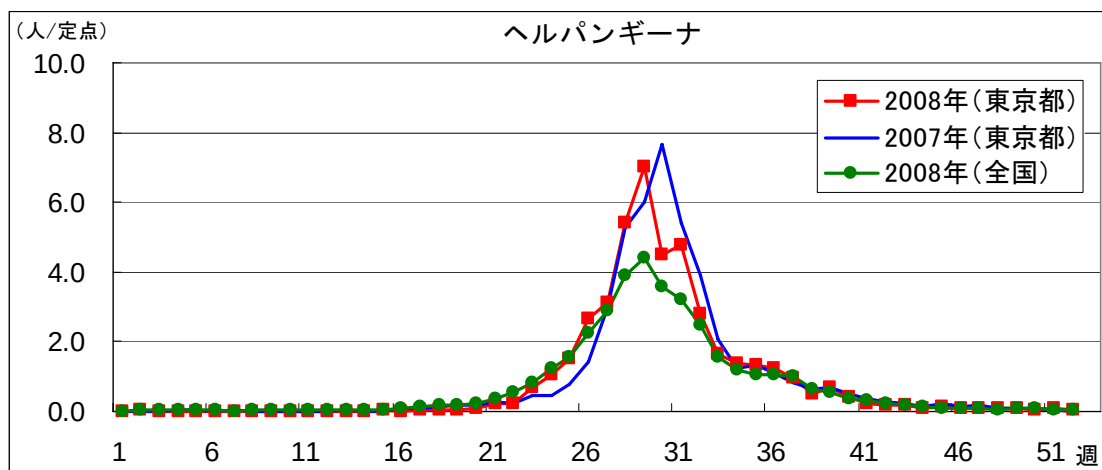
参考資料

- ① 新予防接種研究班報告（岡部班：岡部信彦、神谷班：神谷 斎）2007
 - ・植田浩二司ら：看護学生のジフテリア・破傷風・百日咳の抗体保有状況. p.205
 - ・持田嘉之ら：成人における百日咳抗体の保有状況について. p. 217
- ② <特集> 百日咳 2005～2007. IASR 29 (3), 65-66, 2008
- ③ 奥野ルミ：東京都における百日咳発生状況. 東京都微生物検査情報. 29 (12), 2008
- ④ 蒲地一成ら：百日咳流行株の分子疫学、2007 年. IASR 29 (3), 67-68, 2008
- ⑤ 岡田賢司ら：成人持続咳嗽(2 週間以上)患者における LAMP 法による百日咳菌抗原遺伝子陽性と臨症像. IASR 29 (3), 75-77, 2008



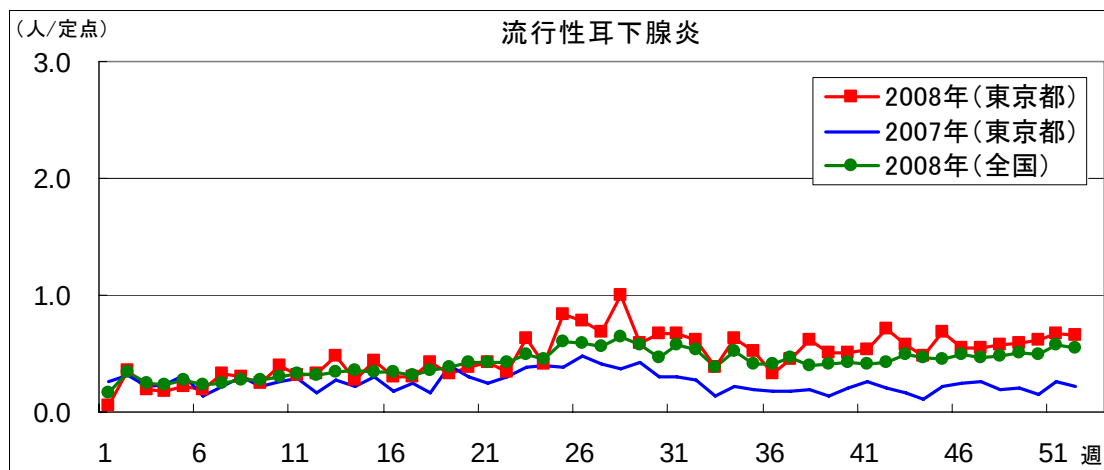
サ ヘルパンギーナ

2008年の年間報告数は6,470件（44.08/定点）で、前年（6,804件、46.10/定点）比95.62%の横這いであり、過去10年では第4位（定点当たりでは第5位）の報告数である。当年の流行は第24週（1.05/定点）から第36週（1.22/定点）に及ぶ単峰型流行で、ピークは第29週（7.02/定点）であり、2006年のピーク（第25週；5.56/定点）より高く、2007年のピーク（第30週；7.66/定点）、2005年のピーク（第27週；7.49/定点）よりも低かった。本症は、毎年流行を繰り返しているが、過去10年間の定点当たり年間報告では、最多年は2005年48.65/定点で、第2位は2000年46.32/定点、第3位当年であり、第4位2001年44.46/定点、第5位2006年41.55/定点と最近増加傾向にある。当年の罹患年齢は、12か月未満（615件、9.5%）よりも1～3歳（4,096件、64.3%）が過半数を占め、4～6歳（1,374件、21.2%）がこれに次ぐ。ブロック別発生状況は、区東部圏、北多摩北部圏、南多摩圏に多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



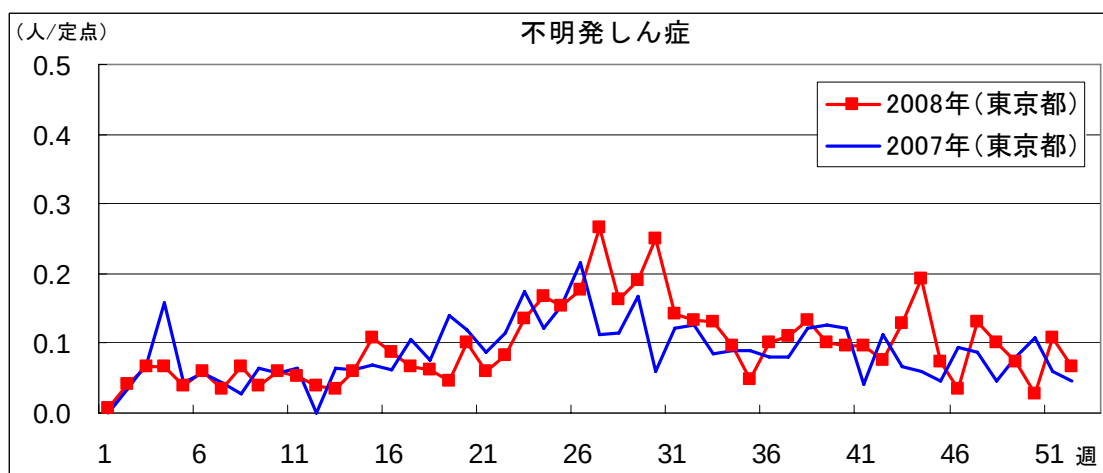
シ 流行性耳下腺炎

2008 年の年間患者報告数は 3,662 件（24.83/定点）で、前年（1,940 件、13.24/定点）比 187.54%の増加であり、過去 10 年では第 6 位の報告数である。本症は春から初夏にかけて多発する傾向があるが、10 年を通してみると、1 流行単位は、2 年目をピークとする 3 年を 1 流行期とする流行で、その間に 1 ～ 2 年の非流行期間があるように見える。1996、1997、1998 の 3 年間、2000、2001、2002 の 3 年間、2004、2005、2006 の 3 年間の各流行期とその間に 1995 年、1999 年、2003 年の非流行期間をみることができる。当年は 2004～2006 の流行期間を過ぎた非流行期（流行間期）である。本年の発生状況をみると、年間を通じて少数散発し、小さな集積性をみるが、明らかではない。明年多発の前駆期を思わせるものがある。本年報告患者の罹患年齢は＜3 歳 498 件（13.6%）、3 歳 484 件（13.2%）、4 歳 621 件（16.9%）、5 歳 608 件（16.6%）、6 歳 445 件（12.2%）、7 歳 266 件（7.3%）、8 歳 230 件（6.3%）、20 歳以上の成人例 85 件（2.3%）で特に変わりなく、ブロック別にみても区東北部圏に多く発生しているが、特異的ではない。



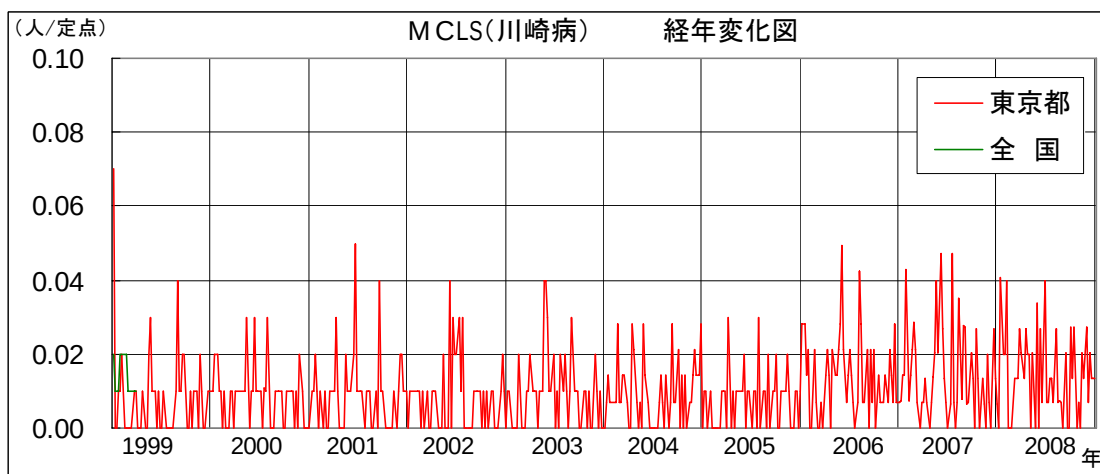
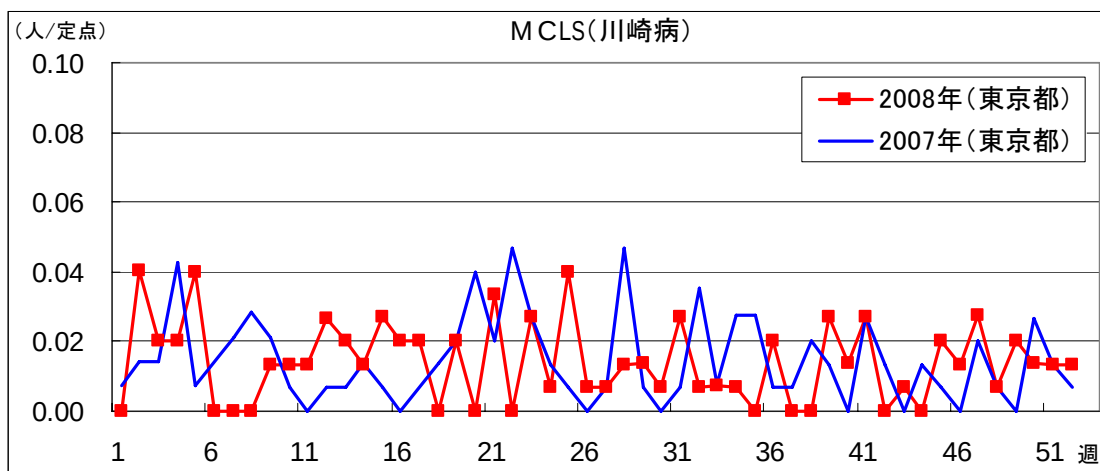
ス 不明発しん症

本症は東京都単独の調査対象疾患で、エンテロウイルスによる夏かぜ発しん症のほか、新規の発しん性感染症の出現に予め対応した項目である。2008 年の報告数は 734 件 (4.98/定) で、前年 (665 件、4.52/定) 比 110.2% の横這いであり、過去 10 年では報告数で第 2 位、定点当たり数も第 2 位であった。この 10 年間の報告をみると、最多報告は 2006 年で、第 2 位は当年、第 3 位は 2007 年で、この 10 年間に特に多発の年はなかった。当年の発生状況をみると、第 27 週 (0.27) を低いながらもピークとする、第 23 週 (0.14/定点) から第 33 週 (0.13/定点) にかかる多発報告がみられるが、特定されていない。罹患年齢は、3 歳未満 (489 件、66.6%) の乳幼児に集積性がみられ、南多摩圏、区東北部圏に多い傾向がある。



セ MCLS(川崎病)

本症は東京都単独の調査対象疾患である。2008年の年間報告数は109件(0.73/定点)であり、前年(110件、0.75/定点)比97.3%の横這い状態であるが、過去10年間の報告数は昨年に次いで第2位である。最近10年は多発報告年はなく、最少報告は2005年(56件、0.39/定点)であった。2008年の患者の罹患年齢分布は、12か月未満33件(30.3%)、1～2歳50件(45.9%)、3～4歳16件(14.7%)、5～6歳6件(5.5%)、7～9歳2件(1.8%)であり、4歳以下が99件(90.8%)を占める。夏季に多いようであるが、季節的傾向は明らかでなく、地域別発生状況に特徴はない。



(3)眼科疾患

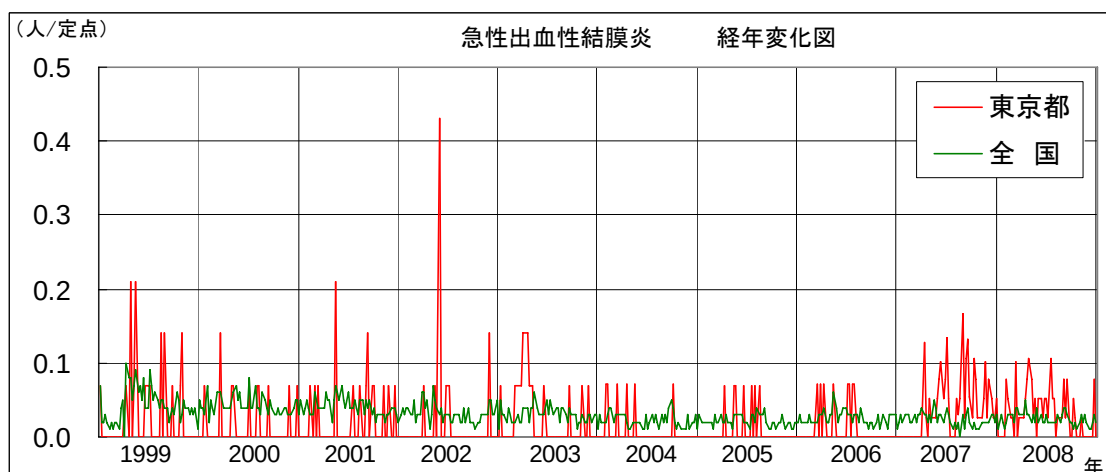
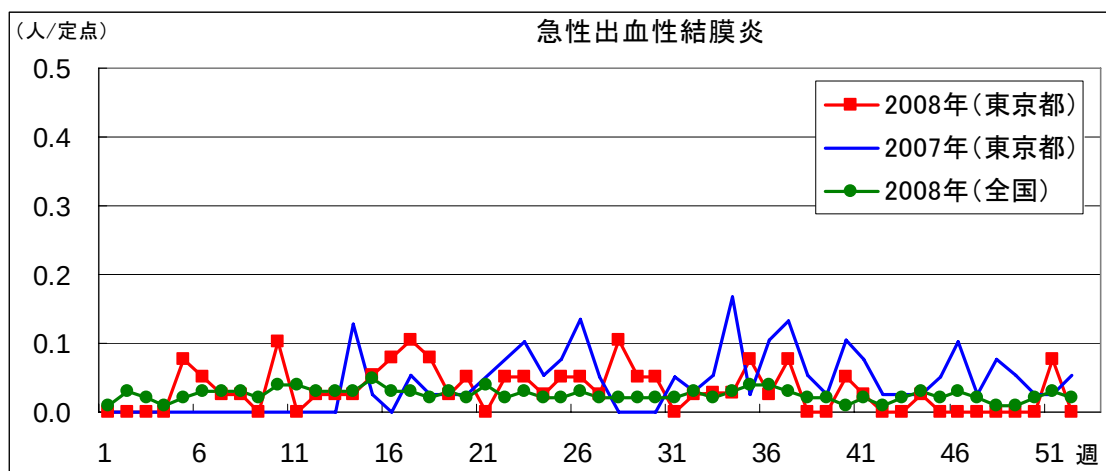
ア 急性出血性結膜炎

2008年の報告数は64件(1.66/定点)で、前年(82件、2.15/定点)比78.05%と減少した。しかしながら2007年に定点が増加したことでより広く網をかけることができるようになったためか、2006年までとは異なり1.00/定点を越え、多くはないが確実に存在しているということが引き続き示された。

患者発生数の推移では、第5週(1月末)から第37週(9月)の間に全件数の89%が発生していたが、特に目立つピークはなく平均的に分散していた。週別の定点当たり報告数では0~0.11となり、平均すると0.03/定点/週という発生であった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京もほぼ同様の動向であった。

地域的には足立区が突出しており7.25/定点を示した。眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは9医療圏で区部が全体の94%を占めた。また、西多摩圏、南多摩圏と北多摩西部圏からは報告がなかった。

罹患年齢は分散していたが、1歳から4歳に小さなピークがあり、その後は9歳から70歳以上まで20歳台をピークに広く分散していた。1歳から4歳は13件と全体の20%を占めたが、0歳及び5歳から8歳には報告が見られなかった。



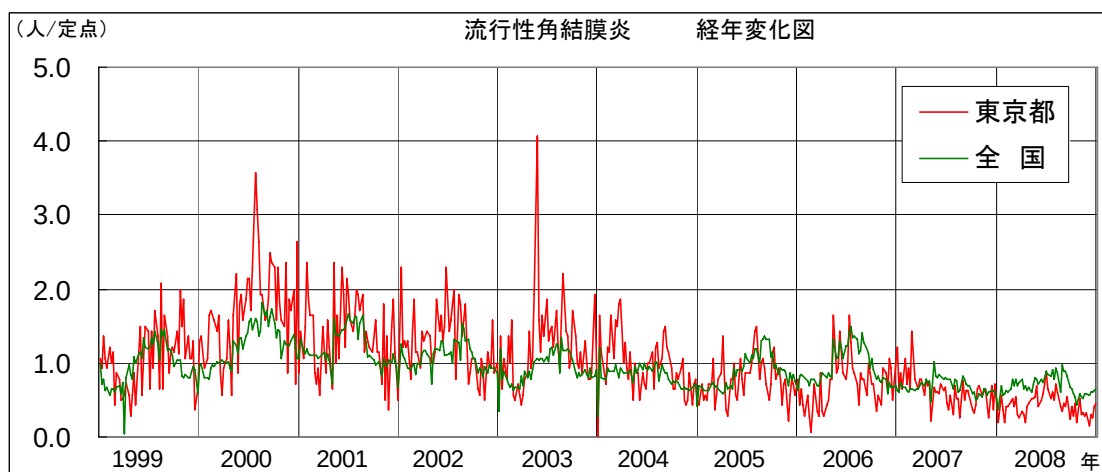
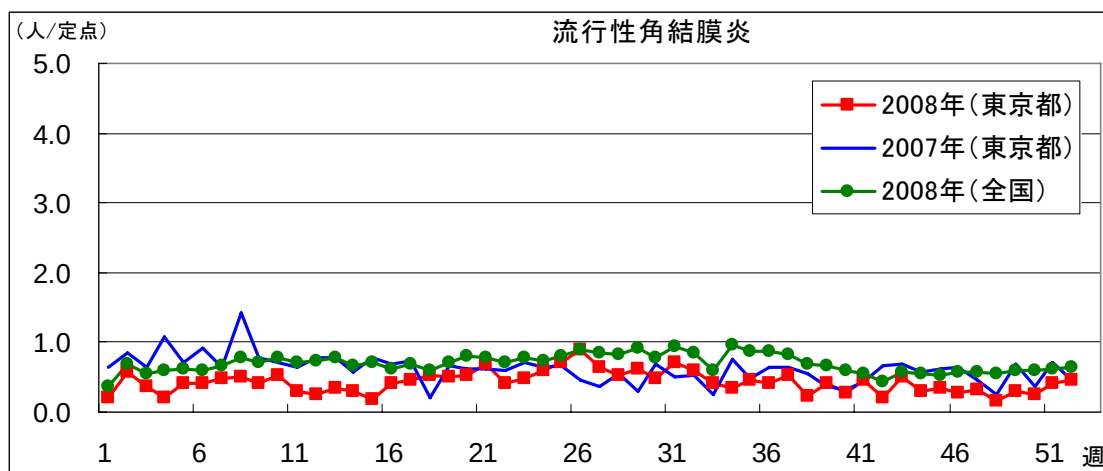
イ 流行性角結膜炎

2008年の報告数は865件（22.41/定点）で、前年（968件、32.04/定点）比89.36%と減少した。定点当たりの報告数は2000年（88.57/定点）をピークに以後毎年減少し、2005年に50.00/定点を割り、2006年に40.00/定点を割り、本年は30.00/定点をも割り込んだ。

患者発生数推移は、一週当たりの発生件数が6～35件と分散し一定しないが、月単位でみると5月から8月が多く、該当する第18週から第35週の18週間で392件（全体の45%）を占めた。週別の定点当たり報告数では0.15～0.90となり、平均すると0.43/定点/週という発生であった。全国でも週別の発生は1.00/定点を割る低い発生状況で大きな変動は見られなかったが、東京はさらに低いレベルで同様に推移していた。

地域的には全ての地区から報告があったが、八王子市、文京、新宿区、多摩小平が突出しており、いずれも15.00/定点を越えていた。なお、文京と新宿区は大学施設が定点に含まれていることが影響していると考えられた。23区部での発生は605件（22.41/定点）、多摩地区では260件（21.67/定点）で、定点当たりでみると両者の差がさらに小さくなってきたことが示された。

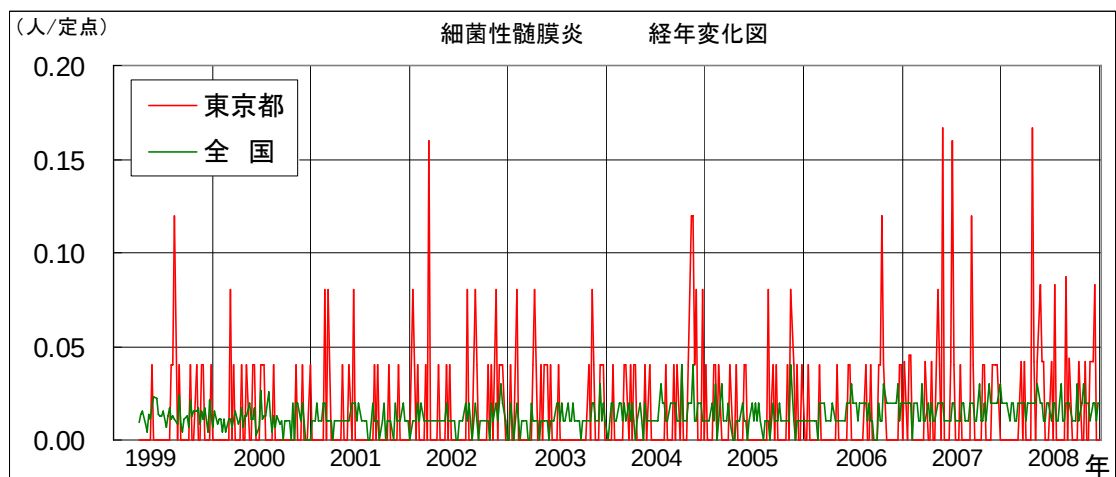
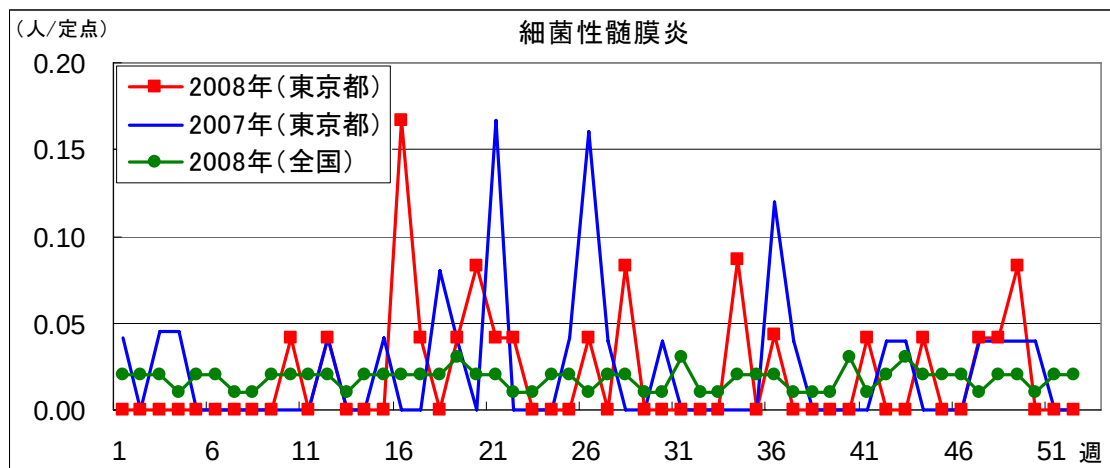
罹患年齢の傾向は例年通りで、全ての年齢階級から報告がなされたが、20歳から39歳が397件と約半数を占め、20歳から59歳が598件（69.1%）であった。10歳未満は108件（12.5%）であったが、うち73件が5歳以下であった。



(4) 基幹定点における週報告疾病

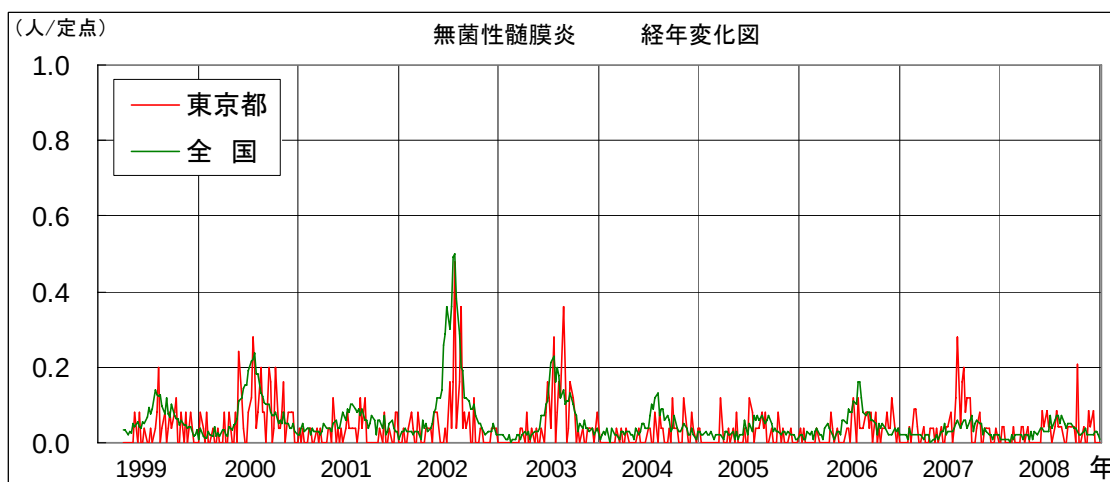
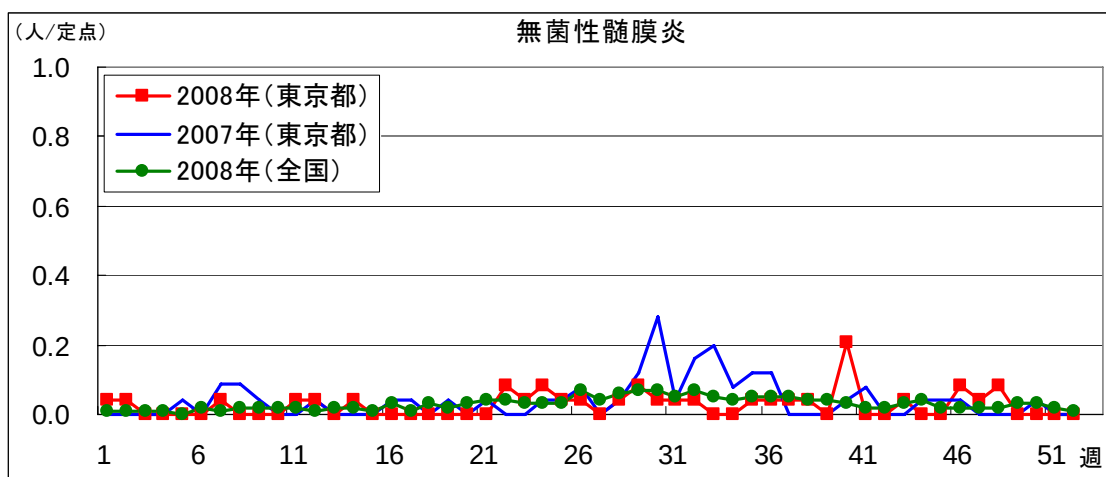
ア 細菌性髄膜炎

2008 年の患者報告数は 24 件（1.01/定点）であり、前年（28 件、1.14/定点）比 88.6%の微減であり、最近 10 年では大きな増減はない。患者報告数は 1 ～ 2 件/週のことが多く、季節的集積性はみられない。年齢的には 2 歳未満 8 件（33.3%）であるが、集積性は明らかではなく、地域的には区西部圏に多いようであるが特徴は認められない。



イ 無菌性髄膜炎

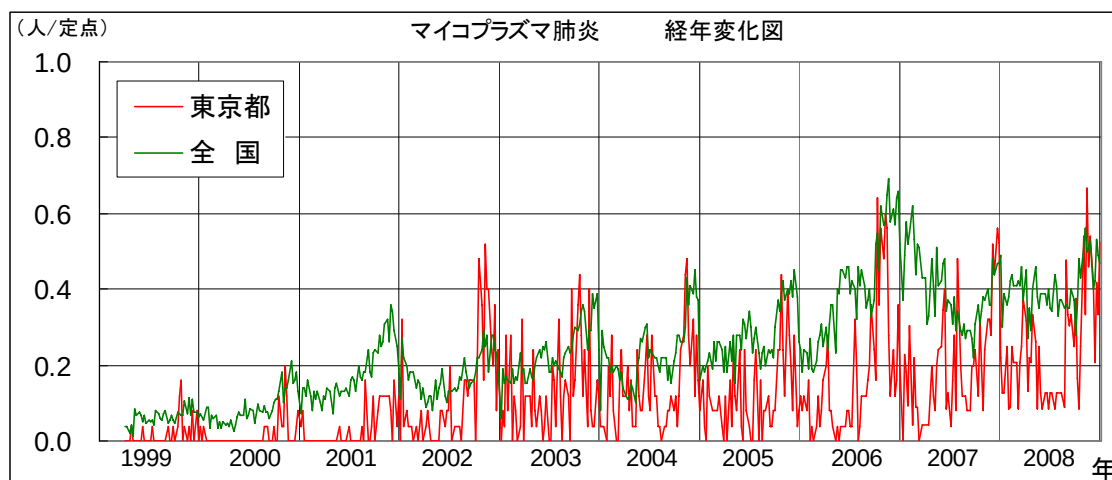
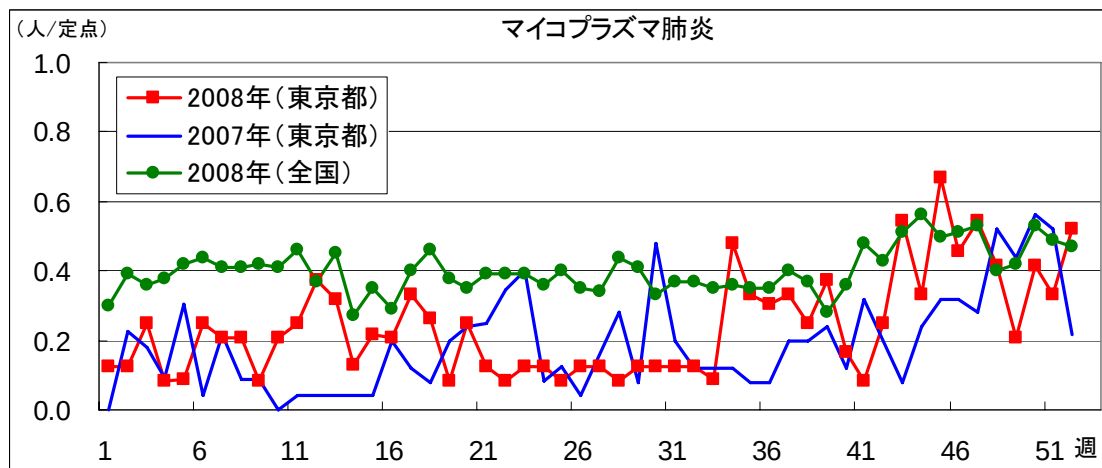
2008年の患者報告数は34件（1.42/定点）であり、前年（50件、2.03/定点）に比べて69.9%の減少である。発生時期は第22週から第40週の間22件（64.7%）が報告された。同期間は5月下旬から9月下旬の夏季であり、エンテロウイルスによる無菌性髄膜炎が想定される。当年患者の罹患年齢は12か月未満4件（11.8%）、1～3歳2件（5.9%）、4～6歳3件（8.8%）で、7歳未満9件（26.5%）、7～9歳3件（8.8%）、10～19歳6件（17.7%）、20歳以上16件（47.1%）であり、年齢的集積性は明らかでない。発生地域では北多摩西部圏に多いようであるが、特徴的ではない。



ウ マイコプラズマ肺炎

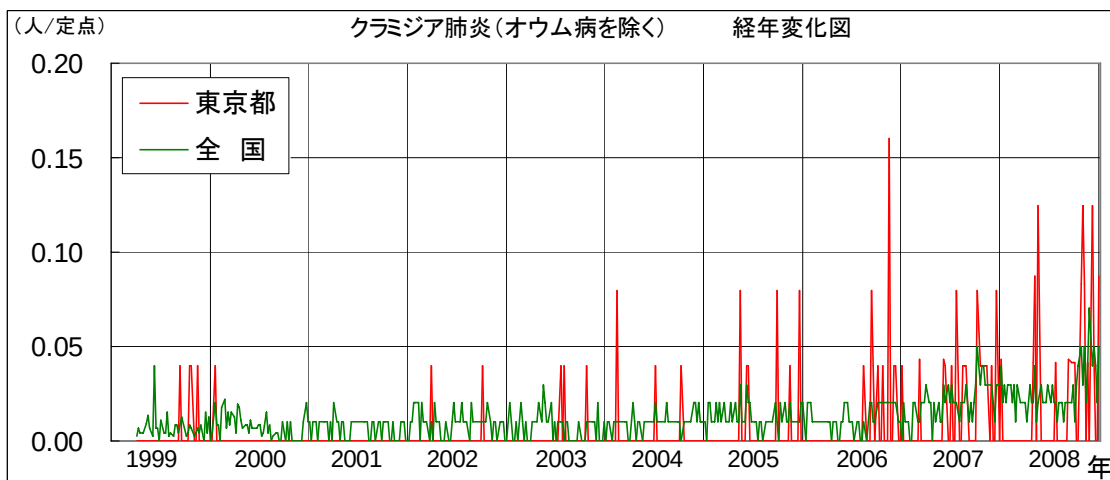
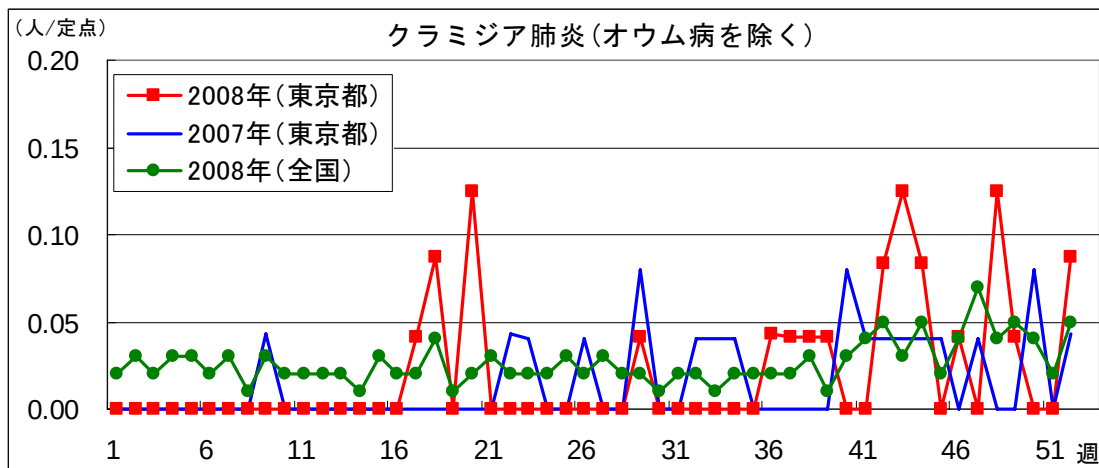
感染症予防法施行以前は「異型肺炎」あるいは「非定型肺炎」として定点報告疾患の部門で集計されてきたが、法施行後は基幹定点から確定診断を伴う報告対象疾患である。

本症の 2008 年の報告数は 298 件（12.53/定点）であり、前年（247 件、10.11/定点）比 123.9%の軽度増加であった。1999 年調査開始以来、2005 年を除いて毎年増加しており、周期的な増加年、減少年などはみられない。当年の発生報告では、年間を通じて発生しているが、晩春・初夏の候と秋期の候に発生が続くようであるが明らかでない。罹患年齢は、12 か月未満 3 件（1.0%）、1～3 歳 105 件（35.2%）、4～6 歳 77 件（25.8%）、7～9 歳 51 件（17.1%）、10～14 歳 36 件（12.1%）、15～19 歳 3 件（1.0%）、20 歳以上 23 件（7.7%）であった。ブロック別にみると、区東北部圏に多く報告されているが、特定要因は見当たらない。



エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2008 年のクラミジア肺炎患者報告数は、25 件（1.05/定点）で、前年（20 件、0.81/定点）より 5 件多く、昨年比 129.6%の増加であり、過去 10 年間では、報告数、定点当り報告数とも第 1 位である。週別発生報告をみると、冬季、春季に少なく、晩夏から秋にかけてやや多く発生しているようであるが、明らかではない。好発年齢は 70 歳以上に多いようであるが、明らかではない。ブロック別に見ると、区東北部圏で 20 件（2007 年は 20 件中 15 件）と報告数が多いが、特異的要因は見当たらない。

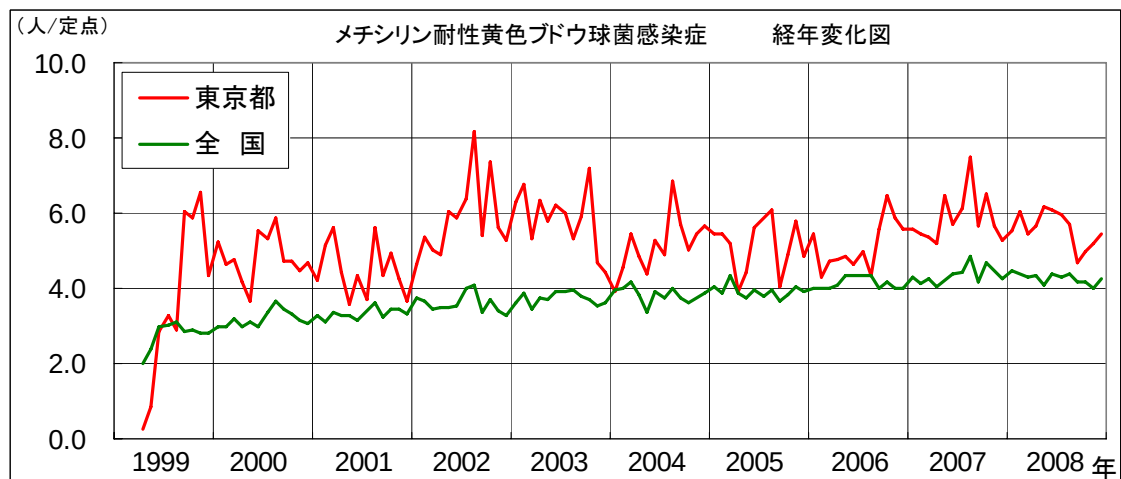
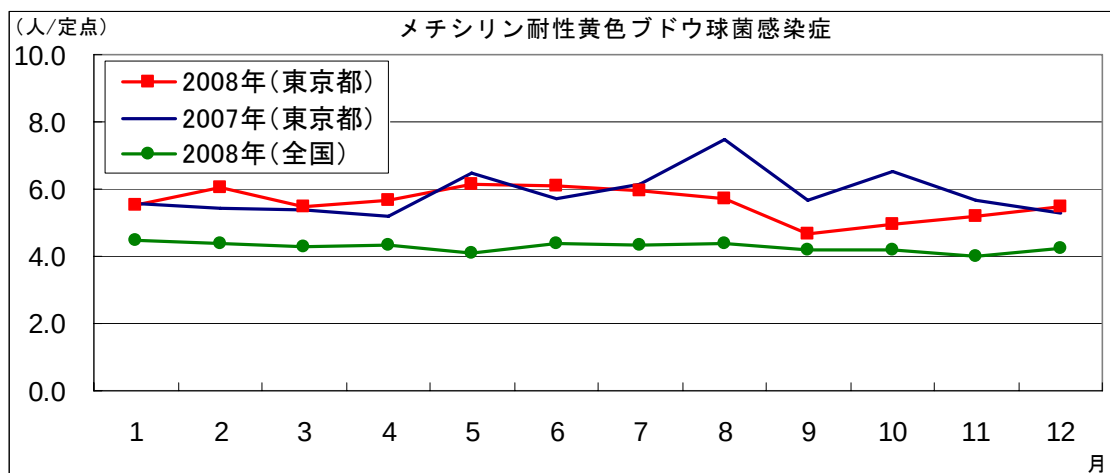


(5) 基幹定点における月報告疾病

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

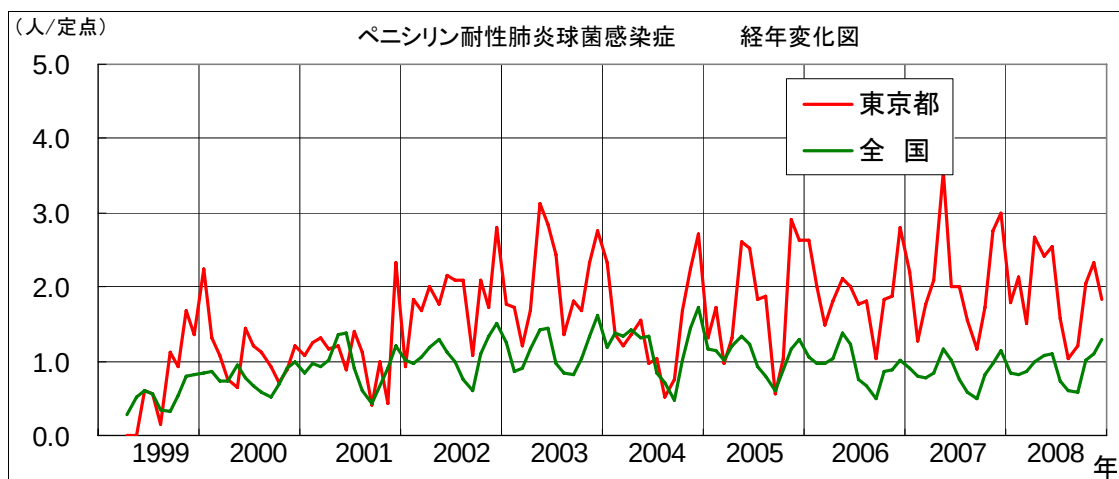
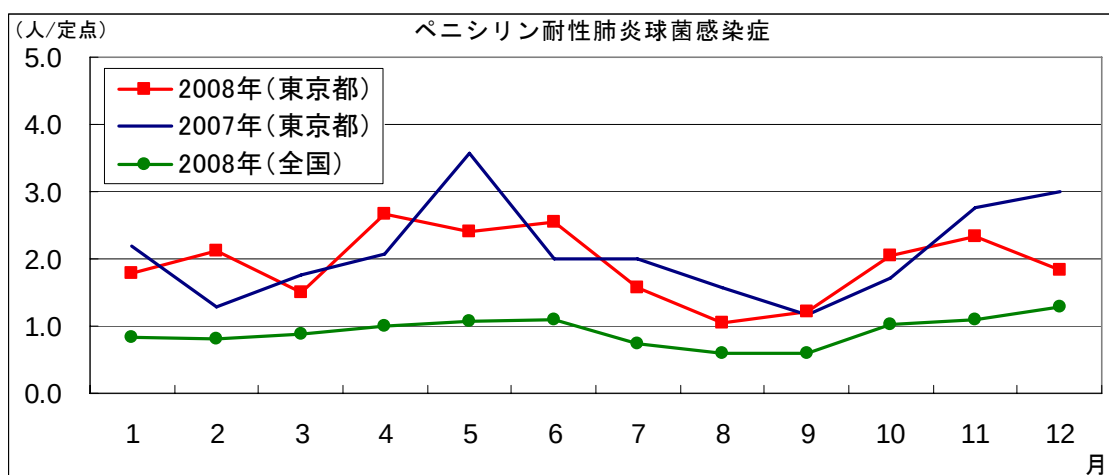
2008 年の本症患者報告数は、1,606 件（66.92/定点）であり、前年（1,758 件、70.53/定点）比 94.9% の横這いであり、患者の性別比は男性 1,006 件、女性 600 件で、男：女＝5：3 で昨年と同比率であった。月別報告では、男性は 72 件から 94 件に分散して各月に発生し、女性は 38 歳から 64 歳に分散して各月に発生して、季節差は明らかではない。

年齢的には、男女とも 5 歳未満（男児 110 件、10.9%、女児 101 件、16.8%）と 50 歳以上に好発し、特に 70 歳以上（男性 495 件 49.2%、女性 337 件、56.2%）に多い。



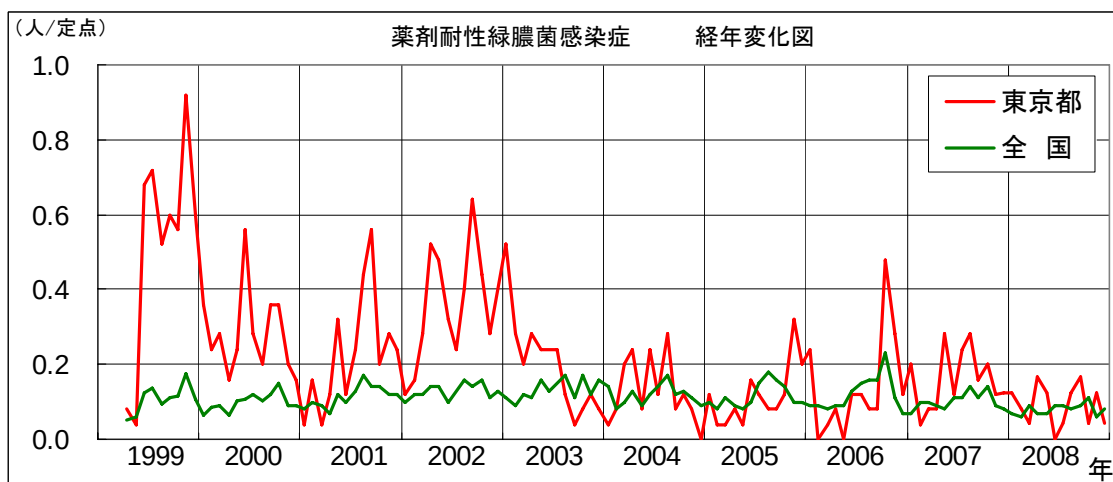
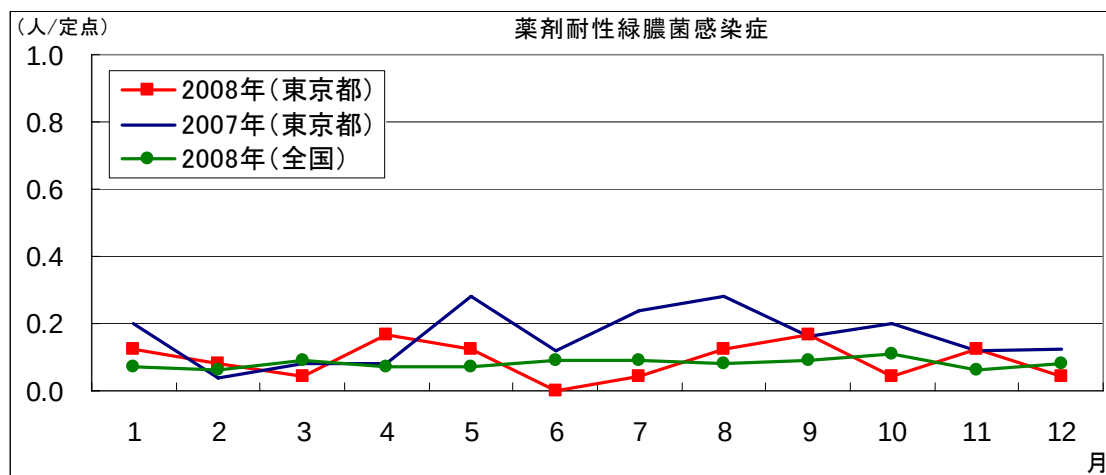
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2008年の本症患者報告数は554件（23.08/定点）であり、前年（624件、25.08/定点）比92.0%の横這いであり、患者の性別比は男：女＝338：216＝1.56：1で、昨年同様の傾向で男性に多い。月別患者数は春秋の候に多くなるようであるが、明らかではない。患者の年齢分布は昨年同様の傾向で、男女とも5歳未満（男児237件；70.1%、女児153件；70.8%）と70歳以上（男性39件；11.5%、女性26件；12.0%）に多かった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2008 年の本症報告数は 26 件（1.08/定点）で、前年（48 件、1.93/定点）比 55.9%の半減状態である。罹患者の性別では、男性 21 件、女性 5 件であり、男：女＝4.2：1 である。発生月に特長はなく、罹患年齢は、例数が少なく各年齢に少数分散しているが、70 歳以上の高齢者（男性 17 件；80.9%、女性 3 件；60.0%）が多くを占める。



(6) 性感染症 (STI)

1999 年の新感染症法の実施から 10 年が経過した 2008 年の STI 6 疾患の定点あたり報告数の合計は男子 61.14、女子 45.07 で、各々前年の 63.28、45.91 より減少した。また男女計では 1999 年の 144.4 から 106.2 と 26.5%の減少である。

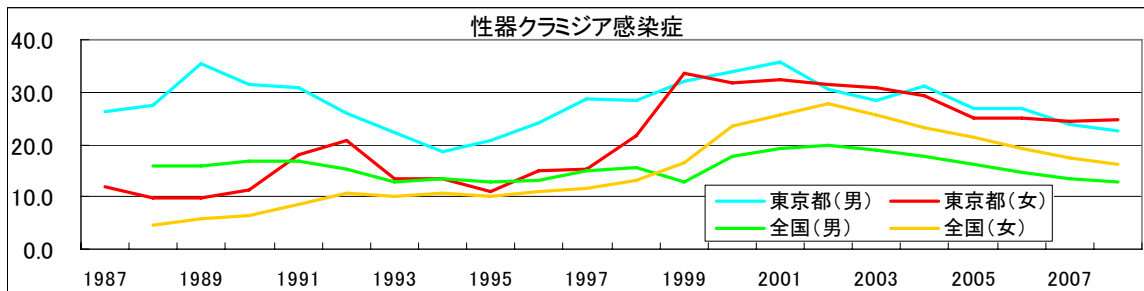
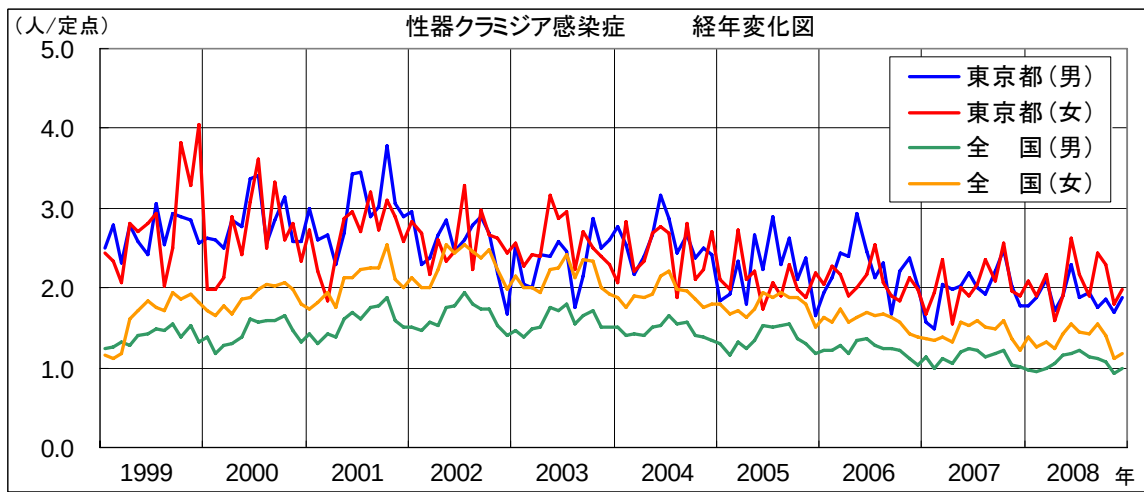
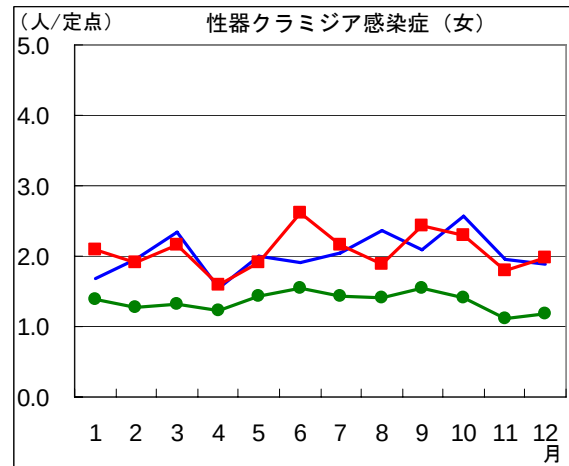
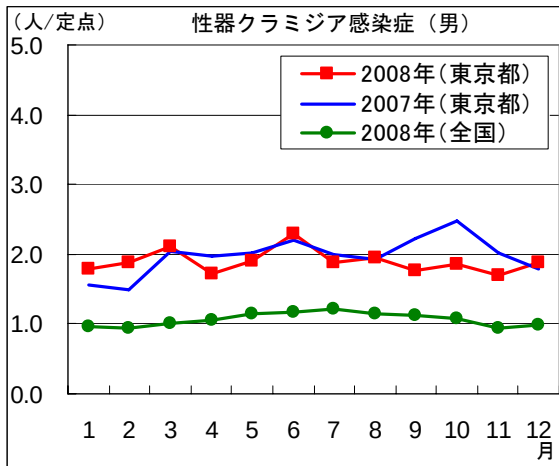
この 10 年間に日本の STI 診療に関しては淋菌、クラミジアに対する単回投与療法の普及、ヘルペスに対する予防投与、ヒト乳頭腫ウイルス検出法の進展などがあり、結果として STI 報告症例数は順調な右肩下りであるが、HIV のみは増加が抑止されていない。直近の問題としては、梅毒トレポネーマのマクロライド系抗生物質に対する耐性化、欧米における鼠径リンパ肉芽腫症 (LGV) の MSM での流行が挙げられる。

ア 性器クラミジア感染症

定点あたり報告数は男子 22.67 (23.72)、女子 24.84 (24.37) であり、前年に続き女子が男子をわずかに上まわった。第 2 表－6 の男女合計の報告数は、2007 年に定点数の増加があったにもかかわらず、2005 年以降、毎年右肩下りの減少である。新感染症法となった 10 年前の 1999 年 (65.66) と比較すると 2008 年 (47.51) は 72.4%に減少している。推移のグラフから分かるように、全国の定点あたりの報告数は東京都より少なく、女子の報告数が男子の報告数をほぼ常に上まわっている。しかし報告数の増減の推移は東京都とよく一致している。全国、東京とも報告数は、男子、女子いずれも減少傾向にあるが、東京都の女子報告数が下げ止まりつつあるように見える。

トラコーマと同一起因菌による本症は、1980 年代までその存在すら知られず、診断法の開発により、若年女子の約 5%に子宮頸管感染が存在すること、既往を含む抗体陽性者は約 30%に達することが明らかとなった。これらの情報が公表されたことにともない検査数が増加し、報告数に乱降下が生じた。その後妊婦健診などから若年女子のクラミジア・トラコマティス抗原陽性率は約 5%、抗体陽性率は約 30%であることは日本全国ほぼ共通で、最近 30 年間ほとんど変化なく経過していることが分かっている。

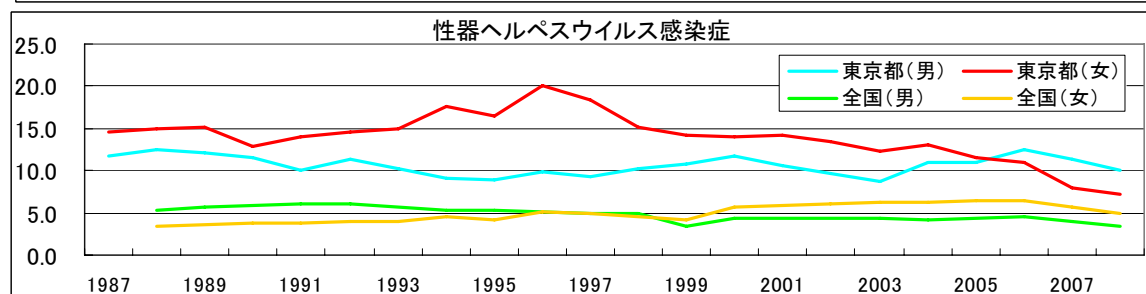
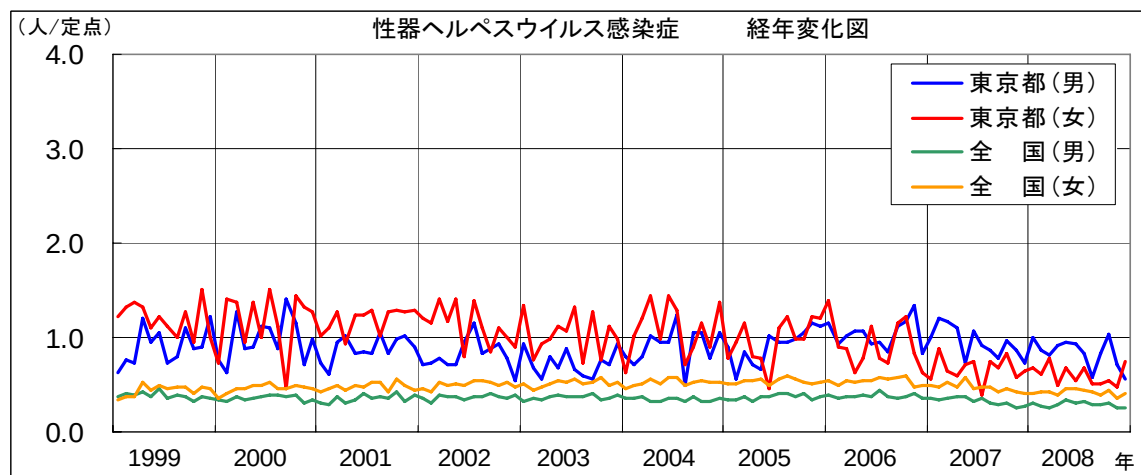
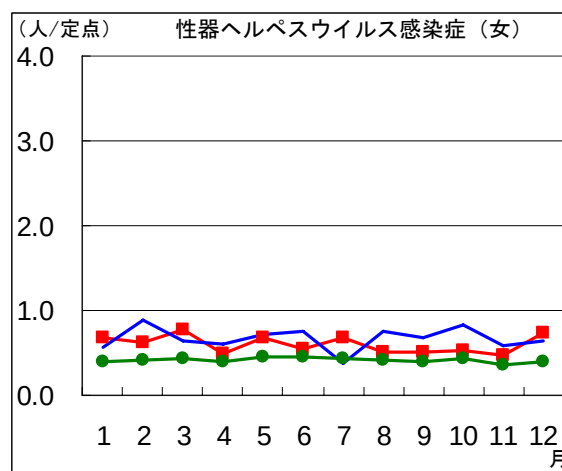
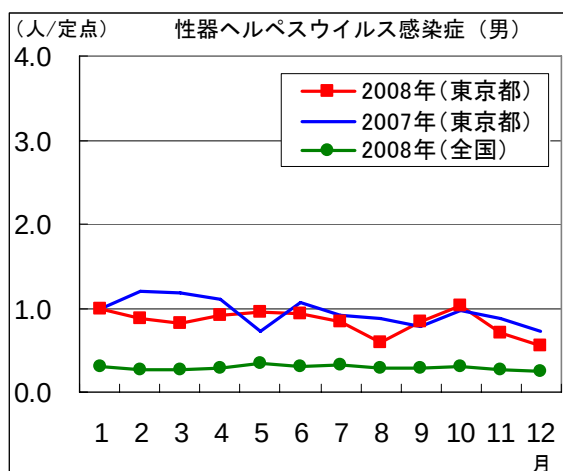
最近の女子の報告数の減少は、婦人科領域におけるアジスロマイシン単回投与治療法の普及によるものが推察される。旧性病予防法の対象疾患であり、本症と別の血清型 (L 型) であるクラミジア・トラコマティスによって引き起こされる鼠径リンパ肉芽腫症 (LGV) が、2000 年代欧米各国で MSM の間に流行しており、日本でも今後流行が危惧される。



イ 性器ヘルペスウイルス感染症

定点あたり報告数は男子 10.03 (11.41)、女子 7.22 (8.00) で、いずれも前年を下まわった（括弧内は前年報告数）。男女合計では 2006 年以後 3 年連続して前年比減である。総計では 1999 年の 24.88 から 2008 年の 17.25 と 69.3%の減少となっている。

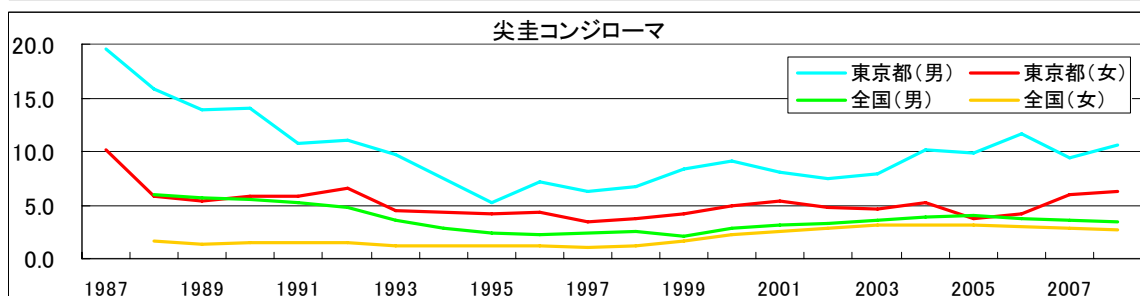
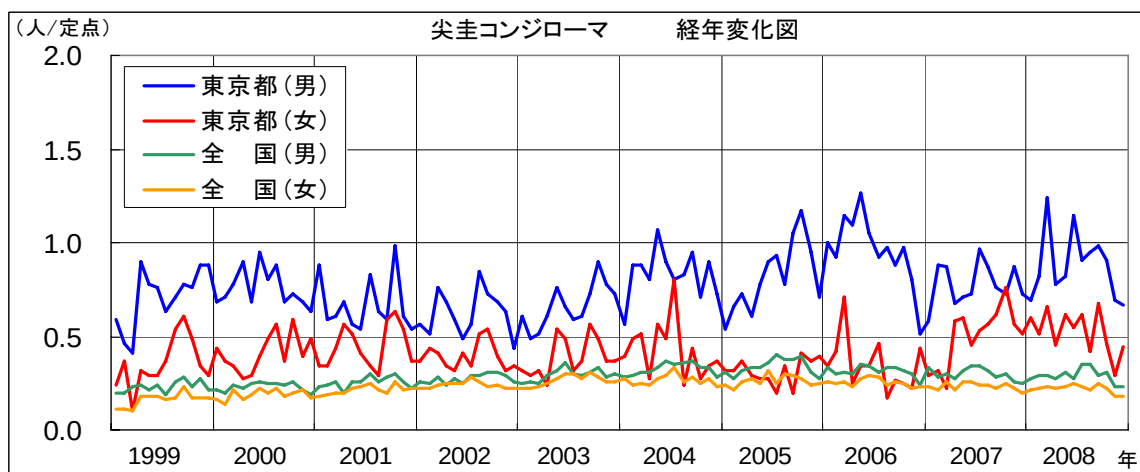
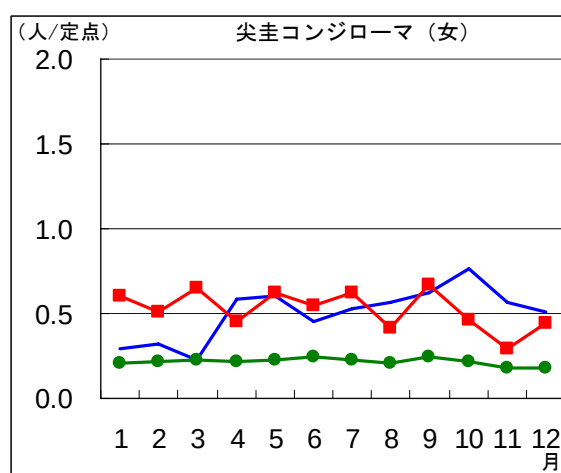
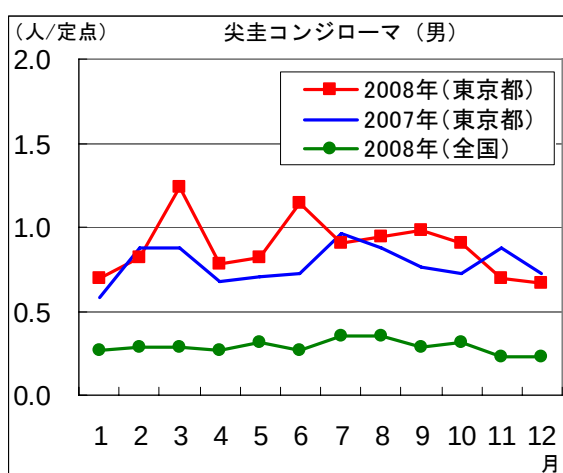
本症については、診断法、治療薬、さらには予防投与法など最近 15 年間の臨床的な進展は顕著であるが報告数の推移は増減に乏しく単調である。本症がもともと自覚されやすいため、他の疾患のような診断法の開発による把握症例数の増加があまり見られないことがその理由と推察される。



ウ 尖圭コンジローマ

定点あたり報告数は男子 10.59 (9.37)、女子 6.29 (6.02) であり、前年比では男子 1.13、女子 1.05 とともにやや増加している(括弧内は前年報告数)。男女合計では 1999 年 12.63、2008 年 16.88 と 33.7% の増加である。経年的な報告数の推移は東京都、全国とも一致している。報告数は 1995～1997 年を底とし、1995 年以前は減少傾向であり、1997 年以後は増加傾向となっている。しかし最近の増加によっても 1980 年代の数値には達していない。

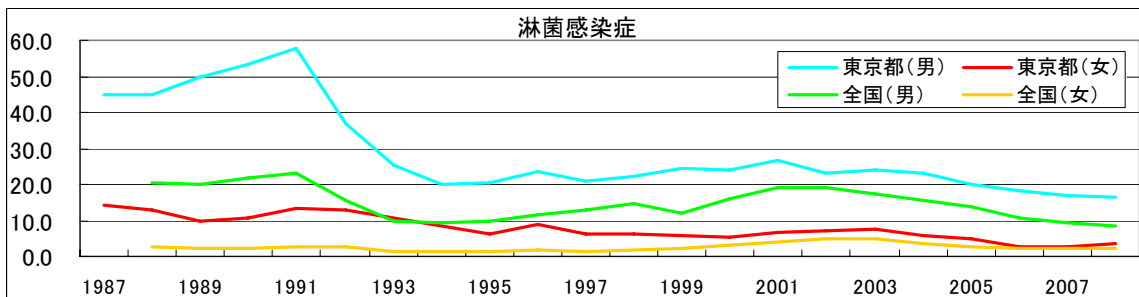
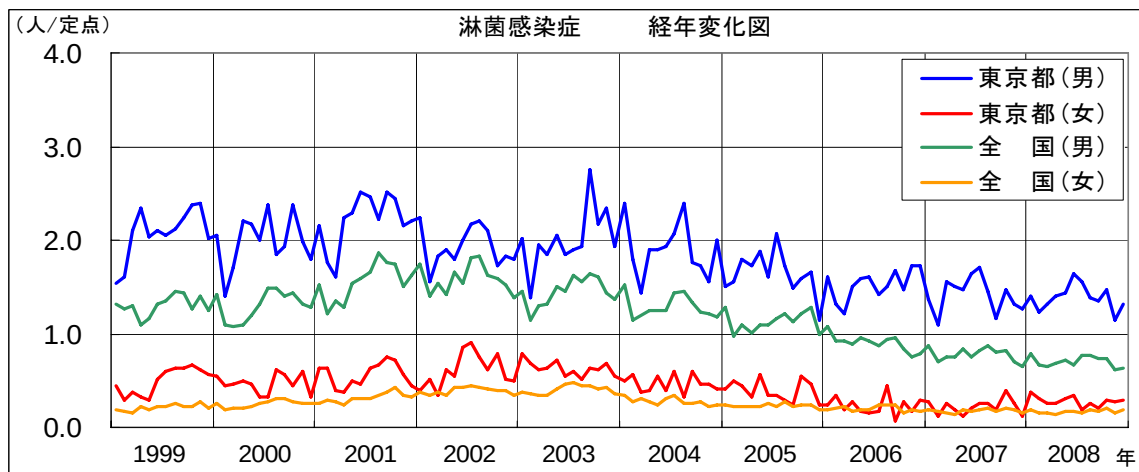
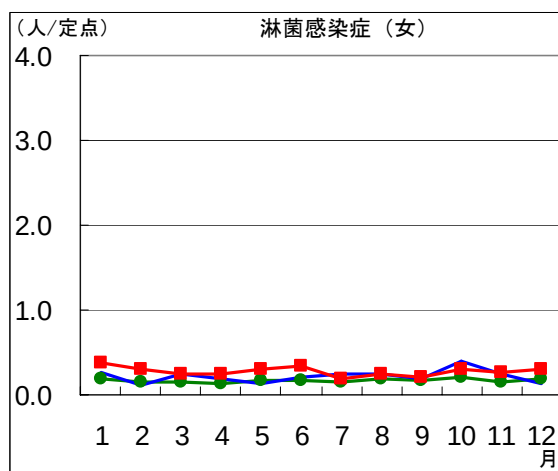
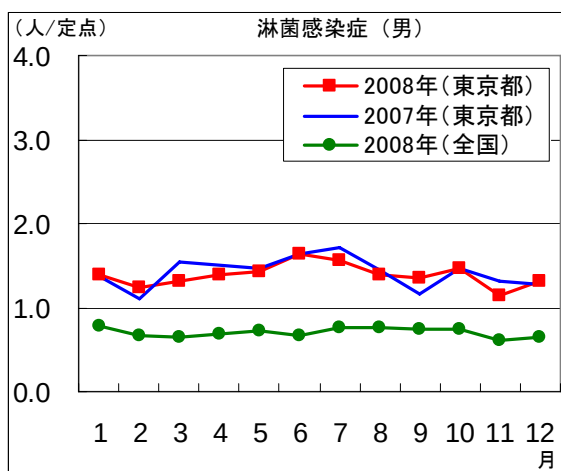
本症は子宮頸癌と同じくヒト乳頭種ウイルスの関与が判明し、欧米ではワクチンの使用が開始されている。しかし現在もコンジローマの治療は切除やレーザーなどによる物理的除去であり、ウイルス自体の陰性化の方法はない。最近免疫調整薬によるコンジローマ治療が保険適用となった。



エ 淋菌感染症

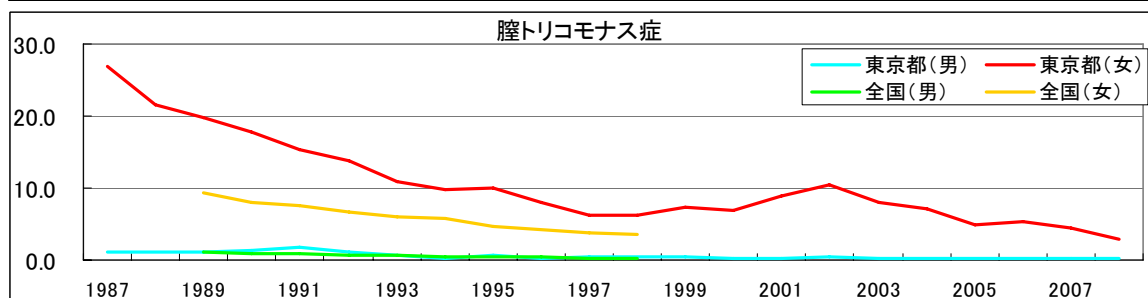
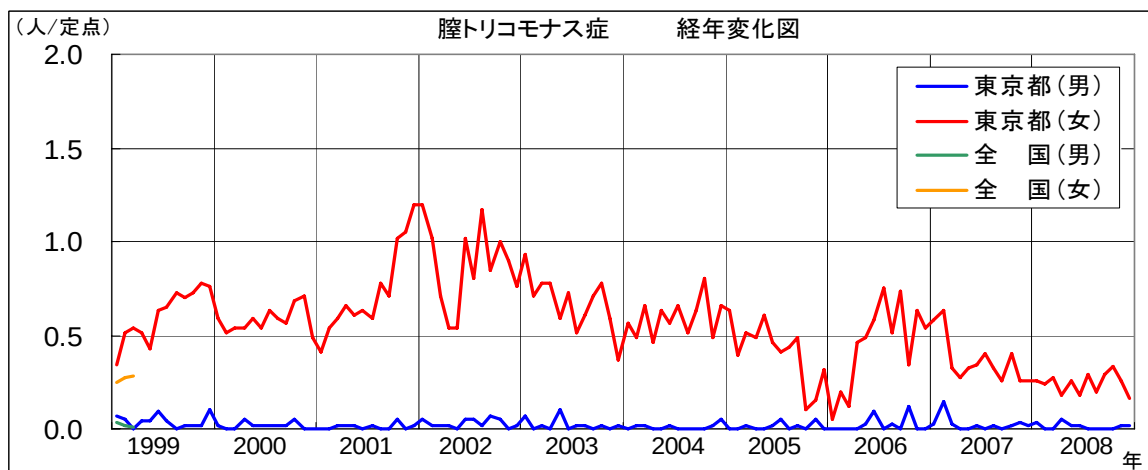
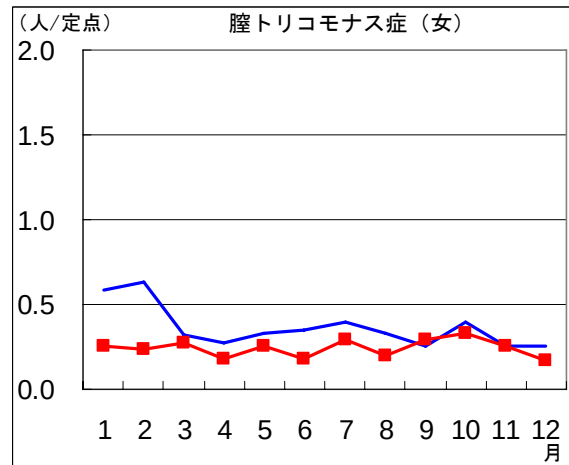
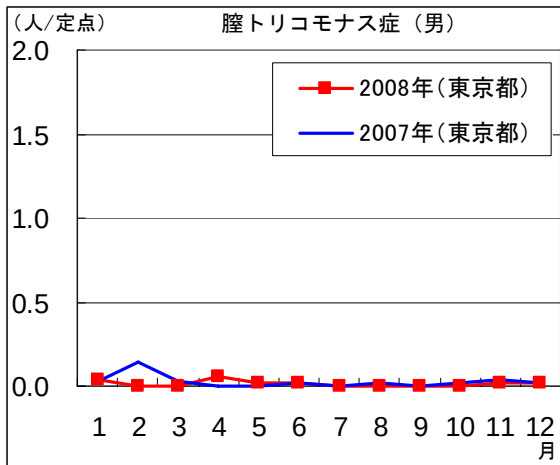
定点あたり報告数は男子 16.63 (17.01)、女子 3.36 (2.62) で、前年比男子 0.98、女子 1.28 である (括弧内は前年報告数)。男女合計では 19.99 で、1999 年の 30.49 から減少が著しい。

淋菌は耐性化が速く、抗菌薬使用量が多い日本は分離された淋菌の薬剤耐性率が世界最高である。1970 年代から伝達性プラスミドをもつペニシリナーゼ産生淋菌の出現など、新規開発の抗菌薬と菌の耐性化との繰り返し、ペニシリンとは異なってクラミジアにも有効なキノロン薬の不適切な使用による世界最速の耐性化が問題となった。しかし 1986 年登場の CTRX は、咽頭を含め全ての部位の淋菌を単回投与で陰性化することが可能である。このことが最近における本症の抑制の理由と思われる。



オ 臍トリコモナス症

定点あたり報告数は男子 0.16 (0.30)、女子 2.92 (4.38) で、男女合計は 1999 年の 7.88 から 2008 年の 3.08 へと半減している（括弧内は前年報告数）。



カ 梅毒様疾患

定点あたり報告数は男子 1.06 (1.46)、女子 0.44 (0.53) となっており、男女とも減少している（括弧内は前年報告数）。男女合計は 1999 年の 2.88 から 2008 年の 1.50 に減少である。

自覚症状が明瞭でない本症の診断は日本で繁用される梅毒血清反応によっている。既往の感染を含む抗体陽性は、献血者 0.2%、妊婦健診 0.17%とともに低いことから本症の抑制は確実である。しかし HIV 陽性者の梅毒抗体陽性率は 50%超と高く、MSM については抑制が十分でない。

1999 年から 2008 年までの全国の先天性梅毒報告数は 75 件である。最近の報告数は 2007 年 7 件、2008 年は 9 件と増加傾向にある。

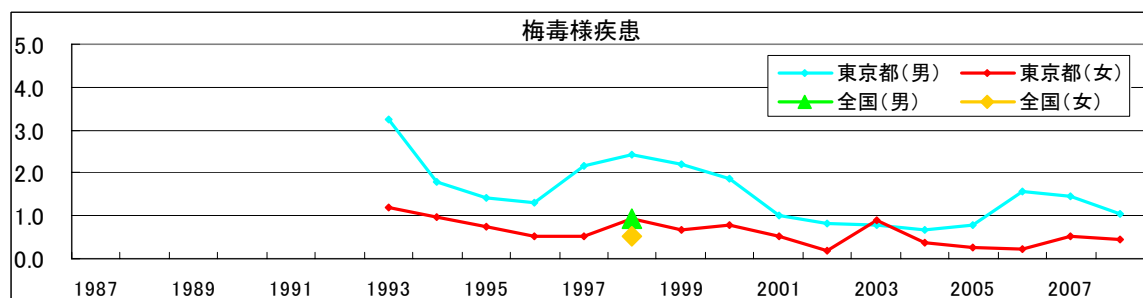
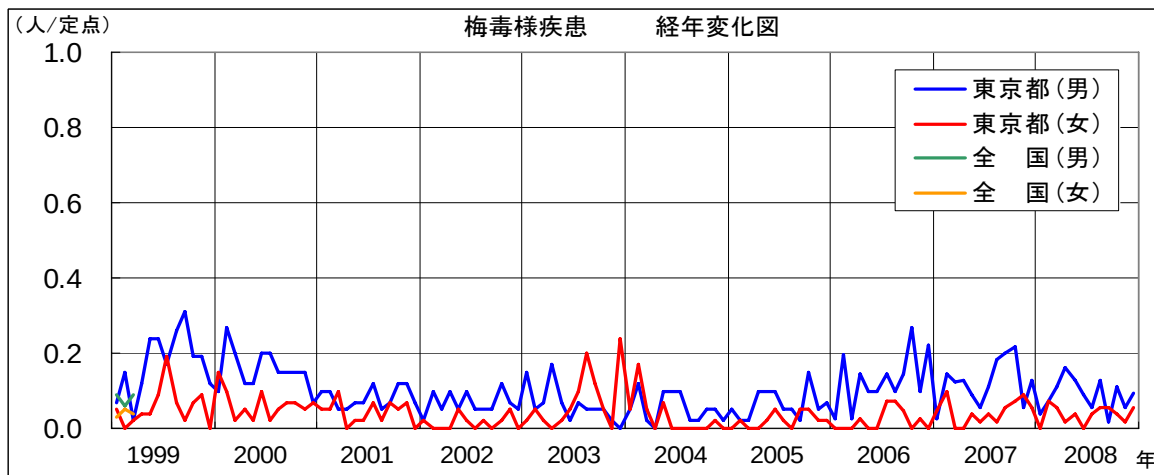
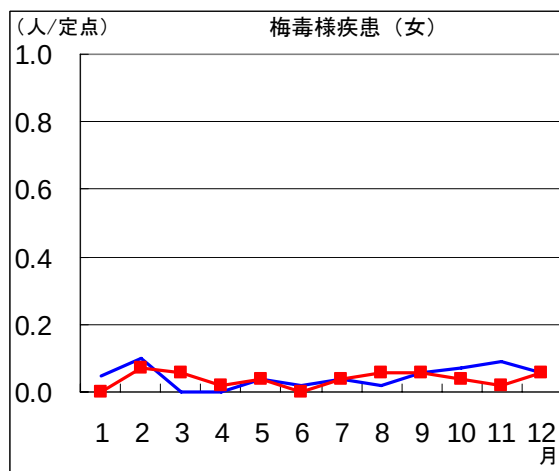
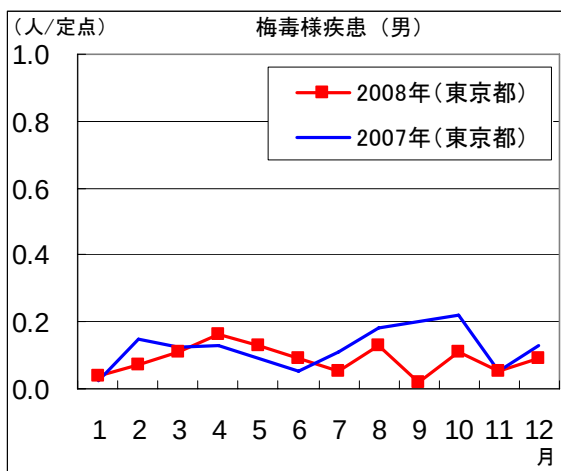


表 4-1 (1) 週別患者報告数 (インフルエンザ・小児科)

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

週	期間	人		報告小児科 定点数	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
		報告 インフル エンザ	定点 数												
1	12. 31～ 1. 6	260	567	134	17	11	34	447	152	1	14	18		1	7
2	1. 7～ 1.13	288	1,531	148	44	37	167	1,689	327	14	44	79	1	4	52
3	1.14～ 1.20	289	1,595	150	17	38	225	1,318	152	10	31	77	2	2	29
4	1.21～ 1.27	289	2,475	150	27	16	285	1,366	225	12	30	90	3	3	26
5	1.28～ 2. 3	288	3,052	150	16	25	277	1,509	160	9	28	79	2	3	32
6	2. 4～ 2.10	288	2,371	150	23	39	361	1,589	176	10	22	105	2	3	29
7	2.11～ 2.17	288	1,568	149	15	19	307	1,612	157	5	17	75		2	48
8	2.18～ 2.24	288	1,516	149	14	37	371	1,999	183	15	20	77	2	2	44
9	2.25～ 3. 2	289	1,027	150	11	27	409	2,028	190	4	19	92	4	2	37
10	3. 3～ 3. 9	286	849	150	13	26	387	2,337	179	3	19	81	3	1	59
11	3.10～ 3.16	289	750	150	3	32	382	2,380	185	7	18	91	2		47
12	3.17～ 3.23	288	394	150	10	34	313	1,800	179	4	17	66		3	50
13	3.24～ 3.30	288	233	149	12	32	264	1,411	201	7	30	84	4	2	72
14	3.31～ 4. 6	287	121	150	6	26	191	1,152	178	4	24	92	6	1	42
15	4. 7～ 4.13	287	112	149	11	26	258	1,101	170	7	21	115	6	5	66
16	4.14～ 4.20	289	141	150	4	28	335	1,189	198	8	26	116	6	3	45
17	4.21～ 4.27	288	135	150	5	46	365	1,101	231	11	36	126	12	8	46
18	4.28～ 5. 4	281	93	146	6	59	312	794	203	16	17	74	7	7	62
19	5. 5～ 5.11	286	19	149	2	58	250	745	250	16	15	81	6	8	49
20	5.12～ 5.18	285	48	148	1	64	437	888	239	16	20	103	11	15	57
21	5.19～ 5.25	288	36	149	4	71	433	1,075	198	24	34	108	9	33	63
22	5.26～ 6. 1	285	37	147		89	373	905	271	46	31	91	16	33	50
23	6. 2～ 6. 8	287	33	148	2	77	494	992	238	53	31	114	15	100	94
24	6. 9～ 6.15	287	22	149	3	105	395	981	282	101	48	115	8	157	62
25	6.16～ 6.22	289	11	150	1	142	408	932	295	139	33	113	9	225	125
26	6.23～ 6.29	284	20	147		98	370	792	226	133	37	120	11	393	115
27	6.30～ 7. 6	284	7	147		121	385	867	194	188	37	106	6	460	100
28	7. 7～ 7.13	286	5	148	1	143	270	739	170	254	30	122	11	803	147
29	7.14～ 7.20	282	6	147	2	152	199	581	150	300	39	93	10	1,032	87
30	7.21～ 7.27	285	4	148	1	121	129	505	102	257	13	92	3	666	100
31	7.28～ 8. 3	286	4	148	14	132	150	494	100	249	13	114	5	709	100
32	8. 4～ 8.10	275	5	144	8	128	95	455	79	230	11	113	8	404	89
33	8.11～ 8.17	269		137	10	62	58	324	53	142	6	66	1	229	53
34	8.18～ 8.24	278	2	144	25	76	83	426	32	115	13	94	4	196	90
35	8.25～ 8.31	282	2	146	12	71	99	423	33	119	9	111	6	191	77
36	9. 1～ 9. 7	284	4	147	21	61	128	465	64	184	7	128	5	180	49
37	9. 8～ 9.14	282	2	145	40	49	128	486	54	169	9	119	1	137	65
38	9.15～ 9.21	277	7	144	40	40	110	444	54	146	12	116	3	74	88
39	9.22～ 9.28	285	10	147	56	33	177	471	74	175	10	110	4	101	75
40	9.29～10. 5	286	5	147	74	19	160	501	58	176	7	91	3	60	74
41	10. 6～10.12	285	19	147	88	24	208	528	74	178	10	100	1	37	78
42	10.13～10.19	285	14	147	96	18	155	515	88	141	6	96	3	29	104
43	10.20～10.26	283	9	147	113	28	232	605	84	166	27	111	6	27	84
44	10.27～11. 2	283	11	145	156	27	234	678	111	129	26	102	4	14	70
45	11. 3～11. 9	286	30	149	114	33	185	730	120	98	15	83	1	20	102
46	11.10～11.16	287	77	148	106	32	284	1,209	204	80	17	107	5	15	81
47	11.17～11.23	282	150	146	122	40	278	1,637	158	76	17	93	7	13	81
48	11.24～11.30	284	184	147	90	45	228	1,592	183	52	15	72	5	12	85
49	12. 1～12. 7	287	478	149	99	56	335	2,292	193	44	28	82	7	13	88
50	12. 8～12.14	284	674	147	77	65	415	2,800	264	61	41	84	12	9	90
51	12.15～12.21	284	1,137	148	50	52	457	2,678	252	56	39	92	4	13	100
52	12.22～12.28	282	1,457	148	40	37	340	2,104	289	27	29	65	6	10	97
合 計			23,059		1,722	2,927	13,925	58,681	8,682	4,487	1,168	4,944	278	6,470	3,662

表4-1 (2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2008年第1週～2008年第52週

週	期間	報告 小児科 定点数	不明 発しん 症	人 M C L S (川崎病)
1	12.31～1.6	134	1	
2	1.7～1.13	148	6	6
3	1.14～1.20	150	10	3
4	1.21～1.27	150	10	3
5	1.28～2.3	150	6	6
6	2.4～2.10	150	9	
7	2.11～2.17	149	5	
8	2.18～2.24	149	10	
9	2.25～3.2	150	6	2
10	3.3～3.9	150	9	2
11	3.10～3.16	150	8	2
12	3.17～3.23	150	6	4
13	3.24～3.30	149	5	3
14	3.31～4.6	150	9	2
15	4.7～4.13	149	16	4
16	4.14～4.20	150	13	3
17	4.21～4.27	150	10	3
18	4.28～5.4	146	9	
19	5.5～5.11	149	7	3
20	5.12～5.18	148	15	
21	5.19～5.25	149	9	5
22	5.26～6.1	147	12	
23	6.2～6.8	148	20	4
24	6.9～6.15	149	25	1
25	6.16～6.22	150	23	6
26	6.23～6.29	147	26	1
27	6.30～7.6	147	39	1
28	7.7～7.13	148	24	2
29	7.14～7.20	147	28	2
30	7.21～7.27	148	37	1
31	7.28～8.3	148	21	4
32	8.4～8.10	144	19	1
33	8.11～8.17	137	18	1
34	8.18～8.24	144	14	1
35	8.25～8.31	146	7	
36	9.1～9.7	147	15	3
37	9.8～9.14	145	16	
38	9.15～9.21	144	19	
39	9.22～9.28	147	15	4
40	9.29～10.5	147	14	2
41	10.6～10.12	147	14	4
42	10.13～10.19	147	11	
43	10.20～10.26	147	19	1
44	10.27～11.2	145	28	
45	11.3～11.9	149	11	3
46	11.10～11.16	148	5	2
47	11.17～11.23	146	19	4
48	11.24～11.30	147	15	1
49	12.1～12.7	149	11	3
50	12.8～12.14	147	4	2
51	12.15～12.21	148	16	2
52	12.22～12.28	148	10	2
合 計			734	109

報告 眼科 定点数	急性 出血性 結膜炎	流行 性角 結膜炎	人
35		7	
39		22	
38		14	
39		8	
39	3	16	
39	2	16	
38	1	18	
39	1	20	
39		16	
39	4	21	
39		12	
38	1	10	
38	1	13	
39	1	12	
38	2	7	
38	3	16	
38	4	17	
38	3	20	
39	1	20	
39	2	21	
38		26	
39	2	16	
39	2	19	
39	1	23	
39	2	28	
39	2	35	
39	1	25	
38	4	20	
39	2	24	
39	2	19	
38		27	
38	1	23	
37	1	15	
37	1	13	
39	3	18	
39	1	16	
39	3	21	
39		9	
39		16	
39	2	11	
39	1	18	
39		8	
39		20	
39	1	12	
39		13	
39		11	
38		12	
39		6	
39		12	
39		10	
39	3	16	
37		17	
	64	865	

報告 基幹 定点数	細菌 性髄 膜炎	無菌 性髄 膜炎	マイ コプラ ズマ 肺炎	人 クラ ミジ ア肺 炎 (オ ウム 病は 除く)
24		1	3	
24		1	3	
24			6	
24			2	
23			2	
24			6	
24		1	5	
24			5	
24			2	
24	1		5	
24		1	6	
24	1	1	9	
22			7	
23		1	3	
23			5	
24	4		5	
24	1		8	1
23			6	2
24	1		2	
24	2		6	3
24	1		3	
24	1	2	2	
24		1	3	
24		2	3	
24		1	2	
24	1	1	3	
24			3	
24	2	1	2	
24		2	3	1
24		1	3	
24		1	3	
23			2	
23	2		11	
24		1	8	
23	1	1	7	1
24		1	8	1
24		1	6	1
24			9	1
24		5	4	
24	1		2	
24			6	2
24		1	13	3
24	1		8	2
24			16	
24		2	11	1
24	1	1	13	
24	1	2	10	3
24	2		5	1
24			10	
24			8	
23			12	2
	24	34	298	25

表４－２ （１） 週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

週	期間	人／定点		報告 小児科 定点数	感 染 症 R S ウ ィ ル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 菌 咽 頭 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
		報告 イン フル エン ザ 定点 数	イン フル エン ザ 人／ 定点												
1	12. 31～ 1. 6	260	2.18	134	0.13	0.08	0.25	3.34	1.13	0.01	0.10	0.13		0.01	0.05
2	1. 7～ 1.13	288	5.32	148	0.30	0.25	1.13	11.41	2.21	0.09	0.30	0.53	0.01	0.03	0.35
3	1.14～ 1.20	289	5.52	150	0.11	0.25	1.50	8.79	1.01	0.07	0.21	0.51	0.01	0.01	0.19
4	1.21～ 1.27	289	8.56	150	0.18	0.11	1.90	9.11	1.50	0.08	0.20	0.60	0.02	0.02	0.17
5	1.28～ 2. 3	288	10.60	150	0.11	0.17	1.85	10.06	1.07	0.06	0.19	0.53	0.01	0.02	0.21
6	2. 4～ 2.10	288	8.23	150	0.15	0.26	2.41	10.59	1.17	0.07	0.15	0.70	0.01	0.02	0.19
7	2.11～ 2.17	288	5.44	149	0.10	0.13	2.06	10.82	1.05	0.03	0.11	0.50		0.01	0.32
8	2.18～ 2.24	288	5.26	149	0.09	0.25	2.49	13.42	1.23	0.10	0.13	0.52	0.01	0.01	0.30
9	2.25～ 3. 2	289	3.55	150	0.07	0.18	2.73	13.52	1.27	0.03	0.13	0.61	0.03	0.01	0.25
10	3. 3～ 3. 9	286	2.97	150	0.09	0.17	2.58	15.58	1.19	0.02	0.13	0.54	0.02	0.01	0.39
11	3.10～ 3.16	289	2.60	150	0.02	0.21	2.55	15.87	1.23	0.05	0.12	0.61	0.01		0.31
12	3.17～ 3.23	288	1.37	150	0.07	0.23	2.09	12.00	1.19	0.03	0.11	0.44		0.02	0.33
13	3.24～ 3.30	288	0.81	149	0.08	0.21	1.77	9.47	1.35	0.05	0.20	0.56	0.03	0.01	0.48
14	3.31～ 4. 6	287	0.42	150	0.04	0.17	1.27	7.68	1.19	0.03	0.16	0.61	0.04	0.01	0.28
15	4. 7～ 4.13	287	0.39	149	0.07	0.17	1.73	7.39	1.14	0.05	0.14	0.77	0.04	0.03	0.44
16	4.14～ 4.20	289	0.49	150	0.03	0.19	2.23	7.93	1.32	0.05	0.17	0.77	0.04	0.02	0.30
17	4.21～ 4.27	288	0.47	150	0.03	0.31	2.43	7.34	1.54	0.07	0.24	0.84	0.08	0.05	0.31
18	4.28～ 5. 4	281	0.33	146	0.04	0.40	2.14	5.44	1.39	0.11	0.12	0.51	0.05	0.05	0.42
19	5. 5～ 5.11	286	0.07	149	0.01	0.39	1.68	5.00	1.68	0.11	0.10	0.54	0.04	0.05	0.33
20	5.12～ 5.18	285	0.17	148	0.01	0.43	2.95	6.00	1.61	0.11	0.14	0.70	0.07	0.10	0.39
21	5.19～ 5.25	288	0.13	149	0.03	0.48	2.91	7.21	1.33	0.16	0.23	0.72	0.06	0.22	0.42
22	5.26～ 6. 1	285	0.13	147		0.61	2.54	6.16	1.84	0.31	0.21	0.62	0.11	0.22	0.34
23	6. 2～ 6. 8	287	0.11	148	0.01	0.52	3.34	6.70	1.61	0.36	0.21	0.77	0.10	0.68	0.64
24	6. 9～ 6.15	287	0.08	149	0.02	0.70	2.65	6.58	1.89	0.68	0.32	0.77	0.05	1.05	0.42
25	6.16～ 6.22	289	0.04	150	0.01	0.95	2.72	6.21	1.97	0.93	0.22	0.75	0.06	1.50	0.83
26	6.23～ 6.29	284	0.07	147		0.67	2.52	5.39	1.54	0.90	0.25	0.82	0.07	2.67	0.78
27	6.30～ 7. 6	284	0.02	147		0.82	2.62	5.90	1.32	1.28	0.25	0.72	0.04	3.13	0.68
28	7. 7～ 7.13	286	0.02	148	0.01	0.97	1.82	4.99	1.15	1.72	0.20	0.82	0.07	5.43	0.99
29	7.14～ 7.20	282	0.02	147	0.01	1.03	1.35	3.95	1.02	2.04	0.27	0.63	0.07	7.02	0.59
30	7.21～ 7.27	285	0.01	148	0.01	0.82	0.87	3.41	0.69	1.74	0.09	0.62	0.02	4.50	0.68
31	7.28～ 8. 3	286	0.01	148	0.09	0.89	1.01	3.34	0.68	1.68	0.09	0.77	0.03	4.79	0.68
32	8. 4～ 8.10	275	0.02	144	0.06	0.89	0.66	3.16	0.55	1.60	0.08	0.78	0.06	2.81	0.62
33	8.11～ 8.17	269		137	0.07	0.45	0.42	2.36	0.39	1.04	0.04	0.48	0.01	1.67	0.39
34	8.18～ 8.24	278	0.01	144	0.17	0.53	0.58	2.96	0.22	0.80	0.09	0.65	0.03	1.36	0.63
35	8.25～ 8.31	282	0.01	146	0.08	0.49	0.68	2.90	0.23	0.82	0.06	0.76	0.04	1.31	0.53
36	9. 1～ 9. 7	284	0.01	147	0.14	0.41	0.87	3.16	0.44	1.25	0.05	0.87	0.03	1.22	0.33
37	9. 8～ 9.14	282	0.01	145	0.28	0.34	0.88	3.35	0.37	1.17	0.06	0.82	0.01	0.94	0.45
38	9.15～ 9.21	277	0.03	144	0.28	0.28	0.76	3.08	0.38	1.01	0.08	0.81	0.02	0.51	0.61
39	9.22～ 9.28	285	0.04	147	0.38	0.22	1.20	3.20	0.50	1.19	0.07	0.75	0.03	0.69	0.51
40	9.29～10. 5	286	0.02	147	0.50	0.13	1.09	3.41	0.39	1.20	0.05	0.62	0.02	0.41	0.50
41	10. 6～10.12	285	0.07	147	0.60	0.16	1.41	3.59	0.50	1.21	0.07	0.68	0.01	0.25	0.53
42	10.13～10.19	285	0.05	147	0.65	0.12	1.05	3.50	0.60	0.96	0.04	0.65	0.02	0.20	0.71
43	10.20～10.26	283	0.03	147	0.77	0.19	1.58	4.12	0.57	1.13	0.18	0.76	0.04	0.18	0.57
44	10.27～11. 2	283	0.04	145	1.08	0.19	1.61	4.68	0.77	0.89	0.18	0.70	0.03	0.10	0.48
45	11. 3～11. 9	286	0.10	149	0.77	0.22	1.24	4.90	0.81	0.66	0.10	0.56	0.01	0.13	0.68
46	11.10～11.16	287	0.27	148	0.72	0.22	1.92	8.17	1.38	0.54	0.11	0.72	0.03	0.10	0.55
47	11.17～11.23	282	0.53	146	0.84	0.27	1.90	11.21	1.08	0.52	0.12	0.64	0.05	0.09	0.55
48	11.24～11.30	284	0.65	147	0.61	0.31	1.55	10.83	1.24	0.35	0.10	0.49	0.03	0.08	0.58
49	12. 1～12. 7	287	1.67	149	0.66	0.38	2.25	15.38	1.30	0.30	0.19	0.55	0.05	0.09	0.59
50	12. 8～12.14	284	2.37	147	0.52	0.44	2.82	19.05	1.80	0.41	0.28	0.57	0.08	0.06	0.61
51	12.15～12.21	284	4.00	148	0.34	0.35	3.09	18.09	1.70	0.38	0.26	0.62	0.03	0.09	0.68
52	12.22～12.28	282	5.17	148	0.27	0.25	2.30	14.22	1.95	0.18	0.20	0.44	0.04	0.07	0.66
平 均			1.55		0.23	0.38	1.81	7.61	1.13	0.59	0.15	0.64	0.04	0.85	0.48

表 4-2 (2) 週別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹) 2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

週	期間	人／定点		報告眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	人／定点		報告基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
		報告小児科定点数	不明発しん症 (MCLS (川崎病))										
1	12. 31～ 1. 6	134	0.01			0.20			24		0.04	0.13	
2	1. 7～ 1.13	148	0.04	0.04		0.56			24		0.04	0.13	
3	1.14～ 1.20	150	0.07	0.02		0.37			24			0.25	
4	1.21～ 1.27	150	0.07	0.02		0.21			24			0.08	
5	1.28～ 2. 3	150	0.04	0.04	0.08	0.41			23			0.09	
6	2. 4～ 2.10	150	0.06		0.05	0.41			24			0.25	
7	2.11～ 2.17	149	0.03		0.03	0.47			24		0.04	0.21	
8	2.18～ 2.24	149	0.07		0.03	0.51			24			0.21	
9	2.25～ 3. 2	150	0.04	0.01		0.41			24			0.08	
10	3. 3～ 3. 9	150	0.06	0.01	0.10	0.54			24	0.04		0.21	
11	3.10～ 3.16	150	0.05	0.01		0.31			24		0.04	0.25	
12	3.17～ 3.23	150	0.04	0.03	0.03	0.26			24	0.04	0.04	0.38	
13	3.24～ 3.30	149	0.03	0.02	0.03	0.34			22			0.32	
14	3.31～ 4. 6	150	0.06	0.01	0.03	0.31			23		0.04	0.13	
15	4. 7～ 4.13	149	0.11	0.03	0.05	0.18			23			0.22	
16	4.14～ 4.20	150	0.09	0.02	0.08	0.42			24	0.17		0.21	
17	4.21～ 4.27	150	0.07	0.02	0.11	0.45			24	0.04		0.33	0.04
18	4.28～ 5. 4	146	0.06		0.08	0.53			23			0.26	0.09
19	5. 5～ 5.11	149	0.05	0.02	0.03	0.51			24	0.04		0.08	
20	5.12～ 5.18	148	0.10		0.05	0.54			24	0.08		0.25	0.13
21	5.19～ 5.25	149	0.06	0.03		0.68			24	0.04		0.13	
22	5.26～ 6. 1	147	0.08		0.05	0.41			24	0.04	0.08	0.08	
23	6. 2～ 6. 8	148	0.14	0.03	0.05	0.49			24		0.04	0.13	
24	6. 9～ 6.15	149	0.17	0.01	0.03	0.59			24		0.08	0.13	
25	6.16～ 6.22	150	0.15	0.04	0.05	0.72			24		0.04	0.08	
26	6.23～ 6.29	147	0.18	0.01	0.05	0.90			24	0.04	0.04	0.13	
27	6.30～ 7. 6	147	0.27	0.01	0.03	0.64			24			0.13	
28	7. 7～ 7.13	148	0.16	0.01	0.11	0.53			24	0.08	0.04	0.08	
29	7.14～ 7.20	147	0.19	0.01	0.05	0.62			24		0.08	0.13	0.04
30	7.21～ 7.27	148	0.25	0.01	0.05	0.49			24		0.04	0.13	
31	7.28～ 8. 3	148	0.14	0.03		0.71			24		0.04	0.13	
32	8. 4～ 8.10	144	0.13	0.01	0.03	0.61			24		0.04	0.13	
33	8.11～ 8.17	137	0.13	0.01	0.03	0.41			23			0.09	
34	8.18～ 8.24	144	0.10	0.01	0.03	0.35			23	0.09		0.48	
35	8.25～ 8.31	146	0.05		0.08	0.46			24		0.04	0.33	
36	9. 1～ 9. 7	147	0.10	0.02	0.03	0.41			23	0.04	0.04	0.30	0.04
37	9. 8～ 9.14	145	0.11		0.08	0.54			24		0.04	0.33	0.04
38	9.15～ 9.21	144	0.13			0.23			24		0.04	0.25	0.04
39	9.22～ 9.28	147	0.10	0.03		0.41			24			0.38	0.04
40	9.29～10. 5	147	0.10	0.01	0.05	0.28			24		0.21	0.17	
41	10. 6～10.12	147	0.10	0.03	0.03	0.46			24	0.04		0.08	
42	10.13～10.19	147	0.07			0.21			24			0.25	0.08
43	10.20～10.26	147	0.13	0.01		0.51			24		0.04	0.54	0.13
44	10.27～11. 2	145	0.19		0.03	0.31			24	0.04		0.33	0.08
45	11. 3～11. 9	149	0.07	0.02		0.33			24			0.67	
46	11.10～11.16	148	0.03	0.01		0.28			24		0.08	0.46	0.04
47	11.17～11.23	146	0.13	0.03		0.32			24	0.04	0.04	0.54	
48	11.24～11.30	147	0.10	0.01		0.15			24	0.04	0.08	0.42	0.13
49	12. 1～12. 7	149	0.07	0.02		0.31			24	0.08		0.21	0.04
50	12. 8～12.14	147	0.03	0.01		0.26			24			0.42	
51	12.15～12.21	148	0.11	0.01	0.08	0.41			24			0.33	
52	12.22～12.28	148	0.07	0.01		0.46			23			0.52	0.09
	平 均		0.10	0.01	0.03	0.43				0.02	0.03	0.24	0.02

表５－１ （１） 保健所別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

保健所	人		設置小児科 定点数	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	設置 インフル エンザ	定点 数												
千代田	5	118	4	87	6	14	308	47	36	5	14	9	36	17
中央区	4	175	3	1	17	172	540	75	87	18	101	2	71	40
みなと	8	369	6	167	199	598	3,095	573	104	14	192	8	249	55
新宿区	9	579	6	122	61	259	1,565	231	151	24	110	1	176	51
文京	5	285	3	13	36	154	483	136	83	11	48	2	121	71
台東	5	213	3	103	59	249	1,395	145	122	33	122	2	147	139
墨田区	6	411	3	39	29	369	877	199	79	8	116	1	97	58
江東区	9	727	4	30	47	446	3,432	291	171	56	184	2	266	103
品川区	10	510	6	46	25	417	3,135	211	241	53	221	5	381	62
目黒区	6	140	3	2	20	90	527	75	50	16	63		66	38
大田区	16	1,157	9	223	388	763	4,204	481	257	203	294	77	587	149
世田谷区	16	1,299	8	56	110	399	3,157	368	178	43	206	4	312	305
渋谷区	6	282	4	4	26	85	1,303	157	84	10	97		85	111
中野区	9	712	6	4	26	315	2,976	348	251	13	120	3	184	151
杉並	12	870	6	22	273	379	2,759	270	132	20	145	6	76	125
池袋	8	509	5	3	23	82	772	91	60	3	45	9	43	82
北区	8	469	4	5	61	215	1,443	212	161	18	213	2	299	70
荒川区	4	343	2	44	89	357	1,009	233	93	18	108	6	186	384
板橋区	12	507	6	2	12	115	1,084	156	84	15	79	26	42	65
練馬区	12	1,151	5	10	69	259	1,213	252	129	28	179	19	177	133
足立	12	674	5	10	51	309	2,017	360	86	49	179	12	200	361
葛飾区	9	1,054	4		10	349	1,163	318	139	19	194	1	230	149
江戸川	12	1,420	5	79	281	1,435	2,258	370	176	22	245	2	519	119
西多摩	9	1,176	5	53	101	299	1,382	272	70	6	107	5	116	33
南多摩	9	901	4	100	33	505	1,430	331	192	57	183	8	223	91
町田	9	1,145	4	18	85	2,181	4,191	644	396	121	353	6	400	241
多摩立川	13	887	6	1	43	184	1,195	223	35	11	27	8	105	26
多摩府中	21	1,907	10	35	78	358	2,038	352	277	47	301	4	228	84
多摩小平	14	1,884	6	333	362	1,033	3,774	452	236	57	365	9	516	75
島しょ	2	59	1	6	4	22	52	54	7		17		51	3
八王子市	10	1,126	4	104	303	1,513	3,904	755	320	170	316	39	281	271
合 計	290	23,059	150	1,722	2,927	13,925	58,681	8,682	4,487	1,168	4,944	278	6,470	3,662
定点当たり報告数		80.47		11.71	19.86	93.97	395.92	58.68	30.60	7.90	33.49	1.88	44.08	24.83
前年定点当たり報告数		191.41		9.57	18.96	81.32	318.41	60.77	29.73	19.73	31.95	1.02	46.10	13.24
当年/前年		0.42		1.22	1.05	1.16	1.24	0.97	1.03	0.40	1.05	1.84	0.96	1.88

表 5-1 (2) 保健所別患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

保健所	設置小児科定点数	不明発しん症	人 M C L S (川崎病)
千代田	4	10	11
中央区	3	2	3
みなと	6	29	12
新宿区	6	32	2
文京	3		
台東	3	6	4
墨田区	3	19	
江東区	4	13	3
品川区	6	47	3
目黒区	3	3	1
大田区	9	44	7
世田谷区	8	33	2
渋谷区	4	3	
中野区	6	18	3
杉並	6	2	3
池袋	5	7	3
北区	4	13	2
荒川区	2	34	2
板橋区	6	12	3
練馬区	5	12	2
足立	5	42	4
葛飾区	4	29	3
江戸川	5		5
西多摩	5	7	4
南多摩	4	8	1
町田	4	80	4
多摩立川	6	6	
多摩府中	10	27	4
多摩小平	6	40	3
島しょ	1	1	
八王子市	4	155	15
合 計	150	734	109
定点当たり報告数		4.98	0.73
前年定点当たり報告数		4.52	0.75
当年/前年		1.10	0.98

設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	人 流行性角結膜炎
1	4	39
2	1	109
1		59
1	3	8
1		41
1		3
1		23
2	2	17
2	4	18
1		13
1	2	27
1	2	18
1		3
1		15
1	1	22
2	5	32
2		50
2	35	50
1		12
2	1	46
1		26
1		5
1		8
2		15
3	3	21
2	1	101
2		84
39	64	865
	1.66	22.41
	2.15	32.04
	0.77	0.70

設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	人 クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
2		1	55	1
1	1	8	1	
2	7	6	52	
1			2	
1				
1			1	
2	6	13		
1				
1	1			
1	3			
1			2	
1			9	
1			134	20
1	3		13	
1		6		
2	3		26	4
2			3	
1				
1				
24	24	34	298	25
	1.01	1.42	12.53	1.05
	1.14	2.03	10.11	0.81
	0.88	0.70	1.24	1.30

表５－２（１）保健所別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

保健所	人／定点														人／定点	
	設置 インフル エンザ 定点数	イン フル エンザ	設置 小児科 定点数	感 染 症 RS ウイ ルス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 菌 咽 頭 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎		
千代田	5	24.05	4	27.33	1.58	3.83	82.50	12.92	11.58	1.58	4.08	2.92	11.42	4.92		
中央区	4	43.75	3	0.33	5.67	57.50	180.00	25.50	29.17	6.00	33.83	0.67	23.67	13.33		
みなと	8	46.27	6	28.67	33.57	100.20	520.97	96.33	17.60	2.33	32.37	1.40	42.43	9.50		
新宿区	9	64.33	6	20.33	10.17	43.17	260.83	38.50	25.17	4.00	18.33	0.17	29.33	8.50		
文京	5	57.00	3	4.33	12.00	51.33	161.00	45.33	27.67	3.67	16.00	0.67	40.33	23.67		
台東	5	42.60	3	34.33	19.67	83.00	465.00	48.33	40.67	11.00	40.67	0.67	49.00	46.33		
墨田区	6	68.50	3	13.00	9.83	123.17	293.83	66.83	27.67	2.67	39.17	0.33	34.00	19.67		
江東区	9	80.78	4	7.50	11.75	111.50	858.00	72.75	42.75	14.00	46.00	0.50	66.50	25.75		
品川区	10	51.20	6	7.67	4.17	69.83	525.23	35.63	41.07	8.87	37.23	0.83	64.70	10.37		
目黒区	6	23.33	3	0.67	6.67	30.00	175.67	25.00	16.67	5.33	21.00		22.00	12.67		
大田区	16	73.68	9	24.79	43.25	85.22	470.54	53.81	28.57	22.58	32.76	8.56	65.22	16.61		
世田谷区	16	85.70	8	7.13	13.89	50.06	398.77	46.75	22.53	5.42	26.07	0.50	39.15	38.32		
渋谷区	6	47.00	4	1.00	6.50	21.25	325.75	39.25	21.00	2.50	24.25		21.25	27.75		
中野区	9	79.11	6	0.67	4.33	52.50	496.00	58.00	41.83	2.17	20.00	0.50	30.67	25.17		
杉並	12	73.19	6	3.67	46.50	65.35	470.40	45.52	22.53	3.33	24.53	1.00	13.00	21.12		
池袋	8	65.04	5	0.70	5.22	18.10	169.38	20.45	14.65	0.65	10.07	2.13	9.10	18.85		
北区	8	64.61	4	1.33	15.83	54.67	364.25	53.58	42.33	4.50	54.75	0.50	78.75	17.67		
荒川区	4	85.75	2	22.00	44.50	178.50	504.50	116.50	46.50	9.00	54.00	3.00	93.00	192.00		
板橋区	12	43.03	6	0.33	2.00	19.17	181.73	26.27	14.03	2.50	13.17	4.33	7.00	10.83		
練馬区	12	96.26	5	2.05	13.85	52.00	243.20	50.40	26.15	5.80	36.10	3.80	36.05	26.80		
足立	12	57.31	5	2.25	10.45	63.60	418.97	74.22	17.70	9.95	36.65	2.60	40.40	74.65		
葛飾区	9	118.71	4		2.50	87.33	291.67	80.83	34.75	4.83	48.67	0.25	57.50	37.33		
江戸川	12	120.23	5	16.15	57.88	292.85	454.53	75.02	36.72	4.65	50.50	0.40	104.70	24.30		
西多摩	9	131.03	5	10.75	20.20	59.80	277.10	54.85	14.00	1.20	21.40	1.00	23.20	6.60		
南多摩	9	101.66	4	25.00	8.58	128.58	366.00	84.67	50.92	14.25	46.25	2.25	59.50	23.08		
町田	9	127.22	4	4.50	21.75	548.00	1054.75	162.75	102.25	30.25	89.25	1.50	104.00	61.25		
多摩立川	13	68.48	6	0.17	7.27	30.90	200.73	37.50	6.03	1.83	4.63	1.33	18.43	4.40		
多摩府中	21	91.10	10	3.51	7.96	36.53	206.67	35.81	27.74	4.79	30.57	0.42	22.97	8.50		
多摩小平	14	135.07	6	55.50	60.33	172.17	629.00	75.33	39.33	9.50	60.83	1.50	86.00	12.50		
島しょ	2	29.50	1	6.00	4.00	22.00	52.00	54.00	7.00		17.00		51.00	3.00		
八王子市	10	113.08	4	26.33	19.86	93.97	395.92	58.68	30.60	7.90	33.49	1.88	44.08	24.83		

表5-2 (2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2008年第1週~2008年第52週

保健所	人/定点			設置眼科 定点数	人/定点		設置 基幹 定点数	人/定点			
	設置 小児科 定点数	不明 発しん 症	M C L S (川崎 病)		急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎		細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎(オ ウム病 は除く)
千代田	4	2.92	3.25				2		0.50	27.50	0.50
中央区	3	0.67	1.00		1.33	13.00					
みなと	6	4.90	2.00	1			1	1.00	8.00	1.00	
新宿区	6	5.33	0.33	2	0.17	18.17	2	3.50	3.00	26.00	
文京	3			1		19.67	1			2.00	
台東	3	2.00	1.33								
墨田区	3	6.50		1	1.00	2.83	1				
江東区	4	3.25	0.75	1		10.25					
品川区	6	7.87	0.50	1		0.50					
目黒区	3	1.00	0.33	1		7.67					
大田区	9	4.92	0.78	2	0.22	1.89	1			1.00	
世田谷区	8	4.22	0.25	2	0.50	2.33	2	3.00	6.50		
渋谷区	4	0.75		1		3.25	1				
中野区	6	3.00	0.50	1	0.33	4.50	1	1.00			
杉並	6	0.33	0.50	1	0.42	3.00	1	3.00			
池袋	5	1.50	0.65	1		0.92	1			2.00	
北区	4	3.33	0.50	1		4.08					
荒川区	2	17.00	1.00	1	0.50	11.00					
板橋区	6	2.00	0.50	2	0.83	5.33	1			9.00	
練馬区	5	2.45	0.40	2		10.10					
足立	5	8.50	0.80	2	7.25	10.38					
葛飾区	4	7.33	0.75	1		3.00	1			134.00	20.00
江戸川	5		1.00	2	0.20	9.57					
西多摩	5	1.40	0.80	1		5.20	1	3.00		13.00	
南多摩	4	2.08	0.25	1		1.25					
町田	4	21.25	1.00	1		2.00					
多摩立川	6	1.00		2		2.60	1		6.00		
多摩府中	10	2.78	0.41	3	0.30	2.13	2	1.50		13.00	2.00
多摩小平	6	6.67	0.50	2	0.17	16.83	2			1.50	
島しょ	1	1.00					1				
八王子市	4	39.33	3.75	2		21.17	1				

表 6-1 年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

人		人										
年齢階級	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6 か月未満	59	270	1	1	495	138	19	6	155	18	44	
12 か月未満	259	402	118	67	3,631	464	253	41	2,227	10	571	16
1歳	874	609	527	355	8,230	1,535	1,086	81	2,165	7	1,793	175
2歳	897	227	384	651	5,671	1,497	865	75	279	3	1,371	307
3歳	1,232	91	477	1,255	5,412	1,457	682	132	55	7	932	484
4歳	1,621	54	486	1,910	5,335	1,380	598	177	21	13	725	621
5歳	1,862	20	311	2,014	4,535	863	350	193	13	7	425	608
6歳	1,783	5	179	1,887	3,729	530	216	134	12	2	224	445
7歳	1,577	5	116	1,609	3,111	273	132	104	8	10	124	266
8歳	1,274	1	83	1,042	2,539	189	78	66	1	8	69	230
9歳	988	1	70	781	2,090	92	48	60	5	10	46	150
10～14歳	2,753	1	95	1,231	4,795	170	85	71	2	28	67	242
15～19歳	840		8	106	1,212	17	7	3	1	11	10	33
20～29歳	1,857	36	72	1,016	7,896	77	68	25		144	69	85
30～39歳	2,670											
40～49歳	1,566											
50～59歳	533											
60～69歳	241											
70～79歳	118											
80歳以上	55											
合 計	23,059	1,722	2,927	13,925	58,681	8,682	4,487	1,168	4,944	278	6,470	3,662

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6-2 年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

年齢階級	人		人		人			
	不明発しん症	MCL S (川崎病)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
6 か月未満	45	12		3	3	4	2	
12 か月未満	140	21		4	2		1	
1 歳	211	36	2	9	3		28	
2 歳	93	14	4	16	1		39	
3 歳	69	8	4	11		2	38	
4 歳	52	8	3	16	1	2	30	
5 歳	32	4		14	1		23	
6 歳	20	2		12	1	1	24	
7 歳	18	1		8		1	14	
8 歳	16			7		2	24	
9 歳	6	1	1	8			13	
10～14 歳	16	1	6	25		3	36	
15～19 歳	5	1	4	29	1	3	3	1
20～29 歳	11		12	158	1	2	5	
30～39 歳			7	239	3	2	6	1
40～49 歳			9	117	3	4	3	2
50～59 歳			6	84	1	3	3	2
60～69 歳			5	65	1		2	1
70～79 歳			1	40	1	3	2	11
80 歳以上					1	2	2	7
合 計	734	109	64	865	24	34	298	25

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 (1) 二次医療圏別患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2008年第1週～2008年第52週

人			人											
二次医療圏	設置インフルエンザ定点数	インフルエンザ	設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	27	1,160	19	371	317	1,187	5,821	976	432	81	477	23	624	322
2 区南部圏	26	1,667	15	269	413	1,180	7,339	692	498	256	515	82	968	211
3 区西南部圏	28	1,721	15	62	156	574	4,987	600	312	69	366	4	463	454
4 区西部圏	30	2,161	18	148	360	953	7,300	849	534	57	375	10	436	327
5 区西北部圏	40	2,636	20	20	165	671	4,512	711	434	64	516	56	561	350
6 区東北部圏	25	2,071	11	54	150	1,015	4,189	911	318	86	481	19	616	894
7 区東部圏	27	2,558	12	148	357	2,250	6,567	860	426	86	545	5	882	280
8 西多摩圏	9	1,176	5	53	101	299	1,382	272	70	6	107	5	116	33
9 南多摩圏	28	3,172	12	222	421	4,199	9,525	1,730	908	348	852	53	904	603
10 北多摩西部圏	13	887	6	1	43	184	1,195	223	35	11	27	8	105	26
11 北多摩南部圏	21	1,907	10	35	78	358	2,038	352	277	47	301	4	228	84
12 北多摩北部圏	14	1,884	6	333	362	1,033	3,774	452	236	57	365	9	516	75
13 島しょ圏	2	59	1	6	4	22	52	54	7	0	17	0	51	3
合 計	290	23,059	150	1,722	2,927	13,925	58,681	8,682	4,487	1,168	4,944	278	6,470	3,662

表7-1 (2) 二次医療圏別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2008年第1週～2008年第52週

二次医療圏	人			設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（オウム病は除く）
	設置小児科定点数	不明発疹症	MCLS（川崎病）								
1 区中央部圏	19	47	30	2	4	98	4	1	9	58	1
2 区南部圏	15	91	10	3	2	20	1			1	
3 区西南部圏	15	39	3	4	4	54	3	6	13		
4 区西部圏	18	52	8	4	5	154	4	11	6	52	
5 区西北部圏	20	44	10	6	5	100	2			11	
6 区東北部圏	11	105	9	4	36	84	1			134	20
7 区東部圏	12	32	8	4	4	95	1				
8 西多摩圏	5	7	4	1		26	1	3		13	
9 南多摩圏	12	243	20	4		97	1				
10 北多摩西部圏	6	6		2		15	1		6		
11 北多摩南部圏	10	27	4	3	3	21	2	3		26	4
12 北多摩北部圏	6	40	3	2	1	101	2			3	
13 島しょ圏	1	1					1				
合 計	150	734	109	39	64	865	24	24	34	298	25

表 7-2 (1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

二次医療圏	人／定点		人／定点											
	設置インフルエンザ定点数	インフルエンザ	設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	27	78.23	19	11.24	12.60	66.40	341.91	55.26	12.86	3.49	23.50	0.89	20.06	12.53
2 区南部圏	26	126.74	15	7.42	26.74	78.41	572.20	59.93	16.54	13.72	31.72	4.07	38.50	9.70
3 区西南部圏	28	131.25	15	1.87	10.76	39.30	378.85	37.35	9.75	4.41	20.91	0.18	18.10	27.21
4 区西部圏	30	141.80	18	4.18	15.96	58.21	439.46	51.96	17.85	3.07	16.32	0.33	13.89	12.68
5 区西北部圏	40	125.89	20	0.34	6.66	33.81	260.76	40.99	10.02	4.19	23.50	2.50	16.18	16.29
6 区東北部圏	25	152.56	11	2.23	11.68	97.02	422.33	101.78	14.34	10.78	41.85	1.59	35.43	62.05
7 区東部圏	27	183.94	12	10.67	19.16	166.01	625.70	75.40	19.25	7.99	44.93	0.29	46.44	14.86
8 西多摩圏	9	294.88	5	6.38	14.27	68.66	345.44	61.68	5.44	0.92	18.28	0.71	13.52	6.84
9 南多摩圏	28	234.73	12	10.45	24.68	368.76	850.60	166.18	37.05	36.60	67.17	3.36	43.91	30.39
10 北多摩西部圏	13	158.40	6	0.02	5.57	30.54	226.66	38.98	3.26	1.47	4.08	1.09	10.08	4.48
11 北多摩南部圏	21	180.33	10	2.77	5.35	34.73	224.63	38.68	12.25	7.64	27.57	0.36	14.18	7.83
12 北多摩北部圏	14	264.83	6	25.05	58.10	169.45	679.73	108.67	18.47	11.20	55.46	0.95	46.19	5.25
13 島しょ圏	2	79.97	1	12.07	2.78	23.57	68.44	13.97	4.21		15.29		25.58	1.34

表 7-2 (2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2008 年第 1 週～2008 年第 52 週

二次医療圏	人／定点			設置眼科定点数	人／定点		設置基幹定点数	人／定点			
	設置小児科定点数	不明発疹症	MCLS（川崎病）		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（オウム病は除く）
1 区中央部圏	19	2.16	1.67	2	0.30	6.00	4	0.25	2.25	14.50	0.25
2 区南部圏	15	5.02	0.39	3	0.04	1.12	1			1.00	
3 区西南部圏	15	1.77	0.09	4	0.29	3.68	3	2.00	4.33		
4 区西部圏	18	1.94	0.58	4	0.28	9.16	4	2.75	1.58	13.00	
5 区西北部圏	20	1.92	0.42	6	0.12	4.99	2			5.50	
6 区東北部圏	11	6.81	0.51	4	3.59	7.07	1			134.00	20.00
7 区東部圏	12	2.10	0.86	4	0.28	6.78	1				
8 西多摩圏	5	0.97	0.94	1		5.62	1	3.00		13.00	
9 南多摩圏	12	15.71	2.49	4		7.74	1				
10 北多摩西部圏	6	0.67		2		1.61	1		6.00		
11 北多摩南部圏	10	2.23	0.79	3	0.18	1.72	2	1.50		13.00	2.00
12 北多摩北部圏	6	5.21	0.84	2	0.12	15.78	2			1.50	
13 島しょ圏	1	0.76					1				

表 8－1 月別患者報告数（基幹）

2008 年 1 月～2008 年 12 月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性
1月	24	133	43	3
2月	24	145	51	2
3月	24	131	36	1
4月	24	136	64	4
5月	24	148	58	3
6月	24	146	61	
7月	24	143	38	1
8月	24	137	25	3
9月	24	112	29	4
10月	24	119	49	1
11月	24	125	56	3
12月	24	131	44	1
合 計		1,606	554	26

表 8－2 月別定点当たり患者報告数（基幹）

2008 年 1 月～2008 年 12 月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性
1月	24	5.54	1.79	0.13
2月	24	6.04	2.13	0.08
3月	24	5.46	1.50	0.04
4月	24	5.67	2.67	0.17
5月	24	6.17	2.42	0.13
6月	24	6.08	2.54	0.00
7月	24	5.96	1.58	0.04
8月	24	5.71	1.04	0.13
9月	24	4.67	1.21	0.17
10月	24	4.96	2.04	0.04
11月	24	5.21	2.33	0.13
12月	24	5.46	1.83	0.04
平 均		5.58	1.92	0.09

表 8－3 月別・性別患者報告数（基幹） 2008 年 1 月～2008 年 12 月

月	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	82	51	27	16	2	1
2月	94	51	29	22	2	
3月	82	49	15	21	1	
4月	88	48	49	15	3	1
5月	84	64	32	26	3	
6月	97	49	38	23		
7月	93	50	23	15	1	
8月	88	49	15	10	3	
9月	74	38	20	9	2	2
10月	72	47	29	20	1	
11月	76	49	38	18	2	1
12月	76	55	23	21	1	
合計	1,006	600	338	216	21	5

表 8－4 年齢階級別患者報告数（基幹） 2008 年 1 月～2008 年 12 月

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	76	58	57	40	0	0
1～4歳	34	43	180	113	0	0
5～9歳	17	10	18	12	0	0
10～14歳	13	7	8	4	1	0
15～19歳	10	3	3	0	1	0
20～24歳	3	3	1	1	1	0
25～29歳	5	0	3	2	0	0
30～34歳	10	12	5	1	0	0
35～39歳	29	4	3	4	0	0
40～44歳	20	14	3	2	0	0
45～49歳	18	12	4	4	0	0
50～54歳	32	18	2	1	0	0
55～59歳	71	17	2	1	1	0
60～64歳	87	33	6	5	0	1
65～69歳	86	29	4	0	0	1
70歳以上	495	337	39	26	17	3
合 計	1,006	600	338	216	21	5
定点当たり報告数	41.92	25.00	14.08	9.00	0.88	0.21
前年定点当たり報告数	44.49	26.04	14.48	10.61	1.12	0.80
当年／前年	0.94	0.96	0.97	0.85	0.78	0.26

表 9－1 月別患者報告数（STI）

2008 年 1 月～2008 年 12 月

月	報告 STI 定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膺トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	213	92	71	98	16	2
2月	55	208	82	73	85	13	8
3月	55	235	88	104	86	15	9
4月	55	181	77	68	91	13	10
5月	55	210	89	79	96	15	9
6月	55	270	81	93	109	11	5
7月	55	222	83	84	96	16	5
8月	55	211	60	75	90	11	10
9月	55	231	74	91	85	16	4
10月	54	224	85	74	95	18	8
11月	55	192	65	54	78	15	4
12月	54	208	70	60	87	10	8
合 計		2,605	946	926	1,096	169	82

表 9－2 月別定点当たり患者報告数（STI）

2008 年 1 月～2008 年 12 月

月	報告 STI 定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膺トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	3.87	1.67	1.29	1.78	0.29	0.04
2月	55	3.78	1.49	1.33	1.55	0.24	0.15
3月	55	4.27	1.60	1.89	1.56	0.27	0.16
4月	55	3.29	1.40	1.24	1.65	0.24	0.18
5月	55	3.82	1.62	1.44	1.75	0.27	0.16
6月	55	4.91	1.47	1.69	1.98	0.20	0.09
7月	55	4.04	1.51	1.53	1.75	0.29	0.09
8月	55	3.84	1.09	1.36	1.64	0.20	0.18
9月	55	4.20	1.35	1.65	1.55	0.29	0.07
10月	54	4.15	1.57	1.37	1.76	0.33	0.15
11月	55	3.49	1.18	0.98	1.42	0.27	0.07
12月	54	3.85	1.30	1.11	1.61	0.19	0.15
平 均		3.96	1.44	1.41	1.67	0.26	0.12

表9-3 月別・性別患者報告数 (STI) 2008年1月～2008年12月

人

月	報告 STI 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	98	115	55	37	38	33	77	21	2	14	2	
2月	55	103	105	48	34	45	28	68	17		13	4	4
3月	55	116	119	45	43	68	36	72	14		15	6	3
4月	55	94	87	50	27	43	25	77	14	3	10	9	1
5月	55	105	105	52	37	45	34	79	17	1	14	7	2
6月	55	126	144	51	30	63	30	90	19	1	10	5	
7月	55	103	119	46	37	50	34	86	10		16	3	2
8月	55	107	104	32	28	52	23	76	14		11	7	3
9月	55	97	134	46	28	54	37	74	11		16	1	3
10月	54	100	124	56	29	49	25	79	16		18	6	2
11月	55	93	99	39	26	38	16	63	15	1	14	3	1
12月	54	101	107	30	40	36	24	71	16	1	9	5	3
合 計		1,243	1,362	550	396	581	345	912	184	9	160	58	24

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数 (STI) 2008年1月～2008年12月

人

月	報告 STI 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	1.78	2.09	1.00	0.67	0.69	0.60	1.40	0.38	0.04	0.25	0.04	0.00
2月	55	1.87	1.91	0.87	0.62	0.82	0.51	1.24	0.31	0.00	0.24	0.07	0.07
3月	55	2.11	2.16	0.82	0.78	1.24	0.65	1.31	0.25	0.00	0.27	0.11	0.05
4月	55	1.71	1.58	0.91	0.49	0.78	0.45	1.40	0.25	0.05	0.18	0.16	0.02
5月	55	1.91	1.91	0.95	0.67	0.82	0.62	1.44	0.31	0.02	0.25	0.13	0.04
6月	55	2.29	2.62	0.93	0.55	1.15	0.55	1.64	0.35	0.02	0.18	0.09	0.00
7月	55	1.87	2.16	0.84	0.67	0.91	0.62	1.56	0.18	0.00	0.29	0.05	0.04
8月	55	1.95	1.89	0.58	0.51	0.95	0.42	1.38	0.25	0.00	0.20	0.13	0.05
9月	55	1.76	2.44	0.84	0.51	0.98	0.67	1.35	0.20	0.00	0.29	0.02	0.05
10月	54	1.85	2.30	1.04	0.54	0.91	0.46	1.46	0.30	0.00	0.33	0.11	0.04
11月	55	1.69	1.80	0.71	0.47	0.69	0.29	1.15	0.27	0.02	0.25	0.05	0.02
12月	54	1.87	1.98	0.56	0.74	0.67	0.44	1.31	0.30	0.02	0.17	0.09	0.06

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI） 2008年1月～2008年12月

人

保健所	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	126	17	41	4	37	2	130	8			5		339	31
中央区	3	62	54	8	7	2	4	30	2		3		2	102	72
みなと	2	60	117	23	36	11	40	18	10	2	7		1	114	211
新宿区	6	273	103	215	94	299	64	255	50		6	24	1	1,066	318
文京	1	52		16		13		39		2				122	
台東	3	5	183	2	35	2	17	10	25		22		5	19	287
墨田区	2	33	5	11	4	17	15	14	1		2	2		77	27
江東区	2	145	17	66	9	41	6	107	4		9	9	1	368	46
品川区	1	8		10		1		7						26	
大田区	2	19	33		1		2	23						42	36
渋谷区	5	91	61	36	63	8	96	32	6	1	6	5	2	173	234
中野区	2	56	38	13	1		10	51	12		15	4	1	124	77
杉並	2	35	9	4	3	2	1	19	1		5			60	19
池袋	3	163	110	62	40	95	35	82	9	1	17	6	4	409	215
北区	1	3		3	1	11		3						20	1
荒川区	1		18		8		5		4		5				40
板橋区	2	10	70	6	13	12	5	24	4		9		3	52	104
足立	2	31	3	19		15		37		1				103	3
江戸川	2	47	125	14	27	13	5	20	10	1	21	3	2	98	190
町田	1		16		6				2		6				30
多摩立川	2		190		20		16		18		5				249
多摩府中	3	21	2	1	1	2		11	2					35	5
多摩小平	1		10		2		3		1	1	1			1	17
八王子市	4	3	181		21		19		15		21		2	3	259
合 計	55	1,243	1,362	550	396	581	345	912	184	9	160	58	24	3,353	2,471
定点当たり報告数		22.67	24.84	10.03	7.22	10.59	6.29	16.63	3.36	0.16	2.92	1.06	0.44	61.14	45.07
前年定点当たり報告数		23.72	24.37	11.41	8.00	9.37	6.02	17.01	2.62	0.30	4.38	1.46	0.53	63.28	45.91
当年/前年		0.96	1.02	0.88	0.90	1.13	1.05	0.98	1.28	0.54	0.67	0.73	0.83	0.97	0.98

区中央部圏	11	305	371	90	82	65	63	227	45	4	32	5	8	696	601
区南部圏	3	27	33	10	1	1	2	30						68	36
区西南部圏	5	91	61	13	1		10	51	12		15	4	1	124	77
区西部圏	10	364	150	281	137	396	100	356	60	1	28	30	5	1,535	552
区西北部圏	6	176	180	22	9	26	5	40	4	1	5			123	44
区東北部圏	3	31	21	20	40	25	10	44	14	1	30	3	5	150	294
区東部圏	6	225	147	113	76	66	117	153	11	1	17	16	3	618	307
南多摩圏	5	3	197		27		19		17		27		2	3	289
北多摩西部圏	2		190		20		16		18		5				249
北多摩南部圏	3	21	2	1	1	2		11	2					35	5
北多摩北部圏	1		10		2		3		1	1	1			1	17

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI） 2008年1月～2008年12月

人／定点

保健所	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	63.00	8.50	20.50	2.00	18.50	1.00	65.00	4.00			2.50		169.50	15.50
中央区	3	20.67	18.00	2.67	2.33	0.67	1.33	10.00	0.67		1.00		0.67	34.00	24.00
みなと	2	30.00	58.50	11.50	18.00	5.50	20.00	9.00	5.00	1.00	3.50		0.50	57.00	105.50
新宿区	6	45.50	17.17	35.83	15.67	49.83	10.67	42.50	8.33		1.00	4.00	0.17	177.67	53.00
文京	1	52.00		16.00		13.00		39.00		2.00				122.00	
台東	3	1.67	61.00	0.67	11.67	0.67	5.67	3.33	8.33		7.33		1.67	6.33	95.67
墨田区	2	16.50	2.50	5.50	2.00	8.50	7.50	7.00	0.50		1.00	1.00		38.50	13.50
江東区	2	72.50	8.50	33.00	4.50	20.50	3.00	53.50	2.00		4.50	4.50	0.50	184.00	23.00
品川区	1	8.00		10.00		1.00		7.00						26.00	
大田区	2	9.50	16.50		0.50		1.00	11.50						21.00	18.00
渋谷区	5	18.85	12.70	7.35	13.45	1.65	19.85	6.55	1.25	0.20	1.20	1.00	0.40	35.60	48.85
中野区	2	28.00	19.00	6.50	0.50		5.00	25.50	6.00		7.50	2.00	0.50	62.00	38.50
杉並	2	17.50	4.50	2.00	1.50	1.00	0.50	9.50	0.50		2.50			30.00	9.50
池袋	3	54.33	36.67	20.67	13.33	31.67	11.67	27.33	3.00	0.33	5.67	2.00	1.33	136.33	71.67
北区	1	3.00		3.00	1.00	11.00		3.00						20.00	1.00
荒川区	1		18.00		8.00		5.00		4.00		5.00				40.00
板橋区	2	5.00	35.00	3.00	6.50	6.00	2.50	12.00	2.00		4.50		1.50	26.00	52.00
足立	2	15.50	1.50	9.50		7.50		18.50		0.50				51.50	1.50
江戸川	2	23.50	62.50	7.00	13.50	6.50	2.50	10.00	5.00	0.50	10.50	1.50	1.00	49.00	95.00
町田	1		16.00		6.00				2.00		6.00				30.00
多摩立川	2		95.00		10.00		8.00		9.00		2.50				124.50
多摩府中	3	7.00	0.67	0.33	0.33	0.67		3.67	0.67					11.67	1.67
多摩小平	1		10.00		2.00		3.00		1.00	1.00	1.00			1.00	17.00
八王子市	4	0.75	45.25		5.25		4.75		3.75		5.25		0.50	0.75	64.75
合 計	55	1,243	1,362	550	396	581	345	912	184	9	160	58	24	3,353	2,471
定点当たり報告数		22.67	24.84	10.03	7.22	10.59	6.29	16.63	3.36	0.16	2.92	1.06	0.44	61.14	45.07

区中央部圏	11	26.96	34.33	8.54	8.52	5.89	5.32	20.07	4.90	0.77	3.31	0.17	0.65	63.27	54.64
区南部圏	3	9.47	10.28	3.25	0.42	0.22	0.18	10.22						22.67	12.00
区西南部圏	5	21.87	12.03	6.98	12.80	1.29	21.35	8.01	2.02	0.17	1.75	0.91	0.63	24.80	15.40
区西部圏	10	35.13	14.27	25.95	10.42	31.42	8.97	33.15	6.48		1.90	2.77	0.04	153.50	55.20
区西北部圏	6	29.18	27.25	11.64	9.74	17.41	5.49	19.01	1.76	0.03	4.91	1.04	1.28	20.50	7.33
区東北部圏	3	8.10	7.77	6.75	2.46	5.79	2.30	12.08	0.87	0.03	1.34			50.00	98.00
区東部圏	6	38.84	23.35	16.99	6.03	11.40	5.28	20.59	2.76	0.21	4.82	2.52	0.35	103.00	51.17
南多摩圏	5	0.88	40.02		5.84		3.51		3.33		6.14		0.20	0.60	57.80
北多摩西部圏	2		96.25		9.06		12.16		11.97		1.38				124.50
北多摩南部圏	3	8.65	1.74	0.34	1.03	0.19		4.99	0.19					11.67	1.67
北多摩北部	1		11.07		1.67		1.61		0.65	1.27	0.39			1.00	17.00

表 9－7 年齢階級別患者報告数（STI） 2008 年 1 月～2008 年 12 月

人

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳														
10～14歳						1				1				2
15～19歳	34	140	5	19	9	27	30	27		8			78	221
20～24歳	169	433	47	87	70	106	137	67	2	31	2	3	427	727
25～29歳	258	328	95	104	117	93	213	41	3	20	10	4	696	590
30～34歳	263	226	95	63	122	57	193	19		26	11	7	684	398
35～39歳	196	141	88	45	93	27	131	12	2	16	3	3	513	244
40～44歳	146	70	77	20	69	14	91	11		18	13	2	396	135
45～49歳	85	13	49	13	39	10	55	4	1	10	4	3	233	53
50～54歳	42	7	33	12	31	5	31		1	9	2	1	140	34
55～59歳	27	4	29	15	9		20	1		5	7		92	25
60～64歳	13		17	4	11		7	2		10	4	1	52	17
65～69歳	7		10	5	7	4	3				1		28	9
70歳以上	3		5	9	4	1	1			6	1		14	16
合 計	1,243	1,362	550	396	581	345	912	184	9	160	58	24	3,353	2,471

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1)小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2008年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より2,858件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,568件、髄液506件、糞便489件、血液125件、尿90件、結膜拭い液57件及びその他（胸水、皮膚病巣等）23件であった。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診断名		総計	検体種						
			咽頭拭い液	髄液	糞便	血液	尿	結膜拭い液	その他
呼吸器系疾患	上気道炎	301	278	8	6	1		2	6
	下気道炎	350	316	14	11	4	3	1	1
	インフルエンザ	94	87	6					1
	RSウイルス感染症	38	33	2	3				
	マイコプラズマ	11	10						1
	咽頭結膜熱	27	25					2	
	不明熱	159	82	48	12	11	5	1	
感染性	胃腸炎	371	29	7	328	2	2		3
神経系疾患	無菌性髄膜炎	305	45	204	32	5	19		
	けいれん	165	34	90	20	11	9	1	
	脳炎・脳症	132	26	61	19	17	9		
	脊髄炎	10	2	5	1		2		
発しん性疾患	突発性発疹	43	40	2		1			
	手足口病	40	36	1	1	1			1
	ヘルパンギーナ	30	29	1					
	麻疹	13	11	1		1			
	伝染性紅斑	8	8						
	水痘	5	4						1
	口内炎	11	11						
	川崎病	32	24		6	1	1		
	不明発疹症	197	188		6	2		1	
	流行性耳下腺炎	95	90	4		1			
	流行性角結膜炎	50	3					46	1
	ギランバレー症候群	34	9	10	7		8		
	リンパ節炎	34	29		2	2	1		
	先天性感染症	29	9	4	1	9	6		
	デング熱	22		1		21			
	心筋炎	20	3	1	4	9	2		1
	敗血症	20	8	10	1	1			
	肝機能障害	18	8		4	5	1		
	尿路系感染症	15	5	5			5		
	血球貪食症候群	8	2	1	1	2	2		
	肝炎	7			2	3	2		
	その他	164	84	20	22	15	13	3	7
総計		2858	1568	506	489	125	90	57	23

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 980 件（上気道炎 278 件、下気道炎 316 件、インフルエンザ 87 件、RS ウイルス感染症 33 件、マイコプラズマ 10 件、咽頭結膜熱 25 件、不明熱 82 件）、感染性胃腸炎 371 件、神経系疾患 612 件（無菌性髄膜炎 305 件、痙攣 165 件、脳炎・脳症 132 件、脊髄炎 10 件）、発しん性疾患 379 件（突発性発しん 43 件、手足口病 40 件、ヘルパンギーナ 30 件、川崎病 32 件、麻しん 13 件、伝染性紅斑 8 件、水痘 5 件、口内炎 11 件、不明発しん症 197 件）、流行性耳下腺炎 95 件、流行性角結膜炎 50 件、リンパ節炎 34 件、ギランバレー症候群 34 件、先天性感染症 29 件、デング熱 22 件、心筋炎 20 件、敗血症 20 件、肝機能障害 18 件、尿路系感染症 15 件、血球貪食症候群 8 件、「その他」171 件であった。「その他」にはジアノッティ、横紋筋融解症、無呼吸発作、皮しん、子宮内感染症、敗血症等が含まれる。また診断名の記載のないものが 47 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,858 件のうち、主に血液を除く 2,733 件を対象に、細胞培養 (HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero、B95a、LLCMK2、C6/36 細胞等) 及び乳のみマウスによるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った結果、350 件のウイルスが分離検出された (表 2)。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示すようにアデノウイルス 151 株 (43.0%)、コクサッキーウイルス 48 株 (13.7%)、ムンプスウイルス 31 株 (8.8%)、エコーウイルス 23 株 (6.6%)、ポリオウイルス 20 株 (5.7%)、インフルエンザウイルス 15 株 (4.3%)、ヒトメタニューモウイルス 5 株 (1.4%)、エンテロウイルス 71 型 3 株 (0.9%)、単純ヘルペスウイルス 3 株 (0.9%)、デングウイルス 2 株 (0.6%)、RS ウイルス 1 株 (0.3%) であった。ロタウイルス抗原は 48 件 (13.7%) が確認された。

2008 年最も高頻度に分離されたウイルスは表 2 に示したように、アデノウイルス 2 型 (51 株) で、上気道炎 (19 株)、下気道炎 (9 株)、不明発しん症 (8 株) 患者検体から多く分離されていた。同ウイルスは他にも 3 型が咽頭結膜熱患者検体から 9 株、37 型が流行性角結膜炎から 6 株分離されていた。

インフルエンザウイルスは AH1 亜型 10 株、AH3 亜型 2 株、B 型 3 株が分離された。同ウイルスはインフルエンザ患者検体からの分離が多かったが、上気道炎、下気道炎患者検体からも分離された。

ポリオウイルスは、1 型 4 株、2 型 13 株、3 型 3 株分離され、感染性胃腸炎患者検体からの分離が多く (12 株) みられた。これらの患者は検体採取日の一ヶ月以内にポリオワクチンを接種していたことが確認された。

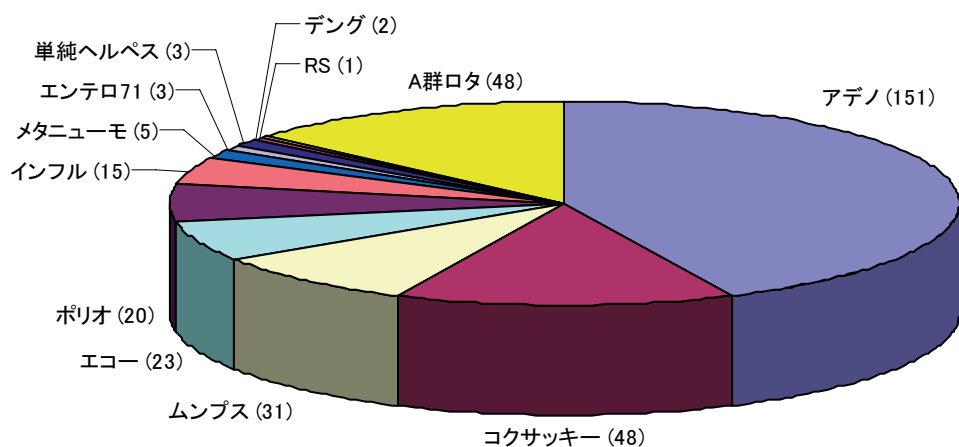


図 1. ウイルス分離検出数 (分離検出数 : 350 件)

コクサッキーウイルスで最も多く分離されたのは A 群 16 型（15 株）で、手足口病（6 株）、上気道炎（2 株）、不明発しん症患者検体（2 株）等から分離された。

ムンプスウイルスは 2007 年には 1 株しか分離されなかったが、2008 年は 31 株が分離された。同ウイルスはムンプス感染症患者検体（26 株）の他、無菌性髄膜炎患者（5 株）検体からも分離されていた。胃腸炎患者検体から、酵素抗体法により A 群コタウイルス 48 件が確認された。

	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	マイコプラズマ	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	けいれん	ヘルパンギーナ	突発性発しん	手足口病	口内炎	不明発しん症	川崎病	ムンプス	リンパ節炎	心筋炎	流行性角結膜炎	デング熱	その他
検査検体数	2734	300	346	94	11	27	148	369	300	154	30	42	39	11	195	31	94	32	11	50	2	149
分離ウイルス																						
インフルエンザ	AH1亜型 10		1	9																		
	AH3亜型 2			2																		
	B型 3	1	1	1																		
	1型 27	6	7			2	2	5					1			1	2					1
	2型 51	19	9			2	2	3		1	1	1	1		8		1					3
	3型 21	6				9	2	1		1										1		1
	4型 4																			4		
	5型 16	3	2		1	1		4		2					1							2
	6型 5	1	1				1	1														1
	7型 16	7		1		2	2	1							1		1			1		
	11型 2							2														
	13型 1																			1		
	37型 6																			6		
	40/41型 2							2														
ポリオ	1型 4							2							2							
	2型 13	2	3					7							1							
	3型 3							3														
コクサッキー	B群1型 7	1	1										1						1			3
	B群2型 2		1																			1
	B群3型 4	1						1	1													1
	B群4型 4					2		1									1					
	B群5型 1							1														
	A群3型 2					1							1									
	A群4型 2									1				1								
	A群6型 11	4	1								2		2		2							
	A群16型 15	2				1	1		1		1		6		2		1					
エコー	6型 6	1						5														
	7型 2							1	1													
	9型 4							1				1	1		1							
	18型 2														1		1					
	30型 9		1				2	5														1
エンテロ	71型 3	2											1									
単純ヘルペス	1型 3		1											1						1		
ムンプス	31								5								26					
デング	3型 2																				2	
ヒトメタニューモ	5	1	4																			
SR	1		1																			
A群コタ	48							47														1
総計	350	57	34	13	1	17	13	84	19	5	4	2	14	2	19	1	32	1	1	14	2	15

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を表 3 及び図 2 に示した。

搬入された総検体 2,858 件中 2,855 件を対象に遺伝子検索を実施した結果、1,376 検体（48.2%）から 1,830 件のウイルス遺伝子が検出された（複数種のウイルス遺伝子検出例を含む）。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルスが 369 件（20.2%）と最も多く、以下、アデノウイルス 359 件（19.6%）、ヒトヘルペスウイルス 210 件（11.5%）、ライノウイルス 194 件（10.6%）、RS ウイルス 122 件（6.7%）、EB ウイルス 98 件（5.4%）、ノロウイルス 78 件（4.3%）、ムンプスウイルス 77 件（4.2%）、インフ

ルエンザウイルス 74 件 (4.0%)、パラインフルエンザウイルス 62 件 (3.4%)、サイトメガロウイルス 51 件 (2.8%)、ヒトメタニューモウイルス 38 件 (2.1%)、単純ヘルペスウイルス 31 件 (1.7%)、パルボウイルス B19 14 件 (0.8%)、麻疹ウイルス 13 件 (0.7%)、サポウイルス 12 件 (0.7%)、マイコプラズマ・ニューモニエ 8 件 (0.4%)、風しんウイルス 7 件 (0.4%)、水痘帯状疱疹ウイルス 5 件 (0.3%)、デングウイルス 4 件 (0.2%)、ロタウイルス 1 件 (0.1%) であった。また、百日咳菌の遺伝子 3 件 (0.2%) が検出された。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、NCBI (国立バイオテクノロジー情報センター) の遺伝子データベースを使用して遺伝子の相同性検索を行い、検出遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった 369 検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキーウイルス A 群 53 件、コクサッキーウイルス B 群 6 件、ポリオウイルス 47 件、エコーウイルス 32 件、エンテロウイルス 71 型 36 件、型別不明 195 件であった。

		総検査数	陽性総数	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	マイコプラズマ	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	けいれん	脳炎・脳症	麻疹	ヘルパンギーナ	伝染性紅斑	突発性発しん	手足口病	川崎病	水痘	不明発しん症	口内炎	ムンプス	リンパ節炎	心筋炎	ギランバレー症候群	尿路系感染症	肝機能障害	流行性角結膜炎	敗血症	血球貪食症候群	先天性感染症	その他	
検査検体数		2855	1376	301	350	94	38	11	27	159	371	305	165	132	13	30	8	43	40	32	5	197	11	95	34	20	34	15	18	19	50	20	8	29	164
インフルエンザ	AH1亜型		48	2	3	40	1	1							1																				
	AH3亜型	648	17	2	2	13																													
	B型		9	2	1	5							1																						
アデノ		2670	359	88	64	5	4	1	19	10	41	4	9		1	4	1	4	8	1	1	30		20	4					21				19	
	ポリオ		47	6	7	2	2				15	1	1	1				2	1	1		5			1									1	
	コクサッキーA群		53	8	2					1	3	1	5	1		6		1	19	1		5													
	コクサッキーB群		6								3											2													1
エンテロ	エコー		32	3	1					8	3	7						1	1	1		4									1			2	
	71型		36	14	7		1		1	2	2			1		4			2			1												1	
	型別不明		195	35	21	2	1		5	12	16	24	10	1		9		4	8	2	1	20	3	5	3				1			3		9	
ライノ		915	194	36	47	2	7	3	3	2	14	2	8	3		1	2	2	4	1	1	25	2	10	4			2	1		1	2		9	
単純ヘルペス	1型		21		1					3		4	3	1		1			1	1			4											2	
	2型	915	10								8																								
ヒトヘルペス	6型		160	11	6				1	10	1	2	26	12		1	2	30	2	3		47			1									1	
	7型	517	50	4						3		2	5	5		3	1	7	2	1		17												5	
サイトメガロ		600	51	5	2		1		2	1								5	1	1		9		2			1		4			2		8	
EB		641	98	9	1			1		4				3		1	1	4	1			14		36	8			2	1	2		1			8
水痘帯状疱疹		110	5																		2	1				1								1	
デング	1型		1																																
	3型	19	3																																
風疹		77	7																		3					3									1
麻疹		234	13	3					1							7					2														
ヒトメタニューモ		322	38	8	29											1																			
ムンプス		387	77									17													58	1		1							
マイコプラズマ		409	8	1	4			2			1																								
ノロ		387	78	1			1				73			1																					2
パルボ	B19		70	14	1																														2
パラインフル	1型		8	6	2																	5													
	2型	371	6	3	3																														
	3型		48	19	26									1	1							1													
ロタ			4								1																								
RS		361	122	15	84	1	18	2		1			1																						
サポ		387	12									12																							
百日咳菌		97	3	2	1																														
総計		11940	1830	284	314	70	36	10	30	59	186	72	72	35	8	32	13	60	50	13	5	191	9	131	23	3	4	3	8	4	24	7	2	1	71

表 3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

この解析の結果、無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子は、エコーウイルスの遺伝子が多いことが判明した。また、手足口病患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子は、コクサッキーウイルス A 群が多かった。

ライノウイルス遺伝子は一般に鼻風邪の原因ウイルスと認識されていることが多いが、下気道炎患者検体からの検出が多く、また不明発しん症患者検体からも数多く検出されていた。

アデノウイルス遺伝子は多様な臨床症状の患者検体から検出されたが、上・下気道炎、感染性胃腸炎、不明発しん症患者、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎等の検体から特に多く検出されていた。

ヒトヘルペスウイルスは突発性発しんの原因ウイルスとして知られているが、不明発しん症患者検体から最も多く検出された。また、けいれん患者の検体からも多く検出されているが、これは突発性

発しん発症初期の高熱による熱性痙攣によるものと考えられる。

ムンプスウイルス遺伝子は、流行性耳下腺炎患者検体から最も多く検出されたが、無菌性髄膜炎患者からも多く検出されており、2008 年における同ウイルスによる無菌性髄膜炎の流行が示唆された。

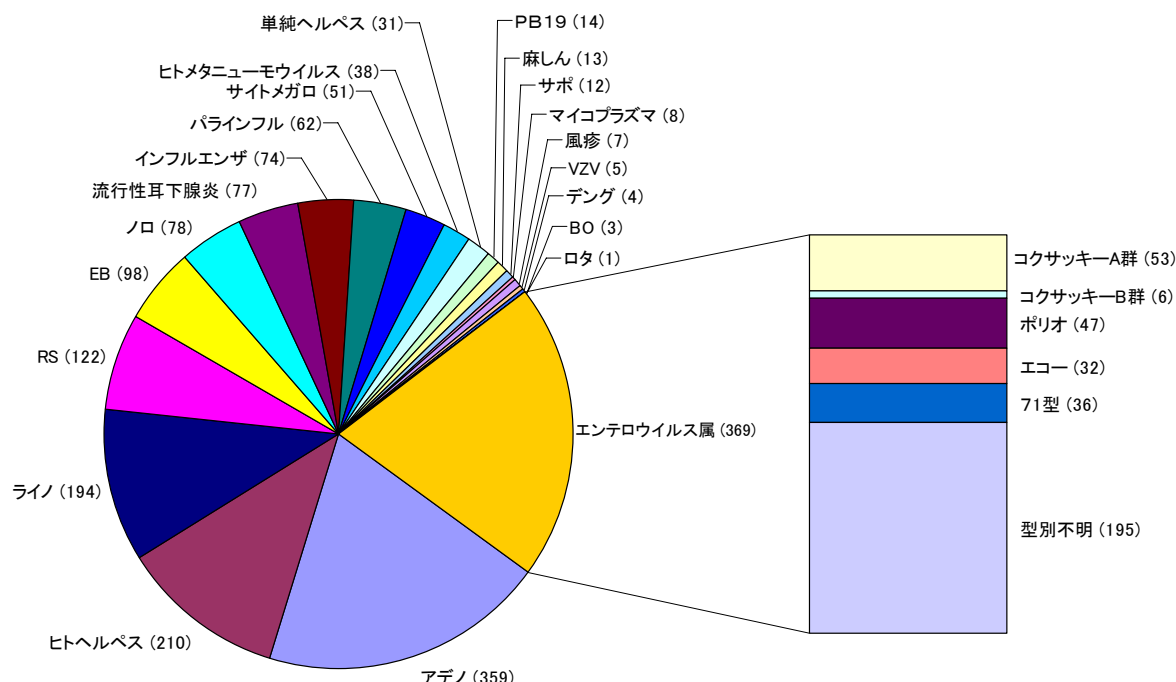


図 2. ウイルス遺伝子検出数（陽性例：1,830 件）

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から検出されたウイルスのうち、96%を占める上位 7 種のウイルス（アデノウイルス、RS ウイルス、ライノウイルス、インフルエンザウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、エンテロウイルス）における月別の検出状況を図 3 に示した。

呼吸器系疾患の流行は、毎年 1 月から 2 月にかけて流行するインフルエンザから始まることが多く、2008 年のインフルエンザウイルス検出のピークも 1 月から 2 月にかけて見られた。この流行は 4 月には終息するが、早くも 6 月には 4 名の患者検体から 3 件のインフルエンザ AH1 亜型遺伝子と B 型遺伝子が検出された。

6 月には、例年通りパラインフルエンザの流行のピークがみられた。エンテロウイルスを原因とするいわゆる夏風邪の流行は毎年 7 月から 8 月の夏季を中心として流行がみられるが、ライノウイルスの流行はその前後の時期に 2 峰性のピークを作ることが多く、今年のピークは 5 月と 10 月であった。

アデノウイルス感染症の流行は通常、夏季を中心に春から秋にかけてみられることが多いが、2008 年の検出状況は、夏季の検出よりその前後である、5 月と 10 月をピークとするライノウイルス様の 2 峰性のパターンを示していた。

RS ウイルス感染症の流行は一般に 9 月頃から始まり、12 月付近でピークを迎え 3 月から 4 月頃まで続くことが多い。しかし、2008 年においては 7 月から流行が始まり、10 月、11 月において例年にな

く早い時期に流行のピークを示し、通常であれば流行のピーク時期である 12 月にはすでに検出数の減少がみられた。

ヒトメタニューモウイルスは、乳幼児に RS ウイルスと類似の呼吸器疾患を起こすウイルスであるが、主に冬季に流行する RS ウイルスとは異なり、3 月から 4 月の初春を中心とした流行形態を示していた。

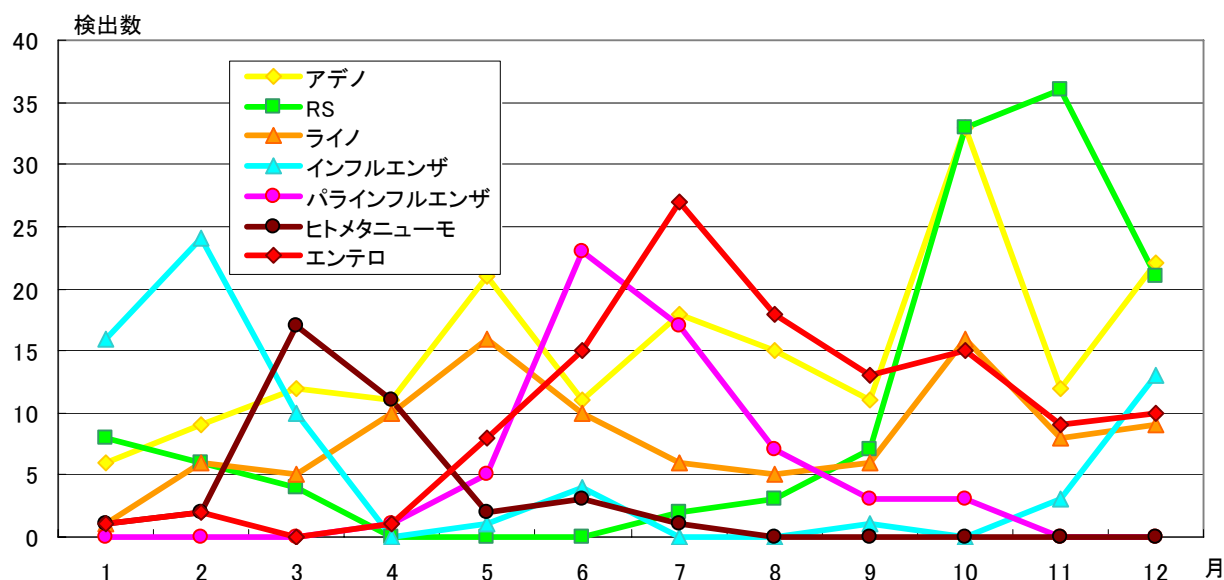


図 3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたウイルスの中で最も多かったエンテロウイルス属とムンプスウイルス及びヘルペスウイルス属について月別の検出状況を図 4 に示した。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス等のヘルペスウイルス属をまとめて「ヘルペス」として計上している。

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起こすが、原因ウイルスの種類は毎年異なっている事が多い。本疾患は、主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルスによっても起こることが知られている。2008 年はムンプスウイルスの遺伝子検出例は 17 件と例年に比べて多く、5 月から毎月持続的に検出され 11 月に最も多く検出された。それに対し、エンテロウイルスは検出数が少なく例年のような夏季を中心とする流行は見られず、検出のピークは 10 月であった。

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出酵素抗体法によって検出されたウイルスの月別検出数を図 5 に示した。ノロウイルスの検出は 11 月に急峻な立ち上がりを示し、同時期からノロウイルスを原因とする胃腸炎の流行が始まったことが示唆された。ロタウイルスは 1 月から 4 月にかけて検出され検出のピークは 3 月であった。アデノウイルスとエンテロウイルスは、ほぼ経年的に検出されていた。

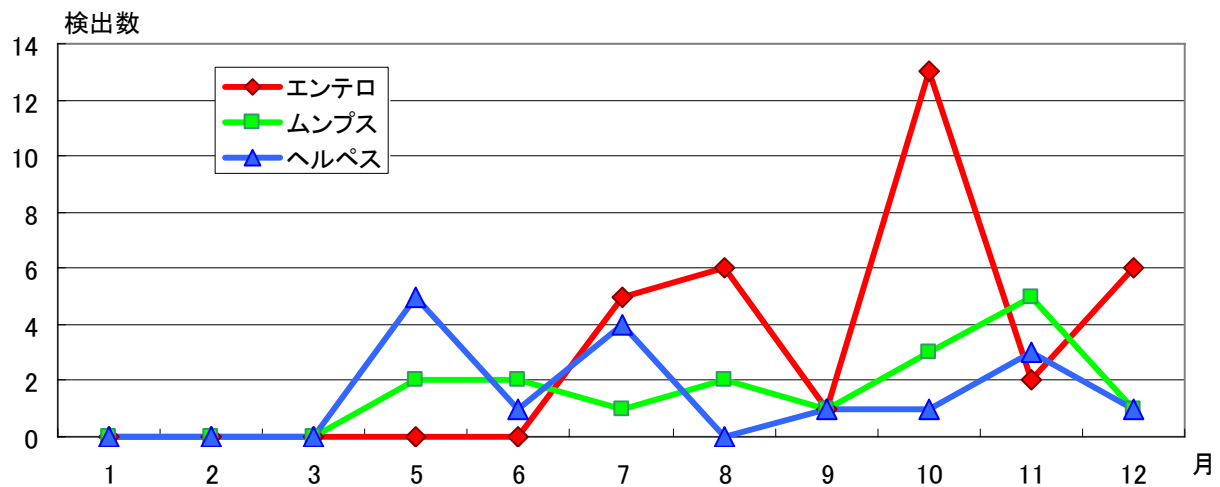


図 4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

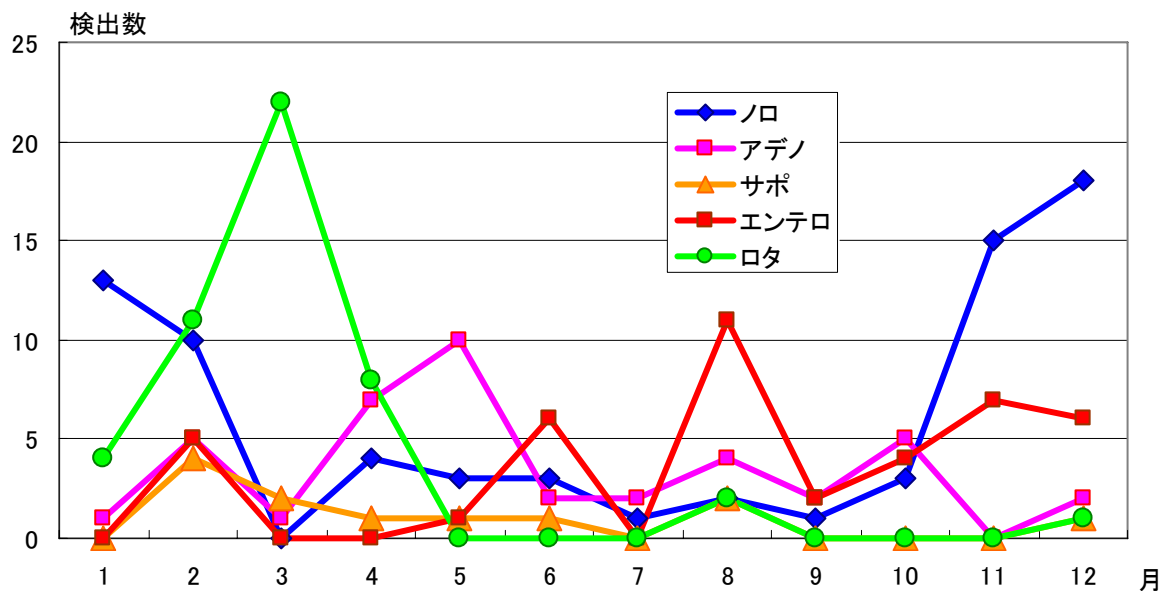


図 5. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（突発性発しん、手足口病、ヘルパンギーナ、川崎病、麻しん、伝染性紅斑、水痘、口内炎）の患者検体 182 件よりアデノウイルス 4 株（1 型 1 株、2 型 3 株）、コクサッキーウイルス A 群 13 株（3 型 1 株、4 型 1 株、6 型 4 株、16 型 7 株）、エコーウイルス 9 型 2 株、エンテロウイルス 71 型 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株の計 22 株が分離された。

遺伝子検出状況を図 6 に示す。アデノウイルス 19 件、エンテロウイルス属 62 件（遺伝子解析；ポリオウイルス 3 件、コクサッキーウイルス A 群 26 件、エコーウイルス 2 件、エンテロウイルス 71 型 6 件、型別不明 25 件）、ライノウイルス 12 件、ヘルペスウイルス属 69 件（単純ヘルペスウイルス 6 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 35 件、同 7 型 13 件、サイトメガロウイルス 6 件、EB ウイルス 7 件、

水痘帯状疱疹ウイルス 2 件)、麻疹ウイルス 7 件、パルボ B19 ウイルス 6 件、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザ各 1 件の計 177 件が検出された。

手足口病の原因ウイルスは、主にコクサッキーウイルス A 群とエンテロウイルス 71 型であるが、2008 年の手足口病患者から分離されたウイルスはコクサッキーウイルス A 群 16 型が多数であった。

突発性発しん患者検体からの遺伝子検出陽性例 60 件のうちヒトヘルペスウイルス 6 型遺伝子が 30 件 (50.0%) を占めていた。また、伝染性紅斑では遺伝子陽性例 13 件のうち、パルボ B19 ウイルス遺伝子が 6 件 (46.1%) であった。口内炎患者検体からは、遺伝子陽性例 9 件 (3 種類) のうち単純ヘルペスウイルス遺伝子が 4 件 (44.4%)、麻疹患者検体からは遺伝子陽性例 8 件のうち麻疹ウイルスは 7 件 (87.5%) であった。水痘患者検体からは、遺伝子陽性例 5 件から水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子 2 件 (40.0%) が検出された。

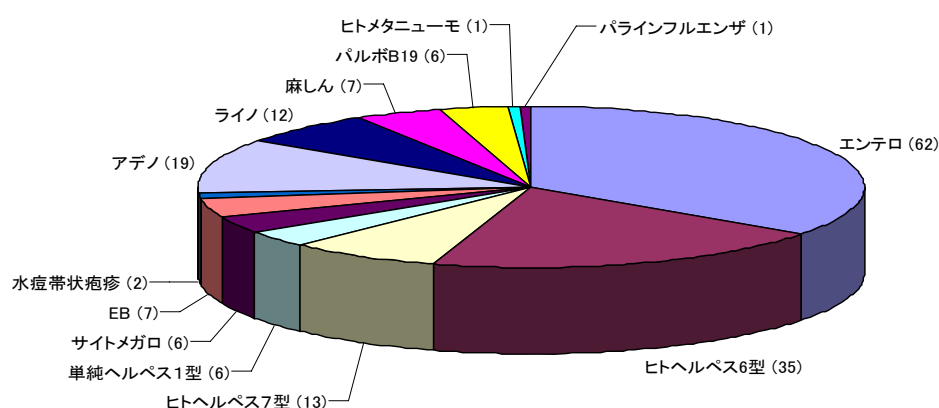


図 6. 発疹性疾患患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況(都独自調査疾患)

不明発しん症患者検体 195 件から、アデノウイルス 10 株 (2 型 8 株、5 型 1 株、7 型 1 株)、ポリオウイルス 3 株 (1 型 2 株、2 型 1 株)、コクサッキーウイルス A 群 4 株 (6 型 2 株、16 型 2 株) エコーウイルス 2 株 (9 型、18 型各 1 株) が分離された。

遺伝子検出状況は図 7 に示した。陽性例 191 件に対してヒトヘルペスウイルス属は 88 件 (ヒトヘルペスウイルス 6 型 47 件、同 7 型 17 件、サイトメガロウイルス 9 件、EB ウイルス 14 件、水痘帯状疱疹ウイルス 1 件) であった。次に多く検出されたのはエンテロウイルス 37 件 (19.4%) で、さらにアデノウイルス 30 件 (15.7%)、ライノウイルス 25 件 (13.1%)、パルボウイルス B19 5 件 (2.6%)、風しんウイルス 3 件 (1.6%)、麻疹ウイルス 2 件 (1.0%)、パラインフルエンザウイルス 3 型 1 件 (0.5%) の遺伝子が検出された。

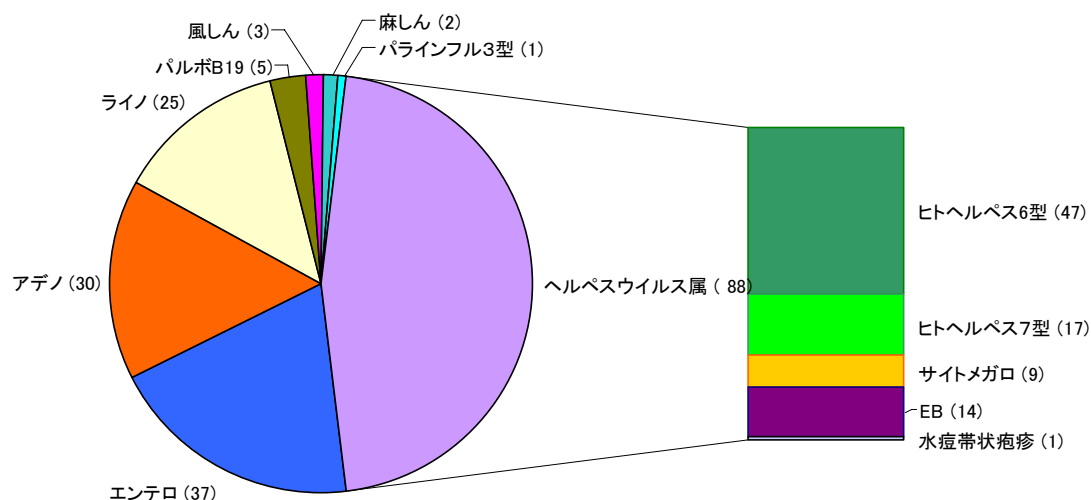


図7. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ MCLS(川崎病)患者検体からのウイルス検出状況(都独自調査疾患)

MCLS(川崎病)患者検体24検体からは、アデノウイルス1型1株が分離された。また、遺伝子検索状況を図8に示した。13件のウイルス遺伝子が検出され、エンテロウイルスが5件(38.5%)、ヒトヘルペスウイルスが4件(30.8%)、アデノウイルス、ライノウイルス、単純ヘルペスウイルス、サイトメガロウイルスが各1件(7.7%)であった。

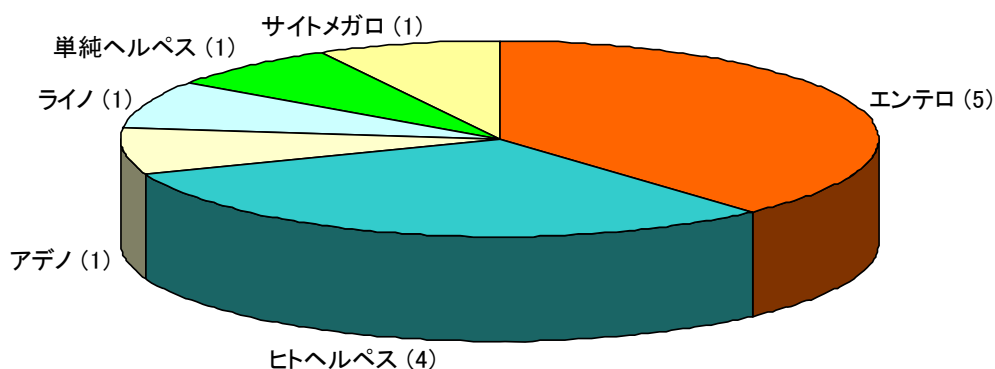


図8. MCLS(川崎病)患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2008年度は、都内3定点医療機関からリケッチア症(紅斑熱、つつが虫病、猫ひっかき病、発しん熱、Q熱)およびウイルス性疾患(E型肝炎、ハンタウイルス肺症候群)の疑い患者検体が合計15例搬入された。リケッチア症疑いの検体では、紅斑熱リケッチアの検査依頼が最も多く、夏から秋にかけての海外帰国者が多く含まれていた。検体搬入は6、9、11月を除く全ての月であったが、つつが虫病および紅斑熱に関しては7、8月および1、2月に若干多かった。検査の結果、紅斑熱 IgG: 2名、つつが虫病 IgG: 1名、発しん熱 IgM, IgG: 1名とE型肝炎 IgG: 1名の検出が確認された。

（２）内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

2008年9月から2009年4月までに当センターに搬入された咽頭拭い液または鼻咽頭拭い液は236件であった。インフルエンザウイルスの遺伝子検査を行った結果、AH1亜型102件、AH3亜型47件、B型36件の計185件（78.4%）が陽性となった。また、ウイルス分離試験ではAH1亜型36株、AH3亜型19株、B型20株の計75株（31.8%）が分離された。

2008/2009年シーズンのインフルエンザ流行は2008年の第38週（9月16日）に発生したB型インフルエンザから始まった。第46週からはAH3亜型インフルエンザが、第47週からはAH1亜型インフルエンザが流行に加わり、3種類のインフルエンザウイルスによる混合流行となった。また、AH1亜型による流行が2008年12月以降に拡大し、昨シーズンに続くシーズンを通しての主たる流行株となった。

一方、例年3月までに終息していた流行は、近年、4シーズン連続で4月以降まで続いた（2007/2008年シーズンは2008年6月まで）ことから、インフルエンザ流行シーズンの長期化が定着しつつあることが示唆される。

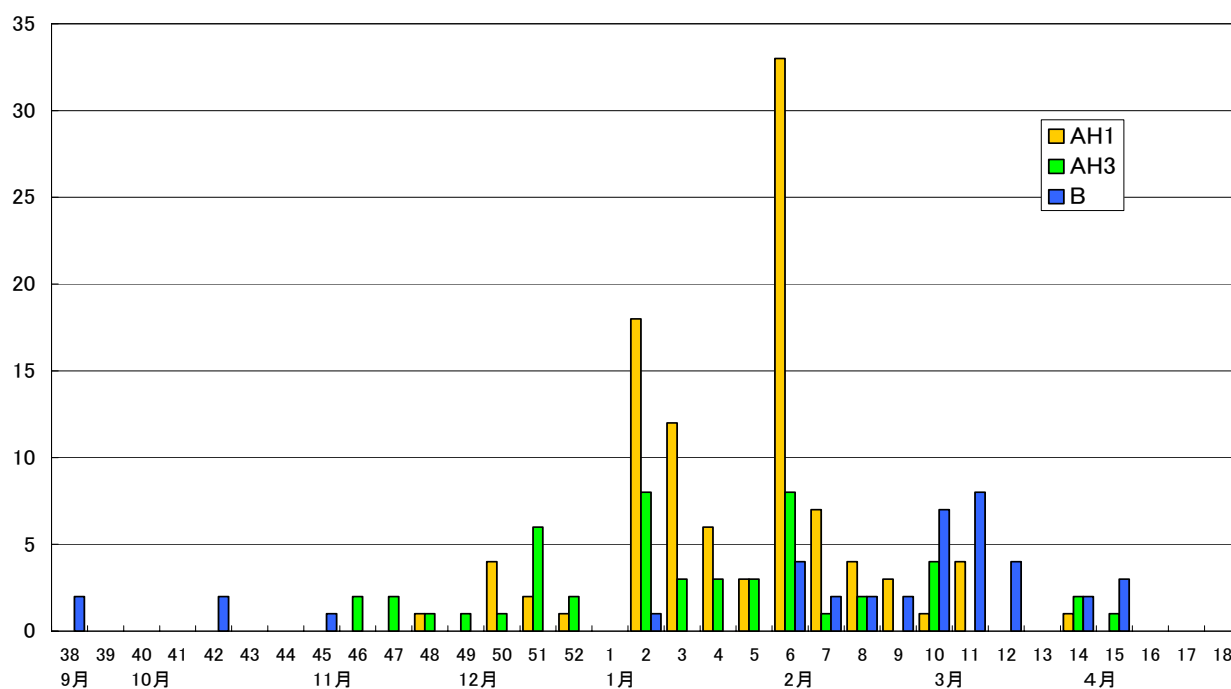


図9．インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性件数

分離したインフルエンザウイルスの抗原性状を特定するために遺伝子配列の比較ならびにワクチン株抗血清を用いたHI試験による検討を行った。

RT-nested PCR検査によって得られたインフルエンザHA(ヘマグルチニン)遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、アミノ酸配列に置換してワクチン株ウイルスならびに過去に流行したウイルス株と遺伝子系統樹上で比較し解析を行った。その結果、AH1亜型株の今シーズン流行株は、ワクチン株 (A/Brisbane/59/2007) を含む枝の延長上にあり、昨シーズンの流行株の一部を含むグループを形成していたことが明らかとなった（図10）。今シーズンの流行株は、全てこのグループに集約されており、昨シーズンのように系統樹上の他の位置に出現する株は存在しなかった。今シ

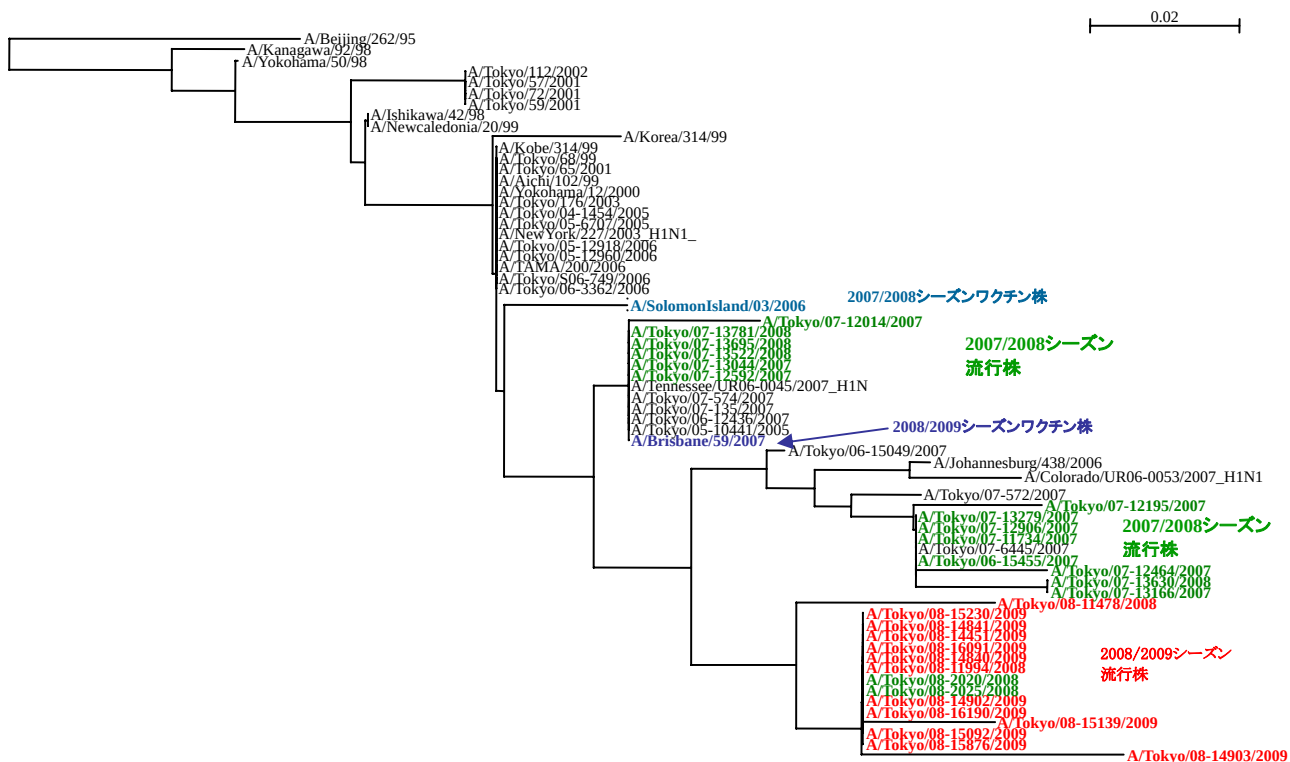


図 10. 東京都におけるAH1亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

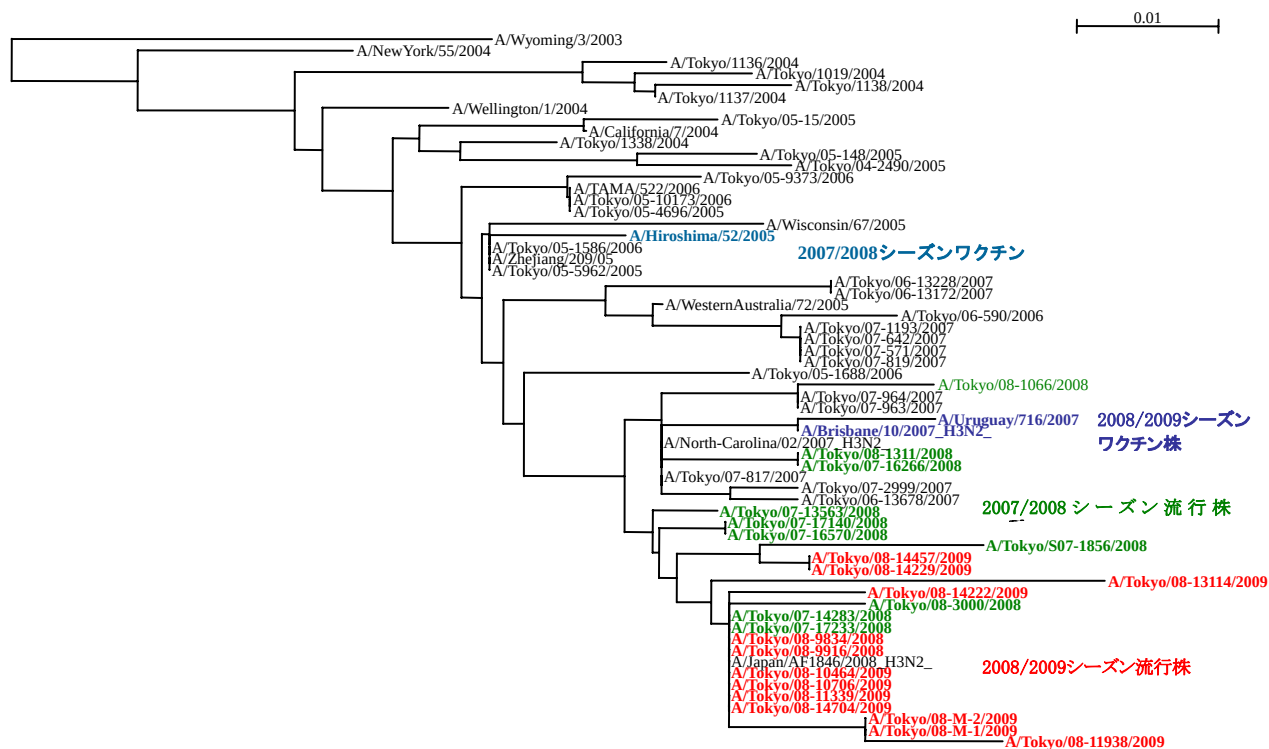


図 11. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系

以下のHI価であった。しかし、2007/2008年シーズンにワクチン株であったB/Malaysia/2506/2004株（Victoria系統株）抗血清（ホモHI価640倍）に対しては80～320倍のHI価を有していた。これらより、2008/2009年シーズンのB型分離株は、B/Malaysia/2506/2004株と近縁な株（HI価：160～320倍）および交差反応性の低下した株（HI価：80倍）の2種類の株が混合していることが判った。

遺伝子配列及びHI試験の結果から2008/2009年シーズンのAH1亜型及びAH3亜型流行株は、ワクチン株とは若干異なった株を含んでいるもののワクチン株との交差反応性を持った株である事が判明した。しかし、B型株はワクチン株と系統が異なる株であり、過去の流行株と近縁な株が一部流行していたものの、新たな抗原性を持った株が主として流行していたことから、次シーズンの流行の拡大を阻止するためには、流行株に抗原性が近縁と思われる新たなワクチン株の適切な選択が必要であると思われる。

2 細菌検査結果

（1）三類感染症の病原体検索

ア 細菌性赤痢

海外旅行者下痢症（インドネシアへの渡航歴有）患者から分離された赤痢菌について自家調製した赤痢菌免疫血清を用い、型別試験を実施した結果、*Shigella flexneri*（88-893 仮称）と同定された。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

胃腸炎（下痢症）患者から分離された大腸菌 28 株について、病原性及び血清型別試験を実施した。その結果、腸管出血性大腸菌O157 が4株（VT1 + VT2 産生；3株、VT2 産生；1株）、腸管出血性大腸菌O165（VT2 産生）1株及び毒素原性大腸菌O169（ST 産生）2株が同定された。残り 21 株は毒素（LT, ST, VT）非産生菌であった。

また、HUS を発症した女児（8歳）の血清について、O157 抗原凝集抗体（LPS）に対する血中抗体をウイダル反応法で測定した結果、陽性（x640）であった。

（2）四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

2008 年における東京都の患者発生報告は 80 例であり、そのうち、発生届が提出された患者検体 5 件とレジオネラ症疑い患者検体 8 件について、当センターで病原体検索を実施した（患者の喀痰 2 件、尿 8 件、患者由来株 3 件）。喀痰からの菌の検出および尿中抗原の検査を実施した結果、全て陰性の結果が得られた。また、患者由来株 3 件について血清型別試験を実施した結果、2 株が *Legionella pneumophila* 1 群、1 株が 2 群に分類された。

（3）五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2008 年における東京都の患者発生報告は 19 例であり、そのうち患者由来株 9 株のレンサ球菌が搬入された。

9 株中 6 株は A 群レンサ球菌であり、2 株は G 群レンサ球菌、1 株は C 群レンサ球菌であった。A 群レンサ球菌 6 株のうち 5 株は、*Streptococcus pyogenes* であったが、1 株は *Streptococcus dysgalactiae*

ssp.equisimilis であった。また、*S.pyogenes* 4株の T 血清型別の結果、1 型、12 型、5/27/44 型、28 型とすべて異なる T 型であった。

イ 髄膜炎菌性髄膜炎

2008 年における東京都の患者発生報告は 2 例であり、患者 2 名から分離された 2 株が搬入された。菌型別の結果、血清型は B 群と型別不能であり、型別不能の株について遺伝子による型別検査を行った結果、Y 群と決定された。

ウ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2008 年に東京都において 15 例の患者発生報告があり、そのうち患者由来株が 9 株搬入され、同定試験及び *van* 遺伝子の検出を実施した。その結果、*Enterococcus faecium* : 7 株、*E.gallinarum* : 1 株、*E.casseliflavus* : 1 株が同定された。*E. faecium* 7 株のうち 5 株は *vanA* 遺伝子を保有し、2 株は *vanB* 遺伝子を保有していたことが判明した。

（４）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の小児科定点（13 カ所）および基幹定点（19 カ所）から、2008 年に送付された試料を対象に、A 群溶血性レンサ球菌の検出および同定を実施した。患者由来 54 株及び患者咽頭拭い液から分離した 15 株の合計 69 株について、月別の検出状況を調査するとともに、T 血清型別を実施した。

A 群溶血性レンサ球菌の月別検出状況は 1 月～3 月：18 株、4 月～6 月：26 株、7 月～9 月：15 株、10 月～12 月：11 株であった（表 1）。

T 血清型別の結果をみると、25 型が 17 株と最も多く、次いで 12 型が 16 株、1 型が 11 株、4 型が 8 株、B3264 型が 7 株など 9 菌型に型別された。2007 年に 58 株中 2 株（3.5%）であった 25 型は、2008 年は 69 株中 17 株（24.6%）と急増していることが判明した。

表 1. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 血清型及び月別検出状況

T 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計	(%)
1		1	3	3		1	1			1	1		11	(15.9)
3					1		1						2	(2.9)
4				1		2		2		1	1	1	8	(11.6)
6			1						2				3	(4.4)
11		1											1	(1.5)
12	3	2		1	3		4		1		2		16	(23.2)
25			2	4	4	3		1		2		1	17	(24.6)
28					1		1						2	(2.9)
B3264		4	1					1			1		7	(10.1)
UT						1	1						2	(2.9)
計	3	8	7	9	9	7	8	4	3	4	5	2	69	(100.0)

UT: 型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑い患者の糞便 63 件について細菌検査を実施した。その結果 12 件 (19%) から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター 9 株 (*C. jejuni* 8 株、*C. coli* 1 株)、サルモネラ 1 株 (*S. Senftenberg*)、腸管出血性大腸菌 O26 : HNM (VT1 産生) 1 株及び腸管出血性大腸菌 O26 : H11 (VT1 産生) 1 株であった。患者年齢階級別病原体の検出状況を表 2 に示した。

表 2. 感染性胃腸炎からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	カンピロバクター	サルモネラ	腸管出血性大腸菌
1 歳未満	10	0	0	0
1 - 4 歳	9	0	1	1*
5 - 9 歳	7	0	0	0
10 - 14 歳	2	1	0	0
15 - 19 歳	5	1	0	1**
20 歳以上	26	5	0	0
不明	4	2	0	0
計	63	9	1	2
(%)		(14.3)	(1.6)	(3.2)

* EHEC O26:HNM (VT1)

**EHEC O26:H11 (VT1)

腸管出血性大腸菌 O26 : HNM (VT1) が検出された 1 名は保育園児であり、その後、当該園児が通園している保育園で関係者検便 (355 件) を実施したところ、園児 25 名 (発症者 16 名、無症状者 9 名)、患者家族 7 名の糞便から当該菌が検出された。

ウ 百日咳

2008 年に都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 41 検体搬入され、分離同定及び遺伝子検索を実施した。その結果、百日咳菌が分離されたのは 7 件、百日咳菌遺伝子のみが検出されたのは 6 件であり、その他の 28 件からは検出されなかった。また、百日咳菌以外に分離された菌種は、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) が 11 株と最も多く、次いで肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) : 5 件、インフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae*) とモラクセラ・カタラリス (*Moraxella catarrhalis*) が各 3 件であった。

エ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2008 年に都内の小児科定点及び基幹定点からの送付試料を対象に MRSA 保菌検索を実施した。検出された黄色ブドウ球菌のコアグララーゼ型別 (コ型と略す)、エンテロトキシン (SE と略す) 産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1 と略す) 産生性の試験を実施した。患者由来 MRSA 20 株のコ型は、I が 5 株、II が 6 株、III が 4 株、V が 3 株、VII が 2 株であり、MSSA 27 株のコ型は IV が 9 株と最も多く、V が 7 株、II が 3 株、III、VII、型別不能が各 2 株、VI 及び VIII が各 1 株であった。

毒素産生性は、MRSA のコ型 : II の内 4 株とコ型 : III の 3 株が、SEC+TSST-1 産生性であり、MSSA

で最も多かったコ型：Ⅳの内 5 株は、SEA+TSST-1 産生株であった（表 3）。

表 3. 黄色ブドウ球菌のコアグラゼ型と毒素産生性

コアグラゼ型		MRSA					MSSA							
		I	II	III	V	VII	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	UT
毒素産生性	A								1					
	B			1		2							1	1
	BC											1		
	AT								5					
	CT		4	3										
	BCT		1											
	T		1						2					
	—	5			3		3	2	1	7	1	1		1
計		5	6	4	3	2	3	2	9	7	1	2	1	2

UT:型別不能

（５）2008 年の百日咳流行について

東京都において、百日咳は 2006 年まではほとんど流行がみられない疾患であったが、2007 年の 30 週頃から増加し始め、2008 年も引き続き増加していたため、2008 年 5 月から 6 月まで病原体レファレンス事業として百日咳の検索を行った。また、同時期に都立病院など協力医療機関の百日咳患者から分離された百日咳菌も当研究センターへ搬入された。百日咳の集団発生と考えられた大学生の検体を含む百日咳疑い患者の鼻腔拭い液 184 検体及び百日咳患者から分離された 4 株について検査を行った。184 件の鼻腔拭い液のうち、百日咳菌が分離されたのは 2 株、遺伝子のみ検出されたのは 9 件であった。分離された百日咳菌計 6 株および遺伝子のみ検出された検体のうち遺伝子型別が可能であった 1 検体について、遺伝子型別を行った結果、MLST-1 型が 5 例、2 型が 1 例、4 型が 1 例に分類された。また、百日咳菌以外にマイコプラズマ遺伝子 1 件が検出され、肺炎球菌が 3 件分離された。

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

（１）クラミジア・淋菌遺伝子検査および細菌分離同定

2008 年 1 月から 12 月に性感染症病原体定点から搬入された 330 件について病原体検査を実施した。検体の内訳は、女性では子宮頸管擦過(分泌)物（スワブ）54 件および尿 3 件の計 57 件、男性では陰部尿路擦過物（スワブ）62 件および尿 211 件の計 273 件である。遺伝子検査については、各検体から核酸抽出後、クラミジア トラコマチスおよび淋菌遺伝子の検索を PCR 法で行った。細菌分離培養については、淋菌およびその他の菌の分離培養を 5%ウマ血液寒天培地およびサイヤ・マーチン寒天培地を用い、発育したコロニーの菌種を同定することにより実施した。分離同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

年齢構成および検査成績を表 4 に示した。女性では 20 歳代が 31 例（54.4%）と多く、男性では 20 歳代が 78 例（28.6%）、30 歳代が 92 例（33.7%）、40 歳代が 63 例（23.1%）であり、女性より広範な年代から検体が採取された。

クラミジア トラコマチス遺伝子は女性 35 例 (61.4%)、男性 104 例 (38.1%) で検出された。淋菌遺伝子は女性では 4 例 (7.0%)、男性 81 例 (29.7%) で検出された。これらのうち女性では 3 例、男性では 43 例でクラミジア トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子が共に検出された。

淋菌遺伝子が検出された女性 4 例のうちの 2 例、男性では 81 例のうち 52 例 (64.2% 男性全体の 19.0%) で淋菌が分離された。淋菌以外で分離された主な菌は髄膜炎菌が男性 1 例(0.4%)、A 群溶血性レンサ球菌が男性 4 例 (1.5%)、B 群溶血性レンサ球菌は女性 5 例 (8.8%)、男性 47 例 (17.2%)から分離された。また、カンジダ アルビカンスは女性 4 例 (7.0%)、男性 2 例 (0.7%)から分離された。

表 4. 性感染症病原体定点から搬入された検体の年齢階級別内訳と検査成績

年齢群		検査数 男、女 計に対 する割 合		遺伝子検査		細菌分離										
						クラミジア トラコマチス		淋 菌		ナイセリア属		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス		
				淋 菌	髄膜炎菌					A 群	B 群					
女 性	10歳代	8	14.0%	5	62.5%					1	12.5%					
	20歳代	31	54.4%	22	71.0%	4	12.9%	2	6.5%		2	6.5%	4	12.9%		
	30歳代	14	24.6%	5	35.7%						2	14.3%				
	40歳代	4	7.0%	3	75.0%											
	計	57		35	61.4%	4	7.0%	2	3.5%		5	8.8%	4	7.0%		
男 性	10歳代	5	1.8%	2	40.0%	1	20.0%									
	20歳代	78	28.6%	35	44.9%	32	41.0%	20	25.6%		2	2.6%	10	12.8%		
	30歳代	92	33.7%	35	38.0%	27	29.3%	21	22.8%		1	1.1%	19	20.7%	1	1.1%
	40歳代	63	23.1%	21	33.3%	14	22.2%	7	11.1%	1	1.6%		14	22.2%		
	50歳代	21	7.7%	9	42.9%	5	23.8%	4	19.0%				3	14.3%	1	4.8%
	60歳代	13	4.8%	2	15.4%	2	15.4%	1	7.7%		1	7.7%	1	7.7%		
	70歳以上	1	0.4%													
	計	273		104	38.1%	81	29.7%	53	19.4%	1	0.4%	4	1.5%	47	17.2%	2

診断別の検査成績を表 5 に示した。クラミジア トラコマチス感染症（疑い例を含む）では、女性 35 例のうちクラミジア遺伝子が 24 例 (68.6%) で検出されたほか、2 例 (5.7%)で淋菌遺伝子が検出された。男性では 217 例のうち 67 例 (30.9%) でクラミジア トラコマチス遺伝子が検出され、37 例 (17.1%)で淋菌遺伝子が検出された。クラミジア トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出されたのは女性では 2 例、男性では 12 例あった。この他髄膜炎菌が 1 例 (0.5%)から、3 例 (1.4%)から A 群溶血性レンサ球菌、女性 2 例(5.7%)および男性 40 例(18.4%)から B 群溶血性レンサ球菌、女性 2 例 (5.7%)および男性 2 例 (0.9%)からカンジダ アルビカンスが分離された。

淋菌感染症（疑い例を含む）では女性 6 例中 2 例、男性では 53 例中 43 例 (81.1%)で淋菌遺伝子が検出された。また女性の 4 例、男性では 37 例 (69.8%)からクラミジア トラコマチス遺伝子が検出された。クラミジア トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出されたのは女性では 1 例、男性では 31 例である。淋菌以外では A 群溶血性レンサ球菌が男性 1 例(1.9%)、B 群溶血性レンサ球菌が女性 1 例、男性 6 例 (11.3%)から分離された。

表 5. 診断別の検査成績

診断 (疑い例を含む)	検査数 男、女計 に対する 割合	遺伝子検査		細菌分離						
		クラミジア トラコマチス	淋菌	ナイセリア属		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス		
				淋菌	髄膜炎菌	A 群	B 群			
女性	クラミジア感染症	35 61.4%	24 68.6%	2 5.7%				2 5.7%	2 5.7%	
	淋菌感染症	6 10.5%	4 66.7%	2 33.3%	2 33.3%			1 16.7%		
	ウイルス感染症	7 12.3%	4 57.1%					2 28.6%	1 14.3%	
	その他	9 15.8%	3 33.3%						1 11.1%	
	計	57	35 61.4%	4 7.0%	2 3.5%			5 8.8%	4 7.0%	
男性	クラミジア感染症	217 79.5%	67 30.9%	37 17.1%	18 8.3%	1 0.5%	3 1.4%	40 18.4%	2 0.9%	
	淋菌感染症	53 19.4%	37 69.8%	43 81.1%	34 64.2%		1 1.9%	6 11.3%		
	その他	3 1.1%		1 33.3%	1 33.3%		0.0%	1 33.3%		
	計	273	104 38.1%	81 29.7%	53 19.4%	1 0.4%	4 1.5%	47 17.2%	2 0.7%	

分離された淋菌 55 株の薬剤耐性試験の結果を表 6 に示す。

ペニシリンで最小発育阻止濃度が中等度（0.125μg/ml）以上の耐性株は 37 株（67.3%）あり、そのうちの 1 株は 16μg/ml の高度耐性を示し、βラクタマーゼ産生株であった。テトラサイクリンでは中等度（0.5μg/ml）以上の耐性株は 31 株（56.4%）、シプロフロキサシンでは中等度（0.125μg/ml）以上の耐性株は 43 株（78.2%）、セフロキシムでは中等度（2 μg/ml）以上の耐性株は 24 株（43.6%）あった。セフトアキシム、セフトリアキソンおよびスペクチノマイシンでは、すべての株が感受性を示した。

表 6. 分離された淋菌の薬剤感受性試験の成績

	ペニシリン	テトラ サイクリン	シプロフロ キサシン	セフロ キシム	セフトア キシム	セフトリ アキソン	スペクチノ マイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性	1	3	43	18	0	0	0
中等度耐性	36	28	0	6	0	0	0
感受性	18	24	12	31	55	55	55

（２）ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査

2008 年 1 月から 12 月に、STI 病原体定点医療機関から 67 例の検体（子宮頸管擦過(分泌)物、陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマの皮膚病巣拭いまたは生検材料）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした HPV 遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価（High 及び Low リスク）に基づいて分類した。

67 件中 53 件（79.1%）から HPV の遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、18、58 型などの High リスク群に分類されたものは 15 件（22.4%）、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 35 件（55.2%）、リスク評価がされていない遺伝子型は 2 件（3.0%）であった。また、1 件（1.5%）から尋常性疣贅より検出されることが多い HPV57 型を検出した。

（３）単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査

2008 年 1 月から 12 月に、STI 病原体定点医療機関から 56 件の検体（子宮頸管擦過(分泌)物、陰部尿道擦過物または性器ヘルペス感染症の皮膚病巣拭い）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象とした real-time PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

56 件中 11 件（19.6%）から HSV-1 型、22 件（39.3%）から HSV-2 型の遺伝子を検出した。

（４）膣トリコモナス検査

子宮頸管擦過(分泌)物 11 件について膣トリコモナスのリボゾーム RNA 遺伝子を標的とした遺伝子検査を行った。その結果、3 件から膣トリコモナス遺伝子を検出されたが、これらはすべてクラミジア トラコマチス遺伝子陽性のものであった（うち 1 例はカンジダも検出）。

第 3 章

資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

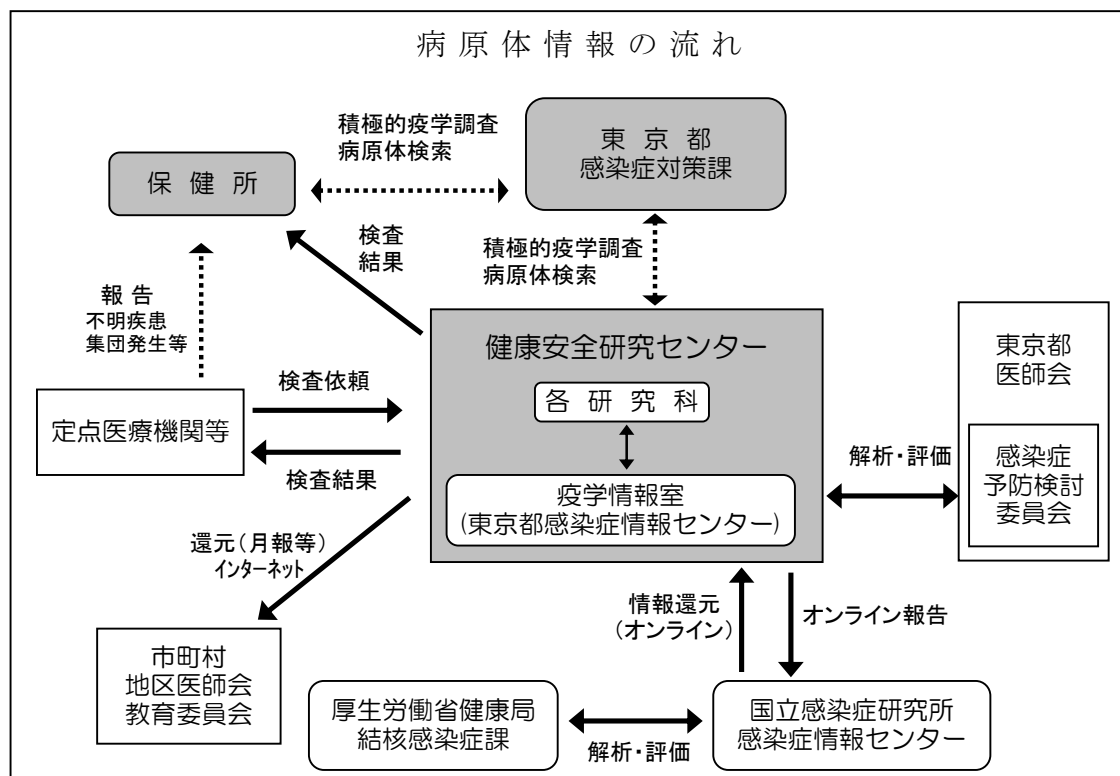
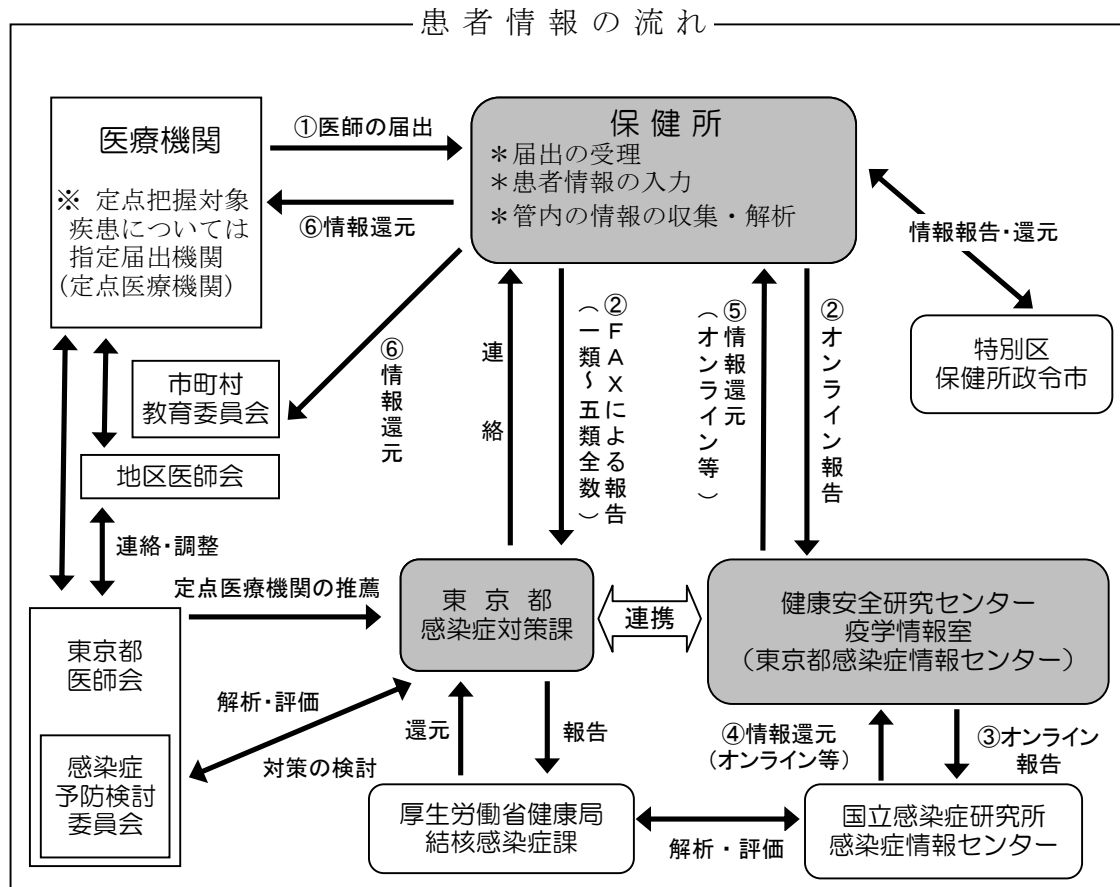
平成 20 年（2008 年）12 月 31 日現在 ： 順不同

氏 名	役 職
◎ 南 谷 幹 夫	元杏林大学客員教授
○ 水 野 幸 治	府中市医師会
長 山 直 弘	独立行政法人国立病院機構東京病院内科医長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
吉 村 伸 子	渋谷区保健所長
宮 本 眞理子	町田保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
山 下 千 恵	東京都福祉保健局健康安全部食品監視課副参事（食品危機管理担当）
阿 保 満	東京都健康安全研究センター微生物部副参事研究員
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
大 井 洋	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
小 島 弘 敬	東京都南新宿検査・相談室長
松 田 静 治	江東区医師会
沼 口 俊 介	練馬区医師会
黒 澤 サト子	北多摩医師会
福 田 敏 雅	東京都眼科医会
小早川 隆 敏	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NPO法人 日本パスツール協会理事

道 永 麻 里	東京都医師会理事（公衆衛生担当）
---------	------------------

◎は委員長
○は副委員長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 19 福保健感第148号

平成20年6月30日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成20年5月12日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1－1から4－4 1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5

ー 1 から 5 - 1 4 - 2、及び本要綱の別記様式 9 を用いて、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表 1 の 7 5 から 8 7 までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表１の８８に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表１の８９及び９０に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の９１から９６までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表１の９７から１０３までに掲げるものについては、患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね１０％を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね１０％をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(３) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表２のとおりとする。

(４) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (２) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式２から７に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第７条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式 1（インフルエンザ定点については別記様式 8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式 1 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表 3 のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本

要綱の別記様式 10 に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

- (ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

イ 保健所

- (ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

- (イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 16 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 19 年 6 月 15 日から施行し、同年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 20 年 1 月 31 日から施行し、同年 1 月 1 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 20 年 7 月 1 日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	－	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	－	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	鳥インフルエンザ (H 5 N 1)	○	○	○		
三 類	13	コレラ	○	－	○	全数	直ちに
	14	細菌性赤痢	○	－	○		
	15	腸管出血性大腸菌感染症	○	－	○		
	16	腸チフス	○	－	○		
	17	パラチフス	○	－	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

		疾　患　名	届出対象者			届出方法	
			患者	疑似症 患者	無症状 病原体 保有者	届種 出別	時期
四類	18	E型肝炎	○	－	○	全数	直ちに
	19	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	－	○		
	20	A型肝炎	○	－	○		
	21	エキノкокクス症	○	－	○		
	22	黄熱	○	－	○		
	23	オウム病	○	－	○		
	24	オムスク出血熱	○	－	○		
	25	回帰熱	○	－	○		
	26	キャサヌル森林病	○	－	○		
	27	Q熱	○	－	○		
	28	狂犬病	○	－	○		
	29	コクシジオイデス症	○	－	○		
	30	サル痘	○	－	○		
	31	腎症候性出血熱	○	－	○		
	32	西部ウマ脳炎	○	－	○		
	33	ダニ媒介脳炎	○	－	○		
	34	炭疽	○	－	○		
	35	つつが虫病	○	－	○		
	36	Dengue熱	○	－	○		
	37	東部ウマ脳炎	○	－	○		
	38	鳥インフルエンザ（H5N1を除く）	○	－	○		
	39	ニパウイルス感染症	○	－	○		
	40	日本紅斑熱	○	－	○		
	41	日本脳炎	○	－	○		
	42	ハンタウイルス肺症候群	○	－	○		
	43	Bウイルス病	○	－	○		
	44	鼻疽	○	－	○		
	45	ブルセラ症	○	－	○		
	46	ベネズエラウマ脳炎	○	－	○		
	47	ヘンドライルス感染症	○	－	○		

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 種 別	時 期
四 類	48	発しんチフス	○	—	○	全数	直ちに
	49	ボツリヌス症	○	—	○		
	50	マラリア	○	—	○		
	51	野兔病	○	—	○		
	52	ライム病	○	—	○		
	53	リッサウイルス感染症	○	—	○		
	54	リフトバレー熱	○	—	○		
	55	類鼻疽	○	—	○		
	56	レジオネラ症	○	—	○		
	57	レプトスピラ症	○	—	○		
	58	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 種 別	時 期
指定感染症		—	—	—	—	—	—

※平成20年6月30日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症者	無症状病原体保有者	届 種 別	時 期
59	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7 日以内
60	ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)	○	—	—		
61	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
62	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
64	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
65	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
66	ジアルジア症	○	—	—		
67	髄膜炎菌性髄膜炎	○	—	—		
68	先天性風しん症候群	○	—	—		
69	梅毒	○	—	○		
70	破傷風	○	—	—		
71	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
72	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
73	風しん	○	—	—		
74	麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症者	無症状病原体保有者	届 種 別	時 期
104	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
105	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
75	R S ウイルス感染症	○	—	—	別表 2 参照	
76	咽頭結膜熱	○	—	—		
77	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
78	感染性胃腸炎	○	—	—		
79	水痘	○	—	—		
80	手足口病	○	—	—		
81	伝染性紅斑	○	—	—		
82	突発性発しん	○	—	—		
83	百日咳	○	—	—		
84	ヘルパンギーナ	○	—	—		
85	流行性耳下腺炎	○	—	—		
86	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
87	M C L S (川崎病) (都単独)	○	—	—		
88	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感 染症を除く。)	○	—	—		
89	急性出血性結膜炎	○	—	—		
90	流行性角結膜炎	○	—	—		
91	性器クラミジア感染症	○	—	—		
92	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
93	尖圭コンジローマ	○	—	—		
94	淋菌感染症	○	—	—		
95	膺トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
96	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
97	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
98	細菌性髄膜炎	○	—	—		
99	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
100	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
101	無菌性髄膜炎	○	—	—		
102	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
103	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者		
106	摂氏 3 8℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因 するものを除く。)	—	○	—	別表 3 参照	
107	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点 種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	R S ウイルス感染症	週単位 (月曜日から 日曜日。以 下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	M C L S (川崎病) (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感 染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感 染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感 染症 定 点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
	梅毒様疾患 (都単独)		
基幹 定 点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	細菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

疑似症の調査単位と報告時期

定点 種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因 するものを除く。)	随時 及び	直ちに 及び
	発熱及び発しん又は水疱	週単位 (月曜日から日 曜日)	次の月曜日

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番号	件名等
別記様式1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式2	五類感染症(定点把握対象)小児科患者定点報告票
別記様式3	五類感染症(定点把握対象)インフルエンザ患者定点報告票
別記様式4	五類感染症(定点把握対象)眼科患者定点報告票
別記様式5	五類感染症(定点把握対象)性感染症患者定点報告票
別記様式6	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(週報告分)
別記様式7	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(月報告分)
別記様式8	インフルエンザ検査票(内科病原体定点用)
別記様式9	麻しん発生届
別記様式10	疑似症定点報告票

(注) 発生届 1-1 から 5-14 は、
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/past/200704-200803/200704-index.html>
 に記載されている。

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】		センター検体受付日		センター収受番号		検体番号	
医療機関名							
医師名							
診断名							
ID (イニシャル)				居住地		区市町村	
発病日		年 月 日		検体採取日		年 月 日	
性別		男・女		年齢		歳 カ月	
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・その他 []						
	・髄液 ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・血液（全血、血清、血漿）						
臨床症状・兆候等	・発熱（最高 ℃） ・頭痛 ・筋肉痛、関節痛（関節炎） ・上気道炎（咽頭炎／痛、扁桃炎） ・下気道炎（肺炎、気管支炎） ・口内・咽頭所見（ ） ・発疹（丘疹、紅斑、バラ疹、水疱） ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹（部位 ） （上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。）						
	・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害 ・中枢神経系症状（脳炎、脳症、髄膜炎） ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・腎機能障害 ・尿路生殖器症状（排尿時痛、かゆみ、膿） ・コンジローマ ・下腹部痛						
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡（原因 ）						
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生（保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 []）						
最近の海外渡航歴	国名 期間 年 月 日 ～ 年 月 日						
ワクチン接種歴（当該疾患に係るもの）	（ 無、有、不明 ） 最近の接種年月日 ワクチン名 年 月 日						
備考欄（主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など）							
【健康安全研究センター記入欄】 報告年月日 年 月 日							
結果 センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。							
検出方法	・抗体検出（蛍光、EIA、イムノブロット、その他 []） ・分離培養（培養細胞：細胞名 []、人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []） ・抗原検出等（蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応（RPHA、LA、PA、その他）、その他 []） ・遺伝子検出 増幅（PCR、PCR＋ハイブリ、PCR＋シーケンス、LAMP、その他 []） ・鏡検						

(1) 複写 1組6枚（病原体定点検）

別記様式 2

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名：

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウィルス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群溶血性レンサ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流 行 性 耳 下 腺 炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
M C L S (川 崎 病)	男															
	女															

注) MCL S、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフ ルエンザ等感染 症をのぞく)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計	定点医療機関からのコメント						
	男														
	女														

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合 計
※			

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男	女																			
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型イン フルエンザ等 感染症をのぞ く)																					

疑似症 ※	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
急性出血性 結膜炎																				
流行性角結膜炎																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
性器クラミジア 感染症																	
性器ヘルペス ウイルス感染症																	
尖圭コンジローマ																	
淋菌感染症																	
膣トリコモナス症																	
梅毒様疾患																	

定点医療機関からのコメント

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法 **	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

1：細菌性髄膜炎

2：無菌性髄膜炎（真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む）

3：マイコプラズマ肺炎

4：クラミジア肺炎（全数届出疾患のオウム病を除く）

** 病原体検査方法

1：分離・同定

2：抗原検出

3：核酸・PCR

4：塗抹検鏡

5：電顕

6：抗体検出

7：その他

<記載上の注意>

・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎：病原体が判明している場合は、その病原体名(複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法(複数の場合は、最も相拠となった方法一つを選択)及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください(病原体検査欄の記載は不要)。

・マイコプラズマ肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法(1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。

・クラミジア肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法(1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	検体採取部位 **
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

* 疾病名（番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症

** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

インフルエンザ検査票
(内科病原体点用)

医療機関名（または定点コード）		医師名	
I D		年 齢	歳 か月
性 別	男 ・ 女	居住地	区市町村
発 病 日	年 月 日	検体採取日	年 月 日
臨床症状・徴候等		該当するものすべてを○で囲んでください。	
℃			
・ 発熱（最高			
・ 関節痛、筋肉痛			
・ 口内炎、上気道炎、下気道炎（肺炎、気管支炎）			
・ 胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛）			
・ 中枢神経系症状（脳炎、脳症、脊髄炎、その他_____）			
・ その他の症状			
[]			
迅速診断キットによる診断		無 ・ 有（A型： B型： ）	
最近のインフルエンザワクチン接種歴		無 ・ 有（ 年 月 日）	
最近の海外渡航歴		国 名	
期 間		年 月 日 ～ 年 月 日	
発生状況		集団発生（学校等）、家族内発生等、わかる範囲で記入してください。	

検体受付日		収受番号	検体番号
報告日	年 月 日	病原体検出方法	遺伝子増幅（PCR）
インフルエンザウイルス		AH1 型	
		AH3 型	
		B 型	
		型	
		型	
健康安全研究センター記入欄			

※ ウイルス分離結果については、後日報告します。

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いします。
2. 臨床診断例については、届出後であっても可能な限り検査診断を実施し、その結果について最寄りの保健所に報告していただくようお願いします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所）
特別区長（保健所）
八王子市長（八王子市保健所）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※) () ー (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢(0歳は月齢)
男 ・ 女	歳 (か月)

病 型	1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん(検査診断例) 2) 麻しん(臨床診断例) 3) 修飾麻しん(検査診断例)	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況:) 2 接触感染(接触した人・物の種類・状況:) 3 その他()
4 症状 ・発熱 ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎 ・その他() 入院の有無: 無、有(入院日: 月 日)	②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(国、詳細地域)
5 診断方法 ・分離同定による病原体の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他() 遺伝子型:() ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他() 遺伝子型:() ・血清IgM抗体の検出 ・ペア血清での抗体の検出 結果: 抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法: EIA・HI・NT・PA・その他() ・その他の検査方法() 検体() 結果() ・臨床決定()	③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日 ・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明) 2回目 有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日 ・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明)
6 初診年月日 平成 年 月 日	(1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から10 欄は年齢、年月日を記入すること。(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。)
7 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	
9 発病年月日(※) 平成 年 月 日	
10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日	

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

(1) 集団感染を起こしやすい要因
ア. 集団生活: 無、有(園児・小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他())
イ. 集団に接する職業: 無、有(保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他())
ウ. 集団に接する機会: 無、有(施設での実習、ボランティア活動、その他())
(2) 患者の住所: () 区・市・町・村

2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査(患者個人情報を含む)を実施致します(この場合、医師の守秘義務は解除されます)。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者(又は保護者)の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者(あるいは保護者)の同意 (有・無)

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。

質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

患者氏名	
患者住所・電話番号	・（ ）
所属名（学校、勤務先等）・連絡先（学校、勤務先）	・（ ）
同居している家族の構成	

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問2 患者のご家族についてお聞きます。

- 1) 患者家族で今回、麻しんに罹患した人はいますか。無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族で麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。
 無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きます。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 2) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 . 2	歳	男・女	
2	1 . 2	歳	男・女	
3	1 . 2	歳	男・女	
4	1 . 2	歳	男・女	
5	1 . 2	歳	男・女	
6	1 . 2	歳	男・女	
7	1 . 2	歳	男・女	
8	1 . 2	歳	男・女	
9	1 . 2	歳	男・女	
10	1 . 2	歳	男・女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

感染症発生動向調査事業報告書
平成20年（2008年）

平成21年7月

登録番号 （21）12

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電 話 （03）3363-3231
印 刷 所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区長崎6-22-10
電 話 （03）3957-3911

